



札幌腎友会結成三〇周年記念誌

# 生きる仲間

札幌腎臓病患者友の会刊

# 30



札幌腎友会結成三〇周年記念誌

# 生かす仲間

札幌腎臓病患者友の会刊

30

結成30周年記念の集い



挨拶をする鈴木会長



今 忠正先生



平野 哲夫先生



川村 隆志道腎協会長



中野 幸雄先生



式典の司会をする  
堀井 和彦氏



祝電披露をする  
棚田 まゆみさん



受付の皆さん



25年表彰



30年表彰



10年表彰



20年表彰



表彰者代表挨拶 鎌田伊都子さん



足元にお気をつけて





ハンディーズの演奏



抽選をする小樽の北会長(左)と武田さん

抽選司会の庄野一男氏



集いの部司会の澤内繁雄氏



実行委員の皆さん



閉会の挨拶をする柳沼正一氏

# 1974年度～1989年度



ゲーム大会もありました。最後のソフトボール大会（白石区民野球場）



幌北小学校グラウンドでの運動会



選手宣誓も元気よく





借物競走



パン食い競走



腎キャンペーンの様



小雨の中の炊事遠足 (支笏湖ポロピナイ)



15周年記念パーティー (郵便貯金会館)



昭和63年度総会 (難病センター)

# 1990年度～1994年度



全腎協総会北海道大会（教育文化会館）



前日交流会 お疲れさまでした（全腎協総会）



満員の会場（全腎協総会）



故村本氏を議長に…15回総会



幹事会の始まる前に

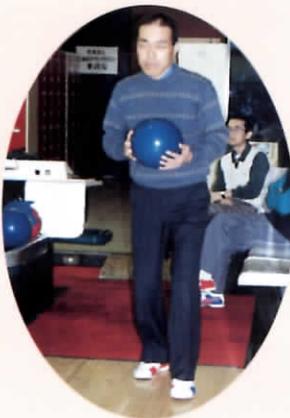




腎キャンペーンの無料腎臓病相談と血圧測定



・90・6月 野幌森林公園へのハイキング



・91・2月 新春ボウリング大会 (青木ボウル)

# 炊事遠足



30°をこえる猛暑でした

'91・9月 炊事遠足支笏湖モーラップ



'92・8月 モーラップは雨で中止、急速藻南公園まで戻り、無事開催

# 腎キャンペーン

1995年度～1999年度



・95・9月 着ぐるみ初登場でアピールまんてん!



・96・9月



・97・9月 過去最高96名参加!



・97・7・6 モエレ健康センター 日帰りの旅



・96 炊事遠足、前日準備はOK!



明けて9・1 雨で中止に...  
ガクッ!



幹事新年会の一コマでした

札幌腎友会のメンバーによる歓迎の寸劇「ポケドッチ」



‘97 道腎協20周年記念大会交流会 (定山溪温泉・ホテル鹿の湯)



鈴木会長入院のため、宮本会長代行による第21回総会



‘95・11・21 市議会厚生常任委員会にて、入院給食費自己負担問題で陳情の主旨説明をする堀井副会長

‘96・10・4 市議会厚生常任委員会にて、村本副会長がタクシー利用券拡充に関する主旨説明

炊事遠足



滝野すずらん公園く月形皆楽公園く道民の森神居尻地区キャンプ場



・05・2・13 ポウリング大会実行委員の皆さん



・03・9・28 腎キャンペーン



・04・9・26 腎キャンペーン



・00・9・10 腎キャンペーン





・04・3・10 札幌市へマル障見直し反対の要望書を提出



・00・11・7 マル障に所得制限導入反対の要望書提出



アンケート集計作業に精を出す



・04・8 マル障・更生医療制度の説明会



幹事新年会にて



事務局です、頑張ってます



・01・9 サヨナラ・クインテス、長い間有難う

# 生きる仲間

札幌腎友会結成三〇周年記念誌

札幌腎臓病患者友の会刊

# 序にかえて

札幌腎臓病患者友の会

会長 鈴木 啓三



私たち透析患者の健康の維持、その他、社会的地位の向上をめざして、札幌腎臓病患者友の会が発足してから三〇周年を迎えることになりました。この三〇年の節目に腎友会の活動記録や投稿を編集し記念誌として発行し、会員の皆様などに配布いたしますと共に、今年度急逝した村本副会長をはじめ、こころざし半ばにして亡くなった多くの先輩活動家にささげたいと思います。

発行にあたり、多くの関係者の皆様にご支援・ご協力をいただき、心よりお礼を申し上げます。また、柳沼事務局長・佐藤編集委員長や編集委員の方々には、闘病生活ならびに就業しながらの貴重な時間をさいて編集していただき、会員一同に代わり感謝を申し上げます、その労をねぎらいたいと思います。

私たちはこの三〇年間、先輩役員の活躍はもちろん、透析医療の進歩にご尽力いただいた各透析施設の医師をはじめ看護師・臨床工学技士その他スタッフの皆様や各医療機器メーカーの皆様、医療・福祉制度をすすめてい

ただいた行政関係の皆様、それを援助していただいた議員さんなど各界の皆様、そして患者を暖かく見守りはげましてくださった家族・友人の皆様などのご支援・ご協力によって、今日を迎えることになりました。深く感謝し心よりお礼を申し上げます。

最初一四八名の会員で発足した当会ですが、現在約一五〇〇名の会員をかかえる大きな組織になりました。これはこの三〇年間に、ダイアライザーの改良、週三回透析の普及、エリスロポエチンの開発など、医療技術の急速な進歩が透析患者の生存率を大きく高めたことと、透析施設の増設や糖尿病性腎症からの透析導入者の増加なども、札幌市内及び近隣市町村の透析患者数の増加につながり、会員数の増加につながっていったものと思われまます。

三〇年前には全腎協を中心に、全国の透析患者とその家族などが国や地方自治体に対して、生命をかけて請願・陳情をした結果、昭和四七年一〇月から身体障害者福祉法の内部

障害が適用され、身体障害者手帳の交付や更生医療（育成医療）の適用により、高額な医療費自己負担はほとんど無くなり、障害年金も給付されるようになりました。また、人工腎臓整備五カ年計画により、全国の透析機器不足も緩和され、透析導入に順番待ちをしていた時代も終わりを告げていました。しかし、このかげには当時ダイアライザーの効率は悪く、医療技術も低かったので腎性貧血などで体調が悪いなか、先輩活動家の命をかけた血のにじむような活動があったことを、私たち透析患者は忘れてはならないと思います。

そして、その後透析医療は生きるだけの延命治療から、社会復帰を目的とした積極的な治療と変わり、「いつでも、どこでも、だれでも」透析を受けられるようになり、私たちの医療技術と医療制度や福祉制度は、この三〇年間に本当に良くなってきて、医療費の公費負担や障害年金の受給などにより生活が安定してきました。

しかし、全国の透析患者数は二三十万人を超

え、この一〇年でも約一〇万人増加していて依然として増え続けています。そして、患者の高齢化や長期透析による合併症などと、それに伴う要介護患者対策などたくさん問題が山積しています。

また、国は少子高齢化による財政難と社会保障費の増大を理由に医療費を削減し、透析医療費においても切り下げや包括化がなされ、平成一五年四月からは透析中の食事代を自己負担しています。北海道においても平成一六年一〇月からマル障制度が、市町村民税課税世帯は原則医療費一割負担に見直され、私たちの医療・福祉制度は後退し、弱者の切捨てをしようとしています。

私たちは今、腎友会活動の真価が問われています。透析患者全員が一丸となり、医療・福祉制度の後退に歯止めをかける運動を続けていきたいと思います。

最後に、今後も会員ならびに関係者の皆様には、より一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

（札幌北クリニック）

# 目次

札幌腎友会30周年記念誌

## グラビア

おもひで写真館／1974年度～1989年度／1990年度～1994年度  
1995年度～1999年度／2000年度～2004年度

序にかえて

札幌腎臓病患者友の会 会長

鈴木啓三 18

## 第一章 祝辞

札幌腎友会結成三〇周年に寄せて

札幌市長

上田文雄 24

札幌腎友会三〇周年記念によせて

札幌市議会議長

武市憲一 25

札幌腎友会結成三〇周年を祝して

札幌市医師会透析医会 会長

中野幸雄 26

札幌腎友会結成三〇周年に寄せて

北海道腎臓病患者連絡協議会 会長

川村隆志 27

## 第二章 手記・寄稿

医療保険改悪を阻止しよう

医療法人社団恵水会 札幌北クリニック 理事長

今忠正 30

透析を受ける方々と歩んだ三五年

医療法人社団恵水会 札幌北クリニック 院長

大平整爾 31

札幌腎友会三〇周年に寄せて

渡井医院 院長

渡井幾男 32

札幌腎臓病患者友の会三〇周年によせて

いのけ医院 院長

猪野毛健男 33

よりよい透析生活をめざして

医療法人社団恵水会 田島クリニック 名誉院長

田島邦好 34

腎臓移植に関わって

市立札幌病院腎移植科 部長

平野哲夫 35

透析との出会い

社団法人 北海道臨床工学技士会 会長

真下泰夫 36

出会い

特定医療法人北楡会 札幌北楡病院人工臓器治療センター 看護科長

阿部博泰 37

透析食調理二〇年の想い出

北海道透析栄養士研究会 会長

佐藤妙子 38

今に至る迄

石川泌尿器科

赤沼昭彦 39

或る日の日記から

稲積公園駅前クリニック

横堀信雄 39

透析施設ではや四年

いのけ医院 スタッフ

高橋幸恵 40

1  
16

二三年を振り返って.....	H・N・メディック	西山道博	40
私達の命を守るため頑張ろう.....	H・N・メディックさつぼろ東	今武雄	41
資格取得を生き甲斐に.....	NTT東日本札幌病院	梅田明	42
人生は朝露の如し.....	清田泌尿器科	片桐俊子	42
自分との闘い.....	勤医協中央病院	青木久保	43
リセットの趣味.....	光星泌尿器科医院	津田靖典	44
人工透析をうけるに至ったワケ.....	幌南病院	内海寿彦	44
腎友会と私.....	札幌北クリニック	金丸洋子	45
過去・現在そして将来.....	札幌セントラルクリニック	西川博司	45
村本さんを偲んで.....	札幌センチュリー病院	西田富美子	46
感謝 感謝 感謝.....	札幌東クリニック	横田しおり	47
忘れられない 長い一日.....	札幌北榆病院(家族)	新井晃	47
将来のために.....	三樹会病院	大坪弘喜	48
透析患者の思い.....	市立札幌病院	川西光雄	48
三二年透析生活の回想.....	仁愛会外科クリニック	赤松明	49
新緑の世界遺産を訪ねて.....	新札幌循環器病院	佐々木栄子	50
記念誌によせて.....	仁榆会病院	阿部隆	50
私の透析の毎日.....	澄腎クリニック	山保友子	52
生きる活力.....	桑園中央病院	高橋春好	52
散歩.....	田島クリニック	寺田正代	53
母への手紙.....	手稲ネフロクリニック	青海寿美	54
回顧...そしてこれから.....	ていね泌尿器科	二階堂修	55
諸先輩に感謝して.....	中野医院	阿部輝昭	55
命の恩返しができたら.....	新井田医院	若月雅裕	56
私の中のボーイスカウト活動.....	東苗穂病院	大関裕美子	57
自分らしく生きる.....	星野泌尿器科	石栗久美子	57
腎友会の発展を願う.....	北光記念病院	山田忠彦	58
私と腎友会の三〇周年.....	札幌南一条病院	高田裕子	59
札幌腎友会の歴史は私の栄養士人生.....	宮の森記念病院 栄養士	平泉幸子	59

振り返って.....	渡井医院	60
私が透析を始めるまで.....	石狩病院	60

## 第二章 三〇周年記念座談会

札幌腎友会の活動について.....		63
-------------------	--	----

## 第四章 三〇年から明日へ

1974 (昭和49年度) ～ 2004 (平成16年度) / 社会の主なきこと.....		77
---	--	----

## 第五章 ジン臓病との戦い

(読売新聞より)

.....		109
-------	--	-----

## 第六章 資料編

[年表] 腎臓病をめぐる今日までのあゆみ.....		124
[資料] 年度別役員名簿.....		133
[資料] 札幌市及び近郊市町村の透析施設名簿.....		150
[資料] 会員名簿.....		152
編集後記.....		171

# 祝辞

札幌腎友会結成三〇周年を迎えて

# 札幌腎友会結成30周年に寄せて

札幌市長

上田 文雄



札幌腎臓病患者友の会の結成三〇周年を心からお祝い申し上げます。

皆様には、大変厳しい療養生活を送られる一方で、会員相互の親睦と交流を大切にされ、様々な活動を通じて腎臓病患者の方々の医療・福祉の向上のために尽力されてこられました。

昭和四九年の結成当時には一四八名であった会員数が、今日、約一五〇〇名を抱える大きな組織になっていると伺い、歴代の会長さんを始め会員の皆様のご努力に深く敬意を表する次第でございます。

医学が急速な発展を遂げる現代にあっても、原因や治療方法が確立していない病気はまだまだ多く、その中で、医療保険制度や診療報酬の改定、年金制度の改正など、難病患者さんを取り巻く環境は大きく変化しております。

本市におきましては、難病患者さんや障がいのある方を含め、すべての市民が住み慣れ

た地域で、共に支え合い、安心して暮らすことができる社会の実現を目指して「障がい者保健福祉計画」、「地域福祉社会計画」等を策定し、現在、その推進に努めているところでございます。

皆様におかれましては、これまでの活動で培ってこられた医療・福祉の知識と多くの実績をもとに、今後とも腎臓病患者の方々の支えとなるようご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、この三〇周年記念誌の発刊を契機に、札幌腎臓病患者友の会が一層のご発展を遂げられますよう、また、会員の皆様おひとりおひとりが健康に留意され、豊かな人生を送ることができるようご祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 札幌腎友会30周年記念によせて

札幌市議会議員  
武市 憲一



札幌腎臓病患者友の会結成三〇周年を心からお祝い申し上げますとともに、その意義深い歩みを綴った記念誌が、このように立派に発行されましたことを心よりお喜び申し上げます。

また、皆様には自らも病と闘いながら、患者さんの生活の質的向上を図るため、永年にわたり腎臓病に関する相談、支援活動あるいは普及啓発活動などを、精力的に続けてこられたところであり、そのご尽力に対し深く敬意を表する次第でございます。

この三〇年を顧みますと、皆様の日頃の活動が実を結び、透析治療をとりまく環境は技術的にも制度的にも大きく進歩してまいりましたが、依然厳しい道内の景気状況下において、日常生活の中で大きく時間をとられる透析治療などを行いながら、安定した生活を営むためには、まだまだ多くの困難とご苦労があるものと拝察いたします。

患者さんが安心して療養でき、生活に不安

を持つことなく、前向きに暮らせる社会づくりのため、皆様の果たす役割、皆様に寄せられる期待は今後ますます大きなものがございます。

そのような意味からも、同じ病を持つ皆様と共に手を携えながら、さまざまな活動に取り組まれますことは誠に意義深いことであり、このたびの結成三〇周年と、記念誌の発行を契機として、患者さんやそのご家族のみならず、多くの方々の腎臓病についての理解が深まることをご期待を申し上げる次第でございます。

結びになりますが、どうか皆様には健康に留意され、ますます活発に活動を展開されることを心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

# 札幌腎友会結成30周年を祝して

札幌市医師会透析医会

会長 中野 幸雄



札幌腎友会が平成一六年に設立三〇周年を迎えられたことに心からお祝い申し上げます。

札幌腎友会が初代辻正延会長のもと一〇施設一四八名で発足した昭和四九年七月は私が透析患者さんの社会復帰をサポートする夜間透析を行えるクリニックを開設した同じ年にあたります。当時札幌市では透析施設として個人開業している所は四ヶ所しかありませんでした。爾来、札幌市の透析患者さんの会が活動を開始して早くも三〇年、その活躍は歴代の会長さんを始め会員の皆様のご努力と熱意のもと、日本の透析医療の発展に大きな役割をはたしてこられたことに心より敬意を表します。

昨年一二月末の全国統計によりますと、日本の透析患者総数は二三七、七一〇名にも達しております。昭和四九年当時の総数は九、二四五名でしたので、この三〇年で透析患者さんは二五倍以上にも増加しました。最長透析暦は三七年六ヶ月です。一方、札幌腎友会発足当時の札幌市の透析患者数は約一七〇名。昨年末で約四、〇〇〇名と推定されます。また、透析暦三〇年を越える患者さんも増加して来ております。これらの成果は近代医療の進歩と共に患者会のこれまでの長い間の国や社会に対する働きかけによる賜物とおもいます。

今や透析治療は特別なものではなく、国民五三七人に一人が透析患者であることになりました。しかし、透析治療に係わる種々の未解決の問題が山積して

おります。三〇年を越える透析患者は先年の日本透析医学会では超長期透析患者と言われ、カルシウムの代謝異常やアミロイドによる骨・関節障害は必発と報告されております。また、近年糖尿病患者の透析導入は慢性糸球体腎炎による透析導入を凌駕し益々高齢化が進んで来ております。長期透析患者の増加に伴う各種の合併症と透析患者の高齢化などで患者さんの日常生活のQOLを阻害する要因より、透析患者さんの介護に対する要望も増え一日も早い対策が望まれます。

ご承知のように札幌腎友会は全腎協・道腎協及び難病連との活動で、会員の皆様のための健康保険制度、福祉制度の充実を勝ち取って来ておりましたが、日本経済の長期に亘る停滞と財政難という事で今まで行われておりました各種の制度が診療報酬改定の度に少しずつ後退させられて来ました。一般の透析医療分野の改定で健康保険適用されていた外来透析患者の食事が適用外となり、また透析時間の区分の廃止が行われました。平成一六年一〇月より北海道のマル障制度の見直しが行われます。この制度が行われずと患者さんに経済的負担が重くのしかかる事になります。この様に種々の問題が表面化されて来ております。札幌腎友会の目的及び事業であります、腎臓病患者の健康の維持と生活の質向上を守る為に、医療と福祉の後退に対して正面から取り組んで行ってもらいたいと思っております。今後の札幌腎友会の一層のご活躍を祈念してお祝いの言葉と致します。

# 札幌腎友会結成30周年に寄せて

北海道腎臓病患者連絡協議会

会長 川村 隆志



札幌腎友会三〇周年を迎えられたこと、心からお祝いを申し上げます。

三〇年の間、透析という時間的制約のある中、会員・ご家族のためにご尽力され、現在もなお活躍されておられる役員の皆様に改めて敬意を表します。

また、この三〇年間札幌腎友会の活動ばかりでなく、道腎協の各行事・運動におきましても常に積極的に関わって頂いていることを心から感謝申し上げます。

今、私たちの運動や患者の声は、かき消されるかのように、透析患者を取り巻く情勢はたいへん厳しいものとなっています。ご存知の通り「道単独事業医療助成制度の見直し」により平成一六年一〇月から我々経済的基盤の弱い透析患者にも自己負担の痛みを求めてきています。私たちは「生命と健康」に直接影響をもたらす制度の縮小・削減は慎重に行われるべきであることなどを訴えてきました。

一回四〜五時間週三回の透析を受ける生活の中で、どれだけの収入が得られるのか、毎月毎月払い続けなければならない医療費は、この後どれだけ患者の負担になっていくのか、行政はあきららかに障害者を社会の隅に追いやろうとしています。

今まで以上に、障害者は力を結束しなければなりません。これまで培ってきた大きな力と多くの仲間と一緒に後退する福祉を少しでも食い止めなければなりません。患者一人の声は小さいかもしれませんが、しかし、その小さな声を集めることによって大きな声となり、大きな力となります。全道の四、五〇〇人会員の皆さんと力を合わせ、これからも活動を進めてまいりたいと思います。

今後とも札幌腎友会の益々のご活躍とご協力をお願い致します。ご挨拶と致します。

手記・寄稿



## 医療保険改悪を阻止しよう

医療法人社団恵水会 札幌北クリニック

理事長 今 忠 正

札幌腎友会結成三〇周年を迎えられたことに心からお祝い申し上げます。

三〇年前を振り返りますと透析者の社会復帰がようやく可能になり始めた時期でありました。しかし社会的、身体的制約は多大でありご苦勞が多かったことも確かです。

貴会の活動は会員の親睦・勉強会・福祉を守る運動を積極的に行い、高く評価されるものでしたが大変困難な道を歩まれてきたことでしょう。

我が国の透析治療の研究はこの間ソフト・ハードともに発展して参りました。いまでは透析者の生命予後は世界に冠たる成績を得ることができました。また、国の経済成長の恩恵を受け社会保障制度が整備されたことも大きな要因であったことも否めません。

しかし、景気の低迷に原因する国家財政の窮迫から健康保険財政の健全化の名目では患者負担の増額、医療報酬の切り下げが次から次と打ち出されてきております。透析

医療についても例外ではありません。

その結果、全国的には透析医療から撤退する施設、夜間透析を中止する施設が出ております。また、残念ながら専門医不在の施設も少なからず存在しています。

透析施設の差別化も必要です。良質の透析医療を提供する施設のみが安定した経営が出来て、そうでない施設は淘汰される正しい競争体制になっていません。透析者が正確な視点で判断し施設を選択することも重要と考えます。

保険財政の数字合わせ、経済優先の考え方でなく、透析医療の合理的な方向性を考慮し、医療の質を重要視した保険診療報酬の決定が望まれます。

一方、無駄を省いた効率の良い透析医療と高い医療の質を両立させる更なる努力が医療担当者に対し求められていると考えます。

残念ながら現在の透析医療は腎臓機能を完全に代替え出来るものではありません。過去に較べればずいぶん軽減されました

が、いまだ厳しい自己管理や生活習慣の改善が必要です。合併症の予防は予後の改善と直結しているばかりではなく治療費の節減をもたらします。

今後、貴会に要望したいことは国民的コンセンサスを得て医療保険の改悪を阻止するためにも会員の皆様にこの点を啓蒙していただきたいと存じます。

最後に貴会のみましますのご発展を祈念しご挨拶いたします。



## 透析を受ける方々と歩んだ三五年

医療法人社団恵水会 札幌北クリニック

院長 大平整爾

数年前に私が導入に関わった男性が奥さんとお子さんを同伴して、会いにきてくれたことがあります。この方は当時二十九歳、結婚したばかりで、透析導入を頑なに拒み続けたのでした。そのうちに高度の溢水（従って強い呼吸困難）と尿毒症性脳症で緊急入院して、血液透析を急遽開始しました。紆余曲折を経たのですが、次第に心身共に立ち直って、仕事に復帰できました。勤務の関係で転院されたのでその後の様子を詳しくは知らずにきたのですが、お子さんにも恵まれ元気な様子に安堵し本当に嬉しく思いました。担当医の私を忘れずに尋ねてきてくれたことに感激し、医者冥利を感じたのでした。

腎臓はバイタル・オーガン（生命維持に必須の臓器）の一つと言われていますから、この臓器の機能が廃絶しながら透析で生命を永らえることには未だに驚きを禁じ得ません。

ただし、現在の透析治療は生体の腎臓が持つ極めて精緻で巧妙な機能の全てをと

も果たし得ませんから、長い間にはいろいろな不具合が生じてきます。それでも共に闘ってきた患者さんのなかには透析歴が三〇年を越える人がいて、この人々の継続的な努力と精進に脱帽せざるを得ません。制限の多い食生活、週三回一回約四時間を費やさなければならぬ治療の継続。従って、透析への導入は、これまでとは全く違った世界へ入って行くことなのであると想像いたします。このことに対して勇敢に頭の中のチャネルの切り替えのできるものが透析を受け入れ馴染み長生きするコツなのであると、多くの長期に透析を続けてこられた人々に接しての私の感慨です。

過去三五年間にどれ程の数の透析患者さんと接してきたのかは正確に分かり兼ねますが、当然ながら出会った人々の数だけの人生をこの間に見せていただきました。それぞれの方がそれぞれに特徴のある人生を歩んでおられることに、時ならず感じ入っております。

生病老死の中にある人の命、嘆きだけの

人生で終わってはならないと或る賢者は言っておりますが、私自身も嘆きに墮さないように心掛けております。夢を大きく持つて論議を大胆に尽くし、その上で実践を着実にしたいものだと思うのです。皆さんの透析ライフが苦しみの中にも輝きと喜びに満ちていけば、それ等はいずれも私共スタッフの心の中へ投影されます。皆さんの苦しみは私共の苦しみになり、輝きと喜びに満ち溢れるのであればそのお裾分けにあやかれるというものです。

「生活に輝きを！」は共に病いと闘う同志として、絶えず願っていることの一つです。

皆さんは、決して孤独ではない。「人」という文字は寄り添いを表現していると言いますが、なるほど、「ノ」の字の真ん中から右下へ別の「ノ」の字が延びて互いに支え合っているのを見て取れます。癒す者が癒される者に癒されるということを、強く感じる昨今です。互いに現状を少しでも改善するように、努力をしていきたいものです。



## 札幌腎友会三〇周年に寄せて

渡井医院

院長 渡井 幾男

私が透析センターを目的として開業したのが昭和四六年（一九七一年）六月ですから、もう三三年になります。

この間、沢山の腎不全の患者さん（おそらく三〇〇人位）の治療に関わり、現在は三七名の慢性透析患者の治療に専念しています。

この度、札幌腎友会三〇周年記念に何か寄稿をと声をかけていただき、何をお伝えすべきかを考えました。

何よりもまず、患者の身でありながら札幌腎友会活動をボランティアで続けてこられた方々の努力は私たちの想像を越える困難なものであったらうと今改めて察します。本当にご苦労様でした。

この三〇年間血液透析治療の技術レベルは確実に優れたものになった事は確かですが、長期透析の合併症対策は複雑困難な面が多く、診療側の苦勞も増え、勉強をすべきことが山程あり、追いつけない位です。

一方、医療経済はますます厳しくなる時代の流れの中で、治療を受けている患者さ

んの立場から切実な声を集約して公にすることは、厚生労働省を動かす大きな力になることは間違いありません。

札幌腎友会の皆さん、大変でしょうが、医療スタッフと共にがんばって声を出して行って下さい。

（渡井医院は平成一七年三月末をもって閉院されました）





## 札幌腎臓病患者友の会三〇周年によせて

いのけ医院

院長 猪野毛 健 男

三〇周年おめでとうございます。

いのけ医院にも三〇年をこえて透析をつづけていられる患者さん達がいらっしゃいます。その人達はほとんど三〇年を越える毎に喜びの声をかけてくれます。三〇年と言うことは一人一人の患者さんにとって節目になることです。あらためて三〇年おめでとうございます。

三〇年以上たつ患者さん達を悩ませているのは関節痛を主とする歩行障害と血管・心臓へのカルシウム沈着です。痛みの方はPS膜及びリクセル同時使用によって、すっかりとは行きませんが少し柔らげることが出来ます。カルシウム沈着の方は三〇年以上たつ方はもちろん、一〇年〜二〇年透析をつづけていられる方でも心臓の弁や血管に沈着している人々が多くなって来ておられます。どうしても医者言うことが守れず、リンの高い人がでて来ます。

透析の患者さんの食事ゆゆるされるリン摂取量は一日八〇〇〜一、〇〇〇mgといわれています。いのけ医院はフリーダイエ

ットですが、しらべてみますとリンは六八七〜一、〇〇四mgで平均八七〇mgとほぼ満足できる数字になっています。だから副甲状腺機能亢進症がない人でリンの高い人はよほどリンの高い食事を摂っている人だろうと思われれます。血管等のリン酸カルシウムの沈着はカルシウムリン積、Ca×P五五以下ならば少ないと言われています。だからCa×Pをおさえるためには変動幅の大きいリンを下げる必要があるのです。

こんなことを知っているでしょうか、お米は玄米や七分づき米の方が、よく精白した米よりリンが高いのです。そばは、やぶより更料の方がずーとリンが少ないのです。一般に穀類は外側がリンが高くなっています。食べる時はできるだけ精白したものを食べましょう。

魚と肉はそんなに差はありませんが、肉の方がだんぜん量多く食べ、その結果肉を食べたあとの方がリンが上がりやすいようです。とくにジンギスカン、シヤブシヤブ、すき焼き、ステーキのときは気をつけ

ましょう。

魚は骨も一緒に食べるものはリンが高く要注意です。たたみいわし、かたくちいわし、シラス干、シヤモ、わかさぎはリンが高くなっています。もう一つ生うにもリンの値が高くなっています。

牛乳はリンがそれほど高くありませんが、つい多量飲んでしまう点が問題です。

卵は黄味がだんぜん高く、リンの高い人は目玉焼の白身だけしか食べれないと言う悲劇もおこりかねません。

三〇年の透析をこえた人は、このようなことをこくふくして、さらに記録をのびして下さい。そしてまだ三〇年たっていない人はだんだん改良されて行く、この治療法を期待して気をつけて歩んで行って下さい。

おめでとうございます。



## よりよい透析生活をめざって

医療法人社団恵水会 田島クリニック

名誉院長 田島 邦好

私が初めてみたアメリカの透析患者さんの皮膚の色は、ほとんどみな真っ黒でした。黒人の患者さんの多いのはどうしてか不思議に思い聞いてみると、この方々はみな白人ですといわれ驚いたことがあります。

アメリカにおいても草創当時の透析膜は普通のセロファン膜が使用され、色素のよくな大きな分子の物質を濾過することは出来なかったのです。

二年程後に日本に帰ってきて、血液透析を自分で始めましたが、患者さんの顔は案じていたほど黒くならないのでほっとしました。とはいえ今の患者さんとは比べものにならない皮膚の色の変化が数年以内に起りました。

一九七四年（昭和四九年）、濾過率の高いキュプロファン膜が合成され色素ばかりでなく、人体に有害な物質を除去出来るようになりました。次々と新しい合成高分子膜が開発され又、コンパクトで膜面積の大きい中空糸型（ホロファイバー型）のダイア

ライザーが従来のコイル型にとって代わるようになり、長期透析の技術は飛躍的に向上しました。活性型ビタミンDの発見で骨折する人は少なくなり、エリスロポエチンの開発は魔法のように貧血の患者さんを消してしまいました。長期透析に伴う合併症は次々に克服され、生命予後はどんどん良くなってきました。

二〇〇三年一二月末の統計では日本の最長透析歴の方は三七年六カ月です。ということは昭和四十一年に透析を始めた方です。何度も初期透析時代の危機をくぐり抜けてこられたすごい方だと思います。生命へのひたむきな力を感じます。北海道にも三五年を生き抜かれた方がおります。立派に社会復帰を果たし、家族を愛され、生き生きと生活をエンジョイしておられます。私が皆さんにお願いしたいのはこういった普通の人と変わらぬ高いレベルの生活をしていただきたいことです。文明、科学の進歩はそれを可能にしてくれたのですから。

ところがこのように順調に発展してきた

ようにみえる新しい医療にもかげりがみえてきました。

最近の透析に対する国の施策はどうでしょうか。保険の治療点数は年毎に引き下げられ自己負担制度も導入されました。透析医療に対するしめつけは厳しくなるばかりです。これでは新しい技術の開発はおろか、医療の質自体の低下も心配されます。私も透析医療に携わる者は、この流れをくい止めようと努力しています。

三〇年培ってきた札幌腎臓病患者友の会の皆さん、この力を更に結集して、ともに手を携え、よりよい明日の透析ライフの為に頑張ろうではありませんか。



## 腎臓移植に関わって

市立札幌病院腎臓移植科

部長 平野 哲夫

貴会の結成三〇周年をお祝いすると共に、会員の皆様のご尽力のおかげで、長い間の闘病のご努力に深い敬意を申し上げます。私が医師免許を取得したのが一九六九年で、泌尿器科医としてのスタートが初期の開始されたばかりの血液透析でした。日曜を除く連日透析・外シャントや私費払いの経済的問題など現在ではほとんど想像できない大変なごく限られた透析でした。慢性腎不全は不治の病で治療法もなく、その診断は近づく死を意味していました。当時透析を決意するに当たっては、開始してもゴールがどこにあるのか全く分からない長い長いマラソンの先頭を走る選手の心理状況であり先が見えない大変険しい道でした。現在の多数の長期血液透析患者及び腎臓移植患者の存在はこの間に大きないくつもの山を越えてきた結果で、頭の中を去来する多数の患者さんの闘病があり、自分の医師としての経過と本会との歩みとはほぼ重なり三〇年を振り返り反省と共に非常に強い感慨を感じています。慢性腎不全の総合的治療に取

り組む必要から治療の車の両輪とされた腎臓移植を専門とする道に進み、市立札幌病院での診療も二〇年を超え、これまで二六四例（生体二三二・献腎三二）の腎臓移植を実施してきました。医療は、現在患者側の要求にどう十分に応えるかが問われ、治療の質の向上・精神的サポートも含め、自分が患者であったなら、自分の親を治療するとしたらなど、立場を常に念頭に置き対処しているつもりですがまだまだ不十分と反省しています。我が国で、二三万名の透析患者が存在しているにも関わらず年間最高で八六〇件の腎臓移植、献腎移植に至っては百数十件の現状は希望にそえるものではなく早急に改めるべく今後も努力してゆきたいと改めて決意しています。

最近の弱者に対するしわ寄せを憂慮していますが、憲法に保障された健康で文化的な生活を守る社会保障の実現を願ひ、貴会の益々の発展と団結でこの危機を乗り切り、会員の皆様の益々のご健勝を祈ります。





## 透析士の生い

社団法人 北海道臨床工芸技士会

倉 真 下 泰

昭和五七年の夏、埼玉県川口市のS病院に初めて透析室を見学に行ったときでした。そのころは、東京の専門学校で「医学電子(ME)」というものを学んでいました。さほど工学(機器)は好きではありませんでしたが、学校案内の「病院にある医療機器を管理もしくは操作するスペシャリスト」という言葉に惑わされ入学したようなものでした。卒業後の進路としては、「機器管理」より「透析技師」(当時はテクニシャンと呼ばれていた)に進む者が多く、二年次は人工臓器関連の勉強に多くの時間が割り当てられて、当時は日本で唯一の養成校ということであり、多くの先輩たちが専門教科を教えにきていました。

自分は卒業後の進路はまだ決めていませんでしたが、ある日、卒業生でもある先輩が「一度病院見学においで」という何気ない一言がこの道に入るきっかけになったことは確かです。友人四人と池袋から川口市まで電車に乗り、初めて見る透析に期待と不安で胸の鼓動がたかなっていたのを覚え

ています。透析の原理等は、学校で習っていましたが、実際施行されている風景は、教科書の写真でしか見たことが無く、全く想像出来ない状態であったからです。

病院に着き、ロビーで先輩を待っているときも皆緊張感一杯で、病院独特の雰囲気にも飲まれ気味になっていました。先輩が来て「ほっと一息」。初めての病院見学という事もありひととおり病院内を案内してもらい、当初の目的の透析室にたどり着いたときは、ちょうど一部と二部の入れ替え時間でした。スタッフが慌ただしく動き回っているのを見ている時、ここで一つの事件が発生しました。初めての見学で緊張のピークに達したことは言うまでもなく、透析室にいったい並ぶ赤い色をした管を見た時、「何だこれは!」と思ったとたん、ふっと目の前が暗くなりかけ、あわてて廊下にあった長椅子に横になりました。しばらく横になっていて落ち着いたとき、透析が終わった患者さんが、「若いのにだらしないねえ。私らは先生方が頼りなんだからしっか

りしなさい!」と、ほんと肩を叩かれ励まされ、恥ずかしいやら照れくさいやらいたまれない気持ちになったものでした。それからまた透析室に戻り、患者さんと話をさせてもらったり、先輩方の働く姿を見てわからないなりに「すごい仕事だなあ」と思い、自分も「透析技師」になりたいなあと思った瞬間でした。帰りの電車の中で友人たちと将来の夢を語りあっていました。

思えばあれから二〇年。最初のあの事件があり、患者さんから励まされた一言が無ければ、今この世界に居ないかもしれせん。札幌に戻り就職してからも、たくさん患者さんと出会い、色々勉強させていただけました。相手からすると何気ない一言でも、自分からすると人生の分かれ道になることがあります。人との出会いは大事な宝物です。



## 出 会 い

特定医療法人北檜会札幌北極病院  
人工臓器治療センター

看護科長 阿部 博

実際なんだったのか分かりませんでした。大学卒業後に勤めた会社を退職し再就職をする時の話です。求人広告には「電気関係（人工透析）」という内容で病院名が掲載されており、自分には電気の知識が多少あったものですからすぐに面接を受けました。昭和五五年、この時初めて「透析」という言葉に出会うことになったのです。透析装置の維持・管理が主たる業務であったため、臨床では患者さんと接する機会が少なかつたことを記憶しています。ある日、透析中の患者さんから「体がこわい」と声をかけられたことがあります。明らかになんとかして欲しいという気持ちと、そうしなければならぬ必要性を感じることができました。しかし、今の自分には機械以外のことについては何もできないまま、ただ看護師に伝えることしかできなかったのです。どうしようもない無力感を抱えながら日々を送っている時、人生の一大転機となる言葉を先輩スタッフからかけられました。それは「看護師の資格をとってみな

いか」というものでした。まさか自分が看護師になるなどは夢にも思っていませんでしたし、経済的・時間的な理由などから専門の学校に通うことが本当にできるのか当然不安もありましたので、二七歳の自分にとっては非常に勇気が必要とする決断をしなければならぬ時でした。しかし、自分自身で決めた目標には思いのほか力を出すことができることを後になって気づきました。五年間かかりやつの思いで看護師の資格を習得した時には三二歳を超えていました。が、支援してくれる病院や周囲の人々との出会いがあり現在の自分があるのだとつくづく感じました。また同時に良く頑張ったものだとも思いました。それから自分はと言いますと、当院の理事長が常日頃口にして「良く働いたら良く遊べ」ということを文字通り実践してきました。臨床では自施設の患者さんのみならず他施設からさまざまな合併症を持った方と出会い、そして看護に携わることで毎日が勉強だったように思います。また血漿交換

など多岐に渡るアフレイシス治療の経験は自分自身の成長を図る上で大いに役に立つものでしたが、反面患者さんとの突然の別れを経験することも多々ありました。親しくしていた方には大変辛い思いをされたことと存じます。患者さんのお話の中で「透析始めてもう〇年になったよ」と聞くことがよくあります。「もうそんなに経ったんだ!!」と驚きと共に時の流れを非常に早く感じます。札幌腎臓病患者友の会が結成三〇周年を迎えられたと聞き心からお祝いを申し上げたいと思います。今後もお互いに目標を持つことと共に、いい出会いをすることでもかなり頑張ることができると考えます。微力ながら何か出来ることはないかと思っておりますが、シワのない真っ白なシーツのベッドと広々とした環境の中で治療を受けて頂けるよう努力したいと考えております。



## 透析食調理二〇年の想い出

北海道透析食栄養士研究会

会長 佐藤 妙子

体重管理や栄養面でもその影響は大きいと考えます。人は食物を摂ることでの生命を維持しています。透析療法を快適に続けて頂くために美味しくバランスを考えたいと食事と栄養サポートを心掛けたと考えています。

札幌腎臓病患者友の会が発足して三〇年になるのですね。医療費の全額自己負担の大変な時代を協力し合って来られて、だれでもが同じ医療が受けられる環境を構築されたのですが、この処きびしい風が感じられるようです。

私が北クリニックで働かせて頂いてから二〇年になりますから、三分の二の期間と一緒に歩いた事になります。

始めの頃は、よく解らない事ばかりでした。透析室でちょっと栄養士さんと声を掛けられ、どんな質問が出てくるのかと身構えていると、今日は美味しかったよ、と言う言葉が出てきてホッとしたり、今日の魚はなんかまずかったけどねーと言われてがっかりしたりで、始めの頃は皆さんの好みがよく解らなくて大迷惑をお掛けしましたが、最近ではなんとか六〇点は頂ける時のほうが多いのでは？

そう言えばこんな事も有りました。ガス釜でご飯を炊いているのですが、一寸ずれていて火が回らず炊けていなくて、三〇分

以上遅れて皆さんに大迷惑をかけました。それから忘れられる事が無いように目覚まし時計をかけて、声掛けをして確認するようになっています。

そうそうお好み焼き事件も有りました。大阪で美味しいお好み焼きを何か所か食べてきて、患者さんにも是非食べて頂きたいと張りきって作ったところが、なかなか焼けなくてどんどん時間が過ぎ、看護師さんや助手さんが待ちくたびれて、食堂のカウンターの前でまだかまだかと足踏みしながら、出来上がると駆け足で運んで頂いた事等、本当に色々ご迷惑をお掛けしたことが想い浮かんできます。

長い間には色々な事がありましたが一番のショックは、透析中の食事が不必要とされた事です。

一回の食事の重量は御茶一〇〇gを入れて六〇〇g前後になり、エネルギーは七〇〇kcal蛋白質は二五g前後とされています。透析中に一回分の食事の処理がされます。



今月の主眼

石川泌尿器科

### 赤沼昭彦

クレアチニンの値が高くなり三年で透析導入となりました。しばらくの間は血圧が高く薬を飲むと頭痛・はきけ等で体調が落ち

着くまで時間がかかりました。最近では運動不足で体力もなく足の筋肉も細くなりすぐに疲れる様になっています。なんとかしなければと思っていたところ得意先の方がゴルフを始めた聞き、自分も七年ぶりに打ちっぱなしに行き体力が付いてきたのではと、先日コースを廻ってきたところ二、三日は筋肉痛で大変でした。今後はあせらず少しずつ体力をつけ頑張って生きて行こうと思っております。



### 或る日の日記から

稲積公園駅前クリニック

### 横堀信雄

六月二五日(曇)家路へ急ぐ黄昏時、近道と聞く隣家の軒下を初めて通ってみた。ガーデニング用の古びた材料が雑然と積まれた小さな庭、その傍に中型の汚れた植木鉢が捨てられた様にあった。

七月六日(晴天)早朝の目覚め、体調が良いので久し振りに近くの公園を散策しようとして隣家の軒下沿に出てみたら、深緑に繁茂した雑草の一部分が刈り取られ真中辺りに捨てられたと思っただけの植木鉢があっ

た。汚れも奇麗に洗われ盛られた土の中に真直に蔓を延ばし、筒が純白で花弁が赤紫色の朝顔が一輪、緑の葉の影から誇らしげに上を向いて咲いているのを見つけた。はっとして立止まった、美しかった、感激した。何年振りだろう、目が洗われた様な思っていた。これも隣家の一人暮らしの老婦人が毎年手入をして咲かしていたと言う。この植木鉢は捨てられた物ではなかった。札幌腎友会が三〇周年を迎える。透析導入の頃、皆、それ相当に味わったに違いな

週三回仕事の為夜間透析を始めて早三年半がたちました。今思えば二年前出張で鉋路に滞在していた頃、年一回の健康診断で腎臓に異常がありそうだとされた頃から兆候があったのです。その時は二日間に渡り造影剤を注入しながら検査をしましたが、異常なしとの事でほっと一安心……ただ一〇年前から採血していても人よりも倍の時間がかかっていました。腎臓病の事は全くといって知識がなく、再検査が必要とあってもまた同じだろうと思いはおっしておきました。そのうち疲れやすく風邪もひきやすいなど体調に変化がある様になりました。以前酒を飲み過ぎて急性アルコール脂肪肝になった事もあり、しばらくは禁酒禁煙でもすれば大丈夫だと軽い気持ちで病院で見てもらうと、腎臓に問題あり、紹介状を書くので行って下さいと言われ、その結果悪くなくても良くはならないと言われショックでした。もう少し早く治療していればと、その後月一回の通院で食事療法と飲み薬での治療が始まりましたが、徐々に

い、寂びしき、空しき、絶望感、捨てられた人生か（例の植木鉢のように）。こうしてジレンマに懊悩<sup>あうぼう</sup>していた日々、心身も弱りつつある頃、「生きる仲間」が居るんだよ、と囁いてくれた仲間が居た。やがてその中でこの年月何千人の人々が、先人の「智慧」と「努力」で救われたかを知った。「生きる仲間」が私を救ってくれ「希望」という花を咲かせてくれる。三〇年、否、何世紀へも繋いで「生きる仲間」でいようよ。



## 透析施設ではや四年

いのけ医院スタッフ

高橋 幸 恵

「耐えられない試練に逢わせず、試練と共にそれに耐えるよう、逃れる道をも備えて下さる。」  
「コリント（一）10の22」（聖書）  
七月二日（晴）透析に向かう朝、捨てられたと思ったあの二ヶの植木鉢に十二輪もの赤紫色の花弁をつけ、にぎにぎしく可愛らしく、誇らし気に上を向いて咲いているのを再発見し嬉しかった。

ともない機械や器具を見て、大丈夫だろうかと不安でいっぱいでした。又、以前の病院では、患者さん達に、水分を多く取らないと脱水になるからといういろいろな水分補給の方法を考えたりしましたが、今の職場では、まったくの逆。あまり水分を摂り過ぎない様にと水分制限。そんな違いがありませんが、今、考えれば目の前にある仕事を自分なりに頑張ってきた様に思います。そして、全てが初めての事で失敗のくり返しでしたが、周りのスタッフや患者さん達に助けられ、教えられながら、今こうして勤めていられるのだと感謝しています。まだまだ、わからない事が多いですが、自分の勉強の為、そして私達に救いを求めている患者さん達の為に、いろんな部分への観察や視野を広げて、出来る所まで頑張りたいと思います。

以前、私が勤務していたのは、療養型の老人病院。

そこでは、痴呆で徘徊する患者さんの看護、寝たきりで疎通のとれない患者さんの看護、又、褥瘡処置や食事の介助と忙しく駆けずり回っていました。

そんな私が、ちょっととした切っ掛けで自分に勉強になるのでは？ 又、違った視点から患者さんを観察し、看護出来るのではないか？という思いから、まったく経験のない透析の病院に勤めはじめて、はや四年

が過ぎようとしています。初めは、見たこ

## 一三年を振り返って

H・N・メディック

西山 道 博



平成四年五月二〇日より透析を始めて早いもので一二年が経過し、現在もまわりの

皆さんにささえられながら、働く事が出来てたいへん感謝しております。透析を始め

当初は、一〇年働けるかどうかと心配していましたが、休む事もなく会社に通っています。

私の仕事は、測量計設業で外業が半分内業が半分です。外業は、現場で実際に実測する仕事で、体力がなければ仕事は進みません。内業は、現場で実測したデータを、計算し図面にする作業です。現在は、コンピュータが発達しているので、私が入社した当時より短時間で処理する事が出来ますが、入社した当時は、午後一〇時には帰宅した記憶はありません。それに、出張も多く、私は離島以外はほとんど出張にいったと思います。(焼尻島はいきました。)最初の出張は、道北の町の水道管の測量で、この現場は車を降りてから歩いて三〇分くら



## 私達の命を守るため頑張ろう

H・N・メディックさつほる東

今 武雄

透析を導入して私も一九年三ヶ月を迎えました。此れも一重に先人の方々の血のにじむ運動や、腎友会の役員の皆様や会員の皆様そして医療スタッフの方々の努力のお陰でと、家族共に感謝致して居ります。

い山中で、測量センターは、伐採しなければ視通がきかない様な所で、さらに熊が出るという事なので、ハンターに見守られながらの測量となりました。ちょうどキノコシーズンと重なり、ハンターの人は「熊は、出ないから大丈夫だ」と言いながらキノコ採りばかりして、ヒヤヒヤしながら測量したのを思い出します。

あれから二三年いろいろな事があり、今日に至っています。現在注目を浴びている伊能忠敬の事を考えると、並大抵の体力・精神力・脳力がなければ、あれだけの精度の良い地図は、作れないと実感しています。これから何年働けるかわかりませんが、透析と仕事を両立させながらがんばりたいと考えています。

成して現在迄に数えきれない恩恵を私達に与え健常者に近い生活をもたらしてくれました。そして、現在も私達と同じく透析をうけながら体を休める時間も無く事務所にもどり仕事にかかる姿には本当に頭が下がります。

私達の「命の綱」としてある医療費の無料化に初めて手が付き、此の一〇月から三千円が自己負担になり、何か段々と負担が増えて来て三〇年前にもどるのではないかと不安になってきます。近年、会員の脱会が増えて来て私達の組織力も落ち、今年度は会員絶対数の減少さえ危惧されています。その理由は私達が数々の恩恵により生活していける、という安心感が災いしているのではないのでしょうか。此れからは幹事ばかりでなく女性の会員さんからも未加入者に声をかけていただけの様に頼みたいと思います。私達も未加入者に加入を勧め此の深刻さを打開する様がんばりたいと思います。私達は腎友会と一心同体であります。組織を強め会員を増やす事と未加入者をなくすよう団結を持って頑張らしましょう。此の運動が私達の命を守るために。最後に鈴木会長の御長命とパートナーだった村本徳雄様のご冥福を祈ります。

私が平成二年に入会したきっかけは、三〇年前先人患者やその家族が血のにじむような必死の運動により、透析費用が無料となり私達に光を与えてくれたのがわかったからです。その後、先人患者が腎友会を結



## 資格取得を生き甲斐に

NTT東日本札幌病院

梅田 明

人生五〇年、透析治療一三年目を迎えて生きていく上で、資格取得を目的に人生を楽しくいききたいと思います。資格取得の手始めは高校生のときで第四級アマチュア無線技士（電話級）、第二種電気工事士を取得しました。

就職してからは、特殊無線技士（災害用無線設備の保守運用の為）、乙種危険物取扱者第一類から第六類までの六種類、第一種電気工事士（資格申請認定）取得、仕事上（電話関連）で特に必要だった工事担任者（電話工事の時に必要）資格制度のアナログ第一種・デジタル第一種を皮切りに、電気通信主任技術者（伝送交換主任技術者資格者証）資格を取得しました。

最近の仕事でパソコンを使用するので、生き甲斐というか自分に対して叱咤激励、ボケ防止のために毎年何かしようと考え「生きている事を実感出来る」様に何か資格取得をと思い、パソコン関連の資格として情報処理技術者試験の初級システムアドミニストレータ、ドットコムマスター・シ



## 人生は朝露の如し

清田泌尿器科

片桐 俊子

ングルスター、CCNA資格を取得しました。今年は第二の人生のために二級ボイラー技士に合格し、一級ボイラー技士の試験（二級ボイラー技士免許取得後二年経過で

二〇周年記念誌発行の折にも、私はこうしてペンを握っていた。それから一〇年が経ちまた同じように思案している。

時を刻むように透析を受け、飲みたい飲めない、二つの気持ちのはざまでも揺れ、体重増加に一喜一憂していたら、あっという間に月日が流れていたという感じか。

今年で私は透析歴二〇年になった。前半一〇年は体調がすぐれず、落胆と戸惑いの

受験資格）にもトライしようと思っっています。また、何回受験しても合格出来ない基本情報技術者試験に合格するまで再トライしようと思っています。また、工業高校卒業なので第三種電気主任技術者試験（資格制限は無い）も受験しようかと思っています。取り止めの無い事を色々と書きましたが、今の医学と特定疾患の健康保険が無いと、一三年前に一度死んだ（拾った）命を大切にしようと、日々切磋琢磨しています。

日々だったが、この一〇年間は、体力・気力も回復し、ひよんなことからラジオ・テレビに出演したり、投稿作品がいろいろ採用されたりと、楽しく充実した日々だった。振り返ると、いくつもの喜怒哀楽がパッチワークのように心に広がってくる。

夏の夜空を彩る花火、真っ赤に染まった楓、しんと降りつもる雪、春風と遊ぶたんぽぽの綿毛、四季おりおりの風物詩は心を和ませ豊かにしてくれる。

だが、それらすべてが「消えもの」、永遠には続かないことに気がつく。そのはかなさゆえ、美しいと心動かされるに違いない。

人生も然り、朝露の如しである。短く限りがあるから、その中で精一杯生命の火を燃やそうとするのだ。マラソンだってゴールがあるから走り抜けられるし、しめきりがなければペンを持つ手は止まったままだ



## 自分との闘い

勤医協中央病院

青木久保

現在、私の透析歴は七年、家内は五年だが夫婦揃っての透析は珍らしく、あまりその例はないという。

よく「夫婦仲良くいいですネ」などと言われ、私はハア…と曖昧な返事をするが実際はそれどころではない。家内は外見に似ず病身で透析は勿論、糖尿による視力障害を始め耳の聴こえも悪く、又足も弱まり通院にも介護を要する状態である。

私も家内も共に大正生まれの八〇才と七八才。家族は永年リュウマチに悩む長女と公務員の次女の四人家族である。

ろう。

いつかは朝露のように消えてしまいう生命と分かっているからこそ、「今が一番いい」と感じていられる。生きている一瞬に自分らしくきらめき、感謝し、満ち足りていた

い。  
四〇周年記念誌への原稿を書いているだろうか、それとも露と消えたか、それは謎だ!

「光陰矢の如し」と言うが正しくその通りで透析しているとアツという間に日が過ぎ去って行く。この透析には「治ゆ」即ち「治る」という見通しはない。我々血液透析の場合例え「槍が降っても」継続しなければならず、若しなんらかの理由で透析が停止した場合、死は遠からず訪れると言われる。

「透析とは何ゾ」「その対応は」などについて自分なりに色々参考書など漁り、又先生始め先輩諸氏の話など聴き判断するに、結論から言えば自分との闘い、即ち自

主管理、自分に最も適応した日常の管理体制、とりわけ水管理が大切でないかと思われる。

夜半、フト眼を醒した時、頭に思い浮かぶのはどうしても病妻と障害の娘の行末であり気も沈むが、私は一家の家長としての家族を支える責任と義務があり、そのため私は日頃から自粛自戒し療養に専念している今日である。

近時、我々障害者に対する助成制度は一段と厳しく、マル障見直し問題を始め多くの助成が削減の方向に進んでいる。我々は多くの先輩達が血と汗で築き上げた今日の助成体制を絶対後退させないことは勿論、断乎として改悪は阻止しなければならぬ。

最後に願わくば全国二三万の我々透析者の前途に幸あらんことを祈念してやまな



## リセットの趣味

光星泌尿器科医院

津田 靖典

で恵まれず、透析自体知られてなく、会の

腎友会と共に私もそろそろ三〇年になります。色々な合併症との闘いの中いつも笑顔でいたいと、遊び・趣味にと生活しています。釣りは夏限定で釣果より日光浴がメインで、近場の海でのんびりとし、パチンコはいろんなことを忘れるぐらいタバコの煙と雑音の中なぜか落ち着きます。ギターは、学生の頃からで、四〇半ばを過ぎると埃だらけ、たまにバネ指と手の痛みの中で、昔を思い出しています。他にも趣味は色々ありますが、メインの趣味は仕事で、透析以外の日はCDや本を扱っている店で、好きな音楽とヒゲ面の相棒二人でのんびりやっています。透析の日は、家でパソコンの仕事をお茶を飲みながら暗い顔でだらだらやっています。私にとって趣味は色々なことをリセットしてくれるので、朝起きた瞬間から今日も楽しもうと「ニヤリ」とするのです。最近は体調の方も下降きみですが、復活する日を思い、こじんまり過ごしています。

私が透析を始めた頃は、今より色々な面



## 人工透析をつけるに至ったワケ

幌南病院

内海 寿彦

平成二年（六六才）に定期健康診断で心電図に心筋虚血ありと出た。当時北海道リハビリテーションセンター（竹浦）で診療に従事していたが、格別自覚症状もなく健康生活にも自信があったので気にしていなかった。以来毎年の検診時同じ心電図所見が続いた。平成六年になって蛋白尿の出現を知らされた。

平成八年血圧が高くなってきた。登別厚生年金病院内科で腎性高血圧として降圧剤の投与をうけ、減塩食・低蛋白食をはじめた。

平成一一年高尿酸血症出現、血中尿素窒

人達の努力によりあたりまえのように透析していますが、これからは医療費や他の面でも厳しくなるので、今一度真剣に考える時と思います。患者一人一人が危機感と責任を持って、会全体が一体感を持ち、安心な透析を受けられる様心から願っています。

素五三、クレアチニン三・三に達していた。平成一二年には一日尿中蛋白排出量六グラムになっていた。この年の五月CTスキャンをうけたところ両腎に常染色体優性多発性嚢胞腎が発見され腎不全が相当進行しているとのこと。一〇万人に一五件程度みられる異常だと。この年の暮れになって心臓性喘息発作が起こるようになった。

平成一三年一月五日王子病院循環器科高木陽一先生を紹介された。適切な処置で発作は治まったが、尿素窒素八〇、クレアチニン六・四と血液所見は増悪。三月七日将来に備え、左前腕に内シャント形成をうけ

た。血流状態が変わったためか一週間後から再び心臓性喘息発作が起こるようになった。三月二七日発作に耐えきれず王子病院に緊急入院した。翌二八日血管造影の結果、冠動脈の重度狭窄が認められ放置できないとのことで翌二九日開胸、冠動脈バイパス四ヶ所形成という騒ぎであった。

以来人工透析をうけ、今年七月二一日四五七回目をむかえた。平成一四年五月退職、六月札幌へ移転、幌南病院腎センターで御世話になっている。バイパスが何時までもつのか、囊胞腎はこれからどうなっていくのか、心配は尽きない。

石井会計となりました。石井さんは計算にも長けていて、事務局の仕事も総括できる方です。会にとって大切な存在で、故に患者会は安泰です。

昔も今も、役員一同皆ボランティア精神を第一に仕事に励みます。活気ある会作りを目指し、私共一般会員は一人でも多く会員を増やしたいものです。日頃の節制を忘れずに末長い人生でありますように。



## 腎友会と私

札幌北クリニック

金丸洋子

鈴木会長、故村本副会長、私が会計共々、北クリニックで腎友会に協力した頃を懐かしく思います。

素人の私に二人は懇切丁寧に指導しながら会の運営維持に努めていました。患者会組織の一边で賛同者の集まりの中、時には厳しい批判、非難もありましたが、その都度役員一同話し合い、(和)を持って収めます。会計をする一方、役員の仲間と仲良くなり、友人が多くなり情報交換もでき、楽しさの中に有意義な日々でした。こうして患者会を語るにも、村本さんなくして語る事ができません。

このような時、私が合併症に見舞われ

クターストップにより会計は終り、現在の



## 過去・現在そして将来

札幌セントラルクリニック

西川博司

昭和五三年二月、私は透析導入となりました。キャンディーズが解散した年だったと思う(古すぎて覚えてない、透析しながらテレビで見た記憶がある)。私は高校三年で、卒業できるのか、留年するか定かでない

く、透析するショックなどあまりなかった。冬休みや受験休みに登校し、レポート提出する等して私は運良く卒業した。当時六時間透析であり、透析しながらの高校生活は、無理だったと思う。今更ながら、卒

業できて良かったと思う。私は運がいいのだ。

その後、大学に入学し就職することになるのだが、一番苦労したのが就職だった。当時の病院では、準夜間透析しかなく、午後四時までに病院に行かなくてはならないのである。そんな仕事はない。

現在私の職業は税理士である。透析の間帯に仕事を入れなければいので、透析者としては恵まれた環境にある。今の職業までに私は七、八ヶ所の職場を転々とした。しかし、現在の仕事の基礎は、それまでの職場で得た知識と体力なのだ。人生でどんな仕事をしたとしても無駄はない。

今の若い透析者には、私の過去の体験など役にたたない。地方は厳しいかもしれないが、札幌には、夜間透析もあり働く環境は整っている。あえて言うならば、挑戦してほしい。挑戦すれば、可能性がどんどん広がる。人生は一度きり、そして人生を決めるのは自分でしかないのだ。

最後に私の将来だが、上記に書いたように挑戦し続けようと思う。自分の人生をもっともっと楽しくするために。



## 村本さんを偲んで

札幌センチュリー病院

西田 富美子

先日発行の「生きる仲間」の鈴木啓三さん寄稿の「村本さんとの思い出」を読み、何度も何度も涙で文字が見えなくなりました。私にも村本さんとの沢山の思い出があります。村本さんが亡くなられた時、私は入院中で、事務局の方から訃報の電話連絡がありました。でも外出もままならず、最後のお別れをする事ができませんでした。その事が今でも心残りとなっております。

喫茶クインテスにも度々コーヒーを飲みに行きました。村本さんが、優しい笑顔で、いつも迎えてくれました。クインテスには、私よりも透析の先輩の方々が遊びに来ており、その方々は何時も元気はつらつ?としていて、随分勇気づけられました。そしてクインテスは、何人か集まると、何時も笑い声が絶える事がありました。精神的に落ちこんだ時、入店する前は元気がなくても帰りには皆さんのパワーで、元気一杯。そしてまた翌日から頑張る事ができたのです。クインテスを止められた後も、事務局に行くこと決まった場所に

腰をかけられて、「元気にしてるかい?」と声をかけてもらいました。村本さん、目を閉じると、貴方の笑顔が浮かんできます。私は、自分の人生で、貴方と出会えた事を、心から感謝しています。色々とうございました。

思っているだけじゃ伝わらない。文字にすると天国の村本さんにも読んでもらえるかもしれない、そんな気持ちで書きました。



感謝 感謝 感謝

札幌東クリニック

横田 しおり

早いもので、透析導入からこの一〇月で六年になろうとしています。突然の事でしたので自分としては、何がなんだかわからないというのが正直なところでした。

ちょうど、その前年に実父を闘病生活の末、癌で亡くし、次の年には主人が思わぬ事故で三ヶ月の入院生活を送り、幼な子を抱きながら、あっちこっちと奔走しておりました。

その娘も昨年ようやく小学生になり、少しは子育ても楽になりました。物心つき始めの頃の導入でしたので、朝玄関で「行かないで」と泣かれるのが何よりも辛い事でした。幼稚園に入ってからは様々な行事の度に、病院の方には無理を言って都合をつけて頂きました。

今は学校のPTAの委員をさせて頂き相変わらず病院の皆様には御協力を賜っております。全く感謝の言葉もありません。又、以前から続けておりましたピアノを教える仕事もそれ程縮小する事なく続けております。細々と演奏活動も続ける事ができ、今

は一〇月のコンサートに向けてひたすら練習中です。

透析生活を送りながら、自分が思う様に動き仕事もさせて頂けるのは、ひとえに病



忘れられない長い一日

札幌北極病院（家族）

新井 晃

いまだに、忘れられない一日。それは、妻が透析を始めたその日の出来事です。

昭和五六年八月一〇日早朝、妻の入院先から「容態が急変したので、すぐ来てほしい」との連絡をうけました。病室では、いつも明るく、元気を装っていた妻が、口をきくこともできず、呼吸困難な様子でした。病院の判断は、「専門の病院へ救急車で搬送したい」とのことでした。

私と長女が付き添い、救急車で病院へ向

院の先生、看護師の皆様のお協力、思いやり、そして、家族、養父母の協力のお陰と深く感謝しております。

その感謝の心を抱きながら、今、自分ができる事をそれぞれ真心を込めてさせて頂き、生かされている事に喜びを感じながら、一日一日を丁寧に生活していきたいと思っております。そして、それがお世話になっていらっしゃる方々への恩返しであると信じております。これからもどうぞ宜しく御願い申し上げます。

かいました。車内での妻の苦しみは、刻々と増し、一刻も早く到着することばかりを願っていました。しかし、道を開けてくれることに協力的な一般車が少なく、そのため、救急車は思ったようにスピードをあげることができず、イライラのしどおでした。

ようやく病院につき、応急処置をしてもらったので、苦痛も和らぐものと思っておりましたが、一向にその兆しもなく、数時間

後、担当の医者から「脳に障害があるかどうか明日まで様子を見たいが、あまりにも苦痛がひどいので、ご家族が承諾してくれるなら、透析してもよい」との話でした。

本人の希望もあり、私たちも、脳に障害がないことを願い、透析することに同意しました。透析が始まり、心配された障害も



## 将来のために

三樹会病院

大坪 弘喜

見られず、徐々に安らかな寝顔になっていく妻の様子を感謝の気持ちで眺めていたことが思い出されます。それ以来、入院を何度かしながら、子どもたちの結婚、三人の孫たちの成長を見、生きる楽しみ、喜びを感じながら、夫婦共々生活しています。

従って、腎友会もこれからは個人の意識を高め、ただの弱者の集まりではなく、組織としての力を付け強固なものとし、お願いするだけでなく、要求をもする事が出来る組織を目指して行く必要があると思います。

自分達で声を出さなければ、何も伝わりません。行動しなければ、何も始まりません。そして、力を蓄えなければ、それらを認めては貰えないのです。何もしないで、現在の医療制度がこのまま続くことは、残念ながらあり得ません。一人一人が危機感を持って、これ以上の改悪が進行しない様、団結しましょう。

先日の「新潟・福島大水害」は、多数の死傷者が出る痛ましい災害となってしまうましたが、その多くはお年寄りで、所謂、弱者でありました。

この事は災害だけにはとどまらず、この度の「マル障に自己負担導入」も同様で、平成一四年から実施された外来透析の食事負担に続く医療制度の後退です。最近、世の中はどんどん人々の気持ちに余裕がなくなってきました。余裕がなくなれば、人を助けようなどという気持ちは薄らいでいき、今後、足下まで水に浸かってしまった行政に依って、更なる後退を要求される

事が予測されます。

## 透析患者の思い

市立札幌病院

川西 光雄

戦後の教育の不完全さに起因することが、余りにも多い思いです。

私は四五才の時、腎結石の手術を受け、その三〇年後、七五才から人工透析を受け



私は七月に道徳（モラル）の話聴く機会がありました。現在の社会情勢は乱世の状態だと言うのです。自分勝手と言える犯罪の多さには、寒心極まりないものです。

て居ります。現在週三回（一回四時間）です。

私がお世話になっている市立札幌病院の施設は、極めて衛生的に管理されており、透析室に居られる主治医、医師、看護師の方々にも恵まれており、心から感謝致しております。

若い時は軍務に服しており、生水の飲用を禁止されておりました。昔の戦地では、生水を飲用することは、病気の原因ですからと固く禁じられておりました。

現在の日本、特に札幌の飲料水は、良質であり、豊富な水に恵まれて、昔日のような事は無いです。

私は日本に帰ってから、故郷の水の良さを忘れていました。水を飲まない習慣が永く続いたのです。それが私の病気の遠因になったことと思われまます。

また現在、国内の透析患者数は、二四、五万人と言われ、その内二パーセント強のC型肝炎の患者数となって現われていて、まだまだ改善を要することがあるのです。

以前みた新聞記事に、近々技術の発達によって、透析時間が一〜二時間に短縮されることが可能になり、然も一〜二年の内に実現するような記事がありました。私だけでなく全患者の熱望する処ですが、その後の記事の発表は未だありません。

## 三二年透析生活の回想

仁愛会外科クリニック

赤松 明

私が透析を受ける事になって三二年。脳梗塞が五回、脳出血一回、ふり返ると長かった様な短かい様な複雑な気持ちです。前症状は何もなく、食事を摂った後急に頭痛がして口のもつれが出現した為、市立札幌病院に入院する事になったのです。入院してから半年は病院にいる事になりました。

脳出血は、左半身麻痺となって失望しましたが、リハビリの先生に励まされかなり回復出来たのですが若干後遺症として残っています。

透析の歴史は昭和四八年六月から始まり途中副甲状腺の手術も経験し体のきしむ様な思いました。なんといつても透析中指尖が痺れる事がつらく、住んでいる札幌は冬になると気温も下がりがりいっそうつらい思いをしております。副甲状腺手術後は箸を持つのもつらかったです。透析というのは長いつきあいですがつらい思いも伴うものだという気がします。

透析を最初に受けたのは、昭和四七年体調の変化によって病院へ行き診察を受け慢

性腎炎との診断。腎不全となり、昭和四八年透析開始となりました。透析が始まってから食事の変化、透析中の頭痛や眩暈との闘いでした。透析を始めてから三年間は特に大変でした。ふつうに歩く事がままならず不自由を感じながら暮らす毎日でした。真に地獄です。

現在、食欲もあり三二年間の中では体調の良い時期ではあります。透析に慣れてきたこの状態が続いていつもらえれば移植など考えてなく、平穏な日常生活を送れて一日を楽しく過ごせる様に趣味等充実させていきたいと思っています。



## 新緑の世界遺産を訪ねて

新札幌循環器病院

佐々木 栄子

をまとった坊さん達が金の襖（たてま）をバックに懸命のサービスをしてくださり、大名気分を味わうことができました。先人の方々の御苦勞や思いにも触れることができました。

自然の中で心が洗われる様で、今までお世話になった方々や病気の私を支えてくださる方々に感謝、感謝です。  
その日なんと、6km以上の道のりを楽々と歩くことができたのは、やはり千年以上も経つ聖地の力なのか、歴史好きだった父への想いがそうさせたのかは、今でも謎です。

聖地にて 先行くガイドに 父を見る



## 記念誌によせて

仁楡会病院

阿部 隆

昨年、和歌山県の高野山に主人と『小原会』の仲間と行ってまいりました。これは人間工学に基づき、新幹線や飛行機の座席デザインも手がけた、千葉工業大学理事・教授の小原先生を囲んでの勉強会と称して、国内に限らず様々な所を見学する会で、今年で一七年目になります。当初、体調のことを思うと気が進まなかったのですが、会の仲間が透析日をふまえて日程調整してくださり、家族も勧めてくれたので、思いきって参加することにしました。決めると不思議なもので、「何を着ていこうかしら。バッグは、帽子は」と、心はすっかりルンルン気分になりました。

高野山は山の上が盆地で、壇上伽藍と称する聖地に様々なお堂や塔が立ち並んでいます。

平成一五年五月一八日、新緑の中、大門、総本山、金剛峯寺や奥の院までの道のりを、ガイドの説明を受けながら三時間程かけて見ました。昼食は『持明院』にて高野山名物精進料理をいただきました。黒衣

私が透析治療を始めるようになって今年で三一年になります。この間医療の進歩は目覚ましいものがありました。今のよう「確立した医療」となってきたのはここ一〇数年です。透析が「医療」として治療が開始された時期は、先生もスタッフも大変で毎日何が起きるか紆余曲折の日々をおくっておられました。そうした中で患者であるわたしたちも自分がこの治療を受けることで、どうなっていくのだろうという心配

を抱えながらの毎日でした。

透析を受けることは自分との戦いで、透析装置につながれたとたん血圧が低下し、目の前が暗くなり、意識は遠のく、吐き気は汚物を遠くまで飛ばし近くにいる看護婦さんにかかるほど、このようにしてへとへとへの思いでやっと透析を終わる。病室にはいつもストレッチャーで送られ、自分が目を覚ましたのは次の朝。やれやれと思っていると午後の二時ごろになると看護婦さん

がやってきて、「あべさん、あなたはまだ症状がよくないからこれから透析するからね。」と告げられ、また、透析室へと運ばれる。

こうした毎日が続き、一週間のうち透析室に行かなかつたのは日曜日だけでした。

このことは、わたしだけでなく透析を受ける患者さん皆同じでした。

ようやく自分が何をしていたようになっていのかかわかったのは三ヶ月を過ぎたころからでした。そうして身体も透析に少しづつなれて、自分で行動できるようになったのです。透析治療がマル障制度で治療が受けられるようになった昭和四八年度からはこの透析をうけなければ命がないといわれた人が、病院に透析の治療を受けられるのかと、医師に相談にくる人が多かつたと聞きました。そうした中、年々、透析装置も改良されよくなってきましたが、それでもなにかと透析を受けていると、透析のほかにいろいろな症状がでてきて、悩まされ、先生もその対応に苦慮することも何度かあったように聞きます。

このようにして、いろいろなことを乗り越えて、今の「確立した医療」と言われる透析治療があることを知っていてほしいのです。

しかし、今のように、「確立した医療」といわれる透析治療も年々患者さんが増え、

国の医療費増大の一因と思われていますが、決してそうではなく、我々のような患者をふやすことのないようにと早期発見・

早期治療の対策をしてこなかったことにも要因はあると思います。また、治療をうけなければならぬ状況を作ったのは患者自身にもあるのかも知れませんが、しかし知識を持たないものに指導もしないでいて、国は医療費が増えたからといって今度は、自己負担を求めてきました。透析治療に週三回通うなかで、ともに生活を維持するだけの仕事をし、給料をもらうことなど今の社会の経済状況で普通に考えても無理だろう。そのことを国や地方自治の福祉はなにも見えないだろう。わかるうとしないだろう。だから患者会を作ってひとりひとりの苦しさをわかってください。生活改善のためにできることでいいですから対策を講じてください。一人の力は弱いが一人の力がまとまれば大きな力となり世の中の人々を動かすことが出来ると信じて患者会はいくつかの要望書をつくり、国に地方自治に何度も何度も要望してきた。三〇数年前、今の透析医療が保険の対象になったのもこうした先輩の力によって世の中の人々を心から動かすことができたからです。

何かを求めようとしたとき、そこにはなにがしかの代償を求められることがよくあると思うが我々患者が求めること、患者会

が求めることは無償の代償であり、その結果は国民のひとりひとりに、あとになって評価されるものだとは私は信じています。患者会をつくり何かを求めていくことは、決して一人のために求めているのではなく、自分の両親、子供、孫、兄弟等々につながる、大きな環になって将来の医療・福祉等々を考へ変えていってもらうための活動であるのです。

どうか、患者会の火は消さないでください。その時代その時代を見つめ、いま何をしなければならぬのか、なにを運動しなければならぬのかを、患者個々の立場で、時代の流れをよく見つめ、活動して欲しいのです。たとえ会員数が少なくなろうとも、活動を支援してくれる人がなくとも、たったひとりの会員になっても患者会の火は消さないでください。協力してくれる人手で、手弁当で、足で歩く、わかってもらうまで足で歩いて訴えていき、守り抜いてください。困っているひとりの患者さんのために。その先にあるものは、何にもものにも変えがたい感動や充実感や達成感なのです。これが、患者運動なのですから。



## 私の透析の毎日

透析クリニック

山保友子

やっていたら……と思いましたが。

今は病院も変わり二年目になります。新

私は透析五年目になります。八年前に腎臓が悪いと診断されて、三年間安静と食事の管理をやって来ましたが、まだ小さい三才の娘がおりましたので、寝てる事も出来ませんでした。三六才になるころ、胸が苦しく呼吸が出来なくなり、すぐに透析に入りました。そのころは、私の体が、とても、だるく家事は1/3しかできず、家族もまだ理解してくれていませんでした。本当に大変な毎日が続きました。それでも年数がたてば少しずつ良い方向に行くと思っていた時、シャントが使えなくなり三日間続けて手術をし、やっと使えるシャントができて良かったと思つてます。今は前よりは体調も良く、体重も減り、外出もできる様になり、高二の長女、小五の次女と、買い物に出る事が楽しみです。透析前は小学校の行事には全然出席できなくて、長女にはかわいそうな思いをさせてしまいました。家にいる母親が、ずーと布団の中にいるという事は、小さい子供にとってどれだけさびしかった事でしょう。もっと早くに透析を



## 生きる活力

桑園中央病院

高橋春好

糖尿病と診断された時点で、何年か先には『人工透析』を受ける日が来ると覚悟をしていたつもりでした。

その日の訪れたのは非常に早く、人工透析の準備（シャント）も出来ず、意識もよろうとした状態で、病院のベット上に横たわって、気付いた時は、首すじに二本の太い管が付いておりました。ベットのそばには、家族（妻と息子と娘）三人が心配そうに私を見守っており、開口一番、息子が「親父大丈夫だ！俺が親父の治療方法も投薬方法も全て納得したから、主治医の言う

しいクリニックには、沢山の患者さんがおられます。やさしい先生や、スタッフに、お世話になり週三回、一回四時間一〇分の透析をやっております。子供達のためにも生き出来る様、食事や水分の管理をやって行こうと思つてます。そしていつか、家族で旅行に行けたらいいなと思つております。

通り、治療に専念しろ!!（当時、息子は医大生）妻は朝・昼・晩と、息子と娘も毎日毎日、私の元へ通ってくれ、家族のありがたみが、胸を熱くし、毎日感謝感謝で、夜ベットの所で、目を潤ませておりました。だがその一方では、絶望感に打ちひしがれて、夢も希望も無い日々でした。幼い頃、腎臓病で入院し人工透析を見て、大変な病気と感じていました。そして四、五年で終わりと……。

息子が毎日、提供してくれる、病気に関する参考書……、始めは目を通す気持ちに

なれない日々でしたが、もてあます時間の中で、自然とむさぼり読んでおりました。いつの間にか、この病気に関する知識と心構えが、芽生え始めていたのです。この頃から、一生懸命私のために尽くしてくれる家族・主治医や医療スタッフの皆さんに、一度でいいから、元気な姿を見せたい!! 見せてやる!! そんな気持ちになった時から、主治医から言われた事、息子から工夫を教えられ頑張りましたが、なかなか思うように回復しない状況に随分イライラしておりましたが、入院した時の状態を思い出してごらん……今、こんなに良くなっているじゃないか……との息子の言葉にうなずき、又、随分元気になったネとの周りの人の言葉に小躍りし、いつの日か、病院生活が楽しく過ごせる様になっていました。

それからまもなく、外泊許可があり、家族で過ごしたその日は、一生忘れられない日でもあります。

退院した後も、なかなかもとの状態に戻れず大変でしたが、根気良くリハビリを続け、一ヶ月後に職場復帰も出来、仕事が出るまで自分が夢の様でした。この日を迎えるまで私を支えてくれ、「生きる活力」を与えてくれた、家族や主治医・医療スタッフの皆さんにはいくら感謝しても感謝しきれません。

職場への復帰、息子と娘の結婚、そして

孫の誕生と、自分の病気等忘れてしまう程の毎日、自分、孫の成長が私の「生きる活力」になりそうです……。

医療技術の進歩で、今では人工透析で、二〇年、三〇年も生きられ、普通の生活が



## 散歩

「透析を始めた方が良い」と言われた時の自分は全てが終ってしまったような気持ちで、ただ「ぼーっ」と何となく過ごしていました。

そんな時に私の友達であり相棒であり娘のような存在の犬に逢えたのです。犬ですからやっぱり散歩はつきもの……しかしあの頃の私は体力もなかったので、自分の体力増強も考え少しずつですが散歩を始め、今ではゆっくりとではありますが一時間位は歩けるようになりました。体力面だけでなく精神的にも前向きに意欲が出て来たのではないかと思えます。これからも、この犬の為に、そして自分の体のために続けていこうと考えているのです。

始めは乗り気でなかった散歩ですが、こ

出来る。

私も、先輩の皆さんに負けじと、この病気と仲良く付き合って、ガンバッテ生きたい!!

田島クリニック

寺田 正代

うして前より元気になる事が出来たと思うと、「犬に感謝♡」という感じですよ。



## 母への手紙

手稲ネフロクリニック

青海 寿美

育母が亡くなって七年の歳月が経ったが、今だに親離れ出来ずに想い出しては涙ぐんでしまう。明治四四年「狩太町」(現在ニセコ町)生れ、ずんぐりむっくりの男勝りの働き者で笑顔のたえない人だった。育母との縁は、昔二軒隣の家に住んでいて、育母には子供がいなく、私の生家は四人姉妹で、私は二番目でした。幼い頃は家庭が複雑で長女が母親代わりで父はいつも不在だった。

そんな時いつでも育母は私達の面倒を分け隔てなく良くみてくれた。そんな縁で私は育母と一緒に生活する様になっていた。小学校二年生の春だった(正確には育母が引越の時、私がちゃっかり勝手に付いて行ったのだ)。育父は母に自分の家には親戚の子を養子にすると聞いたのだが、母は断固として押切り、私を養女したのである。私の実父は、まだ私が子供なので六年生頃迄、籍を入れるのを待ってほしいと懇願し、六年生になってから私の意志に迷いが無い事を確認し入籍した。育母は実の親と

の縁が切れても姉妹の縁は大切にしないと言って、毎週土曜日には実家に泊まりに行かせてくれた。だから今だに姉妹の絆が強すぎて夫達はあきれている。私が結婚し育父が亡くなってからもずっと母とは一緒に生活し、一緒にいない時は旅行の時ぐらいいだった。子供が生まれ、母に見てもらって私は働きに出た。

生前、母の口癖は「スー(私)、何事もよくよ考えず前向きに明るく笑顔をたやさず生きて行きなさいよ」だった。又、母は「綾(孫)が嫁に行く迄絶対生きて死にはしない」って言うもんだから私はへらへら口をきいて「じゃあ、ばあちゃん一生死ねないよ。綾はもらい手がなくて嫁に行けないかもしれない」と言っていたが待たずに逝ってしまった。母は病院嫌いで医者泣かせで、体調を崩して入院しても迎えに来いと、言って困らせた。先生がだめだと言うと、「このヤブ医者、今度具合悪くなったら病院に来ないで、あの世にまっすぐ行くから!」と言って退院して来たのが八七歳だった。

た。ばあちゃんごめんね。ばあちゃん亡き後、頑張って生きてきたんだけど、とうとう透析になってしまった。ばあちゃんが生きていこうちにならなくて良かったと思ってる。きっと心配掛けたに違いないからね。今はお姉ちゃん、夫美恵に送り迎えしてもらってるよ。今年三月、お父さんが退職したから時々送ってもらってる。綾は嫁に行かず相変わらず家から仕事に通っている。ばあちゃんの教え通り明るく楽しく暮らして行くからね。これからも見守ってね。いつでもどこでも私の心の中には、ばあちゃんがいるからね。



## 回顧…そしてこれから

ていね泌尿器科

### 二階堂 修

私事ですが、平成二年七月一七日身体障害者手帳の交付を受けてから一四年が経過しました。その間、大小一〇回の手術C A P Dの導入と終了（八年間）・シャント手術が五回（三回は失敗）・腹膜炎から腹膜炎硬化症になり開腹手術・先日は右下肢動脈閉塞でバイパス手術そして、七月末には副甲状腺の除去手術が待っています。傷だらけの人生ならぬ傷だらけの身体です。

今思えば、透析生活に入った平成二年の春は四年前から教員仲間が始めたサッカーの自主トレで土手を走っていました。確かに高血圧の診断は受けていたものの、当時は中学校の教員として使命感に燃え（今ないわけではありませんが）『荒れる中学』に、自分がいなくてはどういう気持ちで、どんなに風邪で高熱が続こうと、降圧剤を服用しても下がらない血圧で、生徒達と格闘していました。三泊四日の修学旅行では一睡もできず、身体を酷使しました。結果的には入院と同時に慢性腎不全という病名が付けられました。



## 諸先輩に感謝して

中野医院

### 阿部輝昭

この病気で私が失ったもの、これから失うであろうものは少なくはありません。しかし、この病気のために得たものは、失ったもの以上に大きく大切なものです。きれ

平成四年慢性腎不全で、すぐにも透析を受ける必要があるとの告知を受けました。透析を受けることになった場合、職場は続けられるか、収入・生活は大丈夫か、余命は何年ぐらいか、浪人中の長男の教育費はどうすれば良いのか、不安が募るばかりでした。翌年から透析が始まりました。透析導入病院では重症患者が多く、入院患者さんらの話等から、自分の余命は五年位かと思っていました。しかし、当時、中野医院

い事を言うように恥ずかしいのですが、それは家族愛、親身に接してくれる医師や看護師さんとの出会い、自分が病気であるが故にわかる、相手を思いやる気持ちであったりと数え切れません。

確かに週三回の透析生活は時間的制約も多くあり、痛みや疲れも伴います。しかし、『一病息災』の言葉通り、今「いのち」ある事に感謝し、仕事や家庭生活にと、実り多い人生を送っていきたいと思っています。

では、現在の透析暦二〇年以上の方が何人もおられ、もしかしたら私もと、落ち込んでいた私の心に光が射しました。

幸い職場に恵まれ、所属部署の変更と収入の減額があったものの継続雇用していただき、その後一〇年間勤務し、去年、定年退職いたしました。これも院長先生やスタッフの皆さん、職場の皆さん、家族等多くの皆さんに支えられたお陰と感謝しています。

現在の透析に比べ効率は低く、高額な医療費を自己負担し心身ともに大変な時に、諸先輩たちが命賭けの活動を続けていたお陰で、私たちは医療費無料、障害者年金受給等々多くの恩恵を受けてきました。しかし、最近、診療報酬の引き下げ、検査回数減少、食事代の自己負担、一〇月からはマル障一割負担と立て続けに改正が行われ透析環境は悪化しています。札幌腎臓病患者友の会の組織強化を進め、活動を活発化し、改悪阻止に向け全員がそれぞれの立場で活動して行くようではありませんか。

透析開始時に浪人であった長男は獣医となり、七月に沖縄で結婚式を挙げ、私ども夫婦は沖縄旅行を楽しんできました。これも組織があったらばと感謝しています。



## 命の恩返しができたら

新井田医院

若月 雅裕

透析歴八年余りになりました。腎不全症状から解放された時は本当に命が救われたと思えました。息切れせずに歩けるようになり、国内旅行もしましたが、仕事を続けられたのが何よりでした。

つくづく医療の進歩と社会保障充実のお蔭なのだと思っています。

日本の憲法第二五条では、生存権と国の社会保障義務を定めています。重度の障害をもつ者にとっては命綱だと思えますので、この制度をますます充実させていって欲しいと思います。

ところが近頃はこれに逆行する動きが急です。健康保険に入っても医療費の三割が自己負担となり、道などの重度障害者への医療費助成も減額されようとしています。先人の命がけの努力の結果が後退させられようとしているのです。これでは近い将来「金の切れ目が生命の切れ目」にならないとも限りません。

なにか、私にもできることはないものかと考えていましたら、幹事の方から腎友会

加入案内のはいった会報が届けられてきました。会報では腎友会が医療費助成見直しに反対して署名活動や要請をしていると伝えています。この機会に加入して、少しでも役に立てたらと思いいこの四月に入会届を出しました。

憲法などに良いことが書かれていても実現していく国民の運動がなければ進みません。成果を後退させないことも同様です。私一人にはなんの力もありませんが、皆さんや関係者と一緒になることで、今ある命の恩返しができたらと思っています。



## 私の中のボーイスカウト活動

東苗穂病院

大関 裕美子

私がボーイスカウト札幌二六団の活動に参加するようになったのは、今から二〇年前、丁度透析を始めた年でした。両親とボーイスカウトの活動仲間は私をどう扱ったらいいか分からなくて、渡井先生（渡井医院の）に聞いたそうです。返事は「透析患者になったらほとんど外に出ていった方が良い」でした。私の透析歴は血液透析、次は腹膜透析、今は血液透析に戻って一年が過ぎました。透析方法によって、二泊三日のキャンプは一泊だけの時もあつたし、現地で腹膜透析をしながらの参加もありました。（その時は栄養ドリンク付き）

スカウト活動も最初は「カブ隊（小二年〜五年）の副長をしていました。七年ほど前からビーバー隊（幼年長〜小二年）の隊長をしています。月に二・三回の集会ですが、『今日は面白くするぞ！』との気合を込めて、子供たちが来たら、「よく来たね、元気ですか？」と声を掛けます。子供たちには、「いつも元気！」と返事をさせます。これは二六団の挨拶ですが、「身体は元気で

なくても、心はいつも元気でいられる！」という事です。

毎年クリスマス会で、ビーバー隊は手品をするのが通例です。それを得意げに演じ



## 自分らしく生きる

星野泌尿器科

石栗 久美子

「笑う門には福来たる」――。

私の好きな言葉のひとつです。以前誰かがこんな事を言っていた。「笑顔でいると幸福の神様が降りて来て、いつしか優しい気持ちになってくるのよ。」って。

社会人として働く様になってから、ずっとアパレルの仕事でスタイリストを経てショップの販売へと、とにかく人と接する事が常で、笑顔は必須の条件なのである。必然的に裏と表の顔を覚える様にもなったけ

る子供もいれば、その事だけで頭がいっぱいになり、練習で泣き出す子供もいます。私は、そんな子ほどいとおしく思います。その壁を越えた時、その子は素晴らしい体験をしたと信じているからです。

最後にボーイスカウトの創始者、ベーデン・パウエル（英国人）氏は「死ぬ前から死ぬのなら、後悔しないで幸せに死ぬ事が出来るでしょう」と、子供たちにメッセージを残したそうです。

れどそれはある意味、時としてプラスの方向にも作用してくれる。落ち込んでどうしようもない時、無理にでも笑ってみると、自然に楽な気持ちになってくるものです。だから私の中では、「取り敢えず笑顔」これはまるで呪文の様に唱えられている。

高校生の頃から透析を受けている私にとっては未来を自ら開いていく自信なんてまるでなかった。私が私である為には何をどうすればいいのか…。答えはみつからな

った。いくら考えても。そんな時、取り敢えず笑ってみた。鏡を見て作り笑いをしている自分がそこにいた。多分開き直りの精神……。

三〇年を経て今こうして原稿を書いている自分がここにいられる事に感謝しよう。自分の人生に於て後悔の涙は流したくはない。何事にも。それなりに、素敵な人生だったわって人生最期の時に微笑んで言っていたいものである。しかし、反面怖くて不安でたまらなくなる事も事実なのだ。だからこそこの言葉「笑う門には福来たる。」仕事を離れるとつい無表情になってしまいがちな私にとって笑顔は必須のアイテムだから。



## 腎友会の発展を願う

北光記念病院

山田 忠彦

透析六年目です。北見で三八年間務めた高校の教員を定年退職し、同時に透析に入り三年前札幌に転居して来ました。退職の二年半前頃、咳が止まらず通院していましたが血液検査でクレアチニンの値が検査の度に次第に高くなり、慢性腎不全の疑いがあり、やがては透析をすることになると告げられました。クレアチニンのグラフから推定すると透析に入るのは定年退職の頃だということでした。正確を期すため勤医協

中央病院を紹介され腎生検を受けました。採取された数個の糸球体のほとんどが壊滅状態で Ig A 腎症（慢性糸球体腎炎）であることが確定しました。

当時私は理科の教師でしたが、専門は物理で生物の知識はあまり無く腎臓の働きは「体内の代謝で生じた老廃物を抽出して尿をつくる」といった程度でした。腎臓や透析について知る必要性を痛感し、さっそく「透析生活ハンドブック」等数冊の本を購入し読んでみました。腎臓の機能の複雑さ、豊かさと同時にその重要性に驚か

されました。透析に入る前に勉強していたことが精神的にスムーズに透析に入れたように思います。

ところで透析に健康保険が適用され、また各種助成制度が実現されたのは全腎協や各地の腎友会に結集した先輩透析者の血のにじむ運動の賜物です。国や地方では財政難を理由にこれ等を大幅に後退させようとしています。むだな大型公共事業を止め税金の使い方を福祉本位に転換できれば財源はつくれます。患者自身の生活と命は患者自身の運動の発展でしか実現できません。三〇周年を節目に組織を大きく発展させようではありませんか。

## 私と腎友会の三〇周年

札幌南一条病院

高田裕子

私の透析歴は一六年、腎臓病歴三二年、札幌腎友会の結成と同じ頃を歩んで来ました。

私が慢性腎炎とわかったのは昭和四七年。それより二、三年前に近くの診療所で診てもらった時、血圧が非常に高く腎臓も少し悪い。若い人の高血圧は色々な原因からの場合があるので時間のある時に大きな病院で検査を受けると良いと言われていました。その当時の私は腎臓の病名くらいで、透析の事はほとんど知りませんでした。四七年の検査入院で慢性腎炎、腎性高血圧とわかり、それでも腎臓病の大変な事は気にもせず、腎臓高血圧専門外来に時々通っていました。

当時、患者が腎炎に患ると「青く成るのは医師の方で、患者は平気でいると言う病気なんだヨ」と治療法のない病気と言われました。だから管理が大切と言うのは今も同じですネ。

私が透析に入った頃に先輩の皆さんからよく聞いた話。透析機の絶対数がたりな

った頃の話。ベッドが一つあき、今すぐ透析が必要な患者が二人いて、どちらを選ぶかで選ばれた人は三〇代。選ばれなかった

## 札幌腎友会の歴史は私の栄養士人生

宮の森記念病院 栄養士

平泉幸子

札幌腎友会の結成が昭和四九年七月と知り深い感銘を覚えました。といえますのは宮の森脳神経外科病院（現 宮の森記念病院）が、昭和四八年八月に開院し、私は新米栄養士として入職しました。透析機器四台が賅しく、後藤壮一郎院長に脳外科での人工透析療法の必要性をご指導頂き初めての食事はおそろおそろ提供しました。

それにしても透析食とは難しい、水分・塩分・リン・カリウムを抑え、熱量、たんぱく質を十分に満たし且つ三回／週の患者

のは五〇代の方。お金がないため妹の死を目の前で見ていたのかなかった姉の話。悲しい沢山の話を聞きました。私が透析に入った一六年前は、医療費は保険で、機器も良くなり、会の（会長、役員、幹事）の皆様のおかげと感謝していました。しかし、秋には一部有料に成るとか、又、難かしい時代になるのではと…。一人三〇周年に向け自分の腎臓病歴と腎友会三〇年の昔を思い出してチョット考えました。

様が満足する食事とは？悩みました。その結果、一食の提供量は一日の指示栄養量の一／三量とし食と生活の一体化を図り、規制された食事の概念を少しでも打破したくセレクトメニューを導入し現在に至っております。

また食事療法とその必要性をいかに理解していただくのが最大の課題でした。好きなものを好きなだけ食べ、後はどうなってもよいという患者様に、食事摂取量と体重の増・栄養状態・電解質などをグラフ化し

たデータを示しての話合いで、グラフ用紙との格闘の日々もありました。そして塩味が薄い、味が無い、栄養士食べてみるの御指摘は献立に塩分量のみではなく塩分濃度の重要性を示唆していただきました。

腎臓病食のガイドラインができたのも古くない話です。よって各施設の食事状況がかなり異なり、患者さんが宮の森で天ぷらそばを食べておいしかったと話している、透析食にそばを出すとは何事ぞと大病院の婦長さんからお叱りを頂き、米もそばも栄養基準内で提供しているので体内での燃焼成分は変わらないと説明しても解っていただけなかったこと。脳外科領域の合併症で地方より入院の患者様は、スパゲティや野菜は今までの病院では一度もでないと言をつけなかった事など。尽きない思い出がたくさんですが、医療工学が発達し透析療法がめざましいほどに進歩した今では笑い話ですね。でも私は栄養士として皆様に多くを学ばせて頂き育てていただきましたことに心より深謝いたしております。当院も現在は透析機器も三〇台と多くの患者様との出会いがありとても幸せに思います。

継続は力なり札幌腎友会の益々の発展をお祈り申し上げます。



## 振り返って

渡井医院

山田悦子

私は透析生活二五年を迎えます。

振り返ってみますと色々な事が思い出されます。導入期当時は毎日の様に泣いて過ごしました。この先の不安と自分自身にまるで自信が無くなり、只々週三回の透析を受けるのが精一杯で、その上厳しい食事制限で三食の食事の仕度で一日が終る日々でした。当時は栄養指導がとても厳しく身に付くまでは何度も指導を受けさせられテスト

ト等も有りました。

これからも自己管理は大切です。年々医療の方は進歩して来ておりますが、一方では一部自己負担の問題が出て来ています。この先どう変わっていくのか不安な想いです。私はこれからも自己管理を徹底して、周囲の人達に支えられてきた事への感謝の気持ちを忘れずに、この病気と上手に付き合っていきたいと思う昨今です。



## 私が透析を始めるまで

石狩病院

佐藤義信

私は間もなく八〇才になる。毎朝、新聞のお悔やみ欄に目が行く。紙面を気にする年令になったと言う事か。

透析歴は一年九ヶ月。何一〇年も治療している方に比べれば発症は遅い方の様だ。

病状の始まりは九年前に腎臓に癌ありと診断され摘出手術をした。その時担当医から「残った方は機能が低下しているので将来透析をする事になるよ」と告げられた。その時回りの友人に片方を摘出している方が

いて「あまり気にならない」と聞かされていたので、透析についてあまり切実には考えなかったし、透析の知識もなかった。

私は若い頃から血圧が高く薬を服用していた。私は五〇才後半まで病気をした事がなかったが、急性肺炎で一ヶ月余入院、原因不詳。六〇才前半で脳出血三日間入院（言語障害。右手麻痺）したが退院（毛細管破裂）翌日出社、皆さんビックリされた。この様な中で主治医から腎臓の専門医に診て貰ってほしいとの事で診て貰った。即入院精密検査で透析の必要を言われた。

私は本等で透析について勉強した。ここで透析が如何に大変かを知った。私は主治医に先延し出来ないか懇願した。主治医から「私は二ヶ月不在となる、この間に判断してほしい」と宣告され一時退院した。医師の帰院を待ち検査を受けた。当日の夕方電話あり、直ちに入院してほしいとの連絡を受けた。「このまゝでは心臓発作を起こす可能性が高い」との事だった。もう観念せざるを得ず透析に入った。

最近体調も良くなって来た。町内会の趣味の仲間からの誘いもあり、町内会のお手伝をし乍ら一生続く透析ではあるが、趣味を通じて楽しい人生を送りたいものだと思っている。

# 30周年記念座談会

## 札幌腎友会の活動について



### ◎出席者

鈴木 啓三 (札幌北クリニック)

透析開始 一九七〇(昭和四五)年

透析歴 三四年

菅木 芳三 (もなみクリニック)

透析開始 一九九三(平成五)年

透析歴 一二年

下川 勉 (北光記念病院)

透析開始 一九九六(平成八)年

透析歴 八年

福原真理子 (中野医院)

透析開始 一九七三(昭和四八)年

透析歴 三二年

三上留美子 (札幌南一条病院)

透析開始 一九八六(昭和六一)年

透析歴 一八年

吉田季代乃 (星野泌尿器科)

透析開始 一九八九(平成元)年

透析歴 一五年

### 《司会》

堀井 和彦 (光星泌尿器科医院)

透析開始 一九七八(昭和五三)年

透析歴 二六年

### 《記録》

柳沼 正一 (手稲ネフロクリニック)

庄野 一男 (H・N・メディックさつぼろ東)

石井 典子 (光星泌尿器科医院)

佐藤 功 (光星泌尿器科医院)

平成一六年六月三日(日)ホテル札幌会館に於て、札幌腎友会結成当時を振り返りながら、自らのかわりも含め、現在の会活動、そして、明日への展望をこめて、札幌腎友会結成三〇周年記念座談会を開催しました。

### 結成当時

**司会者** 本日は札幌腎友会の三〇周年記念事業の一環としての座談会ということで、皆様お忙しいところをお集まりいただきました。

最初に結成当時のことから伺いたいと思います。その当時医療費を自己負担されて大変苦勞なされたという鈴木さんからそのあたりの状況と、会結成に至る経緯をお話していただきたいと思います。

**鈴木** 昭和四二年一二月から透析医療に健康保険が適用になりましたが、社会保険の



**鈴木 啓三 氏**  
家族は五割、国民健康保険は、本人も三割の医療費自

己負担があり、月に一〇から三〇万円くらいになりました。自己負担のある方はほとんど生活保護や医療保護を受けて透析に入

りましたので、自己負担をしている方は少数でした。しかし、農家や自営業の方は土地や店などの財産があるので、医療保護や生活保護を受けることはなかなか難しく、財産を無くすと家族の生活が出来なくなるので、透析をあきらめざるをえない方も全国にはたくさんいました。

そのような状況の中、各都府県の透析施設に患者会が出来ていて、それが集まって昭和四六年六月に全腎協(現・社)全国腎臓病協議会)を結成しました。そして、透析医療費を払えないので透析をあきらめている方たちを助けてほしいと、全腎協を中心に厚生省や大蔵省に要請行動をしたり、昭和四六年に第一回の国会請願をして採択され、次の年の昭和四七年一〇月から身体障害者福祉法の内部障害に腎臓病が認定され、更生医療を受けることで所得に応じての費用徴収だけになりました。さらに、昭和四八年一〇月から北海道ではマル障制度が施行されて、医療費の自己負担はほとんど無くなりました。

札幌腎友会が結成された昭和四九年七月には、札幌市内に透析施設が一〇数施設あり、各施設に患者会が出来てきて、他の施設の患者会との交流の中で、自分の施設は本当に良い透析をしてきているのかどうかなどという情報を知りたがっていた時代で、札幌腎友会を結成して、毎月幹事会を

開き情報交換をしていました。その頃ずいぶん施設間格差があった時代ですから、その格差を埋めるためにも情報交換をするのが第一の目的だったと聞いています。

しかし、その頃、大阪だったと思います。透析施設がありまして、先生方から患者会で情報交換をして、圧力団体的な活動をするのは問題があると言われて、役員になる方がいない状況になりました。昭和五一年四月に再出発という形で、札幌北クリニックスの細川さんや留目さんが中心になって、国や各地方自治体に要望することはしても、各透析施設に要望することはしないとこの基本姿勢で、札幌腎友会を再生させたといういきさつがありました。

**司会者** 福原さんは昭和四八年から透析しているということで、その頃のことでは何か印象に残ったものはありますか。

**福原** 昭和四九年七月に札幌腎友会が結成



**福原真理子 さん**  
されたという事です、私は四九年五月初めまで北辰病院

(現・札幌社会保険総合病院)に入院してました。その時に、今は仁徳会病院で透

析をしている阿部隆さんが一緒に入院して、よくお話ししていたのが、これからは札幌でも患者会を作らなければだめだということ、阿部さんが中心になって一生懸命に色々な透析施設に声をかけて、最初の札幌腎友会ができたと記憶しています。それで、私はまだ退院したばかりであまり活動できなかったのですが、阿部さんの関係で会を手伝って、その時から何か考えるようになったとは思いません。

その後、昭和五十一年にさつき鈴木会長がおっしゃったように、圧力団体的な活動も多かったのですが、各施設の先生方の協力が得られなかったということだと思いますが、役員をやる方がいなくなったのです。

### 休止から再建へ

**司会者** 今、会活動が休止になったという話が出ましたが、実は昭和五五年位から五年の間にまた休止した経緯があるのです。が、どういう事情でそうなったのか、鈴木さん説明してくれますか。

**鈴木** 昭和五五年一月から五七年三月までなのですが、その頃道腎協（北海道腎臓病患者連絡協議会）の事務局長をしていた留目英雄さんが脳溢血で急逝されて、道腎協の事務局をやる人がいなくなり、札幌腎友会の会長だった阿部隆さんが、道腎協の事務局長も兼任することになって、札幌腎

友会まで手が回らず、一年数ヶ月間会費も集めることができないような状態が続きました。札幌腎友会の活動ができないということは、道腎協としても大変な問題だったので、道腎協の協力を得て、札幌のことは札幌で何とかしようということで、昭和五七年四月に札幌市内の透析施設の患者さんに声をかけ、皆様に集まっていたとき相談した結果、私が会長を、村本徳雄さんが事務局長で再建しようと、昭和五七年五月から活動を始めることになりました。

**司会者** 一度休止したものを再建するというのは、色々な苦労があったと思いますが、そういう点はどうでしたか。

**鈴木** それは、先ほど出てきました留目英雄さんが一生懸命やってくれていたおかげで、その時の役員さんにたくさん集まっていた。昭和五五年に休止状態になった時と同じくらいで、約三〇〇人の会員が集まりました。留目英雄さんが亡くなってから一年半です。それから、影響がまだあったので、再建でなく、ちょっと休んでいたという感じ。あまり苦労せずにできたと思います。しかし、村本事務局長は大変な苦労だったと思います。

### 各施設での活動

**司会者** この三〇周年を迎えるまでには、

鈴木さんもおっしゃったように色々な経緯があつて札幌腎友会として活動しているわけですが、平成二年にエリスロポエチンが使用できるまでは、ヘマトクリット値が二〇以下で厳しい腎性貧血状態の中で、透析をしながら会活動もされていたわけですが、主に皆様の施設でどのような会活動がされて、会員さんを増やしたり、会員さんとの結束を高めたことがあれば、発言していただきたいと思っています。



**吉田 季代乃 さん** が、去年までずっと同じ施設で透析していました。北

辰病院で透析を導入して、その先生が開業されたのでそこに転院しました。最初は患者さんがこういう会があるということを知らなくて、最新の医療情報などをほしがっていたのです。そこで、その頃札幌腎友会の事務局長をしていた棧さんや鈴木会長さんなどに色々教えていただいて、私と井下和子さんと二人で患者会を作って、その施設で一三年位ずっと幹事をやっていました。それで、「機関紙などを見せてこういう会があります」と言ったら皆さんけっこう入会し

てくださいました。その後、ずっと同じ施設にいたので、みんな私が幹事だということを知っていて、新しい患者さんが来たときに声をかけてくれて、やりやすかったです。平成一五年の九月に新しく開設された施設に移りました。そこは出来たばかりの施設なので患者同士顔も知らないし、新しく導入された方も多い施設なのですが、昔と違って今の透析は、体もあまりきつくない状態で導入していることもあり、医療費もかからず年金ももらえるというところで、患者さんは危機感をあまり持っていないように、こういう会があって、機関紙などを発行していることを説明して、入会してくださいとお願いしても、なかなか関心を示してもらえないことが多く、今は患者会の勧誘活動は難しくなってきたように感じています。



三上留美子さん  
院で自分から、自  
分がまだ  
会のこと  
が良く分  
からない  
うちに入

会して、私は恵まれていたと思います。今の病院に転院した時も、患者会が出来上がったところで、幹事さんもすごく積

極的で、その方が役員になってから、七〇%以上の入会率になったところに転院していったので、私が活動をしなくても来年の幹事は私がしますと言う方までいるので、あまり苦勞はありません。



菅木 芳三氏  
した時に  
幹事をさ  
れていた  
人が、こ  
ういうも  
のがある  
から勉強

したらどうだと、「どうじん」や「生きる仲間」を見せてくれたのです。それを見ながら、こういう会もあるのだなと思、私も入らせてくださいと言って入会したのですがそれから間もないうちにその幹事さんが、定年になって他の施設に転院することになり、腎友会のことを何も知らないうちに、菅木さんが一番若いのだからと言われ、幹事になりました。

その時に、幹事会などに出てきて一番感じたのは、執行部の人たちは皆さんそれぞれ顔なじみの人だから、親しそうに話合っていました。私はなかなかその中には入りにくかったです。私が会議に出るようになったきっかけとして、その頃の私

は、透析を導入して間もない頃ですから月・水・金曜日の透析には、仕事の途中でどうしても行かなければいけないということ、どうしようかと非常に悩んでいた時だったので。何かの用事で事務局に行った時に、先日亡くなられた村本さんと私だけになって、そういうことを相談したので。そうしたら村本さんは「菅木さんそれは贅沢な悩みだよ、民間会社で働いている人は、透析になったら働きたくても、もう辞めてくれと言われて職を続けることが出来なくなり、収入がなくなってきた家庭での立場もかわってくる人もいるのだよ。あなたは公務員だから、その点ではまだ恵まれているので、非常に贅沢な悩みだと思っよ。」と言われたのです。それからもう少し自分で透析と仕事の両立を勉強しようと思、いました。

会活動は、ただ機関紙を配って、会費を集めればいいのかと思っていました。やはり患者同士のちょっとしたつながりやアドバイスなどをしてあげて、透析とともに生きていこうというような考え方で、腎友会の活動が、できるのだと思、ました。それがきっかけで、それからはちよく事務局のクイーンズにも顔を出すようになりましたが、それが私の会活動の原点ですね。

下川 私はまだ透析導入から八年なので

が、最初の施設に四年ほどいてから、今の



下川 勉 氏  
施設に転院してすぐ、看護師さんから幹事になってください

と言われて幹事になりました。それから三年くらいは、会費を集めて機関紙などを配ってあればいいのだと思っていましたが、二年前からは医療費の切り下げや透析中の食事代の自己負担などの問題が出てきたり、昨年度は道議会への請願などもありましたので、これではいけないと反省をしました。

現在、腎友会の目標の中でも最大の目標は会員の拡大だと思えます。今までは会が出来た頃のことでも良くわからないので、ただのんびりとしていましたが、今年度は私なりに努力しています。私は全腎協の全国大会に何度も出ていますので、そういう話を朝一番先に病院に行くと、患者の皆さんに話したり、一番先に透析を終わらせてもらって、皆が透析を終わってからそういう話をし、入会を呼び掛けたら一〇人以上の入会者がありましたので、これからも努力していきたいと思っています。

司会者 鈴木さんの透析している施設で



堀井 和彦 氏  
は、病院の患者会もありますが札幌腎友会との関係はどうですか。

鈴木 私の施設では、病院の患者会もありますが、役員も別々ですし会員の勧誘のしかたも違います。

私は出来るだけ、私の施設の患者さんと会話するようにして、透析でない日も病院に顔を出すようにしています。そして見慣れない患者さんがいれば、旅行者か転院してきた患者さんかを確かめ、転院してきた患者さんであれば、札幌腎友会のおりなどを使って、「全腎協が昭和四六年に結成以来毎年続けている国会請願などの政治的な活動により、現在の恵まれた医療・福祉制度が維持されていることなどを説明し、入会していただくと全腎協・道腎協にも入会することになり、様々な情報が書かれた機関紙などが配られます。」などと入会の勧誘をします。

また、病院の患者会では、「主に親睦活動が目的で、バス旅行や忘年会、病院の先生による研修会など、患者同士が仲良く出来るような親睦を中心にした会です。」などと

入会を勧めて、病院の患者会と札幌腎友会は、別々の会という形でやっています。  
司会者 札幌腎友会としての活動について、皆様からご発言いただきましたが、各施設での会員を増やすための活動とか、それぞれ親睦や交流会もされているとか、患者会の情報を伝えることなどで、会員になっていただくというような話がありました。

私が札幌腎友会に入るきっかけになったのは、札幌腎友会が昭和五七年に再始動した時に、親睦交流会のソフトボール大会が美香保球場で開かれまして、見に行っただけが大変びっくりしました。なぜびっくりしたかというと、自分はその当時へマトクリット値一五か一六くらいで、何とか仕事をしていたという状態でしたが、患者の皆さんが元気に走ったり投げたりと、ソフトボールをされていたので、透析の患者さんもここまで元気になれるのだということ、大変勇気付けられ、医療費が無料の現在の恩恵を守るためにも、自分も微力ながら腎友会に入って、何かお手伝いできればということに入会しました。

私は、親睦交流活動をきっかけに入会したものですから、そういうのも大事なかなと思います。

## 会員の拡大

**司会者** 次に、会員の拡大と組織の強化について、お願いします。

**福原** うちの施設では昭和五七年の腎友会の再建のときに、患者全員に意思を確認しました。それがずっと今まで続いていて、新しく入ってこられる方にも必ず声をかけて、ほとんど入会していただいているので、今でも入会率が高いのですが、今、時代として透析が良くなってきて体調も良く、医療費の面でも恵まれていて、生活も安定してくると、一人ひとりが考えや、体の状態も様々ですので、その個人個人の疑問などを解決しながら、今までの歴史を踏まえたうえで活動していくことが大切だと思います。それから、私も一〇月から見直される北海道の医療費助成制度の医療費一割負担の対象です。それで、市役所に請願に行く時に、透析患者が医療費の負担をなるべく少なくしていただきたいということを、はっきりと言うためにも会員の拡大は、とても大切なことだと思います。

今、透析患者が多くなっている中で腎友会に無関心な方がかなり多くなっているという状況もあると思いますが、先ほど下川さんがおっしゃったように、やっぱり、ために意識して声をかけていると、それが連鎖反応で患者さん一人に声をかけたら、そ

の患者さんが他の患者さんに声をかけてくれるような形を基本にして、腎友会全体としての取り組みにしていけたらいいのかなと思っています。

**吉田** 私が最初に会に入ってみようと思っただきっかけは、医療情報などが書いてある機関紙を読みたくて入りましたが、最近透析導入する人はインターネットなどを使って、情報が簡単に手に入るし、医療・福祉制度が確立されていて、医療費もかからないで透析できるので、患者会活動に無関心な方が多くなったと思いますが、マル障制度に三年前から所得制限が導入されて、今年の一〇月からは住民税課税世帯には、医療費の一割自己負担が導入されようとしている中で、札幌腎友会として、道や国に様々な患者の思いを訴えるときにも、組織率があまりに低いと説得力がないと思うので、組織率をあげていかなければいけないと思います。そのために各施設の幹事さんが、一人ひとりに丁寧に声をかけて地道な活動をしていくのが、一番の基本ではないかと思っています。自分自身も施設でそういう活動をしていきたいと思っていますが、最初から聞く気のない方にも振り向いてもらえるような、活動をしていきたいと思っています。

**三上** 私の通っている病院では、老人の方が多くて、ヘルパーさんが送ってきて、へ

ルパーさんが迎えに来るという状態で、その患者さんに直接入会してくださいとお願いしても、家族に聞かなければ分からないと言われたり。国会請願署名を会員さんでない人にお願ひしたら、これも家族に聞かないとだめで、何かわけのわからないものをもたらしてくると家族に怒られるからと断られたりします。

ヘルパーさんは患者さんを連れてきて連れて帰るのが仕事ですから話になりません。介護が必要な車椅子の方が増えていて、会員さんでない方の大半はそういうお年寄りの方です。だから、この札幌腎友会という組織を家族の方に知らせるためにも、機関紙のPR版などで一年に一回でも良いので、国会請願の署名活動などもしている会で、いかがわしい会が無いということとを家族の方に理解してもらうことが大切だと思います。

**鈴木** 札幌腎友会では、しおりを作った未加入患者さんに配って入会を呼びかけたりしています。実際にそういうものを読んでくれない方が多いのだと思います。

二・三年前に札幌腎友会で組織強化検討委員会を作ったときに、患者会に対するアンケートをとったときに、患者会は何をしているのか分からないとか、患者会があるの分かっていても入会する方法が分からない。などの回答が多数ありました。パンフレッ



トの内容が良く伝わっていないのだと思いますので、よく読んでもらえるような努力をしなければいけないと思います。

例えば、札幌腎友会では平成一六年三月に発行された道腎協の「どうじんPR版」に、札幌独自に今年一〇月からマル障制度が変わります。というチラシを挟んで配りました。その結果、個人の患者さん十数人くらいから、ぜひ患者会に入りたいという申し込みがありました。札幌市内には四人以上の透析患者さんがいますから、それから見たら数的には少ないのですが、札幌腎友会や道腎協、あるいは全腎協が作ったパンフレットを読んでいただければ、かなりの確率で入会していただけるのではないかと思います。

**下川** 札幌腎友会の目的としては、全道の地域腎友会との連携や、行政への陳情などと様々な公の情報を得てもらおうということだと思います。そのためにはやはり、会員の拡大なのです。しかし、実際に会員拡大するのは幹事なのです。そのことは誰でも知っています。そこで幹事は、どの様な手段で入会させるかということ、勉強した方がいいと思います。

幹事マニュアルもありますが、あれは非常にやさしい勧誘の仕方です。しかし、私ではできれば厳しいほうの勧誘をします。「あなたは今、年間約五百万円の医療費がかかっています。いくら国の制度といえどもそれだけのお金を使っているのですよ。時には暴飲暴食しても長生きして社会貢献することが私たちの義務ではないのですか。」というような厳しい言葉を使って入会の勧誘をします。

そして、全腎協の全国大会に行ったときに、先生方も「医療改革なんていうのは、患者会が強くなかったらできません。患者が声を出さない限りは絶対に通りませんよ。」という言い方までされています。ですから加入率が五〇%以下だと、行政に要望や陳情をしても受け付けてはくれません。そういうことを入会の勧誘をするときに話します。それでも、あなたたちは何も感じないのですか。だから入会して会費の六千円位

は払っていないのではないのですかと。会話の中でそのような勧誘するのが、私たち施設幹事の役目だと思います。幹事は一年間にやるのがたくさんありますが。会員を増やして、患者会も事務局員専従体制からの力を持たなかったら、行政への陳情もできなくなるのではないかと思います。

**菅木** 私が今、通院している施設は設立二年目位なのですが、開設して間もない頃、鈴木会長と一緒に先生のところに行って挨拶をさせていただいた時に、患者はほとんど幹事になれそうな状態ではないので、医療相談員にお願いして、入院時のガイドランスの最後に患者会の案内をしてくださいと入会のしおりをおかせてもらいました。次に透析室に行って入会を勧めました。

現在は、個人的に入会している状態なので、月水金透析の会員さんの一人に取りまとめをお願いして、火木土透析の会員さんは私が取りまとめることにして、総体的には医療相談員の方が取りまとめていただくことにしまして、組織作りみたいなことをはじめています。

先程三上さんから発言があったのですが、透析患者の高齢化ということで、通院は車椅子で来る患者や、入院して介護してもらいながら透析している患者が本当に多いのです。私の通院している施設では、六〇歳未満の透析患者はいません。機関紙を

配っても、自分でその機関紙を見ることもできないし、自分自身の体の世話もできない患者が多くいます。そして、家族の方でも肉親の介護のことや病状のことなどの様々な情報を知りたいという方がいると思いますので、今後のことを考えると家族会のこともしは考えてみたらどうかと思います。

**司会者** 今、皆様から色々な意見が出ましたが。まず一番は、各施設の幹事さんも同じ透析患者さんなので大変だと思いが、各幹事さんの働きに会員獲得の比重がかかっているという印象を受けました。それから家族会の話が出ていますが、全国組織の全腎協の中でも、家族会を作ったらどうかという話が出てきています。できれば、全腎協の機関紙「ぜんじんきょう」の中にも家族会のページを作ってはどうかという話もあります。全国の各都道府県組織でも検討してみてくださいということですね。今後そういう形で患者さん本人とその家族に対して、機関紙に載せるなどの働きかけを、札幌腎友会でも、各施設の幹事さんも考えて活動しなければならぬということですね。

## 親睦交流活動

**司会者** 次に、親睦交流活動についてご意見を伺いたいと思います。

**鈴木** 現在、札幌腎友会には一、五〇〇人の会員がいて、全国的に見ても、各都府県腎協並みの会員数なのですが、各都府県腎協で親睦交流活動をやっているところは、ほとんどありません。だから、札幌腎友会も腎友会自体として親睦交流活動をやるには無理があると思うのです。それで、現在道腎協に青年部があるのですが、その支部を札幌でも作って、そこを主体に親睦交流活動できないかとか、施設ごとや二・三の施設ごとに親睦交流活動を実施して、その費用を札幌腎友会として助成するようにしたほうが良いのではないかと思います。

**下川** 親睦活動と言っても、私は町内会の役員をやっているものですから、日曜日はほとんどスケジュールがいっぱいなので。だから腎友会の親睦行事と町内会の行事が重なり、ほとんど腎友会の行事は出られないので、意見を言う立場ではないのですが。やはり親睦活動は青年部の事業として、位置づけるというような形にして、できるだけ役員に負担がかからないようにやるようにしたら良いと思います。ほかに、親睦行事をやる部門を別に作って、札幌腎友会の役員はかわらないようにしたほうが良いと思います。

**吉田** 現在道腎協の青年部は、部員が三十六名で、札幌の部員は八名なのですが、今までの青年部の活動は、青年部独自の勉強

会や交流会をやってきました。

私が青年部に初めて出会ったのは、東京にいた時の東腎協の青年部だったので、東京でも東腎協行事として親睦活動をやすることは不可能だったので、各病院の患者会で実施していたり、地域の腎友会でも実施していたのですが、そのほかに青年部主催でポウリング大会などを企画して、東腎協の会員であれば誰でも参加できるようにしていました。

現在、道腎協の青年部で交流会などを企画しても、参加してくれるのはいつも決まった人しかいないので、青年部主催で何かを企画して、会員であれば参加できるような親睦活動や、講演会、勉強会なども、青年部の中心になっている役員はやる気のある人が多いので、これからはそういう活動もやっていきたいと思っています。

**下川** 青年部が主催で、親睦活動や講演会を企画したので、会員の皆様はぜひ参加してください。ということでは役員も全員で協力して、後押しをしてあげないと青年部の活動もやりにくいでしょうから、遠慮なくそういう要望をしてくれたら良いと思います。

**吉田** 今年の青年部の活動方針として、「各地域で活動の見える青年部を」という目標をあげて、まずは各地域の腎友会の行事などに今まで参加していない人が多いので、



これからは積極的に参加するようになるということで、部員の意識改革をしていかなければならないと思っています。

**菅木** 親睦交流活動自体は、腎友会に必要な有意義な活動だと思っています。実際に今、それぞれの活動は事務局が中心になって、実行委員会を作って、実行委員に働いてもらうというところで実施していますが、実行委員にはたくさんの施設の幹事さんになってるので、名簿上実行委員になっていてもなかなか集まってもらえないことも多く、集まった幹事さんに負担がかかってしまいます。そこで、実施の方法を工夫し

て交流会そのものは続けていきたいと思っています。

ひとつの病院など小さな単位で親睦交流会をやると、全体でやるよりも患者さんは参加しやすいです。し月水金曜日に透析の患者さんと火木土曜日透析の患者さんは、ふだんまったく顔を合わせない人もいるので、その病院の中の患者同士の顔つなぎにもなると思いますし、やり方を工夫して実施していくという方向で検討してもらいたいと思います。

**三上** 親睦交流活動自体は、とても有意義な活動だと思います。まず他の病院の患者さんと話せる機会が持てるということが第一だと思います。他の施設の患者さんの話を聞くことで、もっと広い視点から自分のことや、周りのことを見るってことにつながると思うので、参加者が少なくても続けていってほしい活動です。

実施の方法も、菅木さんや吉田さんが言われたように青年部主体であっても、数施設が集まって主体になって担当していくのも良いのですが、札幌腎友会の一つの考え方として、そういう場を提供するという意図をしっかりと持っていたほうがいいとは私は思います。

### 健康保険制度及び福祉制度

**司会者** 次は、健康保険制度及び福祉制度

を守る運動なのですが。現在では高齢者医療以外は、ほとんどの健康保険の医療費自己負担が三割になっています。公にはありませんが、将来的には三〇年以上前のように、五割負担にまでしなければならぬという話を、国ではしているそうです。さらに、現在の介護保険は、利用者負担額一割なのですが、介護保険を利用される方が多くて赤字になり、負担額を一割から二割に上げたり、二〇歳以上から保険料を集めなければ、介護保険を続けることが出来なという話も出ています。

それくらい現在、国では社会保障制度に対して厳しい対応をとってきています。皆さんも、先程鈴木さんからお話がありましたように、自分で三割の透析医療費を払いなさいといわれても、すぐく大変なことだと思いません。

そこで、札幌腎友会として今後、この健康保険制度や福祉制度に対して、こういう活動をしたらというようなご意見を伺いたいと思います。

**下川** 福祉といえば、全て国からもらうことだけ考えて、現状維持してくださいという陳情をしたり、さらに手厚い福祉をしてくださいという陳情などが思い浮かぶと思います。医療費がかからないようにするには、病気になるということだと思います。



だから、特に私たちは腎臓病になった経験に基づいて、腎臓病にならないためのマニュアルを作り、世間にアピールするような運動ができれば、それが一番医療費がからない方法ではないかなと常々思っています。

**司会者** 今、透析導入される方の原因疾患が糸球体腎炎でなくて、糖尿病の方が一番多くいるので、全腎協主催で生活習慣病（糖尿病）を予防するシンポジウムを全国各地で開いています。北海道でも三年前に旭川で開きました。それを札幌腎友会でやるのも一つの方法ですが、札幌市では札幌市医師会館で毎週土曜日に、テーマをかえて講演をしているので、そういうお医者さん

方と患者会として何か出来ないか、という話し合いをしていくのも一つの方法だと思います。

**下川** 医師会主催の講習会は立派過ぎるのです。医療用語を使って説明されても全然分からないと思います。そういうのではなくて、患者の体験発表などの形で、患者会の活動も含めて聞いてもらえるのではないかと思います。今、そういう予防の面で患者会として、患者自身の経験を活かして出来ることがあると思います。

私たち透析患者が治療を続けるために、健康保険制度を存続させてほしいとか、福祉制度をできるだけ高い水準にしてほしいと、はっきり言うことは、必ず国民のためにもなることだと思います。病気になるたびにすぐらい安心して病院にかかれるようにしてください。という意見をちゃんと一言しなければだめだと思います。

現在、全国で約二三十万人が透析していますが、それは透析という療法で死ぬはずだった二三十万人が生きていて、元気に幸せに暮らしています。ということ医療費が一兆円かかっても、これはとてもすばらしいことだと思います。

透析をしている生き証人として、透析になった人は必ず健康保険制度や福祉制度が必要なので、こういう制度を存続させてくださいという意見を、行政にも一般の方に

も、それから無関心かもしれない患者さんにも、伝えていくことが大事だと思うのです。

## 腎キャンペーン

**司会者** 次に、腎キャンペーンについてですが、キャンペーンのやり方を、今までに何度も話し合ってきましたが、なかなか良い案が出てこないのですけど、キャンペーンのあり方について、皆様はどのようにお考えですか。

**三上** キャンペーンは継続しなければ効果がないと思います。臓器移植普及推進月間だけでも、一年に一回は臓器移植のことを一般市民の皆様にご考えてもらいたい。キャンペーンをやるのは良いと思いますが、やり方がマンネリだと良く言われますが、私はマンネリ化であっても、継続することが大切ではないかと思っています。

**鈴木** そうですね、腎キャンペーンは二三年前の昭和五六年に始めたのですが、その時は、透析や臓器移植のことを知らない人が多かったのです。でもキャンペーンを二三年間続けてきたことによって、透析患者が増えたことによるのかもしれないのですが、知らない方に透析していると「ああ、週三回も大変ですね」とか「一回に何時間かかるのですか」と声をかけられるくらい、透析が大変な治療法だというこ

とが、国民の中に理解されてきたようです。そして、腎臓バンクや臓器移植ネットワークなども、だんだんキャンペーンを通じてみなさん知ってくれるようになったと思います。さらに、脳死状態と植物状態の違いなども理解してくれる人がだんだん増えてきていると思います。

また、今年の道腎協総会の際に北海道移植者協議会の会長さんの話にもありましたが、夫婦間での腎移植も出来るようになり、これからどんどん腎移植が増えていくことを期待して、腎キャンペーンを続けていかなければいけないと思いますし、続けることで腎移植が増えていくのだと思います。

**下川** 先程お話ししましたように、町内会の行事と重なるので、役員になってから一度も参加したことがないので、大通りでキャンペーンをやって、その後のフォローはないのですか。例えば、キャンペーンのほかに、日常的に意思表示カードを配ったりすることはないのでか。

**鈴木** 幹事さんの中には、意思表示カードを職場に持って行って、皆に配って啓蒙している方もいますし、やはり意思表示カードを持っていただくことが一番大事なことです。また、個人的に色々やって下さる方もいます。また、郵便局の窓口や市役所や区役所の窓口などでも、意思表示カードを置

てくれています。

ただ、腎キャンペーンの一番大きな目的は、マスコミで報道していただくことなのです。そうするとたくさんの人が見てくれて、その中で透析の大変なことも知ってくれますし、臓器の提供者が足りないこともわかってくれます。ただ臓器を提供しようとする気持ちまでは、なかなかならないと思うので、身近な人が勧めてあげるのが一番だと思います。

二〇年位前に、透析患者の家族に腎バンク登録してもらおうという運動をしたことがあります。また、透析患者が腎臓を提供してもらおうのであれば、本人や家族が亡くなったときには、眼球の提供くらいはしましようということ、アイバンクへの登録運動をしたこともあります。なかなか続けることは出来ませんでした。それでもやはり続けてやるのが大事なことだと思います。

**下川** 老人クラブで全員に、アイバンクに登録してくださいと申込書を配っているところもあります。入るか入らないかは別として、アイバンクではそういう運動もしています。腎臓移植に対する一般市民の関心度は少ないですね。

**司会者** 関心度というか、実際に亡くなられた方からの献腎移植は、愛知県などに比べて北海道では非常に少ないですね。

**鈴木** 腎臓提供者を増やすためには、提供をすすめてくれる救急病院などのお医者さんの理解と協力が必要で、それが一番大切なことだと思います。

**菅木** これは私自身のことなのですが、私は腎移植の登録をしているのですが、今年の一月の末に、市立札幌病院の先生から「移植のドナーがあらわれました。」と連絡がありました。一人のドナーから二つの腎臓がとれるので、一番白血球の型が合っている方は市立札幌病院で無条件で腎移植されました。たまたま私は二番目に白血球の型が合っていました。優先順位に条件がありました。九州にすい臓と腎臓、両方が必要でかなり状態の悪い患者さんがおられて、すい臓と腎臓の状態が共に良ければ九州に回しますといわれました。

もしも、すい臓が移植できないような状態だったら私に移植されるということで、札幌北楡病院に入院しまして、点滴や輸血や免疫抑制剤のテストなどを受けて、腎臓が到着するのを待ただけの状態で待機していました。実際にはすい臓の状態も非常に良かったので、すい臓と腎臓は九州に送られ、すい臓同時移植して、それまで寝たきりだった人が、今では自分で歩いて通院されているそうです。そして、市立札幌病院で移植された方も、すっかり元気になったそうです。

透析患者が中心になって腎キャンペーンを実施することも大切だと思いますが、それ以外の臓器移植を含めた大きな意味のキャンペーンを、マスコミにとりあげられるような形で、他の団体とも連携しながら、道腎協・全腎協を含めて活動していければよいと思います。

**吉田** 道腎協の青年部が腎移植のことについて勉強会を開くということで、北海道移植者協議会の事務局長と話す機会があったのですが、移植者協議会でも、もっと道腎協・札幌腎友会と協同して勉強会やキャンペーンなどをやっていきたいとおっしゃっていたので、そういうところと協力すれば、もっと大きな力になって活動していけるのではないかと思います。一般の人に移植をわかっただけのためだけの講演会などが、これからは必要になっていくのではないかと思います。

### 国会請願署名募金運動

**司会者** 次に、国会請願署名募金運動についてです。今年も国会請願署名を実施しますが、そのほかにも臓器移植法改正の国会請願など、色々な署名があると思います。患者会活動の一番大事な原点だと思います。マンネリ化しているという意見もあります。皆さんはどのように考えていますか。

**鈴木** 最初に言いましたように、全腎協では、昭和四六年に第一次の国会請願署名募金運動を「透析患者を更生医療（身体障害者）にしてください。」（全国に人工腎臓を増設してください。）など請願項目で実施して採択され、昭和四七年一〇月から更生医療や育成医療により、それまでの透析患者の高額な医療費負担は無くなりました。

その後も、国会請願署名募金活動は毎年続けられ、昭和四九年からの小・中学校の検尿制度や、平成二年からの鉄道・航空運賃の身体障害者割引の対象になったりなど、たくさん成果をあげてきていることから、私たち患者会活動の原点と位置づけていて、一番力を入れて取り組むべきものだと思います。

特にこの数年はほとんど同じ請願項目の署名が続いていて、国会で採択された請願内容は内閣に送られています。実施するかしないかは予算のこともあり各省庁に任されている状況で、何の拘束力もないというのが実情だそうです。だから一度請願をして、それが国会で採択されても何も変わらずに、また去年とほとんど同じ請願を今年もしなければならぬ状態が続いています。

そこで、一般会員にしてみれば、何で毎年同じ項目の署名をしなければいけないのかが分からないので、マンネリ化している

のだと思います。だからまた頑張って、署名に協力してやろうという気持ちにならないのだと思います。

しかし昨年度、全腎協では過去最高の一〇万筆の署名が集まり、道腎協でも五万筆という署名が集まりましたので、会員さんも署名の重要性が分かっています、みんな一生懸命集めてくれていると思いますので、これからも国会請願署名募金活動を続けていかなければならないと思います。

**福原** 腎疾患総合対策の国会請願が採択されない、腎臓病関係の総合対策の予算が出ないから、その関係の細かい項目のお金も出せないということではないのですか。

**鈴木** 「国民から請願を受けた機関は、誠実にこれを処理しなければならない」と法律にはありますが、これは法改正や予算をつけるといったことを義務付けるものではないと、法律的には解釈されていて、完全に無視することは出来ない程度にしか考えられていないので、この頃は国の予算の関係などで、採択されても予算化もされないで、何もされないことが多いです。そして私たちの請願は否決されることもあり、昨年まで出されていた予算はそのまま出ることもあります。

**司会者** 全腎協の国会請願行動で議員に面会した人の話を聞くと、議員さんに「毎年請願を出さないと、もう全腎協では請願す

る項目がないと思われるよ。」と言われるそうです。だから毎年やる必要があるのだと思います。

**福原** 今後札幌腎友会では過去を捨てるのではなく、今までの良さも活かして、その上で患者さんの希望を失わないでやっていたための署名運動を続けなければならぬと思います。そのために札幌腎友会の役員さん自身もあきらめないで、よく勉強して知ることが大事だと思います。

### 資金造成事業

**司会者** 次に、事務局でも努力されているようですが、資金造成事業について話し合っていただけだと思います。

**下川** 資金造成事業を続けるのであれば、資金造成課を設置して、事務局とは別の形でやらなければならないと思います。現在の状態でも事務局に多くの負担がかかっているのに、資金造成事業課を作らなければ出来ないと思います。

また、札幌腎友会として年間六千円の会費の中で、事務局を構えてやっていけないし、会費を上げるわけにいかないから資金造成事業をするということなのですか。それとも、難病連の販売事業に協力しているだけなのですか。

**鈴木** 難病連の協力事業は、ピアガーデン

利用券販売だけで、札幌腎友会独自の取り組みは正月飾り販売だけで、両方で一五万円くらいの利益です。

**下川** それくらいの利益であれば、会員拡大に力を入れたほうが良いのではないですか。

**鈴木** 二年前から事務所を持って、事務所の経費も毎月五万円以上かかるし、事務所に手伝いに来てくれる人に、少しでも交通費やお弁当くらいは出してあげたいと思います。また今後、マル障の一割負担などで、逆に会員が減る可能性があり、こういう状況で会費を上げるわけにもいかないのであれば、資金造成事業をするより仕方ないのではないかと思います。

**下川** 考え方を変えれば、一〇〇円の寄付を千人から集めたら一〇万円になります。しかし、寄付をただくださいというのではなく、なんらかの方法を考えて寄付を貰うことを考えたほうがいいのではないかと思います。

また、他にも皆で色々なアイデアを出して、資金造成事業を考えていったほうが良いと思います。

**鈴木** 現在は、資金造成事業がなるべく幹事さんや患者さんの負担にはならないように、ピアガーデン利用券販売と正月飾り販売だけに取り組んでいます。そして、協力してくれるのは一部の人だけですので、い

まくりの資金造成事業は続けていきたいと思っています。

### 役員育成

**司会者** 次に、役員育成ですが。現在の役員がだんだん年を取ってきて、色々な合併症が出てきているので、後継役員を探していますが、なかなか役員になる人がいなくて大変なのですけど。いいアイデアがあればご意見を伺いたいと思います。

**吉田** 幹事さんにもけっこう新しい方がいて、色々な意見を言う人もいますし、患者会に関心があることが大事だと思うので、そういう方に手伝ってくださいと声をかけて、少しずつ手伝ってもらうのが大事だと思います。

**鈴木** 幹事さんの中にも、自分の医療費はどかが、どのような割合で支払われているかも分からない幹事さんがいて、そういうことを理解していないから、一生懸命会員を増やそうという気にもならないし、患者会が大切だということも理解できないのだと思います。

幹事さんにはよく勉強していただいて、患者さんによく説明できるように幹事さんを育てていくことが、大事なことだと思います。そして、私たち透析患者は本当に恵まれていて、それは全腎協のおかげである



ということがよく言われます。そういうことを幹事さんによく理解してほしいと思いますし、幹事さんになったときには何もわからないと思うので、幹事さん自身が勉強できるような資料を、札幌腎友会として作ってあげることが大切だと思います。

**司会者** 最後にこれからの患者会活動について、何かご意見はありますか。

**三上** 会員さんを増やすしかないのではないのでしょうか、会員さんを増やすことにつきますか。

**福原** 今、国がこういう状況だから、個人

の時代になってきていると思います。病気のことや患者会のことなど色々知ることによって、賢い患者・賢い幹事を作っていくことで、患者自身が患者会のことや医療費のことなどの、自

分のおかれている状況などを考えていけるような形になっていければいいと思います。

**下川** 会員の拡大が第一なのですが、その手段だと思います。先程会長が言ったように、患者会が圧力団体にならないようにして、病院のスタッフの協力を得られなければだめだと思います。例えば患者会を作った時に、病院の先生や看護師が団体交渉でもしてくるのではないかと思われるのが一番まずいことで、すぐにつぶれてしまうと思います。

患者会は、患者と病院のスタッフがお互いに、腎臓病のことや治療費のことも含めて勉強して、少しでも患者が長く生きるための、勉強会の場所だという位置づけだと思います。

そして、看護師が患者に患者会について聞かれたら、幹事がいつでもすぐに行って、話をしてあげられるような体制にしておくことが、会員拡大の一番の手段だと思います。

### まとめ

腎友会の活動は会員数を増やすことが第一で、そうしなければ行政や議会に請願や要望をするときにも、透析患者の総意とは考えてくれないので、少なくとも五〇%以上の入会率が必要だと思います。

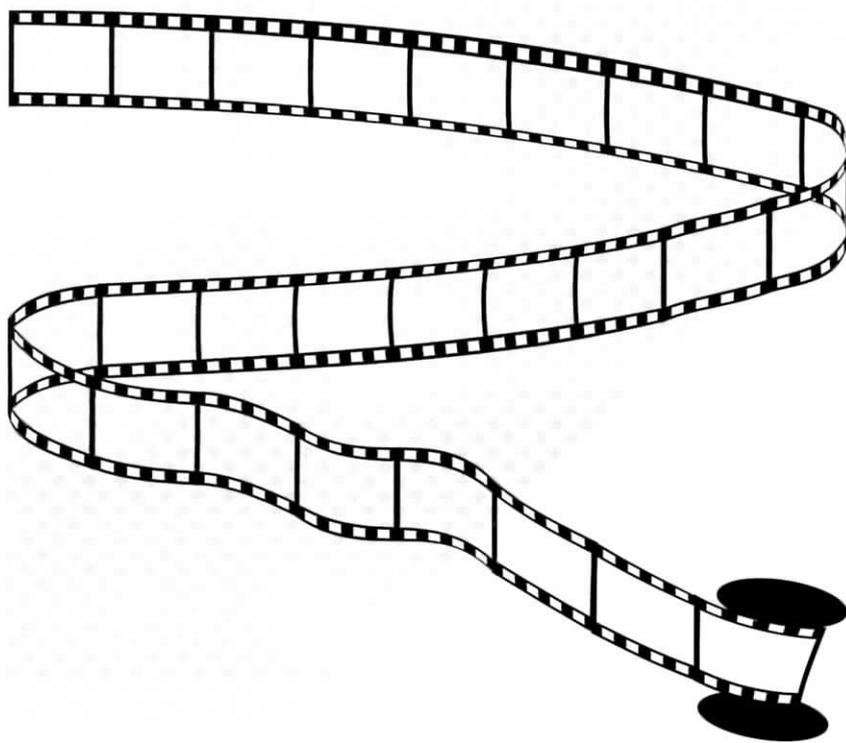
そのために、事務局体制の強化はもちろん、事務局とは別の青年部や各施設の患者会などに親睦交流活動を企画・実施していただいたり、機関紙や医療講演会などで会員に最新の医療制度や福祉制度の情報を伝えたり、国会請願署名募金活動などを実施していかなくてはなりません。

また、患者さんも高齢化しているので、家族の方にも呼びかけたり、スタッフとの関係を良くすることなどの工夫をして、会員の拡大をしていくことだと思います。

そして、実際に入会の勧誘をしてくれるのは各施設の幹事さんですので、幹事さんを含めた役員の育成が必要で、幹事さんが勉強するための資料を作成し、よく勉強していただいて、患者さんによく説明できるような幹事さんを育てていくことが、大事なことだと思います。

札幌腎友会はこれからも、これまで三〇年間続けてきた活動の良いところを残し、悪かったところは反省して修正しながら、全腎協・道腎協と連携をとりながら、会員のためのより良い腎友会をめざして活動していかなければなりません。

三〇年から  
明日へ





# 1974(昭和49年度)

■全国患者総数 9,245名 ■札幌圏患者数 170名  
 ■全道患者総数 435名 ■札幌腎友会会員数 148名

## ◆札幌腎友会結成!

7月14日、北海道社会福祉会館に於て、10施設148名の会員で発足しました。当日は70名以上の参加を得ました。また10月には機関紙“生きる仲間”創刊号が発刊されました。

## 御挨拶にかえて

会長 辻 正 延

友人に、この小冊子の事を話すと、「みんなに希望のもてるようなものになるといいな」と言った。会員の皆様に希望、あるいは勇気づける内容になったら、もちろん私の最上の喜びと共に、生き甲斐ともなるが、どうしたらそれは出来るのか。(中略)

週2～3回、1回6時間の病院通いをしなければならず、そのような状態を会社が、おいそ

れと認めるとも思えない。すがる思いでの接渉の結果、一時は首尾よくいくと思われた転勤話も頓挫してしまい、考えれば考える程に憂悶を覚えるだけであった。(中略)

だが、2年を経過した今日、あの憂悶が、そっくりそのまゝまだあるかと問われれば、自信をもって「否」と答えられる。(中略)

憂悶や失意の解消に人々の励ましや親切が、大きな比重をしめた事は否定はしない。しかし、仕事をしていることからの解消の方が、より大きい。(中略)

たゞ問題は社会生活の中の完全雇用だ・腎友会としても一等に解決したい問題なので、調査しているが、有意義な問題だけに冒険がともなう事も真実なのだ。

今後幹事をはじめ皆様と論議し、発展解決してゆきたい。

(機関紙「生きる仲間」創刊号より)

### 社会の主なできごと

- 4月中旬 春闘で空前の大スト、賃上げは32・9%に及ぶ
- 5月18日 インドが初の核実験
- 7月7日 参院選で保革伯仲、投票率72・9%、本道は75・8%と史上最高
- 8月4日 第45回都市対抗野球大会で、大昭和製紙北海道(白老町)が優勝し、黒獅子旗が初めて津軽の海を渡った
- 8月8日 ウォーターゲード事件で、ニクソン米大統領辞任
- 8月15日 韓国朴大統領狙撃事件
- ◎ 8月30日 企業爆破事件相次ぐ
- 8月30日 三菱重工ビル
- 10月14日 三井物産本社
- 11月25日 帝人中央研究所
- 12月10日 大成建設本社ビル
- 12月10日 通行人を巻き込み、死者・重軽傷者多数。いずれも東アジア反日武装戦線の時限爆弾によるもの。
- 9月1日 我が国初の原子力艦「むつ」で放射線もれ事故
- 10月8日 佐藤元首相にノーベル平和賞
- 11月2日 岩見沢市の朝日炭鉱閉山
- 11月10日 北海道神宮放火
- 11月13日 アラファットPLO議長国連に初登場
- 12月9日 金権政治批判の高まる中、田中角栄首相辞任、三木内閣スタート



# 1975 (昭和50年度)

■全国患者総数 13,059名 ■札幌圏患者数 160名位  
 ■全道患者総数 476名

## 生きる

国立西札幌病院 幹事 大西 政 弘

私は胆振西部のある農村に生まれました。  
 我が家は農業を営んでおり、私もそれになんのためらいもなく将来は農業をしよう、この天地に緑の数々の作物が育てられるのなら、そんなすばらしい事はないと、幼な心にも希望をもっていたものでした。  
 そうして封建的ながらも、親の後継者となる事を決め、それにふさわしい学校に入学し、なんの不自由もなく毎日を送ったものでした。  
 ところが不幸にも、昭和47年7月身体の具合がすぐれないので入院したのが最後、もう二度と農業が出来ない身体になってしまったのです。  
 「人工腎臓」それはあまりにも聞きなれない、まだまだ私からはかけ離れた、一つの言葉にしか考えられませんでした。

嘘だ、信じられないの連続で不安と絶望の毎日、どうする事も出来ない自分自身に、腹立しささえ感じるありさまでした。

私はこの時初めて、人間の生きる大切さ、そして難しさ、又生きなければいけない使命感みたいなものを身にしみて感じたのです。

素直に自分自身の生活の中に取り入れる事ができませんでしたが、健康な人が8時間眠るのなら、それより6時間多い14時間、週に2回眠ったと思えば良い事なんだと思ながら透析に入ったものでした。

この時代に、又この年代に数多くの制限を守り、生きてゆく事は大変難しく、時にはもうどうでもいゝとなげやりになりたい時もあります、とにかく頑張って行こうと思っています。

人間は死ぬまで生きている。生きている間は死ねないのです。その生きている間をより数多く学び、より数多く思い出を残す為、今日も明日も頑張る事を、皆さんと約束したいのです。  
 (機関紙「生きる仲間」第2号より)

### 社会の主なりきり

- 4月30日 ベトナム戦争終わる
- 5月19日 連続企業爆破犯逮捕
- 6月5日 第3次中東戦争以来閉鎖されていたスエズ運河が8年ぶりに再開された。
- 7月17日 ソ連のソユーズ19号と米国のアポロ両宇宙船が初の国際ドッキングに成功。
- 7月19日 沖縄海洋博
- 8月12日 道警本部爆破される
- 8月12日 六価クロムを含んだ工場廃棄物の不法投棄による土壌汚染が表面化
- 8月23日 台風6号、被害甚大、石狩川が5箇所にわたって氾濫
- 9月8日 私バス大手の道南バスは、再建に行き詰まり事実上倒産した。
- 10月15日 交通事故死また全国一。昨年返上した本道の交通事故死、9月下旬で逆戻り
- 10月31日 新日鉄室蘭、第三高炉休止
- 11月20日 秋サケ空前の豊漁
- 11月26日 公労協、空前のスト権スト、8日間にわたり国鉄ストップ
- 11月27日 北炭幌内鉱、ガス爆発
- 12月10日 府中、3億円事件、時効
- 1月8日 中国で周恩来首相死去
- 1月31日 我が国で初の5つ子誕生
- 3月2日 北海道庁で爆破事件、職員2人死亡、95人重軽傷



# 1976(昭和51年度)

- 全国患者総数 18,010名
- 札幌圏患者数 300余り
- 全道患者総数 652名
- 札幌腎友会会員数 200足らず

## ◆77国会 健保・年金・身障者雇用改正案成立 —患者一部負担増は撤回させる(健保) — 通算・事後重症など決定(年金) 雇用義務化も明確に(雇用)

健康保険法等一部改正案、厚生年金法等一部改正案は、第77国会で可決成立しました。また、身体障害者雇用促進法の改正案も、この国会で全会一致で可決されました。

これらの法案提出にあたって、全腎協は、全国患者団体連絡協議会、障害年金改正をすすめる会、身体障害者雇用促進法の改正をすすめる会などに結集する各患者・障害団体とともに署名運動、国会請願、陳情などをおこない、改悪部分に反対するとともに、要求の実現を目指して運動をすすめてきました。

## ◆つくし会苦小牧が全腎協に加盟 一道組織結成へ一歩—

かねてから全腎協への加盟を希望していた北

海道苦小牧市にある患者組織「つくし会」が、正式に加盟

## ◆第1回ソフトボール大会

札幌北クリニック1位、2位独占

5月4日、円山アフターケア施設(道立)のグラウンドにて、応援を含め100名程の人数でソフトボール大会が行なわれました。8~10チームに分かれ、対抗戦で一生懸命投げ、打ち、走り、病気も忘れ、若さいっぱい元気に楽しみました。



札幌北クリニックの皆さん

### 社会の主なできごと

- 4月5日 中国で天安門事件
- 5月6日 青函トンネルで最大規模の出水
- 7月17日 モントリオール(カナダ)五輪開催
- 7月20日 「火星生物の発見」という人類の夢を載せた、バイキング一号火星軟着陸
- 7月27日 ロッキード疑獄事件
- 8月7日 苦東港建設スタート
- 8月25日 河野洋平氏ら6人は自民党を離党し新自由クラブを結成
- 9月6日 ミグ25函館に亡命着陸
- 9月9日 中国で毛沢東主席死去、毛・周体制の終幕
- 10月20日 ソ連漁船団が本道沿岸で無謀操業
- 11月2日 本道の冷害全国最悪
- 11月10日 米大統領にカーター氏
- 11月24日 天皇在位50年式典
- 12月5日 企業倒産が史上最高
- 12月6日 総選挙で自共敗退
- 12月24日 道内の交通事故死、2年連続全国一
- 1月4日 三木首相退陣、福田政権発足
- 1月23日 青酸コーラ殺人事件
- 2月15日 米ABCテレビがゴールデンアワーに8日間連続放映した「ルート」が大評判になり旋風を起こす
- 道東・北一帯に寒波襲来



# 1977 (昭和52年度)

- 全国患者総数 22,579名
- 全道患者総数 1,077名

### ◆札幌腎友会会員証発行

会員拡大を目的に、サウナ・劇場等の割引きの協力を求めました。

### ◆札幌腎友会全腎協へ加盟

結成以来すでに2年余りの活動経験を持つ札幌腎友会では、かねてから道組織の結成と全腎協加盟の準備をすすめてきましたが、雪の季節が長く、広大な北海道という特殊で困難な条件によって思うように準備がすすんでいません。そこで、道組織結成の準備をすすめつつ、当面、役員だけでも全腎協に加盟すべきだとして、この程、全腎協加盟の手続きをとりました。

全腎協運営委員会では、一日も早く道組織が結成されることを期待しつつ、同会の加盟を承認しました。

### ◆北海道腎協結成される

かねてから道組織結成の準備をすすめてきた北海道では、10月1日、札幌市で「北海道腎臓病患者連絡協議会結成代表者会議」を開き、正式に北海道腎協を結成しました。

この日の会議には地元札幌腎友会をはじめ、函館、室蘭、苫小牧、旭川、留萌、北見、釧路の8地域代表22人が出席し各地の実情を報告す

るとともに、規約、予算、組織、役員などを決めました。北海道内には透析患者だけでも1,000人以上がおり、早くから道組織の必要性が話し合われていましたが、地域的に東北6県以上の広さがあるため連絡や会議を開くうえで不利な条件が多いことから、これまで延びていたものです。

この日の会議では、会長に細川哲男氏、事務局長に阿部隆氏を選び、昭和53年の6月に正式な総会を開くことを決め、当面は会員の拡大、各地域別組織の強化など組織整備に取り組んでいくことにしています。

なお、道腎協では10月から全腎協に一括加盟することを決め、これまで単独加盟していた札幌腎友会、苫小牧つくし会は道腎協の一員として全腎協に加盟することになりました。

### ◆腎臓移植女性の出産

日本でははじめて、世界でも数例という“透析患者の出産”の明るいニュースが伝えられました。

## 社会の主なできごと

5月11日	三井芦別鉱第2坑でガス爆発。25人死亡、8人重軽傷
7月13日	大学入試に不正統出 ニューヨーク大停電
7月20日	黒人街を中心に放火や商品略奪が多発し、逮捕者3300人を出す
7月20日	道立美術館オープン。道内初の本格的なミュージアムとして完成
8月7日	有珠山噴火
9月3日	王選手世界最多756号ホームラン
9月3日	福田首相は国民栄誉賞第一号を贈った
9月9日	芸能界で大麻汚染
9月28日	日本赤軍ハイジャック、ダッカに強行着陸、仲間の釈放と身代金を要求。日本政府はこれに応じ、人の命は地球より重い”の言葉を残すも、その対応に論議を呼んだ
10月7日	岩内町と北電が条件付で岩内原発建設に調印
10月17日	釧路市長保守が奪回
11月12日	道職員汚職相次ぐ
11月25日	政府は千葉県成田市の新東京国際空港を正式に宣言
12月13日	飛鳥田社会党が誕生
3月18日	要人誘拐テロ相次ぐ

# 1978 (昭和53年度)

## ◆医療費改定

### 透析医療費を引き下げ

#### 夜間加算・腎臓移植手術は新設

2月1日から実施された医療費改定にとまな  
い、透析関係医療費初の“引き下げ、がおこな  
われました。この改定は、医療機関にとって1  
割から2割の減収になり、医療機関側ではその  
対策として透析時間やダイアライザーの機種変  
更を中心に治療内容の変更や給食支給の打切り  
などを行おうとしています。全腎協では、医療  
費改定に際して腎移植の健保適用、夜間透析加  
算、給食費の健保適用などを厚生省、中医協に  
強く要求し、中医協への諮問後も厚生省にたい  
して実情に見合った適切な改定とするよう強く  
要望し、不十分ながらも認められました。

## ◆腎臓移植（死体腎）に向けての啓蒙活動

世界では25,000例を越える腎移植が行われ、  
移植後5年の生着率は死体腎移植でも約4割近  
く迄に至っております。我国の腎移植成績は19  
70年以後格段に向上し、年間150例を越えまし  
た。しかし、死体腎移植は極めて少ない（全体  
の1割程度）の現状であり、道内に於ても約25  
例の腎移植が行われましたが、何れも生体腎移

■全国患者総数 27,048名

■全道患者総数 1,143名

植です。昭和42年6月より関東を中心に、腎移  
植普及会が死体腎提供者の登録と腎移植の啓蒙  
を開始しています。道内では、昭和51年春以来  
医療関係者を中心に道衛生部との連絡の下に準  
備を進めた結果、昭和52年7月23日、北大医学  
部泌尿器科、辻一郎教授のもと「北海道腎移植  
をすすめる会」を設立、意欲的に活動を行ない、  
昭和59年5月「北海道腎バンク」への布石  
となりました。

腎臓提供連絡先電話〈24時間待機〉

011-711-1161内線5803・5804

→腎臓を提供していただく事態が発生したとき  
上記にご連絡下さい。

## 腎臓提供者カード

このカードは下記に登録されております。上記の腎臓提供の  
連絡以外のご質問ご照会等はすべて下記にお願いします。

照会問合せ・北海道腎移植をすすめる会

☎ (011) 711-1161内線5949

〒060札幌市北区北15条西7丁目北大医学部泌尿器科教室内

## 社会の出来事(1978)

- 4月2日 妹背牛商春の高校バレーで初優勝
- 5月1日 探検家の植村直己さん、北極点に立つ
- 5月20日 成田空港、滑走路1本の「片肺」で開港
- 7月1日 噴火湾毒性ホタテ騒ぎ
- 7月14日 芥川賞に高橋揆一郎氏（歌志内出身）
- 7月25日 英で初の体外受精児誕生
- 8月12日 減トン船遭難相次ぐ
- 9月1日 日中平和友好条約に調印
- 9月1日 「札幌そごう」など大型店続々オープン
- 10月24日 有珠山一帯の集中豪雨により泥流が温泉街を襲う
- 11月3日 ソ連ベトナムが友好条約
- 11月18日 南米ガイアナ「人民寺院」で911人の集団自殺
- 11月21日 球界「江川」で大騒動
- 12月7日 大平新内閣誕生
- 12月10日 イランで反政府運動激化
- 12月16日 米中国交正常化へ
- 1月13日 初の大学共通一次試験
- 3月28日 中東和平条約に調印
- 米原発事故で放射能漏れ
- ペンシルバニア州スリーマイルアイランド原子力発電所が重大事故発生

# 1979(昭和54年度)

## ◆通院交通費公費負担の請願を提出

道議会本会議で請願が採択

北海道は東北6県に新潟県をあわせたぐらいの広大な面積があります。この中で透析施設は都市部に集中しており、郡部の患者にとっては長距離通院の時間的、肉体的負担とともに通院交通費の経済的負担も大変なものです。

道腎協ではこうした実態を重視して、通院交通費の公費負担の実現を当面の重点課題として取り組んでいます。この問題も含めて昨年末から会員の実態調査をすすめながら、道議会に請願を提出しましたが、昭和53年12月23日の道議会本会議で請願が採択されました。

すでに道内一部地域では通院交通費の補助が実施されていますが、道腎協ではこれが全道的に実施されるようこの請願採択を機に道への働きかけを一層強めることにしました。

## ◆腎臓移植手術に更生医療を適用

腎臓移植手術の医療費を更生医療で給付することが決まりました。

■全国患者総数 32,331名 ■札幌圏患者数 584名  
■全道患者総数 1,377名

## ◆腎臓移植法制化 今国会で成立か

腎臓移植に関する立法化については腎臓移植普及会を中心に関係学会などと調整がすすめられていましたが、この程その要綱案がまとまり、国会各党および衆議院法制局で意見調整後、議員立法として早ければ開会中の通常国会で成立の見通しとなりました。

この法律案は「角膜および腎臓移植に関する法律」として提出される予定です。



通院交通費助成要求の全道決起集会( '79・12・2)

### 社会の主なできごと

- 5月4日 英国に初の女性首相(サッチャー)誕生
- 5月10日 北海道スモン訴訟で患者側全面勝訴
- 6月28日 東京サミット開催。7カ国首脳とEC 22人が出席、エネルギー問題を話し合い「東京宣言」を採択する
- 7月11日 日本坂トンネルで炎上事故。170台のトラック、乗用車が焼失
- 7月19日 平取で一家4人射殺(平取事件)
- 8月10日 豊平川25年ぶりにサケ遡上
- 10月26日 WHOが天然痘終息宣言
- 11月1日 韓国朴大統領射殺される
- 11月14日 札幌市の人口(1,374,715)が全国6位に
- 11月14日 「小樽運河」で「埋め立て」陳情を強行採択
- 9月12月 鉄建・KDDなど不正統々
- 11月4日 イランで右派学生が米大使館占拠
- 11月28日 南極遊覧機が遭難、日本人を含む257人を乗せ行方不明
- 12月20日 イラン政変でOPECジュネーブ総会において原油24ドル〜30ドル時代に突入
- 1月10日 石狩町長が町道工事で汚職



# 1980 (昭和55年度)

- 全国患者総数 36,397名
- 全道患者総数 1,557名

## ◆第7回定期総会6月8日ジヨイランド樽前 (苫小牧市) にて開催

50名の家族連れでにぎわう  
活動方針など決定

## ◆ソフトボール大会92名参加 戸沢医院が優勝

### ◆「透析白書」が完成

第1部が腎臓の構造と機能、人工腎臓について

第2部が昭和53年12月から昭和54年1月にかけておこなわれました透析患者の生活実態調査報告になっています。

## ◆通院交通費補助決まる 北海道

55年度から、北海道で通院交通費補助が実現し、月額5,000円を超える額の2分の1を道が補助することが決まり、7月から実施されることになりました。北海道では広大な地理と透析施設の偏在により、遠距離通院の患者が多く、通院交通費補助は透析患者の悲願ともいえる強い要求でした。道腎協では昨年度この問題で道議会に請願し採択されていますが、なかなか実

施に至らないため、道難病連などの支援を得て、「通院交通費要求決起集会」を開き、その実現に向けて活発な運動を展開してきました。

## ◆透析患者3万人越す 第24回人工透析研究会総会

### ◆“腎臓移植法、が成立

かねてからその実現を強く運動していた腎臓移植法が、第90臨時国会で可決、成立しました。

法律は全文十ヶ条及び付則7項からなるもので、死体から腎臓を摘出することができることなどを明記しています。この法律の成立によって、腎臓移植、とりわけ死体腎移植が法律的にも認められたわけで、腎提供者登録など腎臓移植の普及、促進に大いに役立つことが期待されました。

### 社会の主なできごと

- 4月25日 銀座で1億円拾う(11月11日落とし主現れず時効)
- 6月12日 史上初の衆参同日選挙戦のさ中、大平首相急死
- 6月22日 (自民党圧勝)
- 7月19日 第22回オリンピック・モスクワ大会で変則五輪(日本不参加)
- 8月19日 新宿駅前でバス放火(6人死亡・17人重軽傷)
- 9月10日 札幌市に中国総領事館が開館
- 9月11日 所沢市富士見病院が乱診・乱療
- 9月24日 イラン・イラク全面戦争に発展
- 9月25日 秘境知床に横断道が開通
- 10月21日 / 11月4日 球界の「二巨人」長嶋・王去る
- 11月4日 米国の第40代大統領選挙でレーガン氏圧勝
- 11月15日 平取事件(S54・7・19)の容疑者逮捕
- 11月20日 川治温泉川治プリンスホテル(栃木県)で火災、45人死亡・22人重軽傷
- 11月28日 国鉄経営再建促進特別法が成立。道内で27線が廃止の対象
- 12月9日 ジョン・レノン射殺される
- 3月30日 レーガン米大統領狙撃される

# 1981 (昭和56年度)

## ◆第1回全国一斉

### 腎提供登録街頭キャンペーン実施 (11・18)

腎臓移植については、会員の関心も強く、これまでの運動で腎臓提供者登録制度・腎移植法の制定・移植手術費用の公費負担・腎臓提供者(生体腎、死体腎とも)の費用の保険給付等が実現し、その体制は大きく拡充されてきた。しかし死体腎移植の普及にとって、腎提供登録者の絶対的不足が最大の問題となっている。このキャンペーンでは、45都道府県組織が取り組み、道内では5ヶ所・150人が参加した。これにより、登録者は増加した。マスコミの報道もあり、それまでの月間登録者20人前後から、い

■全国患者総数 42,223名 ■札幌腎友会会員数 233名  
 ■全道患者総数 1,896名

つきに150人に増加しその後も増え続けるという具体的成果を取めた。

## ◆全腎協結成10周年

「全腎協10年のあゆみ」発行。

第11回総会(東京)10周年記念シンポジウム開催。

全腎協のシンボルマークを発表。



第1回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン

## 社会の主なできごと

- 4月9日 東シナ海で米原潜が貨物船日昇丸に衝突、乗組員15人中2人死亡
- 5月10日 フランス大統領選で社会党政権誕生
- 7月29日 米国のチャールズ皇太子がダイアナ嬢と結婚
- 8月24日 貝殻島コンブ漁、日ソ間で合意
- 9月5日 三和銀行事件等、銀行のオンラインシステムを利用した犯罪続発
- 9月10日 鈴木首相、現職首相として初の北方四島を空陸から視察
- 9月11月 秋サケ空前の豊漁
- 10月1日 国鉄石勝線が開業
- 10月6日 エジプト・サダト大統領暗殺
- 10月28日 ロッキード事件、丸紅ルートの公判で榎本三重子さん「ハチの刺し」証言
- 11月5日 ロッキード事件で国際興業社主小佐野被告有罪
- 11月10日 雄冬岬トンネル(幻の国道231号線)開通(12月19日、40日で崩壊)
- 2月8日 ホテル・ニュージャパン火災
- 2月9日 死者33人、重軽傷者約30人
- 2月9日 日航機が逆噴射事故(24人死亡・147人重軽傷)
- 2月26日 電々職員、CDカード偽造
- 2月26日 核のゴミ捨て場誘致(幌延町検討される)
- 3月21日 浦河沖でM7.3の大地震
- 3月26日 道内初の原子力発電所、北電泊原発の建設計画が承認される

# 1982 (昭和57年度)

## ◆欠陥人工腎臓被害補償問題

### 合意が成立

日本医工社が製造し、ニプロ社から販売された人工腎臓用ダイヤライザーにより、全国28都道府県で180人にのぼる眼障害などの副作用被害者が発生しましたが、この問題で全腎協は、4月以来、ニプロなど関係3社と交渉をつづけ、この程基本的な合意が成立、8月4日に弁護士立ち会いのもとに協定書、被害補償についての覚書の調印式が行われました。

この日調印されたのは「協定書」と「被害補償に関する覚書」の2文書で、このうち協定書は5条からなり、3社に対し被害者への補償、再発防止、原因究明、障害の治療法の解明などを義務づけています。また、覚書は、協定書に基づく被害者への治療費、付添費、休業補償、慰藉料、一律3万円の見舞金などの補償と全腎協がこの補償問題で支出した費用の実費、弁護士費用の支払いなどを3社に義務づけています。

一方、全腎協に先行して3社と交渉していた大阪の被害者を代表する大腎協は、6月30日、同じ補償基準で3社と「誓約書」を取り交わしています。(全腎協第59号より)

■全国患者総数	47,976名	■札幌腎友会会員数	277名
■全道患者総数	2,088名	■国会請願署名数	1,996筆
■札幌圏患者数	800名	■会員施設数	13ヵ所

## ◆札幌腎友会再建

### ◆親睦ソフトボール大会

6月6日、参加施設13、患者・スタッフ等参加者200を越す盛況で行われた。朝8時30分のスタートで、試合終了時は午後4時過ぎ。なんと8時間に及ぶ熱戦で、初参加の自衛隊札幌地区病院がみごと優勝の栄冠を勝ち取った。又、参加できない人達の為にゲームも行われ、皆真黒に日焼けし、その中に白い歯がこぼれていたのが印象的であった。



若さあふれるプレー

## 社会の主なできごと

4月6日	フォークランド紛争
6月8日	ロッキード事件の橋本登美三郎・佐藤孝行有罪
6月12日	道博に267万人
6月12日	テーマ「いま北の時代の出発」
6月13日	パレスチナ難民大虐殺
7月13日	自衛隊で試験漏えい
8月18日	参院全国区に比例代表制
10月9日	北炭夕張ついに閉山
10月12日	鈴木善幸氏退陣、風見鶏内閣(中曽根内閣誕生)
10月29日	岡田茂前三越社長を特別責任容疑で逮捕
10月12日	札幌市豊平区の西友ストア・清田店で史上空前の食中毒発生(被害7000人超)
11月1日	警察官とばく機汚職で逮捕
11月10日	ソ連のブレジネフ書記長死去
1月9日	57年11月の自民党総裁予備選に出馬した中川一郎前科学技術庁長官が自殺
1月27日	青函トンネル先進導坑貫通
1月2月	横浜で少年グループが無差別浮浪者殺人
12月20日	北見営林局員惨殺・公金強奪事件「梅田事件」の再審を決定



# 1983 (昭和58年度)

■全国患者総数	53,017名	■札幌腎友会会員数	395名
■全道患者総数	2,194名	■国会請願署名数	5,376筆
		■会員施設数	22カ所

### ◆在宅のCAPDにも健保適用

中医協は1月24日、厚生大臣から諮問のあった診療報酬について3月1日から2.79%の引き上げを行なうことを答申した。今回改定の主な内容は、救急医療の重点的評価、入院料の引き上げ、新技術の導入、30日間投薬疾患の拡大などで人工腎臓も含めて一般的な技術料などに変更はなかった。

この中で新技術の導入としてかねてから全腎協が要求していたCAPD（自己連続携行式腹膜灌流）についても健康保険を使えることが決まった。3月1日実施だが決められた基準を満たしている都道府県知事の承認を得た病院に限られる。

その基準は①人工腎臓がある、②緊急手術ができる、③指導管理を行う場所が院内にある、④生化学、血液、微生物検査ができる、⑤5年以上の透析かCAPDの経験を持つ医師が常駐

する、⑥同じく2年以上の経験を持つ看護婦が常勤していることなど、主として腹膜炎発生時の対応可能な病院とされている。

### ◆道の腎移植センター市立札幌病院に！

市立札幌病院に腎移植センターが設置されることが本決まりとなった。同センターは、腎移植希望者の血液型、体質などのデータを集中管理、腎提供があった場合全国のセンターから適合者を抽出するシステム。

移植手術は泌尿器科、腎内科、外科、胸部外科、検査料、救急医療部の専門医によるプロジェクトチームが編成されるという。

また、「北海道腎バンク」も来年5月に設立される予定であり、本道の腎移植体制もほぼ確立されることになった。

## 社会の主なできごと

◎ 自動車のスパイクタイヤによる車粉公害が社会問題化しているため、札幌市は全国自治体に先駆け使用の指導基準案をまとめた。

◎ 夏の異常低温や、10月上旬の雪害などの影響で、本道の水稲は過去10年で最悪の凶作となった。

4月11日 道政に新風、24年ぶり革新横路知事誕生

5月26日 日本海中部地震で死者・不明104人の大惨事

7月15日 死刑囚に対する初の再審である「免田事件」の判決公判熊本地裁で開かれ、再審無罪を勝ち取る

10月3日 三宅島突然21年ぶり噴火

10月12日 ロッキード裁判丸紅ルートの公判で田中元首相一審有罪判決

10月14日 東北大学で、体外受精児、国内初の誕生

10月22日 国鉄白糠線が全国赤字路線のトップを切って19年間の歴史を閉じ廃止に

2月10日 サラエボ冬季オリンピック、スケートで北沢（北陽高出身）日本で初の「銀」

3月18日 江崎グリーコ社長が誘拐されるが65時間後に自力脱出する



# 1984 (昭和59年度)

■全国患者総数	59,811名	■札幌腎友会会員数	488名
■全道患者総数	2,479名	■国会請願署名数	5,160筆
■札幌圏患者数	891名	■会員施設数	25ヵ所

## ◆全道1周キャラバン・キャンペーン

5月に「北海道腎バンク」が発足し、さらに8月には「腎移植センター」が設置されることになり、それを記念し患者の立場から、何か出来る事はないかと、道腎協総会において「全道1周キャラバンキャンペーン」が提案され、満場一致で決議された。

7月24日朝8時、出発式が行われる市立札幌病院前は、見送りの札幌腎友会会員、看護婦さん、多くの報道関係者でうめつくされた。岩崎道腎協会長の絶叫調の激励、そして看護婦さん・患者から花束が贈られ、2,000kmに及ぶキャンペーンがスタートした。

第1次隊4名は、3泊4日で日高、十勝、釧路、網走、上川、空知の各管内24市町村を訪問、協力を要請し多くの賛同を得る。地元腎友会との街頭キャンペーン・交流会、地方新聞社への協力要請及び取材等々、正に息つくひまも

ない透析患者には過酷な1,070kmであった。

第2次隊は若干メンバーを入れ替え5名で8月11日より、2泊3日で道南18市町を回り最終目的地札幌大通公園で最後のマイクを握り、出迎いの札幌腎友会会員と供に、道行く市民に腎提供の登録を呼びかけ、酷暑の中のキャラバン・キャンペーンを終えた。

尚、今回の巡回先での登録数は200人であった。



市立札幌病院前での「キャラバン・キャンペーン」出発式

## 社会の主なできごと

- 3月12日 「怪人21面相」を名乗った犯人による「グリコ・森永事件」エスカレートする
- 4月20日 動力炉・核燃料開発事業団(動燃)が幌延町に高レベル放射性廃棄物施設「貯蔵工学センター」を建設する計画を示した。
- 6月12日 道内の59年産水稲は、5月後半からの好天に恵まれ6年ぶりの大豊作となった。
- 6月30日 男女とも日本人の寿命が「世界一の長寿国」となった
- 8月10日 国鉄再建監理委は2回目の緊急提言を中曽根首相に提出し、初めて「分割・民営化」を打ち出した。
- 9月14日 長野県でM6.8の直下型地震
- 11月1日 死者14人、行方不明15人の大惨事 聖徳太子と伊藤博文に代わって、文化人肖像の新しい1万円札(福沢諭吉)、5千円札(新渡戸稲造)、千円札(夏目漱石)の新札が一斉に発行された。札幌高裁で「梅田事件」の再審開始を決定
- 2月4日 田中元首相脳こうそくで倒れる
- 2月27日 青函トンネル本坑開通
- 3月10日 ソ連にゴルバチョフ新政権誕生
- 3月11日 つくば科学万博開催
- 3月16日



# 1985 (昭和60年度)

■全国患者総数	66,310名	■札幌腎友会会員数	516名
■全道患者総数	2,771名	■国会請願署名数	4,627筆
■札幌圏患者数	967名	■会員施設数	26カ所

### ◆札幌腎友会結成10周年記念誌発刊

患者や医師など関係者30人の手記が載せられ、腎臓病患者の苦しみをのりこえ、札幌腎友会発展に尽くし、倒れた数多くの仲間へ感謝が捧げられた。10月26日付読売新聞にも“費用不安など切々、移植制度充実訴え”という見出しで紹介されました。

### ◆初の「腎疾患総合対策」シンポジウム

札幌市で開催

札幌腎友会結成10周年記念行事として道腎協・道難病連と共催で、「本道における腎臓移植をどう推進するか」をテーマに5氏のパネラーそれぞれの立場からの意見を戴いた。

### ◆厚生省の研究班に全腎協代表が参加

厚生省の「小児慢性腎疾患の予防管理、治療に関する研究班」に全腎協代表が委員として参

加することとなった。全国どこでも、一定以上の治療水準と管理水準が確保されることを目的として協議を行ない90年度まで継続され、IgA腎症などの治療法の開発から始まり、膜性増殖性腎炎の診断や治療にも大きな成果をあげた。さらに検尿システムも、より信頼性の高い方法を普及させ、通常の検尿では発見困難な逆流性腎症など、先天性腎奇形の発見及び治療にまで研究を進めた。



岩崎道腎協会長より15年表彰を受ける鈴木啓三氏(10・27ホテルユニオン)

## 社会の主なきいん

4月1日	「電話「たほこ」」民営化
5月9日	流水の海を漂流16日、サハリン・チェルベニア岬に漂着、奇跡の生還
5月10日	インドで無差別テロ
5月17日	三菱南大夕張 ガス爆発
6月18日	悪徳商法、豊田商事オーナー凶刃に倒れる
7月21日	南ア非常事態宣言
8月12日	日航ジャンボ機山中に墜落、520人死亡、単独事故として世界最悪の惨事となる
9月16日	国鉄美幸線廃止、バスに転換
9月19日	メキシコでM8・1の大地震、死者8000人、負傷者83000人を出す
10月25日	いじめ問題深刻化
11月5日	本道初の鉄道路線手宮線が104年の歴史にピリオド
11月13日	コロンビア大噴火。死者25、000人
11月23日	動燃、幌延で調査強行
11月25日	円200円の大台突破、円高に
11月29日	東京、大阪など8都府県で過激派による国鉄同時多発ゲリラ。始発からマヒ状態となる大混乱に
2月15日	フィリピンでマルコス政権崩壊、ヘリで脱出ハワイに亡命



# 1986(昭和61年度)

- 全国患者総数 73,537名
- 札幌腎友会会員数 556名
- 全道患者総数 3,323名
- 国会請願署名数 4,200筆
- 会員施設数 26カ所

## ◆「臨調行革」による社会保障の後退

1980年代に入って「増税なき財政再建」「行政改革」を旗印に登場した中曽根内閣のもと発足した第2次臨調はその答申で国民に「一時的な痛み」を求めるとして、医療、年金、福祉をまず槍玉に上げ、「見直し」を求めた。

この臨調「行革」路線は、腎臓病患者にも、重大な影響をもたらした。

その典型が1986年(昭和61年)から1987年(昭和62年)にかけての、児童扶養手当の全国的な打ち切りであった。

透析患者を父とする子のいる世帯への児童扶養手当支給は「法の基準に照らして拡大運用されている」として、その是正を求め厚生省の指導によって全国的に支給停止がすすめられた。各地方組織、全腎協の再三の交渉、運動によってもこの打ち切りは撤回されなかった。

このことに見られるように、法制度の「改

正」はしなくても、運用上の引き締めを強いることも、臨調「行革」の特徴であった。

生活保護制度での引き締めもまた、自殺者、餓死者が出て社会問題になるほどのすさまじさがあった。

## ◆全国一斉街頭キャンペーン全国的な反響

厚生省は1986年から毎年10月を「腎移植推進月間」と設定し、国の事業として腎バンクへの登録啓発運動を開始するなど、本格的に腎移植推進運動への取り組みを開始した。

札幌腎友会でも道腎協と協力して、道庁や市役所に参加要請をお願い、マスコミ等にも重ねて報道を依頼しました。

10月5日、大通り3丁目において約40名の参加があり、パンフレット、ティッシュ、風船、尿検査試験紙が市民に配られた。

日付	出来事
4月15日	米国、リビアを爆撃
4月26日	ソ連、チェルノブイリで原発事故、スウェーデンで1000倍の大気汚染を記録
6月14日	江戸時代の「北前船」淡路島から41日間の長い航海を終え、江差港へ入港
8月20日	円高加速(152円55銭) 超低金利へ
9月6日	社会党土井たか子委員長誕生、日本の大政党で初の女性党首
9月8日	「梅田事件」の再審公判で梅田義光さんの無罪確定
11月15日	青函トンネル、レールドッキング
11月25日	三原山12年ぶりに巨大噴火
11月28日	東京有楽町駅前三菱銀行支店で現金輸送車が3人組の男達に待ち伏せされ、3億3千万強奪される
12月3日	国鉄分割・民営法成立
12月7日	第8次石炭政策答申により、本道・空知地域の5鉱がなだれ閉山の危機にさらされる
12月9日	本道の減反率48%に
12月13日	「幌延」問題条件付き誘致派遣選
2月3日	ビートたけしら写真雑誌「フライデー」へ殴りこみ、12人が逮捕
2月13日	新日本製鉄が大掛かりな合理化案を提案

社会の主なできごと



# 1987 (昭和62年度)

- 全国患者総数 80,553名
- 札幌腎友会会員数 570名
- 全道患者総数 3,437名
- 国会請願署名数 2,345筆
- 会員施設数 29ヵ所

## ◆厚い連帯に拍手。第1回親睦大運動会。ソフトボール大会に代って

去る6月21日(日)幌北小学校の御好意によりグラウンドをお借りし、180名の参加を得て晴天の下、親睦大運動会が開催されました。

驚いたのは、ラジオ体操とはもう随分と縁のないはずの皆さんが、見事に揃って体操をするではありませんか。

第1種目は、玉入れです。皆、子供の頃に返って真剣に玉を投げ入っていました。

第2種目は患者50M走でした。無理せずマイペースでと言いましたが合図のピストルが鳴ると、もう止まりません。足がついていかず、転倒する人もいましたが、皆一生懸命でした。

3種目目は、大きなタイヤのチューブをころがして目標をまわって来てリレーをするチューブリレーです。午後の部の最後はお玉リレーでした。

午後からは、綱引きと男女混合リレーを残すだけとなりました。

初の試みとして実施した運動会、その勝ち負けよりも、もっと尊い親睦と連帯が、少なからず生まれた事と信じます。

(“生きる仲間” 昭和62年7月20日号より抜粋)

- ◆1月 幹事新年会 (定山溪温泉にて1泊)
- ◆2月 親睦ボウリング大会 (青木ボウル、12施設56名参加)



大運動会 50M走ゴールイン

### 社会の主なできごと

- 4月1日 空前のカネ余り現象の中で地上げ横行  
・地価狂騰  
JRスタート
- 4月14日 知床国有林で択伐強行
- 5月3日 朝日新聞支局に凶弾(赤報隊)を名乗る犯行声明
- 5月27日 売上税法案、廃案に
- 5月28日 モスクワ「赤の広場」に西ドイツ青年セーナ機で強行着陸
- 7月14日 三井石炭鉱業砂川鉱は従業員710人全員を解雇し、73年のヤマの歴史を閉じた
- 7月31日 釧路湿原が全国で28番目の国立公園に指定された
- 9月6日 札幌市で本道初の北海道国際マラソン開かれる
- 9月30日 道産子3横綱時代に(千代の富士・北の湖・大乃国)
- 10月12日 利根川教授、初のノーベル賞、医学・生理学賞受賞
- 10月19日 NY株式史上最大の暴落
- 11月6日 竹下新内閣が発足
- 12月20日 フィリピンで史上最悪の海難事故、タイタニック号沈没を上回る最悪の惨事となる
- 1月31日 道内ローカル路線廃止相次ぐ  
一方、3月13日全長53・85キロの青函トンネルが開業



# 1988 (昭和63年度)

- 全国患者総数 88,534名
- 札幌腎友会会員数 605名
- 全道患者総数 3,921名
- 国会請願署名数 3,568筆
- 会員施設数 28ヵ所

## ◆2千万円で生体腎移植

一買腎行為は許されない(全腎協会長 油井清治)ー  
 フィリピンにおける生体腎による腎臓移植の  
 事実が明らかにされた。この移植の提供者は1  
 例は日本人、他の1例はフィリピン人の囚人  
 で、2千万円前後の費用が仲介者の手によって  
 動いているなど、不愉快な情報が相次いでいる。

会員が買腎まがいの手段で移植手術を行うこ  
 とには、その意図のいかんに関わらず断固反対  
 する。

その理由は、臓器移植は提供者の善意に基づ  
 く無償の行為が基本であること、第2に腎バン  
 クに登録してくれた善意の20万人の人々への裏  
 切り行為であること、第3に、術後の管理を行  
 う医療機関は国内にはなく、患者は被害者とな  
 るであろうなどである。

私たちは、今後もこのような立場を堅持し、  
 会員がこの種の不透明な手段で移植手術を行お

うとするなら、そのことは正しいあり方ではな  
 いことを伝える。

私たちは、腎移植推進月間と街頭キャンペ  
 ーンを成功させ、臓器移植促進のための国会請願  
 署名を成功させ、また腎移植を含む臓器移植の  
 普及を願う。会員は売買話に軽率に応ずること  
 なく、辛抱強く提供腎を待つ立場を守るように  
 訴える。

- ◆第2回親睦大運動会 100名参加
- ◆札幌腎友会会旗・シンボルマーク作成



### 社会の生きたけりかじり

- 4月10日 四国と本州を結ぶ世界最長の道路・鉄  
道併用橋、瀬戸大橋が開通
- 6月10日 「世界・食の祭典」が85億円の赤字を  
出して閉幕
- 6月2日 スバイクタイヤ規制
- 6月18日 リクルート疑惑広がる。リクルート・  
コスモス社の未公開株式の政・官・財  
界へのばらまきが明るみに出、前例の  
ない構造汚職に発展
- 6月20日 日米輸入自由化決着
- 7月20日 新千歳空港が開港
- 7月23日 潜水艦「なだしお」と釣り船「第一富  
士丸」が東京湾・浦賀水道で衝突、第  
一富士丸は沈没、30人死亡
- 9月19日 天皇陛下ご容態急変
- 11月26日 千代の富士53連勝
- 12月6日 道内初の原発、北電泊1号機が発電を  
開始
- 12月7日 東証平均株価、初の3万円の大台  
成立
- 12月19日・24日 十勝岳62年ぶりの噴火
- 12月24日 消費税導入を柱とする税制改革6法が  
成立
- 1月7日 昭和天皇崩御「昭和」から「平成」へ
- 2月13日 リクルート事件政界を巻き込み、戦後  
最大級の汚職事件へと発展



# 1989 (昭和64年度) (平成元年年度)

■全国患者総数	83,221名	■札幌腎友会会員数	640名
■全道患者総数	4,133名	■国会請願署名数	4,462筆
■札幌圏患者数	1,542名	■会員施設数	29ヵ所

## ◆札幌腎臓病患者友の会

### 15周年記念親睦パーティ開催

平成元年11月5日、午後1時より札幌郵便貯金会館の大広間において、札幌腎友会の15周年記念親睦パーティが開かれました。

当日は、透析10年を迎えられた会員、108名の表彰があり、各施設代表者が表彰状と記念品を受け取りました。

アトラクションでは、最初に、旭川で同じ透析患者でありながらプロ歌手をしている郷田二郎さんの力強い歌が披露され、続いて、荒関一座が三味線と太鼓の軽快なリズムにのった民謡を汗だくになり披露してくれました。

最後にお楽しみ抽選会があり、商品が当たった方々は大喜びで、閉会となりました。

会請願署名運動を展開し、一時中断していましたが、昭和61年4月、国鉄が民営化されたのを機会に、国会請願署名運動を再開し、昭和62年9月の国会で採択されました。

その後、なかなか実施されないため道腎協では道議会へ請願署名を提出し、本会議で採択され、長年の念願であった、JR・航空運賃割引制度が、平成2年2月1日より内部障害者にも適用されることになりました。

## ◆JR・航空運賃に割引制度が適用される

昭和46年全腎協結成以来、鉄道運賃割引の国



15周年記念パーティ（札幌郵便貯金会館）

## 社会の主なできごと

- ◎ さらさら397に人気！  
道立上川農試が道産米のエースとして開発した「さらさら397」が10月から特別自主流通米として発売され、売れ行き好調
- 4月1日 消費税、波乱のスタート。国民の「新税感」や1円玉を扱うわずらわしさなどで混乱
- 6月16日 道の新長期総合計画汚職で元道職員等に逮捕者
- 6月24日 美空ひばりさん逝く
- 7月23日 参院選で与野党逆転
- 7月23日 幼女誘拐殺人・失踪事件で宮崎容疑者逮捕
- 8月7日 わが国初の世界先住民族会議開催。アイヌのほか、17地域から21世紀を考えると出席
- 9月29日 北炭幌内鉱が閉山。道内最古のヤマ、110年の歴史に終止符
- 11月20日 石狩管内広島町でゴルフ場の農業汚染判明
- 11月21日 新「連合」800万人で発足
- 1月18日 言論銃撃へ昭和天皇の戦争責任議論に絡んで右翼が本島・長崎市長を狙撃
- 3月22日 暴落相場へ株価の急落に加え、債権、円のトリプル安。バブル経済しぼむ



# 1990(平成2年度)

■全国患者総数	103,294名	■札幌腎友会会員数	710名
■全道患者総数	4,534名	■国会請願署名数	4,971筆
■札幌圏患者数	1,673名	■会員施設数	27カ所

### ◆有料道路割引制度拡大署名進む

障害者にとって、鉄道・航空機とあわせて、自動車は重要な移動手段のひとつになっています。

しかし、有料道路の料金については、肢体障害者以外には割引制度が適用されていません。「内部障害者は常時医療を必要とする者が多い一方で就労をはじめ、社会生活に参加することが可能であり、移動のために有料道路を利用する機会も多く、その経済的負担も軽視できません。」以上の理由で今回、署名活動を行ないました。

### ◆エリスロポエチンが保険適用に!!

エリスロポエチンは、4月23日に薬価収載され、どこの病院でも透析施行中の腎性貧血のある患者に使用できるようになりました。

### ◆春のレクリエーションで初のハイキング

6月24日、春のレクリエーションで初のハイキングを野幌森林公園（百年記念塔前広場）で実施した。

当日は真夏並みの好天に恵まれ、約50名の人が参加し、昼食後に自由行動とし、開拓記念館や開拓の村、瑞穂の池へとそれぞれハイキングに出かけ、疲れた人たちから順に解散して戴いた。



春レクのハイキング（野幌森林公園）

## 社会の主なきいん

- 4月1日 三井銀行と太陽神戸銀行が合併。金融界に再編の波
- 4月～9月 道外企業の本道進出。安い土地へトヨタなど企業進出ラッシュ
- 5月23日 北朝鮮旗を掲げた日本漁船北西太平洋で捕される
- 6月18日 スバイク規制法が成立。「脱スバイク時代」に入る
- 7月6日 「校則の門」登校の女子高生が校門に挟まれ死亡。「校則漬け」の生徒指導、管理教育の是非に議論呼ぶ
- 8月24日～9月2日 願いかなかった択捉島墓参
- 8月28日 ソ連からやけどの坊やコンスタンチンちゃんを救命リレー
- 9月4日 「来年4月」ゴルバチョフ大統領の来日、日ソ関係戦後最大の転機となるか
- 10月11日 日朝関係雪解け。富士山丸船長ら釈放、7年ぶりに帰国
- 10月30日 道央自動車道、札幌―旭川間が開通
- 10月31日 新長計汚職で道議会に17年ぶり百条委新憲法下で「即位の礼」「即位礼正殿の儀」が皇居・宮殿で行われた
- 11月12日
- 2月9日 関西電力美浜原発で細管破裂事故
- 3月2日 若人の祭典・冬季ユニバ開幕
- 3月22日 株価の急落、債券、円のトリプル安、バブル経済しぼむ



# 1991 (平成3年度)

- 全国患者総数 116,303名
- 札幌腎友会会員数 795名
- 全道患者総数 5,363名
- 国会請願署名数 5,269筆
- 札幌圏患者数 1,867名
- 会員施設数 34ヵ所

## ◆移植、推進の方向

### —脳死の容認も多数—

「臨時脳死及び臓器移植調査会」(脳死臨調)の永井道雄会長は、「臓器移植は実現した方がいいという点では、委員の意見は一致している」と、脳死臨調の論議が基本的に移植を推進する方向で進んでいることを明らかにした。また、脳死についても「人の死と認める考えが委員の多数」とのべた。ただ、永井会長は「移植を具体的に実現するためには、詰めなければならない問題がたくさんある」とし、例として移植を仲介するコーディネーターの養成、国際協力、財政的な裏付けなどを挙げた。そのうえで、6月にまとめる予定の中間意見では「臓器移植について、この日の論議のたたき台となった文書よりも、もう少し踏み込んだ方がいいという意見がある一方、もう少し議論をつくしてからとの意見もある」と述べた。

## ◆全腎協総会・北海道大会に向け結束あらた

全腎協第22回総会が、北海道札幌市で行われることが決定しました。地元札幌腎友会では会員に協力を呼びかけ、意志統一をはかり、受け入れ準備体制に取りかかりました。

幹事会・委員会及び各行事、日帰り“ふとみ銘泉の旅”(6月)など1年を通し行い、会員拡大と組織強化に努め、結束をはかりました。



全腎協大会の資料作成

## 社会の主なできごと

- 4月1日 スバイク規制法スタート
- 4月16日 ゴルバチョフ大統領来日
- 5月14日 信楽高原鉄道で衝突事故  
死者42人、重軽傷者614人を出す大  
惨事を出す
- 6月3日 雲仙・普賢岳で火砕流
- 9月30日 経済企画庁は9月の月例経済報告で今  
回の大型景気が戦後最長の「いざなぎ  
景気」を超えたことを確認
- 10月29日 ウトナイ湖を「ラムサール条約」に登  
録
- 11月5日 宮沢首相誕生
- 12月6日 元慰安婦が日本政府を相手取り、賠償  
請求
- 12月17日 北大で道内初の生体肝移植
- 1月13日 共和汚職で阿部文男(本道3区)元道  
開発庁長官を逮捕
- 2月14日 佐川事件で、政界大混迷  
捜査の過程で「皇民党事件」が明るみ  
に出、後に金丸信氏が自民党副総裁辞  
任、衆院議員辞職、竹下派会長辞職へ  
と至る
- 3月1日 暴対法施行
- 3月9日 登別の熊牧場でヒグマ95頭を殺処分
- 3月17日 道央道で186台玉突き衝突



# 1992(平成4年度)

- 全国患者総数 123,926名
- 札幌腎友会会員数 850名
- 全道患者総数 5,514名
- 国会請願署名数 6,903筆
- 札幌圏患者数 1,985名
- 会員施設数 33カ所

### ◆綿貫・自民党幹事長 問題発言!!

自民党の綿貫民輔幹事長が帯広市の講演会で「(人工透析患者は)年間1人当たり700万円(の医療費)がかかる。これは国の丸抱え。人工透析をやらないだけでもお国のため」などと発言した。全腎協では、同幹事長に強く抗議、謝罪を求めた。

申し入れでは人工透析の医療費の公費負担部分は月額最大1万円で、大部分は医療保険財源に依存していることなどをあげて、発言は「事実誤認もはなはだしい」とし、「医療費が高額であることを理由に、『透析をやめろ』というがごとき発言は、経済効率優先の生命軽視の発言」と批判した。

### ◆第22回全腎協総会 北海道大会開催

平成4年5月24日、札幌市教育文化会館において1,177名の参加で開催された。

前日には、定山溪ホテルにおいて、道内から

295名、道外から341名の参加による大交流会が行われた。

当日の総会は、6分科会に分かれての討議を含め15時30分に終了し、臨時透析をうける会員250名がそれぞれ透析施設へ向かいました。

全腎協が結成されて以来初めて、北海道で開催された総会のため、開催地である札幌腎友会の幹事役員をはじめ、道腎協の実行委員、会員や難病連からのボランティアの方々、皆力を合わせて大会を盛り上げ終了した。



全腎協総会北海道大会 (教育文化会館)

## 社会の主なできごと

- 4月22日 北方領土とビザなし交流始まる
- 4月26日 「キヤッツ」が40万人動員し閉幕
- 5月7日 細川前熊本県知事が新党結成
- 5月8日 横綱北海道が引退発表
- 5月30日 暴対法施行。お礼参り映画の伊丹十三監督が襲われる
- 6月15日 国会で国連平和維持活動(PKO)法が可決、自衛隊の海外派遣可能となる
- 7月1日 「新千歳」の旅客ビル開業
- 7月27日 バルセロナ五輪で岩崎恭子選手(中学2年)が金メダル
- 8月10日 PKO協力法施行。適用第1号9月アングラ派遣
- 8月28日 バブル経済崩壊で政府は10兆円の大型景気対策を打ち出す
- 9月12日 道産子宇宙飛行士、毛利衛さん米スペースシャトル「エンデバー」で宇宙に
- 9月28日 三井芦別鉱が閉山
- 9月30日 札幌道が全線開通
- 10月1日 エイズ感染、急増の一途。前年の2・4倍、424人に達した
- 10月23日 天皇が初の中国訪問
- 11月27日 貴花田関と宮沢りえさんが婚約発表
- 12月12日 宮沢改造内閣スタート
- 1月6日 皇太子妃に小和田雅子さん婚約内定
- 2月3日 NHKスペシャルでやらせ発覚
- 3月6日 金丸信前自民党副総裁逮捕



# 1993(平成5年度)

■全国患者総数	134,298名	■札幌腎友会会員数	905名
■全道患者総数	6,170名	■国会請願署名数	6,607筆
■札幌圏患者数	2,175名	■会員施設数	35カ所

## ◆「障害者基本法」の成立

障害者の自立と社会、経済、文化その他あらゆる分野への参加を促進するため「心身障害者対策基本法」が大幅改正され、法律の題名も「障害者基本法」と改められた。

国や自治体において施策の推進が図られてきたが、これをより実質的なものとするため、障害者の活動を制限し、社会への参加を制約している諸要因を除去するとともに、障害者が自らの能力を最大限発揮し、自己実現できるよう支援していくことが求められ、障害者を取り巻く社会経済情勢の変化等に対応し、障害者の自立と社会参加の一層の促進を図るため、今回の改正が行われた。

## ◆サボテンの会初ドライブ

青年部（サボテンの会）は5月23日(日)に初めての行事として室蘭・地球岬へのドライブをした。男性5人女性3人のメンバーがマイカーに

分乗し、地球岬、昭和新山、洞爺湖等を観光し、交流を深め楽しい1日を過ごした。

## ◆長野県の川野さん訴訟を起す

長年タクシー運転手をしてきた川野征智さんは、透析を始めたために会社からタクシー勤務は出来ないとされ一方的に解雇され、それを不服として裁判を起こした。全腎協は長野県腎協とともに支援組織を結成し、厚生・労働両省前でのチラシ撒き、裁判長への公正裁判を求める署名提出などを行った。



サボテンの会のドライブ（室蘭地球岬）

## 社会の主なできごと

- ◎ 長雨や異常低温、台風の影響で米作地帯は軒並み凶作に見舞われ、戦後最悪の記録。政府は200万〜1220万トンのコメの緊急輸入を決定した。
- ◎ 2月12日から行われた、リレハンメル冬季五輪で道産子活躍！
- ◎ 4月3日 春の選抜に駒岩旋風、本道チームとして30年ぶりのベスト4へ
- 4月9日 第2次PKO、カンボジアへ向け派遣
- 5月15日 Jリーグ開幕
- 6月8日 皇太子様ご結婚
- 6月9日 釧路でラムサール会議。世界の湿地の保護や利用、国際協力を討議
- 7月12日 M7・8の「北海道南西沖地震」が奥尻島を中心に檜山沿岸をおそい、死者202人、不明29人、家屋全半壊994棟。被害総額1243億円の大惨事となる
- 8月6日 横路知事が戦後初の北方領土訪問
- 8月9日 細川連立政権が誕生
- 9月13日 中東和平へ、25年におわたるパレスチナ紛争終結の第一歩「パレスチナ暫定自治宣言」
- 11月30日 オランダ議会は、不治の病の患者に対する安楽死法を成立
- 12月6日 米国で短銃購入に犯罪歴調査機関を設ける「短銃暴力防止法」が成立
- 12月16日 ガブトデコム佐藤社長逮捕
- 3月4日 田中角栄元首相が死去
- 3月4日 政治改革法が成立



# 1994(平成6年度)

■全国患者総数	143,709名	■札幌腎友会会員数	975名
■全道患者総数	6,557名	■国会請願署名数	7,833筆
■札幌圏患者数	2,391名	■透析台数	1,152台
		■施設数	55ヵ所
		■会員施設数	35ヵ所

## ◆結成20周年記念事業実施

札幌腎友会結成20周年の記念事業として、記念誌の発行と祝賀パーティが開催された。

記念誌は、会員の手記の他、腎臓病をめぐる今日までのあゆみ・役員名簿・札幌市透析施設名簿・会員名簿等の資料が掲載され、会員などに向けて1,200部発行する。

祝賀パーティは10月23日(日)ホテルKKR札幌にて、会員・家族150人余りが集まり開催された。

来賓の今先生・田島先生・平野先生・岩崎道腎協会長よりご祝辞をいただき、長期透析者(20年以上55名・10年以上179名)の表彰が行われ、表彰者には一人ひとり鈴木会長より表彰状と記念品が手渡された。

その他、小樽後志地方腎友会・旭川地方腎友会・深川腎友会・室蘭地方腎友会からの来賓を迎えて、津軽三味線のアトラクションやお楽しみ抽選会等の催しで大いに盛り上がった。

## ◆有料道路5割引に！

10月1日より、身体障害者本人または家族が所有する乗用車を運転する(乗車する)場合、区の福祉課で通行料金割引証の交付を受ければ、通行料金が5割引になる制度が実施された。

## ◆HSKに加入！

HSK(北海道身体障害者団体定期刊行物協会)に加入し、機関紙“生きる仲間”が低料第三種に認可され、郵送料が安くなった。



20周年記念式典(ホテルKKR札幌)

## 社会の主なできごと

### ◎平成のこめ騒動

93年の冷夏による凶作でこめ不足が深刻化し、政府はこめを緊急輸入！

4月4日	函館—ユジノサハリンスク定期航空路
4月26日	名古屋国際空港で中華航空機墜落26人死亡
6月23日	新千歳空港24時間運用開始
6月27日	長野県松本市の住宅街に神経ガス「サリン」
6月29日	自・社・さがげ連立 村山政権誕生
7月19日	アイヌ民族として初の国会議員誕生！菅野茂さん参院議員に
10月4日	M8・1北海道東方沖地震
10月13日	大江健三郎氏にノーベル文学賞
11月10日	前恵庭市長ら自治体首長の汚職相次ぐ
11月25日	税制改革四法が成立
11月27日	いじめ苦に遺書残し自殺 愛知県中学2年生、いじめの実態を克明に残す
12月6日	種痘禍訴訟24年ぶり原告の全面勝訴
12月7日	奥尻島の災害復旧工事現場への救難ヘリ墜落、5人死亡
1月6日	雌エゾシカ猟が74年ぶりに解禁
1月17日	阪神大震災。M7・2死者5、502人、約31万人が避難
2月2日	北洋銀が国内初の懸賞金つき口座
2月20日	網走で観光砕氷船8時間40分立ち往生
3月18日	空知炭鉱が閉山
3月20日	オウム地下鉄サリン事件



# 1995(平成7年度)

■全国患者総数	154,413名	■札幌腎友会会員数	1,030名
■全道患者総数	7,105名	■国会請願署名数	7,819筆
■札幌圏患者数	2,522名	■透析台数	1,199台
		■施設数	53カ所
		■会員施設数	42カ所

## ◆おそろいのTシャツ着て

### STV24時間チャリティーに参加

札幌腎友会と道腎協共催で“愛は地球を救う”STV24時間チャリティーの番組に参加した。腎友会は永年、腎臓の大切さ・腎臓病の怖さ・治療法の早期確立など様々な形で社会への啓蒙活動をしてきたが、違った意味での社会への貢献があってもいいのではないかと、番組に企画書を提出し参加が実現した。

参加者は8月26日午後7時から翌27日午後8時まで、それぞれ担当の時間を決めて事務局のある喫茶クインテスを舞台に募金活動を展開した。TV番組と同時に腎キャンペーンも行われ、交差点でキャンペーンチラシ・ティッシュ・風船等を配り、市民に呼びかけた。

札幌腎友会の他にも、室蘭地方腎友会・小樽後志地方腎友会からの応援があり、参加者はのべ40名だった。

## ◆腎登録拡大街頭キャンペーンに

### 着ぐるみ現われ大活躍!!

9月10日、道腎協と合同の腎キャンペーンが実施され、今年度より始めたPR作戦のための着ぐるみに、透析患者の柳沼正一氏と佐藤功氏が入り、ちびっ子の手荒い歓迎を受けた。

## ◆どうする災害時の透析医療(シンポジウム)

阪神淡路大震災では多くの透析施設でライフラインが寸断された。各界災害対策担当者に非常時の透析医療について方策を探った。



STV24時間チャリティー(喫茶クインテス前にて)

## 社会の主なき1年

4月9日	統一地方選で無党派旋風 東京で青島幸男氏、大阪で横山ノック氏
5月25日	堀達也氏が知事初当選 都銀11行が決算結果発表 不良債権総額8兆円に 金融不安一気に高まる!
5月28日	サハリン北部で大地震
6月21日	羽田発函館行き全日空機ハイジャック
7月23日	参院選で社会党大敗
8月1日	北大で国内初の遺伝子治療
8月27日	北海道マラソンで有森裕子が復活V
9月3日	JR深名線廃止
9月19日	泊原発の使用済み核燃料搬出
10月18日	道の公費乱用発覚
10月21日	沖繩の怒り、県民総決起大会に8万5千人
11月9日	野茂選手、メジャーリーグでも新人王!
12月6日	山口元労相逮捕
1月9日	生活直撃、記録的な豪雪
2月10日	豊浜トンネル事故
3月2日	本道初のプロスポーツチームの愛称が「コンサドーレ札幌」に決定
3月5日	駒ヶ岳が54年ぶりに噴火
3月14日	薬害エイズ和解へ ミドリ十字の役員床に手をつき謝罪 菅直人厚相(当時)が国の責任を認め謝罪



# 1996(平成8年度)

■全国患者総数	167,192名	■札幌腎友会会員数	1,116名
■全道患者総数	7,512名	■国会請願署名数	8,334筆
■札幌圏患者数	2,682名	■透析台数	1,281台
		■施設数	54カ所
		■会員施設数	45カ所

## ◆福祉タクシー利用券の拡充を求める 請願が採択される!!

札幌腎友会では、福祉タクシー利用券の拡充を求める請願署名を、アンケートと一緒に7月末より取り組み、1万771筆の署名簿を9月24日に札幌市の議会事務局に提出。

その後、札幌市の厚生常任委員会で取り上げられ、10月4日、午前10時より委員会で村本副会長が代表で主旨説明を行いました。

当日は、札幌腎友会からの8名を含め約100名の方が傍聴し、席上、村本副会長は、先に資料として提出済みのアンケート結果を集約したものから特に、通院の為に交通手段と、それに要する月額ガソリン代及びタクシー代について説明を行い、「透析患者は、雨の日も、雪の日も、その年齢のいかに拘らず、指定された日の指定された時間に人工透析のために通院せねばならない宿命にある。」と訴えました。

10月25日の厚生常任委員会で、全会一致で採択され、28日の本会議においても採択される。

平成9年4月より、福祉タクシー利用券が年間48枚から60枚に拡充されました。

## ◆全腎協事務局ニュースより

日本透析医学会は、1995年末の透析患者15万4千人（前年比1万704人増）は患者の高齢化・糖尿病性腎症の患者の増加（原疾患32%）の一方、長期透析患者の増加が特徴と報告されました。



札幌市の厚生常任委員会で主旨説明をする村本副会長

### 社会の主なできごと

- ◎ 道庁不正20億円突破!
- ◎ 道議会前年度決算を2年連続で不認定  
全国でO157禍!
- 4月12日 普天間飛行場について「5〜7年以内に全面返還する」ことで合意
- 5月10日 「住専」へ財政資金6850億円投入、住宅金融債権管理機構は中坊公平氏を社長に迎え債券回収を始めた
- 5月31日 サッカーの2002年ワールドカップ(W杯)、日韓による史上初めての共同開催、札幌でも開催決まる
- 6月7日 第5回YOSAKOIソーラン祭り
- 7月13日 大阪府の小学校でO157による集団食中毒が発生。7月以降、全国に広がり死者11人、患者数9000人を超えた
- 7月23日 アトランタ五輪、柔道女子61キロ級で恵本「金」
- 8月4日 原発建設の賛否を全国で初めて、新潟県巻町で住民投票「原発ノー」反対票6割を超えた
- 9月1日 北広島市、石狩市が誕生
- 11月15日 北海道国際航空旗揚げ
- 12月1日 北電は泊原発3号機建設に向けアセスメントの調査を始めた
- 12月4日 厚生省汚職で逮捕
- 12月5日 原爆ドーム、世界遺産に。戦争遺跡としてアウシュビッツ強制収容所に次ぎ2件目



# 1997 (平成9年度)

■全国患者総数	175,988名	■札幌腎友会会員数	1,323名
■全道患者総数	8,096名	■国会請願署名数	11,275筆
■札幌圏患者数	2,853名	■透析台数	1,313台
		■施設数	56カ所
		■会員施設数	50カ所

### ◆道腎協20周年記念事業（札幌大会）の開催

5月24日(土)、前日の交流会（定山溪温泉）で、参加者を趣向こらした催しで迎える。

札幌腎友会で一座（13名）を旗揚げ、台詞・演技練習・衣装（化粧）、大・小道具と本格的なものになり、悪戦苦闘しながらも何とか乗り越え、幕が上がりました。寸劇“ポケどっち”（とぼけた老人と看護婦さんのやり取りで始まり、途中にはメキシカンロックの不思議な登場者もあり、大いに笑って（驚きの顔？）頂きました。他に梅后流江戸芸かっぽれ踊りやゲーム大会等が行われ、若さと勢いで、皆様のご協力のもと札幌の意気込みを見て頂きましたが、満足頂けたかどうか定かではありません。

道腎協定期総会参加者数 270名。

### ◆青年部「サボテンの会」 7月キリンフェスティバル“97千歳”で腎キャンペーンに参加。

9月には月形皆楽園で炊事遠足を開催する。

### ◆健保本人1割負担→2割負担へ（9月）

老人保険入院時・外来時負担率引き上げ、外来薬剤費一部負担など制度改悪となる。

### ◆臓器移植法の成立

10月、脳死者からの臓器提供（脳死判定を受ける）は生前本人が意志を明らかにして、文書で承諾をしていた場合に限定された条件となる。腎提供者拡大街頭キャンペーン開催。「臓器移植法施行」成立後初の街頭運動の為、社会的関心も高くマスコミの熱心な取材がありました。



キリンフェスティバル“97千歳”での腎キャンペーン

## 社会の主なできごと

4月1日	消費税率が3%から5%に引き上げられる
5月8日	アイヌ文化法が成立
6月4日	神戸の小6男児殺害事件で「酒鬼薔薇聖斗」の犯行声明
6月17日	6月28日、同事件で中3男子を逮捕
7月15日	「臓器移植法」が成立
7月15日	「時のアセスメント」対象事業を公表
8月9日	アテネの世界陸上女子マラソンで鈴木博美選手が金メダル
9月5日	米空母「インディペンデンス」が小樽に入港
10月14日	道の官官接待に違法判決
10月22日	コンサドレ札幌JFLで優勝「Jリーグ昇格」へ
11月16日	W杯フランス大会に、初出場を決める
11月24日	山一証券が自主廃業を決め、金融不安の拡大続く
11月25日	米スペースシャトル「コロンビア」に搭乗した土井隆雄さんが日本人初の宇宙遊泳を行う
2月3日	道の不正経理 最悪78億円で全国ワースト1に
2月7日	冬季オリンピック長野大会開幕。日本は、岡部・齋藤・原田・船木選手が出場したジャンプブラージュヒル団体が金メダルを取った



# 1998(平成10年度)

■全国患者総数	186,251名	■札幌腎友会会員数	1,374名
■全道患者総数	8,903名	■国会請願署名数	12,927筆
■札幌圏患者数	3,005名	■透析台数	1,429台
		■施設数	57ヵ所
		■会員施設数	55ヵ所

### ◆文化・交流活動で「映画鑑賞会」を実施

8月、映画鑑賞会を開催、話題作「タイタニック」に会員58名参加。「恋愛」「冒険」「スリル」三拍子そろった内容で大画面、大音響の迫力ある映画に胸を打たれた方も多くいました。

○7月、第1回幹事会開催。導入期の患者さんへパンフレット「透析になったら次の手続きをしましょう」を作成、学習会の実施。

### ◆川野訴訟勝利報告集会

川野さんの職場復帰が可能となる。(8月)

○9月、幹事会

①「サポテンの会」、若い会員が減少休会。

②札幌腎友会役員候補選考委員会の設置。

運営委員、若干名の新戦力を担う役員育成の場として設けることを提案

③CAPD・車椅子などの行事参加について。

屋外での参加は原則事前に連絡を頂く。CAPD患者の場所の確保。又車椅子では家族・各

スタッフなどの介護で開催場所まで来て頂く。その後の受け入れ体制準備。尚、総会への参加は可能な限り受け入れ。

### ◆NPO法（特定非営利活動促進法）が成立

ボランティア・社会貢献活動を行う非営利活動団体に法人格の手続き、制約が大幅に簡素化される。

### ◆家庭透析に保険適用（診療報酬改定）

離島など医療機関のない所でも透析が出来、社会復帰に有利。健保適用で選択肢が増える。



幹事会で熱心に討議する役員

## 社会の主なできごと

4月1日	金融制度を抜本的に改革する日本版ビッグバン始動
4月18日	エリツイン大統領来日
5月2日	人気ロックグループ「X JAPAN」hideさん自殺
5月11日	インドが核実験、対立してパキスタンも初の実験を行った
5月27日	史上初の若・貴兄弟横綱誕生
6月3日	YOSAKOI最多280チームに
6月10日	サッカーW杯地元元気が初V
6月13日	室蘭港にかかる白鳥大橋開通
7月21日	タジキスタンで国連監視団の秋野豊さん(小樽出身)射殺される
7月25日	和歌山毒カレー事件
8月7日	「不適切な関係」米大統領認める
8月31日	北朝鮮「テポドン」発射。日本へ向け発射、列島を飛び越し太平洋上に落下した
9月1日	北海タイムス廃刊
9月6日	世界の黒沢監督死去
10月8日	横浜ベイスターズ38年ぶり優勝
10月23日	長銀破たん、一時国有化
11月16日	拓銀営業譲渡
12月6日	コンサドレ監督に岡田氏
12月20日	エア・ドゥ(北海道国際航空)就航
1月1日	ユーロ誕生 欧州新通貨が始動
2月3日	道の不正経理最悪78億円に。返還額22億円、延べ8300人処分
2月28日	臓器移植法施行後、初の脳死移植
3月11日	国内最大級の複合商業施設「マイカル小樽」が小樽市築港にオープン



# 1999(平成11年度)

- 全国患者総数 197,213名
- 北海道患者総数 9,519名
- 札幌圏患者数 3,324名
- 札幌腎友会会員数 1,378名
- 国会請願署名数 12,587筆
- 透析台数 1,403台
- 施設数 63カ所
- 会員施設数 54カ所

### ◆結成25周年記念式典並びに祝賀会の開催

ホテルKKR札幌においてご来賓・会員家族を含め116名の参加者で開催されました。

長期透析表彰者355名。祝賀会では「梅后流江戸芸かっぽれ」踊り披露、その他会員全員に記念品が渡されました。(10月)

○6月、栗山パラダイスヒルズ日帰り温泉の旅。この年をもって春のレクはピリオド。

○保健福祉局高齢福祉部と介護計画の担当者に面会。介護保険制度に通院の為の透析患者移送を単独事業として行うよう要請。又低所得者の減免措置の要請。(7月)

障害福祉課にも面会、透析患者の通院ヘルパーについては申請をすれば審査の上でヘルパー制度等の対象となることを確認。

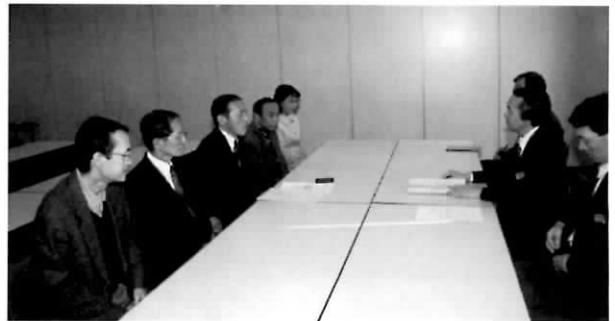
### ◆JPC「がんばれ難病患者日本一周激励マラソン」開始(7月25日～11月26日)

マラソンを通して全国へ向けてアピール。

### ◆第1回臓器移植推進全国大会開催(札幌)

10月、第19回腎提供者拡大街頭キャンペーンを平日に実施、午後より第1回臓器移植推進全国大会を支援。1,800名を越える来場者で厚生大臣感謝状授与式、心臓移植者による体験発表、ピアノコンサートも行われました。

◆札幌市長へ「要介護透析患者の通院に関する要望書」を提出。(12月) 移送サービスと要透析患者通院介助事業の実施及び介護保険料の減免措置を講じて頂くようお願いする。



札幌市へ要望書を提出する腎友会役員(左側)

日	出来事
3月31日	有珠山が23年ぶり噴火
3月26日	ロシア大統領にプーチン氏保護
1月28日	新潟県三条市で、監禁の女性9年ぶり保護
12月21日	大阪府横山ノック知事が辞職
11月21日	コンサドーレJ1ならず
10月30日	松坂(16勝)を表彰
10月15日	プロ野球新人王、セは上原(20勝)、パ
10月12日	作家・三浦綾子さん死去。「氷点」「塩狩峠」などのベストセラー作家
10月5日	「国旗国歌法」など重要法が成立
9月30日	東海村の核燃料施設で臨界事故
8月17日	トルコでM7.4地震発生
7月23日	全日空機乗っ取り男が機長を刺殺
7月16日	米シャトル初の女性船長宇宙へ
7月6日	ケネディ2世、自家用機墜落死亡
6月8日	記録的猛暑! 過去20年間でもっとも暑い夏。
5月21日	JRもレールがゆがむトラブルが相次ぎ、運休が続出
5月4日	宇多田ヒカル、売り上げ日本記録700万枚突破
4月20日	人工ふ化でトキ2世誕生
4月9日	記録的猛暑! 過去20年間でもっとも暑い夏。
4月4日	NATO軍ユーゴスラビアを空爆
4月4日	米コロラド州高校で2人の生徒が自動小銃を乱射
4月3日	「すずらん」鉄道員」のロケが行われた沼田町と富良野が観光客でにぎわい活気づく

社会の主なできごと



# 2000(平成12年度)

■全国患者総数	209,134名	■札幌腎友会会員数	1,504名
■全道患者総数	9,891名	■国会請願署名数	14,550筆
■札幌圏患者数	3,455名	■透析台数	1,446台
		■施設数	63カ所
		■会員施設数	57カ所

### ◆組織強化検討委員会発足（取り組み計画）

- ① 未加入会員・通院介護者等の実態アンケート調査の実施。（8月、4,000部配布）。
  - ・通院介護と通院交通費に関する調査。
  - ・より魅力ある患者会にするために。
- ② 入会のしおり・パンフレットの作成。
- ③ 未加入病院への勧誘対策
- ④ 幹事活動マニュアルの作成。
- ⑤ 事務所移転、事務局員専従体制、設備機器の充実強化。

### ◆介護保険制度の開始（4月）

保険料を納め要介護認定者と認められた場合、訪問介護・在宅・施設サービスが受けられる。

### ◆有珠山噴火災害被災者救援募金運動

札幌での募金集計額、494,072円

### ◆道医療費補助率の引き下げ5年で一律50%

所得制限導入に反対する運動を行う。  
道議会へ反対請願署名（札幌7,741名）

### ◆EPO訴訟第1回公判（5月）

神奈川県国保においてヘマトクリット30を越えるとエポジンが打ち切られ裁判を起こす。

### ◆上田市長へ要望書提出（11月）

札幌市医療助成課と福祉医療課へ訪問、マール障に所得制限を導入しないよう要望する。

回答、社会の情勢が変わって来ているので、公平性から自己負担もやむなしと考えています。

近郊市町村（石狩・恵庭・北広島・当別・南幌・由仁）にも同様に要望書を提出。



アンケートの集計をするメンバー

## 社会の主なできごと

- 4月1日 公的介護保険制度スタート。40歳以上が保険料を負担、65歳以上の要介護認定を受け、介護サービスを受ける
- 4月5日 森内閣発足、小渕氏死去
- 4月17日 札幌市、道など汚職続発
- 5月3日 佐賀県の17歳少年が高速バス乗っ取り
- 6月10日 YOSAKOIで爆発
- 6月27日 雪印乳業の集団食中毒。大阪工場の乳製品による全国で患者数1万3420人
- 7月8日 三宅島噴火し避難
- 7月9日 福岡県で脳死と判定された女性より、道内50歳代男性に腎臓を移植
- 7月12日 そごう倒産、出店拡大戦略の失敗
- 7月25日 コンコルド離陸直後墜落
- 7月27日 札幌、61年ぶり甲子園へ
- 8月14日 ロシア原潜、北海で沈没
- 8月17日 泊原発で作業員死亡
- 9月5日 堀知事は将来の電源需要にこたえため、泊3号機容認
- 9月24日 高橋選手、シドニー五輪マラソンで金メダル
- 10月21日 コンサドレジェ1復帰
- 11月5日 石器発掘ねつ造
- 11月30日 イチロー、メジャーへ
- 12月11日 米大統領にブッシュ氏
- 1月30日 完全失業率が過去最悪に
- 2月21日 エア・ドック経営危機で道に対し財政支援と社長人選を要請



# 2001 (平成13年度)

■全国患者総数	219,183名	■札幌腎友会会員数	1,545名
■全道患者総数	10,561名	■国会請願署名数	15,623筆
■札幌圏患者数	3,761名	■透析台数	1,598台
		■施設数	73カ所
		■会員施設数	56カ所

### ◆タクシーによる介助通院が実施 (札幌2社)

- 1、一般向けでタクシー運賃+介助料 (500円程度)、障害者やお年寄りを乗せて賃走する。
- 2、介護保険を利用、介護認定患者さんを対象にタクシーで送迎、その前後の介護も含む。

○機関誌“生きる仲間”臨時1号の発行

### ◆学生無年金障害者が提訴

20歳以上の学生が国民年金未加入時の障害で、不支給の取り消しを求めた裁判。

### ◆喫茶クインテスの閉店 (9月)

長年札幌腎友会の事務局として機関誌の発行、幹事の方々との打ち合わせ、会活動の連絡、問い合わせの対応にと、村本氏が専従のように活躍し、我々の活動拠点としていた喫茶店が村本氏の体調不良の為、閉店致しました。

10月、事務局を道腎協事務局に間借りする。

○“生きる仲間”PR版第58号、「腎友会はあなたの参加をおまちしております」を発行。

アンケート調査報告の掲載

①通院介護と通院交通費に関するアンケート (全患者対象)

②より魅力ある患者会にするために (7施設) 結果をもとに今後の行政対応等の活用に期待。

### ◆重度心身障害者医療費助成制度 (マル障) に所得制限が導入

札幌市は所得制限 (年課税所得650万円以上) を導入する。恵庭市・当別町も導入する。

北広島市・石狩市・南幌町は導入せず。



喫茶クインテスの閉店をまえに

## 社会の主なできごと

2月2日	雪印食品 国産牛偽装で強制捜査
1月30日	太平洋炭鉱閉山。82年の歴史に幕
1月29日	朝鮮を「悪の枢軸」と名指し
1月1日	ブッシュ大統領、イラン・イラク・北
12月1日	小泉首相が田中真紀子外相を更迭
10月25日	欧州単一通貨ユーロが流通
9月27日	道産子指揮官若松ヤクルトが日本一
9月22日	皇太子妃雅子様長女敬宮愛子さま出産
9月1日	マイカル小樽を運営する「小樽ベイシ
9月1日	死亡
8月4日	道内過去最大の10万人集客
7月27日	世界柔道で旭川出身上野選手V
7月21日	GLAY (グレイ) 野外コンサートで
6月11日	火見物客11人が犠牲
6月8日	道内の信用組合の破たん相次ぐ
6月8日	兵庫県明石市のJR朝霧駅歩道橋で花
6月25日	空自機、北広島リハビリセンターに訓
6月2日	練弾188発を誤射
5月30日	札幌ドームがオープン
5月11日	大阪教育大付属池田小に男乱入し児童
5月11日	8人刺殺
4月26日	小泉氏が第87代首相に。「構造改革」を
	最大の公約に掲げ、「抵抗勢力」との対
	決を演出
	ハンセン病訴訟で原告全面勝訴の判決



# 2002(平成14年度)

■全国患者総数	229,538名	■札幌腎友会会員数	1,551名
■全道患者総数	11,131名	■国会請願署名数	13,814筆
■札幌圏患者数	4,403名	■透析台数	1,792台
		■施設数	83カ所
		■会員施設数	56カ所

◆事務所を道腎協より移転独立開設（4月）  
 札幌市北区北17条西2丁目21番617-301号  
 電話（FAX）707-6789  
 15・16年度役員選考委員会の設置  
 10月、老人医療費1割定率負担を実施。

◆透析医療診療報酬改定の実施

- ①透析時間の一本化(何時間おこなっても1,960点)
- ②食事加算の廃止(外来食事代は自己負担)
- ③慢性維持透析患者外来医学管理料の見直し
- ④日本臓器移植ネットワークが移植を受けた患者から斡旋料10万円を徴収。

障害年金認定基準改定2級（旧法は適用外）

◆福祉定期郵便貯金が廃止となる

○組織強化検討委員会より報告

- 1、入会のしおりの作成・配布。
- 2、透析導入期患者向けのパンフレット配布。
- 3、アンケート調査・分析報告済み。

- 4、事務所の開設、設備・備品体制の整備済み。
- 5、幹事マニュアル作成済み。
- 6、新病院等への理解と入会のお願い。  
 今年度をもって委員会を一応の終了とする。  
 各施設の食事代自己負担状況調査（報告）

◆「自動車燃料助成券」の配布制度追加なる

札幌市では平成15年4月より重度心身障害者（透析患者身障者一級）への交通費助成制度に「自動車燃料助成券」が追加選択出来るようになりました。



移転独立した新事務所での仕事風景

社会の主なできごと

- 4月1日 定期性預金のペイオフ解禁
- 4月8日 通常国会は「政治とカネ」をめぐるスキャンダル国会化し、辻元清美・加藤紘一など辞職が相次いだ
- 5月8日 中国が日本総領事館から亡命者連行日韓共催でサッカーW杯
- 5月20日 今世紀初めての独立国「東ティモール民主共和国」誕生
- 6月19日 鈴木宗男衆院議員を取賄で逮捕
- 7月9日 プロ野球日本ハム札幌移転決まる
- 7月10日 道警警部、覚せい剤使用容疑で逮捕
- 9月17日 首相が初訪朝。金正日総書記は日本人拉致を認め、謝罪、被害者5人の生存、8人の死亡を伝える
- 9月27日 西友元町店で偽装肉返金騒動
- 10月8日 ノーベル賞に小柴、田中両氏
- 10月12日 インドネシアバリ島爆弾テロ
- 10月15日 拉致被害者5人（地村・蓮池夫妻と曾我ひとみさん）24年ぶりに帰国する
- 10月16日 北朝鮮、核開発認める
- 11月1日 巨人の松井選手、大リーグへ
- 11月8日 国連安保理、対イラク決議を採択
- 1月20日 横綱貴乃花が引退
- 2月1日 米スベースシャトル「コロンビア」炎上、7人全員死亡
- 3月6日 JRタワーが開業
- 3月23日 「千と千尋の神隠し」にアカデミー賞



# 2003(平成15年度)

■全国患者総数	237,710名	■札幌腎友会会員数	1,488名
■全道患者総数	11,072名	■国会請願署名数	15,490筆
■札幌圏患者数	4,457名	■透析台数	1,922台
		■施設数	96ヵ所
		■会員施設数	60ヵ所

◆EPO訴訟判決、原告勝訴（2月横浜地裁）  
 医師の裁量においてヘマトクリット30を超えてもエポジン使用が出来るように成る。

◆マル障制度に1割負担導入の危機  
 H15年12月、道庁担当より突然の通知。  
 H16年1月、緊急ブロック会議をへて道腎協・各地域腎友会より知事への要望書提出、各会派への要望及び紹介議員への要請。

北海道（札幌）において請願署名運動。  
 2月開催の定例道議会議に請願署名の提出。  
 （署名数57,038名、紹介議員31名）

札幌腎友会では2月5日、市役所の医療助成課を訪れ、上田市長へ「重度心身障害者医療給付事業」見直しへの反対要望書を提出する。

今回の見直しが実施されると通院で12,000円、入院で月額40,200円の負担となる。

マル障が無かった時代に戻り、肉体的にも精神的にも追いつめられ、透析患者は非常に苦し

い立場に追いやられることを訴える。  
 又、札幌近郊市町村（石狩市・北広島市・恵庭市・当別町・南幌町・由仁町・厚田村）に於いても各在住担当者より要望書を提出する。

“生きる仲間”臨時8・9号、マル障制度見直しの解説、活動経過報告。高額所得者（マル障除外者）の薬代は償還払いを受けられる。

幹事・会員さんへ道議会議員の紹介をお願い。

### ◆健康保険本人3割負担

今後において透析患者にも負担の危機が。



札幌市・医療助成課で要望書を提出する会長・事務局長



故 宮本好和 相談役

社会の主なできごと

2月18日 江差でタイヤが直撃2人死傷 1月12日 鳥インフルエンザで鶏が大量死 12月13日 米軍がフセイン元大統領を拘束 11月29日 イラクで日本人外交官2人死亡 9月26日 十勝沖で震度6弱、苫小牧で原油貯蔵タンク炎上 9月15日 阪神18年ぶりセ・リーグ優勝 8月5日 北海道日本ハム誕生、新庄入団 7月21日 北島が世界水泳平泳ぎ2冠 7月9日 長崎の幼児誘拐殺人で中1生補導 6月20日 福岡で一家4人殺害、容疑者は中国人 6月6日 札幌大名義貸して処分、他大学でも有事関連法などが成立 6月6日 有事関連法などが成立 5月22日 三浦雄一郎さん、70歳でエベレスト登頂に成功 4月24日 オウム松本被告死刑求刑 4月13日 道知事に高橋はるみ氏、札幌市長に上田文雄氏	◎ 10年ぶりの冷害 道内コメ軒並み不作 ◎ SARS多発、WHOが注意報
---	--



# 2004(平成16年度)

■全国患者総数	名	■札幌腎友会会員数	1,485名
■全道患者数	11,212名	■国会請願署名数	14,506筆
■札幌圏患者数	4,316名	■透析台数	1,953台
		■施設数	87ヵ所
		■会員施設数	61ヵ所

### ◆マル障制度に1割負担導入(10月)

北海道は4月1日付で、道市町村民税課税世帯に医療費の一割負担(通院12,000円上限・入院で40,200円上限)見直しを各市町村に通知。

### ◆札幌市マル障制度見直し決定

1ヶ月の自己負担(通院)院内処方の場合、透析施設に6,000円の自己負担。院外処方の場合、透析施設に3,000円と薬局に3,000円を限度に1割の自己負担となる。(入院)1ヶ月40,200円の上限額を超えた額は償還払い。

(更生医療とマル障制度との併用が可能)

札幌市近郊市町村は道の通知内容どおり。各市町村長へ2度目の要望書提出。

8月、薬局も更生医療指定機関でなければならない事が判明。道更生医療担当課へ抗議。札幌市上田市長へ更生医療指定機関の未整備での実施延期及び見送りを要請。

### ◆マル障・更生医療制度説明会を4区で実施

### ◆学生無年金訴訟で原告側が勝訴

20歳以上の学生が国民年金未加入時の障害で基礎障害年金不支給の取り消しを求めた裁判。

### ◆年金改革関連法がいよいよ実施

10月に厚生年金保険料の引き上げ(毎年0.354%引き上げ)。国民年金保険料の引き上げ。年金受給額の抑制(来年4月から)。

### ◆札幌腎友会結成30周年記念事業実施

記念の集い参加数109名、長期透析表彰者461名、30周年記念誌の発行。



医療費助成制度の説明会



故 村本徳雄 副会長

**社会の主なできごと**

4月8日	イラクで邦人3名武装団に拘束
4月	空前の韓流ブーム、ヨン様来日
5月3日	硫酸ピッチを組織的不法投棄(日高浦河町)
5月22日	拉致被害者家族が帰国
6月10日	道新幹線着工決定
6月	台風ラッシュ上陸は過去最多
7月	全道で猛暑、真夏日14日
7月15日	日歯会長、元橋本首相に1億円発覚
8月9日	石狩市内の女性殺人事件、高1男子逮捕
8月22日	駒大苫小牧高が甲子園初優勝
9月13日	道警が組織的裏金づくり認め陳謝
9月18日	プロ野球で初めてのスト
9月21日	北海道日本ハムファイターズ旋風
10月1日	イチロー258安打、84年ぶり新記録
10月23日	新潟中越地震最大震度7
11月3日	米大統領にブッシュ氏再選
11月14日	紀宮さま都職員黒田氏と婚約内定
12月1日	道内合併第1号、新「函館市」誕生
1月6日	スマトラ沖大地震、インド洋大津波

## 腎臓病との戦い

腎臓。一日千五百リットの血液をろ過し、有害な物質を尿に送り出すフィルターである。このフィルターに故障の起きているわが国の腎臓病患者は、子どもから老人まで約五十万人。うち毎年一万人が尿毒症で死亡している。医学の進歩が生んだ人工腎臓は、尿毒症患者の血液を洗い、何年でも命を延ばす「いのちの綱」である。ところがその絶対数が足りない。多くの患者から選ばれて、やっと人工腎臓を使用できても、月々の治療費は四十万円。健康保険の本人ならよいが、一部負担のある家族だったら治療費に押しつぶされかねない。それが尿毒症患者の現実である。確実に助かるいのち綱をどの患者にも差しのべる道はないのだろうか。厚生省はさる一日「腎不全対策調査委員会」を結成、やっと患者の実態調査に乗り出した。

① ある少年の蒸発

## 治療費 月に40万円

### いのち綱・人工じん利用つづかず

2月25日（木曜日）午前10時 いつもの木曜日だと大山一陽君（七）は慶応大病院のベッドで、人工じんの血液透析を受けているところだ。じん臓病が悪化してうまく働かなくなると尿毒症が起こる。このためになったじん臓の代わりに、人工じんで血液をろ過し、有害な物質を取り除くのが血液透析だ。

一陽君の通院日は毎週月曜と木曜で、この日も午前七時に横浜市保土ヶ谷の家を出た。市内バスで横浜駅へ向かい、横須賀線に乗って品川駅で下車、さらに都営バスに乗りかえ、おそくとも八時半には病院に着いているはずだった。

一陽君の通院は三年前から始まり、まだ一度も血液透析に遅れたことはなかったのに、この日はいくら待っても姿を見せない。主治医の大沢炯（あきら）医師が一陽君の自宅に電話した。「もう着いているはずだ」という。通院の途中で倒れ、どこかで保護されているかもしれない。大沢医師は横浜―品川間の各駅とバス会社に電話して、少年の保護を頼んだ。念のため神奈川

県警にも保護願いを出した。

午後1時 人工じんを命をつないでいる患者は毎週決まった日に血液透析を受けないと、からだの中に有害物質がたまり、取り返しがつかなくなる。大沢医師は一陽君が交通事故にあったか、駅のトイレで倒れているのではないかと考えた。搜索の網は東京周辺のおもな駅、交通事故の負傷者が運ばれる救急病院にも広げられた。

午後5時 搜索の網はさらに静岡県から埼玉県で広げられた。大沢医師はテレビ局、新聞社に連絡し「あす中に少年を見つけないと、命があぶない」と訴えた。

午後11時 テレビで「じん臓病少年行方不明」のニュースが何度か流れた。一陽君がいつ見つかるかもしれないので、病院は人工じんを動かせる手はずを整えた。だが、何の手がかりもつかめない。どこへ行っただろうか。

一陽君は小学校一年生のとき、急性じん炎にかかり、三か月間通院した。その後すっかりよくなり、本人も家族もじん臓病のことを忘れていた。再発したのは四十三年二月。野球とボウリングの好きな一陽君が「足がだるく、体操の授業はいやだ」と訴えるので父親の薫さんは病院に連れていった。診断の結果はじん臓病の末期といわれる尿毒症。医師は「あと一週間もたない」と言い渡した。大山さんは大病院や

大病院をかけずり回った。人工じんという機械があって、それにかければ助かるかもしれないとある医師が教えてくれたからだ。

大山さんが、アメリカで人工じんを学び帰国したばかりの大沢医師（当時、横浜市の腎友病院勤務）に会い、同医師が神奈川済生会病院の人工じんを借りる手はずをつけてくれたのは、尿毒症と診断されてから一週間目の夜。このときはすでにこん睡状態で「あと数時間の命」と宣告されていた。深夜の血液透析ははじまった。二回目の透析で意識を回復、三回目で食事ができるようにになった。一陽君は助かった。

26日午前1時 滋賀県草津市の商業高瀬隆雄さん（五）から大山さんの自宅に電話があった。「京都から草津に帰る列車の中で、さびしそうにしていた一陽君に会い、家に連れて帰った」という。一陽君は家出を決意、横浜駅から熱海―大阪―京都へ行き、あてもなく汽車に乗ったとき保護されたのだ。大山さんの親類の人たちが草津へ車を走らせた。

午後3時 新幹線で帰ってきた一陽君の血液透析が始まる。大沢医師は「血中のカリウムや尿素チッ素などがかなり上昇し、障害の起こる一歩手前だった」と診断した。

## 「親にすまない

ボクさえいなければ…」

一陽君はなぜ家出をしたのだろうか。い  
のち綱を放棄することが何を意味するか。  
それは一陽君自身が一番よく知っている。  
家出のとき持っていたシオルダーバックの  
底には両親や医師、看護婦にあてた遺書  
が、しのばせてあった。

だが少年はあの日のことを語りたがらな  
い。父親や主治医の話をまとめると、家出  
の動機が浮かび上がってくる。それは患者  
に共通した問題だった。

第一は治療費。健康保険に加入していな  
い場合は、一回の透析に三―四万円いるか  
ら、月八回の透析で平均三、四十万円かか  
る。十割給付の健保本人ならよいが、三―  
五割負担の家族だと九―二十万円かかる。

一陽君の場合、これまでに七百五十万円  
支払った。ホテルを経営する大山さんにも  
この金額はこたえた。「一生、親に負担をか  
ける」という気持ちが一陽君を苦しめたこ  
とだろう。

第二は生活の制約が多く、強い意志の持  
ち主でないと継続治療はむずかしい。まず  
きびしく食事が制限され、塩分と水分を極  
端に減らされる。食べきかりの一陽君にと  
って食事どきは自分との激しい戦いだった

に違いない。

それに血液透析は週二回八時間ずつだか  
ら、学校を休まねばならず、進級できなく  
なってしまうケースが多い。一陽君も透析  
を始めてから一年遅れてしまった。昨年、  
中学を卒業した一陽君は高校進学をあきら  
めた。そして将来の進路に思い悩んでい  
た。さらに「人工ジンにかからず死んでし  
まう人が多い。ぼくがいなくなれば、奥さ  
んや子どもがいて、社会で大切な役割をし  
ている患者が、ひとりでも多く人工ジンを  
利用し、命を長らえることができる」とも  
らしていたという。

一陽君は父親の経営する会社のサラリー  
マンになった。いまは生きること、働くこ  
との意義をかみしめようとしている。少年  
の家出はジン臓病に苦しむ人たちを代弁す  
る「必死の抗議」だったかもしれない。

(昭和46年6月4日付)

### ② 沈黙の病氣

## 前ぶれなく進行

むくみの時、すぐ診療

「ジン臓病がこんなに恐ろしい病氣とは  
知らなかった」大阪・東住吉区の会社員山  
田太郎さん(四四)は何度こうつぶやいたこと

だろう。

山田さんの妻秋子さん(四三)は慢性ジン炎  
から尿毒症になった。そして五月二十四  
日、最後のいのち綱ともいえる人工ジン臓  
で治療するため国立大阪病院に入院した。

主治医の第二循環器科、佐谷誠医長は山  
田さんと呼んで次のように説明した。「この  
ままほうっておくと近いうちに死が確実に  
やってくる。悪くなったジン臓の代わりに  
人工ジンでよごれた血を洗うのが唯一の延  
命法だが、一生寝たきりになるかもしれない」  
山田さんははじめてジン臓病が死と直  
面する不治の病であることを知った。

さらに佐谷医長は「健保でカバーしたと  
しても毎月二十一―二十五万円の治療費がか  
かる。承知しておいてほしい」とつけ加え  
た。山田さんはどんなにつらい思いをして  
も治療費をねん出する覚悟を決めた。足り  
ないときは医療扶助を受けるつもりであ  
る。「妻を生かすも死なすも金次第。感傷な  
どはいり込む余地のないきびしい病氣で  
す」といつている。

ジン臓病を「沈黙の病氣」と表現する人  
たちがいる。自覚症状が少ないからだ。と  
くに慢性ジン炎は自覚がないまま進行する  
ケースが多い。秋子さんもその通りだっ  
た。▽昭和二十六年(二十三歳)カゼのあ  
と顔がむくむ。急性ジン炎と診断され、一  
週間通院治療▽二十八年(二十五歳)妊

娠。たんぱく尿が出たが、お産は順調。出産の後もたびたび検尿するが陰性▽三十四年（三十一歳）ヘントウセン炎のあと、勤務先の会社の健康診断で尿にたんぱくが出る。慢性ジン炎と診断され四か月入院治療。退院後は阪大病院でときどき治療する

▽四十四年（四十一歳）血圧上昇、尿毒症が疑われる▽四十五年（四十二歳）国立大病院で尿毒症初期と診断され、一か月入院▽四十六年（四十三歳）三月ごろ再び血圧上がる。近くの病院へ入院、むくみ、尿量減少、心臓肥大、頭痛、吐き気、意識混濁など尿毒症症状でる。

尿毒症になるまでの約二十年間で、自覚症状のはっきりしているのは最初の急性ジン炎のむくみだけである。それにしても二十年の間に秋子さんの病気をどこかで食い止められなかったのだろうか。佐谷医長は「最初の急性ジン炎のとき一週間で症状がとれ、なおったというが、果たして検尿やジン機能検査など詳しく調べて判定したのだろうか。病気を食い止めるのはこの時期以外に考えられないのでその時点で徹底的に治療すればあるいは慢性化を防げたかもしれない」と残念がっている。

急性ジン炎はカゼやヘントウセンなどの細菌感染症のあとで発病する。病原菌（溶血性連鎖球菌が多い）が抗原となって起こるアレルギー反応による疾患とされている。

る。むくみ（とくにまぶたのはれ）血尿、尿量の減少、食欲不振、むかつき、頭痛などの症状を自覚する場合が多く、チェックしやすい。この段階で治療すればなおり、慢性化しない。

ところが、すべてのジン炎がこのコースをたどるとは限らない。一切前ぶれなく進行し、検尿で異常が見つかったときすでに慢性化しているケースが多く、六五%にもなる。だが慢性ジン炎は尿毒症と考えるのは早計だ。尿毒症まで進むのは約三〇%である。

いずれにしても感染症の予後に細かく注意すること。それ以外にジン炎の予防法はない。沈黙の病は知らぬ間にあなたをねらい、あなたに影のごとくつきまとい続けているかもしれないのだ。

山田さん夫妻の一人むすこ正君（七）は来年高考を卒業、就職する。そうなれば山田さん一人の肩にかかっていた負担も軽くなる。山田さんは「これから楽ができるんだ。いま死んだら損だぞ」と秋子さんを力づけている。人工ジン臓はそれを保証してくれるだろう。（患者と家族の名前はすべて仮名）

（昭和46年6月11日付）

#### ④ 私は助かった

## 人工ジンの威力

末期症状から持ち直す

「目がさめると阪大病院のベッドに寝ていました。三か月前から関電病院に入院していたのにどうして他の病院にいるのかわかりませんでした。阪大の人工ジンがたまたまあって、意識不明のままかつき込まれたのだと聞いて事情のみ込めました。腕につなされたパイプを通して血液が大きな装置に流れる。別のパイプをつたわって血液は再び腕に帰ってくる。それが人工ジンでした。頭はさえ、食欲もある。歩ける気もする。助かったんだという実感がこみあげてきました」

人工ジンで「第二の命」を得た奥山義男さん。四十七歳。ある大手の機械メーカーの課長さんである。いまは奈良県北葛城郡香芝町の自宅で、弟の義治さん（三）が経営するふすま工場を手伝いながら、復職の機会を待っている。

奥山さんは十年前、建築機械販売の専任課長に抜きさされ、建築機械の市場を開拓せよという社名で名古屋に単身赴任した。セールの陣頭指揮者だから東海、北陸地方を車で走り回る日が続く。健康に人一倍

自信のあったモーレッツ課長が、突然、ジン臓病で倒れたのは昨年二月中旬だった。

「顔がむくみ、からだがだるい。急に視力も落ちました。大阪市内の病院で診察を受けたとき、医師は私の顔を見て驚きました。『どこの病院から抜け出してきた』というのです。そして、『命はあと三か月。うちではどうしようもない』とサジを投げました。つまり、ジン臓病は末期状態だったのです」当時を思い出したのだろうか、奥山さんの顔がゆがんだ。

三日後、関電病院に入院。腹膜灌（かん）流（腹腔内に透析液を入れ、腹膜の血液から有害物を取り出す治療法）を何度か受けたが、症状はしだいに悪化し、五月にはいると尿毒症によるこん睡が続いた。妻の静子さん（四五）や会社の人たちは、人工ジンのあいている病院を捜し続け、同月二十一日、やっと阪大病院に運び込んだ。

助かってから奥山さんの人生観はすっかり変わった。人工ジンにかかることもなく死んでいく患者が多いのに数少ない人工ジンを利用できたこと、組合健保の本人だから毎月三十一四十万円かかる治療費も五年間は全額保健でまかなえること、それに元通りの健康を回復できたことに心から感謝している。さらに、いまの健康が医師、看護婦、家族、会社の人たちによってささえられているのを自覚し、その「ささえ」に

答える道は、一日でも長く生きて社会に役立つ人生を送ることだと考えている。昨年六月からは堺市民病院の人工ジンを利用するようにになり、週二回通っている。

せっかく人工ジンにかかりながら、アルコールを飲んだり、塩分と水分を取りすぎで悪化してしまう患者もいる。奥山さんは「こんな患者は自分の命を大切にしないばかりか、命をささえなくてくれている多くの人の期待を裏切ることにならないか」と批判する。奥山さんは節制をきびしく守る。一日の飲み水は三百ccまで、コップ一杯半だ。水がほしくて耐えられないときは口も含んでから吐き出す。塩分の摂取量は一日三〜五g（健康人は十〜十五g）。全く味付けしていない食品でも一日三g程度の塩分が含まれているので、食事はいっさい味付けしていない。「健康人ならいやなことがあるればヤケ酒を飲めばよい。しかし私たちがヤケ酒を飲めばどうなるか。自殺するようなものです。ヤケになっただけはいけません。少々のことではくじけない精神力を持たねばなりません」といっている。

毎朝五時半に起き「般若心経」を写経するのにも心の修養のためだ。昼間はふすま工場の「臨時総務部長」になり、この工場に近代的な経営方式を導入しようと懸命だ。暇を見つけては、患者の組織づくりにあたり、五月二十六日、大阪地方の患者約五十

人で「人工腎親和会」をつくった。からだの調子はよく、一日も早く、復職するのが奥山さんの願いである。

最近、自宅の庭にブランコ、すべり台、鉄棒などを備えた遊び場をつくり、近所の子どもたちに開放した。その遊び場で奥山さんはこう話してくれた。「助かってから社会奉仕を考え続けてきた。ささやかですがその第一歩と考えて遊び場をつくりました。いまの生きがいを大切にしたい」

（昭和46年6月25日付）

## ⑥ 選ばれる命

### 意志・体力も強いこと

#### 人工ジン使用きびしい条件

あなたは自分に打ち勝つ強い意志を持っていますか？ 家族も会社もあげてあなたの治療に協力する覚悟はできていますか？ 治療費は確実に払えますか——病気になるたびに、医師が治療を始める「前提条件」として、いまあげたような質問をきびしく問いかけたら、あなたはもう救うだろう。「医の基本は患者の命をまず救うことだ。金や患者の性格を問題にするのはおかしい」と答えるはずだ。確かにそのとおりである。

ところが慢性ジン不全の患者が人工ジンを利用するためには、医師のあげる条件をすべて満たさなければならぬ現実がある。つまり条件を満たせるかどうか、命につながっている。こうした条件がなぜ必要なのだろうか。条件は「患者選択基準」と呼ばれるが、京都大学病院泌尿器科の沢西謙次講師はその理由を次のように説明している。

「血液透析は、いったん始めたら終わりが無い。患者は元通り健康を回復できる反面、毎週一〜三回確実に透析を続けねばならない。透析は大きな装置を動かし、多くの人手がかかる巨大医療だから一回の透析費は三、四万円。十割給付の組合健保本人や資産のある人はよいが、国保や組合健保家族は払えないことが多い。私もかつてある患者を救いたい一心で人工ジンにかけたが、途中で治療費が切れ、いくら説得しても病院にこなくなつた。患者はまもなく死亡した。私は患者に一時の夢しか与えられず患者の家族には借金だけが残った。心を鬼にして治療費を確かめるのは透析を始めたら途中でやめてはならないからだ」人工ジンを扱う医師ならだれでもこんな苦しい体験を持っている。

また人工ジンを利用してゐるのに、意志が弱くて食事制限を守れず、死んでしまう人もいる。「こんな人はできる限り避けな

と巨大医療にかかる労力と金がむだになつてしまう。それに人工ジンは極端に少ないから、できるだけ社会に貢献する人を選ぶのは当然だろう」と沢西講師はいつている。

一九六〇年二月、アメリカ・ワシントン州シアトル市のシアトルジンセンターが発足したところ、多くの患者から、だれを選ぶかが大きな社会問題となつた。そこで考えられたのが「七人委員会」(法律家、牧師、主婦、実業家、教師、ケースワーカー、保険会社代表の七人の市民で構成。メンバーは非公開)による患者選択制度だつた。医師は患者が人工ジンの適応症かどうかデータを報告するだけ。あとは委員会の審査に任せる。

委員会が存続した約六年間にいろんなことがあつた。貧しい患者は新聞社に頼んで「この患者は生きるべきか、死ぬべきか」という記事を出してもらい、読者の募金で治療費を集めた。第二次大戦の英雄といわれた元軍人の患者は「自分はアメリカのために命をかけて戦場で戦つた。委員会は自分を選んでくれるだろう。しかし人が人命を選ぶのを許してよいのだろうか」と言い残し、人工ジンの利用を拒否して死んだ。委員会のメンバーも人の命を選ぶことに悩み続けた。そのうち家庭で扱える家庭用人工ジンが普及し七人委はひっそり解散

した。

わが国にはどんな患者選択基準があるのだろうか。京都大病院のケースをあげよう。基準は医学的基準と社会・経済的基準に分かれ、主治医は医学的データと、患者、家族、知人、会社の人と何度も面接したデータを人工ジンスタッフ会議に提出する。内科医、泌尿器科医、看護婦、技師がいっしょに審査して決める。

医学的基準は①適応症であること②ガンや長期間続いている高血圧の合併症がないこと③若い人は原則としてジン移植を考へる④体力が必要だから年齢は五十歳代まで⑤意志強固で性格が安定し自己管理能力があること(精神科医の性格分析を参考にすること)などが条件。

社会・経済的基準は①原則として本人の医療費負担がゼロであること②家族が治療に協力的であること③勤務先の会社に患者を暖かく迎えるという誓約書を書いてもらうこと④自宅、病院、会社がお互いに近いこと、などである。

人工ジンの研究で知られている新潟大学医学部の木下康民教授は「医師の責任で患者を選ぶのは荷が重すぎる。わが国でも委員会制度を早急につくるべきだ」と訴える。だが、たとえ委員会ができてシートの場合のように人が人の命を決める悩みはいつもつきまとうだろう。この点にもジ

ン臓病対策を急がねばならない大きな理由がある。あなたが慢性シン不全で倒れたとき、あなたが選ばれるという保障はないのだから…。

(昭和46年7月9日付)

## ⑰ 道は敷かれていない

### 総合治療体制を

#### 人工シン知らぬ医師も

人工シンはシン不全患者に新しい命を与えるだけでなく、社会復帰やシン移植への道を大きく開いた。ところがこの近大医学の道をさえぎる壁が医療そのものにひそんでいることをご存知だろうか。

一つの例をあげよう。広島市・土谷病院の人工シンで夜間透析を受けている会社員の奥田泰一さん(三三)(広島県大竹市)は四十四年四月、シン臓が悪くなり、近くの病院に入院した。病状の進みが早く、入院十日目に尿毒症になり、あと一週間もたないと宣告された。その病院にはもちろん人工シンがなかった。医師は人工シンの存在さえ知らないのか、そのことに全くふれようとしなかった。ところが京都に住んでいる奥田さんの父親がたまたま知人の京大病院の医師から人工シンという「命綱」のある

ことを聞いた。その医師から土谷病院を紹介されてすぐ転院、危うく命拾いした。

人工シン患者で奥田さんのような経験を持つ人は珍しくない。いいかえれば、人工シンを知っている医師にめぐり会えないときは、とんだことになりかねない。十年来、人工シン治療に取り組んでいる京都大学医学部泌尿器科の沢西謙次講師は「残念ながらそうした悲劇が全くなかったとはいきれない」と顔を曇らせる。沢西講師は各地の医師会からよく人工シンの講演を依頼されるが、出席した医師のうちに「人工シンなんて初めて聞いた」ともらす人がおり、その不勉強ぶりに驚かされるといふ。大きな公立病院の院長から「シン不全は助からないかと思っていた」と告白されたこともある。大阪大学医学部第一内科の阿部裕教授は「一言でいえば、数十万人といわれるシン臓患者の中から人工シン治療の必要な人を的確に診断して選び出し、人工シン施設に送りこむ医療のルートが確立していない。それが悲劇に結びつく」と指摘する。

人工シン治療を運よく受けられる場合でも、あなたはいろいろの障壁を経験しなければならぬだろう。人工透析研究会の調べによると、六月三十日現在、十人以上のシン不全患者をかかえる病院は全国で四十四か所。そして人工シン治療を担当してい

るのは別表のように多くは内科、外科、泌尿器科の単独科である。

ところが、人工シン治療は一つの診療科の手に負えるものではなく、各科にまたがる総合医療でなければならぬ。しかしその体制のできないまま、人工シンに熱意を示す医師のいる診療科が一切合財引き受けられているのが実情といつてよい。

シン不全の患者には高血圧、心臓疾患、貧血、胃腸障害、代謝異常など内科領域の症状が多い。また患者の血管を人工シンにつなぐシャント(手首などの血管に埋め込む細いパイプ)の手術をはじめ、心臓(のう)炎の手術、カルシウム代謝異常を抑える副甲状腺の切除など外科的な治療も少なくない。さらに眼科(眼底出血)、産婦人科(妊娠シン)、精神科(尿毒症に伴う精神障害)に関係する症状も多い。そのうえシン移植の場合、免疫、病理など基礎医学が重視される。

人工シンを担当している単独科が必要に応じて各科に協力を求めるケースは多いが、セクショナルリズムの強い医学界の体質のためか、あまりうまくいっていないようである。ある国立病院の人工シン担当医(内科)は「シャントの手術を外科に頼むが、多忙だといわれて手術がのび、治療のタイミングが狂うこともある」とこぼしている。またある国立大学の医学部では五つ

【診療科別の人工 エンジン施設数】		6月30日 現在	
内科	泌尿器科	14	7
外科	泌尿器科	7	7
内科	泌尿器科	2	2
外科	泌尿器科	2	2
泌尿器科	泌尿器科	12	44
不明	計		

の科がそれぞれ人工エンジンを動かしているが協力体制はできていない。

最近、人工エンジン治療にたずさわる医師の間で現状に批判的な人がふえ「各分野を総合して人工エンジン治療、ジン移植など一貫した治療のできるジン臓病科をつくるべきだ」という声があがっている。阿部教授は「こうした診療科を持つ病院を府県単位につくり、ジンセンターにする。さらにセンターを中心にして個々の医療機関との間に緊密な連絡網を敷く。こうすれば少なくとも人工エンジンを知らずに終わるといふ恥ずべき実態は改善されるだろう」と提言している。

(昭和46年10月1日付)

⑱ 四つの要求

# 厚生省やつと本腰

来年度予算に10億円要求

厚生省は来年度予算にジン不全対策費と

して十億千三百万円を大蔵省に要求した。全国の人工ジン患者が東京に集まり全国腎臓病患者連絡協議会(全腎協)(大西晴幸会長)を結成したのはさる六月六日。結成二日後、代表たちが内田厚相(当時)に会い「四つの要求」の早期実現を訴えた。それから三か月で、厚生省が予算要求に踏み切ったのはお役所として異例の急テンポだった。

厚生省の対策は、普通、専門家による調査・検討委員会の設置から始まる。委員会

人工ジン整備計画

年 度	人工ジン 必要 患者数	1台の 透析能 力	必要台 数	保有台 数	不足台 数	整備内訳		
						国立	公立	私立
46	1,413	...	...	...	...	...	...	...
47	3,584	2.5	1,434	666	768	88	545	135
48	5,491	2.5	2,196	1,434	762	87	541	134
49	7,048	2.5	2,819	2,196	623	71	442	110
50	8,325	2.5	3,830	2,819	511	58	363	90
51	9,379	2.5	3,752	3,330	422	48	300	74
計					3,086	352	2,191	543

からの答申にもとづいて検討し予算要求の段取りになる。人工ジン問題についても六月一日に「腎不全対策検討会」「腎不全対策調査委員会」の二専門委が発足した。九月に人工ジン患者の実態を調査し、十一月末に答申を出す予定だが、それを待っていたのでは予算要求に間に合わない。そこで厚生省医務局総務課、社会局更生課などのスタッフ、専門家の意見を聞き、学術資料にもとづきながらこんどの要求をまとめた。答申の出ないうちに予算要求にこぎつけたわけで、国がやつと本格的に取り組みだしたと評価してよいだろう。

全腎協の要求は▽人工透析費用を全額国庫負担に▽透析患者を身体障害者として認めてほしい▽全国各地に腎センターを▽長期療養者の治療費などの保障を――の四項目である。厚生省は患者の切実な願いをどう実現しようとしているのだろうか。十億千三百万円の中身を検討しよう。

【人工ジン整備第一次五年計画初年度分】五億五千二百二十四万九千円【人工ジンを全く使用しない場合、来年度から五十一年度にかけ、毎年約一万二千人がジン臓病で死亡するはずだが、使用すると、そのうち毎年三千七百四十〜三千九百二十人が助かると推定した。人工ジンによる治療は一生続けねばならないから患者は雪だるま式にふえる。この数から移植を受ける人を差

し引き、さらに生存率を考えて計算すると表の通りの人工ジン必要患者数になる。次に一台の人工ジンでこなせる患者数を二・五人として必要台数をはじいた。さらに必要台数から前年の保有台数を差し引いた台数を不足分として毎年整備していく。

来年度は国立病院に八十八台備え、専任の医師二十人、看護婦三十人を増員する。

また県立、市町村立、日赤など公的な病院に五百四十五台備えつるため、国は整備費の三分の一を補助する。民間病院には補助せず、来年度は百三十五台の自然増を見込んでいく。この計画と並行して、国立腎センター、各都道府県の腎センター、さらに各県に最低三、四か所の地域腎センターを設置していく。

【人工透析医療費】四億四千五百五十二万三千円】十割給付の健保本人だと治療費の心配はない。ところが五割負担の健保家族や国保の患者の場合、年間平均二百八十万円も支払わねばならず、たとえ人工ジンがあいていても治療をあきらめねばならなかった。人工透析医療費はこの五割負担を国と地方自治体が「更生医療給付費」として肩代わりし、金で命をかう“現実を一気に解消しようとしている。

更生医療給付費とは「身障者の障害を軽くし、取り除くための援助金」で、国は人工ジン患者を初めて身障者として認めたこ

とになる。たとえば年収約百万円、年間所得税四千八百円以下のサラリーマン家庭（主人、妻、子供二人）で、奥さんが人工ジンを使用した場合月に二千五百円払えば五割負担分は払わなくてもよいようになる。来年度は千四百九十九人分を用意する。また小児ジン臓病の対策費として九百二十五万円を計上した。

全腎協の笠原英夫事務局長は「ことしはたった百九十二万円の前算だったから大きな前進だ。全腎協が訴えた四つの要求は最低限度認められた」と一応評価している。しかし一方では①ジン臓病防止対策が何も盛り込まれていない②民間病院に人工ジンが自然にふえるのを期待するのは行政の怠慢ではないか③ジン臓病死亡者の三〇%を人工ジン適応患者としているが、このワタをいかに広げていくべきだ——など問題点を指摘している。

ジン不全対策費は、まだ正式に決まったわけではない。現在、大蔵省の査定中で、年末に来年度予算政府原案に含まれるかどうかが決まる。全腎協は厚生省案の全額予算化を要望して、十六日から開かれる沖繩国会に請願する。（昭和46年10月15日付）

⑳ まぼろしの大学生

検尿していたら…

1年7か月の闘病むなし

I君は「まぼろし」の京都大学生だった。「四十二年、工学部精密工学科に入学、兵庫県加西市出身」。I君の名はいまも大学の学籍簿に残っている。だが彼を見たものはいない。彼は一日も登校できず、一年七か月の闘病生活を続け死亡した。死因は慢性ジン臓炎による尿毒症。さる二十四日はI君の三回忌だった。

I君は一年浪人をしてあこがれの京大に合格。入学式の前に、大学の保健診療所で他の合格者といっしょに健康診断を受けた。身長は百六十四センチ、体重七十キログラムのがっちりした体格。当時はやや疲れやすくなっていたが、それまでは病気がない病気を添えて提出しなければならぬので受験前に近くの保健所で診察を受けたが、このときも異常なし。だから彼は何の不安もためらぬ健康診断を受けた。

ところが、検尿で運命は一転した。尿はたんばくだけでなく赤血球まで大量にまじっていたのである。さらに血圧は最低百十二、最高百五十四と異常に高くなってい

た。医師は「治療を要するジン炎」と診断した。入学式にも出られず、翌日国立姫路病院に入院した。

一年後の四十三年四月、新学期の直前にI君は京大保健診療所を訪れた。彼は「復学の手続きをしたいから、もう一度診断してほしい」といって国立姫路病院の主治医の手紙を差し出した。それには「尿にたんぱく、赤血球がまじり、まったくよくなっていない。ジン機能や組織も悪化する一方、これ以上入院させても回復は望めそうにない。しかし長い辛苦のあげく大学に入学できたI君に少しでも大学生活を味あわせてやりたい」と医師の思いやりが述べられ、詳しい検査データが添えてあった。診療所の北村李軒（りけん）所長や岩井信之医師らは大学病院で精密検査をして改めて病状を検討したが、答えは同じだった。「もう少し辛抱して治療を続けなさい」といわれ、彼は病院に戻っていった。北村所長は「I君の気持ちも主治医の思いやりも痛いほどわかるが、医師として復学しなさいとはどうしてもいえなかった」とくちびるをかむ。I君はそれから七か月後に死亡した。

ジン炎は何の前ぶれ（自覚症状）もなくしのび寄る“沈黙の病”である。検尿以外に早期発見の道はない。京大は四十一年から、毎年四月はじめに全学生（大学院生を

含む約一万四千人）の定期健康診断をして検尿を実施している。受診しないとその年の単位がとれないというきびしい規定までつくっている。また検尿で要注意となった学生を七人の看護婦が分担して受け持ち、下宿や家庭に連絡して常時病状をチェックしている。

I君にとって検尿はおそすぎた。彼は健康診断のさいの問診で「浪人中の半年前に高血圧といわれたことがある」と答えている。「その段階で正確に検尿していたらジン炎を発見できたはず。そして正しい治療をすれば助かったかもしれない」と北村所長は残念そうだ。

検尿に対する関心はまだ薄い。京都市は小、中学生全員に年二回公費による検尿を実施しているが、京都市なみの検尿をしている市町村は少ない。高校、大学になるとさらに減ってしまう。

九州大学保健管理センターは昨年、全国の国、公、私立大学の検尿の実態をアンケート調査した。回答のあった二百八十二校のうち定期検尿をしているのは八十五校（三〇・一％）で、京大のように全学生に実施しているのは三十七校（一三％）にすぎなかった。北村所長は「小学校から大学まで一貫した検尿体制をつくる必要がある」と訴えている。検尿は学校だけでなく、職場や家庭でも欠かせない。ところ

が、糖尿病検診をかねて中年以上の人を対象に実施している職場は上の部で、学校以上に関心が低い。そこで京都府下のジン臓病患者の組織である京都地方腎臓病患者連絡協議会（勝山英輔会長、会員百人）はいま、学校、職場、地域を含めた全府民の定期検尿制度（年一回以上）をつくるよう府に要望している。根本的なジン臓病対策は、百万台の人工ジンを備える以上に検尿が重要なのである。

（昭和46年10月29日付）

## ②5 食事療法

# 効果を見なおそう

半年で貧血も減る

食事療法はジン臓病の治療法として少しも目新しくないし、決め手でもない。つまり「これしか方法がないのでこれでもやってみるか」といったデモンストラ療法として軽視されがちだ。このデモンストラ療法が、さる六日、東京・霞が関の国立教育会館で開かれた第十四回日本腎（じん）臓学会総会ではじめてパネル・ディスカッションのテーマにとり上げられた。

パネル・ディスカッションの演者になった東邦大学医学部第二内科、平田清文助教

授、東京人工腎臓センター、樋口順三所長らは「病気をなおすのは機械ではなく、患者自身である。その意味で最も基本的な食事をコントロールするのは生活全体の管理につながる、デモンカどころか大きい治療効果をあげられる」と食事療法の重要性を強調した。人工ジンの登場で手の打ちようのなかったジン不全患者が助かるようになった。そして多くの人たちの関心は人工ジンに集中しているが、病気をなおすのは患者自身」という訴えは機械だけにたよろうとする傾向に反省を促した。

樋口所長は通院透析患者二十四人についての治療食のすぐれた効果を報告した。東京人工腎臓センターでは、週二回八時間の通院透析を始めると同時に、一日二千<sup>キログラム</sup>以上、タンパク質五十<sup>グラム</sup>〜六十<sup>グラム</sup>、食塩三<sup>グラム</sup>、水分千cc以下の食事に切りかえる。その結果、約半数の人は二週間後にジン臓病に伴う高血圧が正常に戻り、そのあと降圧剤を服用しなくても血圧は上がらない。さらに人工ジン患者の多くは、がんこな貧血に悩まされ、毎月二百〜四百ccの輸血が必要で、血液の確保に苦しむ。また輸血はうまくいっても、血清肝炎の心配があり、貧血は人工ジン治療のあい路になっている。しかしこのセンターの場合、徹底した食事療法の効果により、半数は透析を開始してから半年間はまったく輸血を必要としない。

その後も胃カイヨウなど合併症のある患者以外は、一か月平均わずか四十ccの輸血で貧血を乗り切っている。

一方、平田助教は慶応大学病院に入院した慢性ジン不全患者について報告した。それによると、人工ジンにかけなくても、一日のタンパク質摂取量を二十<sup>グラム</sup>に制限した治療食で、血液中の有害な老廃物（窒素など）は三〇〜六〇%減らすことができるとジン機能は横ばい。また治療食を続けるとジン機能は横ばいか、むしろよくなることさえあるという。さらに食事療法を早く始め長く続けた患者ほど退院後の経過はよい。

食事療法が大切だといっても肝心の患者や家族が無自覚ではどうにもならない。東京人工腎臓センターはその面を徹底的に指導している。ここではまず治療を受けながら、社会人として働き続けることが大前提だ。何としても働きたいという気持ちがあつてこそ、はじめてきびしい食事管理を守れるという考え方である。だから透析を始める患者をすぐ職場に復帰させる。

一方、家族は最初の二週間、センターに通い、調理室で、患者の好みを生かした治療食を調理し、試食するなど指導を受ける。その後二か月間は患者の食べた食事を記録、カロリー、タンパク質、食塩、水分まで細かく計算し、センターの指示通りの治療食を家庭で作るテクニクをマスター

する。そのあとも献立センターに提出してチェックを受ける。

徹底したやり方がなぜ必要なのだろうか。樋口所長はこんなケースを紹介してくれた。ある証券会社に勤める二十七歳の女性患者がいた。最初の数か月の食事療法は両親や兄弟の協力で順調だった。彼女はそのうちジン移植をする予定で兄弟がジン臓の提供を約束していた。ところが約束を破って「ジン臓の提供はいやだ」といいた。大きいショックを受けた彼女は「わたしなんかいつ死んでもいい」とすっかりやけになった。センターや家族に隠れて好きなかんづめを食べ、コーラを飲み、反対に治療食には手をつけないといった状態が続いた。当然病状は悪化、透析回数を週三回にふやすなど手を尽くしたが、通院十一か月目で死亡した。苦い事実を経験した樋口所長は「人工ジンだけではどうにもならないし、食事療法も単にメニューを作るだけでは効果がない。自ら生き抜こうとする強い意志、それに周囲の愛情のささええがあつてはじめて効果がある」といつている。(昭和46年11月26日付)

## 命 自分たちで守る

半年間に30団体2000人

「むすこがジン臓病で、医師からあと数か月の命といわれました。人工ジンをかければ助かるそうですが、どこでも余裕がないと断られました。どうかにかけてください」全国のジン臓病患者の組織である全国腎臓病患者連絡協議会（大西晴幸会長）の笠原英夫事務局長（㉓）（東京都杉並区井草五の九の九）のところに、患者の母親が泣きながら電話で訴えてくる。笠原さん自身は人工透析をしているだけにこのような電話はことのほかつらい。「生活保護を受けているが、人工ジン治療してもらえるか」「人工ジン治療するから保証金を出せと病院でいわれた」など全国の患者や家族からつぎつぎ相談が持ち込まれる。笠原さんは「こうした問題を患者の立場で解決する知恵を出しあうのが全腎協の目的。同時に患者をささえる精神的なバックボーンにした」という。

全腎協はさる六月結成された。わずか半年足らずで、地域グループ、病院など加盟団体は三十を越え、会員は二十千人に達した。運動のペースも早い。結成大会で決議

した▽人工透析費用の全額国庫負担▽透析患者を身体障害者扱いに▽全国各地にジンセンターを▽ジン臓病長期療養者の治療費保障の四つの要求を厚生大臣に陳情。さらに国会請願全国署名運動、衆、参両院への請願書提出、大蔵省への陳情とたたみかけのように活動している。

厚生省が来年度予算にジン不全対策費として十億千三百万円を大蔵省に要求したのも、こうした精力的な活動の成果といえるだろう。笠原さんらは文字通り「飲まず食わず」で走り回っている。ジン不全患者はきびしい水分制限、食事制限があり、会議中でもお茶一杯飲めない。出前のラーメンをというわけにもいかない。薄味のコッペパンとたんぱく質の少ない安物アイスクリームで辛抱しなければならぬ。そのうえ、週二、三回透析を受けなければならず、透析日もマチマチなので、会合を開くのも思うにまかせない。とくに笠原さんの場合は大変だ。事務局は自分のアパート。事務局長といって事務員一人いるわけではない。昼間は勤務（ある新聞社の工務局）がある。夕方アパートに駆け戻り、着替えもそこそこ、会合や各方面との折衝に出かける。会合のない日は会員との連絡、ニュースの原稿書き、ガリ版切り、さらに印刷、発送と連日深夜まで一人でやり抜いている。週一回の人工ジン透析を受ける笠原

さん。疲労こんばいして「人のことなどかまっていられるか」と思うこともある。しかし、へこたれそうになると「全国の患者の代表がそんなことでどうするの」と看護婦さんにしかり飛ばされ、気をとり直す。最近はやつと仕事を分担する事務局体制ができ、奉仕を申し出る女子学生などのボランティア、患者や家族の協力もあって、少しずつ楽になってきた。

全腎協に加入している地方の患者会の活動も活発だ。たとえば新潟の信楽園病院腎友会（新潟市青山一四三六、最上貞庾〓さだゆ〓会長、会員八十人）。最近の行事をあげると▽六月二十七日、同病院栄養士による外来患者の食事講習会▽七〓八月、週二回、入院患者のフォーク・ダンス講習会▽八月二十五日、キャンプファイアーのつどい▽九月から一か月間、食事調査。入院患者の間食、補食の実態を調べ食事療法をチェックする▽十一月十二日から三日間、文化祭、手芸、紙版画、絵画など患者の創作展、同時におでん、カレーライス、しる粉などの模擬店、バザーなどを開く。また毎週水曜日には医師、看護婦、ケースワーカーを囲んでの医療講座。さらに投書箱の設置、公民館の移動図書館を利用しての図書貸し出し。粉あめ、無塩パン、マーガリンなど特別食品のあっせんと実に多彩な活動をしている。最上会長は「ここの病院には

社会復帰できるのに、職場がなかったり、人工ジン施設が少ないためにやむなく入院を続けている人が多く、どうしても無気力になりがち。そこで何とか生きる気力を持とうというわけで患者の親ぼくなどに力を入れていく」といっている。ときには一生助け合おうと患者同士が結婚するケースもある。一方、京都地方腎臓病患者連絡協議会（府下五病院の患者会で組織、会員数約百人、勝山英輔会長）のように地方自治体にジン臓病対策を働きかけ、京都市に三歳児検診時の検尿、輸血用血液の確保などを約束させたところもある。

こうした患者の会に積極的に協力している信楽園病院、青池卓院長は「医療制度上の問題を含め、あらゆる障害を一気に解決しようとしても壁は厚い。せっかちにならず、自分たちの命を自分たちで守る気持ちを忘れずに、各方面と協力して、地道に活動を続けてほしい」と助言している。

（昭和46年12月3日付）

②7 ある現実

## 治療費が決めた死

ジン不全対策費がことしの国の予算に組み込まれていたらN子さん(三五)（大阪府岸

和田市）は何のためらいもなく人工ジン臓の治療を受け、社会復帰していたに違いない。婚約者がいたから第二の人生にスタートしていたかもしれない。

慢性ジン臓の患者だったNさんはことしの正月、婚約者と京都へ出かけたあとカゼをひき、症状は急に悪化した。顔や手、足がむくみ、別人のような容ぼうになった。大阪市内の公立病院に入院したのは一月十四日。Nさんはこの日から人工ジン治療を受けるかどうかの瀬戸ぎわに立たされた。

この病院には昨年七月から三か月間、入院したことがあり、そのとき、人工ジンを使用している患者から、人工ジンのすばらしい効果や、高い治療費についてよく聞かされた。主治医のS医師の診断によると、症状は安定しており、本人も人工ジンの世話になるとは考えてもいなかった。ところが再度入院して精密検査を受けるとすでに尿毒症で、放置した場合、あと三か月の命だった。S医師は「人工ジンの使用をすぐ始めねばならない。幸い一人分あいているので治療を受ける決心をしてほしい」と伝え、治療費のこと、輸血のこと、さらに家族の献身的な協力が必要なことを説明した。Nさんは「姉さんたちとよく相談して……」と答えたまま考え込んでしまった。そして「婚約者に絶対いわないでほし

い」とつけ加えた。

Nさんはおんな手一つで育てられた四人姉妹の末っ子である。姉たちはいずれもサラリーマンと結婚し、母親(三五)と二人暮らしだった。大阪市内の商事会社に勤務しながら、家ではすっかりふけ込み、身の回りのことも十分できない母親の世話をしてきた。ただ一つの希望は会社の同僚の青年と結婚することだったが、ジン臓病がブレイキになっていった。昨年五月、会社をやめたのは健康をとりもどし、結婚の準備をするためだった。

再入院後の症状は悪化する一方。S医師は三人の姉に会い「一日一日が大切なときだ。早く治療を始めねば人工ジンの効果がなくなる」と説得にかかった。三人は「本人の希望どおりにします」と答えたが「受けさせます」とは言わない。医師はあせりを感じながら患者と家族の説得を続けた。

N子さんや家族が「受けます」と言い切れないのは、やはり月々三十〜四十万円の治療費を継続して払うメドがつかないためだ。S医師もそのことは十分知っている。

しかし治療費のメドを確実にしておかないと、途中で透析できなくなり、患者を見殺しにしなければならぬ恐れがあるからだ。退職前から治療を受けていたジン臓病あつと一年間使えることになっていた。した

がってことし一月から来年一月までは十割  
給付だが、その後は国保となり治療費の三  
割を負担しなければならなくなる。三割負  
担といっても月十万円は払わねばならず、  
母親にも、姉たちにもその余裕はない。

また輸血用血液を確保しなければなら  
ないし食事療法の世話をする家族の協力が必  
要だ。ふけ込んだ母親にそれは期待できな  
い。育ち盛りの子どもをかかえている姉た  
ちにもN子さんの世話をする余裕はなさそ  
うだった。S医師は生活保護の道考えた  
が、わずかばかりの資産（土地）がその道  
をはばんだ。一月末、同医師は「保険のき  
く一年間でも生きようではないか」と説  
得、N子さんも「私は生きたい」ともら  
し、治療に応じる様子を見せた。

## 医師の説得むなし 結婚目前の娘さん

だが、二月はじめ、患者と家族が最終的  
に話し合ったあとの結論は以外だった。「本  
人も私たちも人工ジンは希望しません。お  
世話になりました。自宅に近い病院に転院  
させようと思います」と一番上の姉が頭を  
下げ、N子さんも頭を下げた。本心では治  
療を望みながら、自分を押えているN子さ  
んの苦しさをS医師はその表情から読みと  
ったが、どうしようもなかった。四人の姉

妹は病院の暗い廊下を肩を落として去って  
いった。N子さんが死亡したのはそれから  
三か月後の四月二十三日である。

これまでは人工ジン治療をしている患者  
たちをおもに紹介してきた。しかし人工ジ  
ンの余裕がなくて透析を受けられない患者  
や、人工ジンはあっても多額の費用を払え  
ず治療を見合わせねばならない患者の方が  
はるかに多いことを強調したい。N子さん  
はその一例にすぎない。治療費の自己負担  
分を国が肩代わりしようというジン不全対  
策費が来年度に実現するかどうか。患者た  
ちはそれを「生と死の分岐点」と考えてい  
る。

（昭和46年12月10日付）

この記事は読売新聞大阪本社科学部  
が、昭和四六年六月から一二月まで、  
二九回にわたって連載したものです。  
当時、「金の切れ目が生命の切れ目」と  
いわれた腎不全患者の深刻な実態を人  
工腎臓の不足、巨額な患者負担、早期  
発見、腎移植、社会復帰など幅広い視  
野から問題を浮き彫りにし、世論に  
大きな影響を与えました。

この度、当編集委員会では読売新聞  
大阪本社の許可を得、その一部（一〇  
回分）をここに掲載し、今、私達は  
“生きる”ことを深く見つめ、そのす  
ばらしさに感謝し、明日への新たな一  
歩としたいと思います。

読売新聞大阪本社のご理解ご協力に  
深く感謝申し上げます。

# 資料編

〔年表〕 腎臓病をめぐる今日までのあゆみ

〔資料〕 年度別役員名簿

〔資料〕 札幌市及び近郊市町村の透析施設名簿

〔資料〕 会員名簿

# 腎臓病をめぐる

# 今日までのあゆみ

月・日

主な動き／活動内容

1954年 (S29)

米ハーバード大で世界初の腎臓移植  
東大で日本初の血液透析(臨床)

1956年 (S31)

日本で初の腎移植

1967年 (S42)

12 人工透析に健保適用

1968年 (S43)

9 北大で道内初の腎移植成功

1971年 (S46)

6・6 全腎協結成総会  
10・18 全腎協第1次国会請願実施(以後今年まで34回の請願を实

月・日

主な動き／活動内容

施)

1972年 (S47)

10・1 身体障害者福祉法改正  
○腎機能障害者が内部障害者に含まれ更生医療適用(18歳未満育成医療)

1973年 (S48)

3・23 「腎移植普及会」設立  
10・1 健康保険法改正される

○社会保険家族7割給付

○高額療養費制度新設(3万円)

北海道に於て重度身体障害者医療給付制度開始

1974年 (S49)

4・1 小・中・高生の隔年検尿実施  
腎機能障害者に身体障害者雇用促進法を適用

- 5・8 慢性腎炎が難病に指定
- 7・14 札幌腎臓病患者友の会（略称：札幌腎友会）結成（辻正延会長）（10施設会員148名）
- 10 “生きる仲間”創刊号発刊

### 1975年 (S50)

- 5 “生きる仲間”2号発刊
- 第2回札幌腎友会総会（阿部隆会長）

### 1976年 (S51)

- 2 “生きる仲間”3号発刊
- 7・18 第3回札幌腎友会総会（細川哲夫会長）
- 12 “生きる仲間”4号発刊

### 1977年 (S52)

- 2・21 日本で初めて腎移植女性出産
- 3・6 道腎協結成準備会
- 4・1 1歳6ヶ月児の検尿実施
- 5・8 第4回札幌腎友会総会（細川哲夫会長）
- 10・1 道腎協結成（初代細川哲夫会長・全道7ブロック）
- 「北海道腎移植をすすめる会」発足（北大泌尿器科）
- 10・17 道腎協が北海道難病連に加盟
- 12 札幌腎友会会員証発行（その後消滅）

### 1978年 (S53)

- 2・1 医療費改訂（透析医療費実質引下げ）
- 夜間透析加算○腎移植健保適用
- 透析に時間制導入○透析中の給食費保健適用

- 3・14 “どうじん”創刊号（以後今年まで102号発刊）

第5回札幌腎友会総会（細川哲夫会長）

- 4・2 「ゆたかな医療と福祉をめざす全国患者・家族集会」の開催（以後S58・6・12に連絡会（JPC）となり、様々な活動をする）

- 6・18 道腎協第1回総会（以後今年まで27回開催）
- 12・23 道の「通院交通費助成」採択される

### 1979年 (S54)

- 3・31 内部障害者に乗用車の物品税免除適用
- 4・1 腎移植手術に更生医療適用
- 小・中学生毎年検尿義務化
- 国立佐倉病院腎移植センターオープン
- 5 第6回札幌腎友会総会（阿部隆会長）
- 12・2 通院交通費で全道決起集会
- 12・4 通院交通費で道に要望書提出

### 1980年 (S55)

- 4・1 道が腎機能障害者に通院交通費補助事業実施
- 6・8 第7回札幌腎友会総会（ジョイランド樽前）（阿部隆会長）
- 6・15 道腎協「北海道透析白書」完成
- 9・1 “生きる仲間”発刊
- 12・8 道腎協事務局長 留目英生氏死去（42歳）

### 1981年 (S56)

- 1・1 「国際障害者年」スタート
- 6・1 透析医療費再引下げ
- 腎提供者にも健保適用
- 11・8 第1回全国一斉腎提供登録街頭キャンペーン（以後毎年続

[年表] 腎臓病をめぐる今日までのあゆみ◎

月・日 主な動き/活動内容

けている)

1982年 (S57)

- 3 札幌腎友会再建準備委員会(鈴木啓三会長代行)
- 4 入会書を各施設に配布
- 8・5 国民年金法改正案成立
- 8・10 老人保健法成立(1983年2月1日実施)
- 9・22 道内初のUS腎移植成功

1983年 (S58)

- 2・1 透析医療費再引下げ
- 4・10 第8回札幌腎友会総会(鈴木啓三会長)
- 6・7 道に腎移植センターの設置を要望
- 9・10 “生きる仲間”発刊
- 10・29 東北ブロック会議に初参加(道腎協)
- 11・1 健保改悪にハガキで抗議運動

1984年 (S59)

- 3・1 透析医療費再(4度目)引下げ
- CAPD在宅で健保適用
- 4・29 第9回札幌腎友会総会(庄司勝利会長)
- 5・28 「財団法人北海道腎臓バンク」発足
- 7・24 腎提供登録者拡大全道一周キャラバン隊出発(全道2、000km走破)
- 8・7 健康保険法成立(10月1日実施)
- 健保本人1割の自己負担導入
- 10・1 道、人工透析と血友病の限度額1万円にマル障を適用
- 10・12 “生きる仲間”9号発刊

月・日 主な動き/活動内容

11・1 北海道腎移植センター、市立札幌病院に開設

1985年 (S60)

- 4・24 「国民年金」厚生年金」法改正(1986年4月実施)
- 5・26 第10回札幌腎友会総会(鈴木啓三会長、道腎協と合同)
- 6・16 全道一斉(初の単独)腎提供登録街頭キャンペーン
- 7・1 障害年金の事後重症制度5年制限を廃止
- 10・1 “生きる仲間”10号発刊
- 10・27 札幌腎友会結成10周年記念式典
- 10周年記念誌“生きる仲間”発刊
- 11・1 道内患者の実態調査実施

1989年 (S64)

- 2・28 「ゆたかな医療と福祉をめざす全国患者・家族」連絡会、全日空と道路公団に身障者割引要請
- 4・1 医療費改訂(透析医療費引き下げ5度目)
- CAPD加温器給付

新年金法施行(基礎年金制度導入)

- 5・25 第11回札幌腎友会総会(鈴木啓三会長、道腎協と合同)
- 5・27 細川哲夫相談役(S51、S53会長)死去
- 6・1 老人医療費一部負担金上がる
- 6・15 第2回全道一斉腎提供登録街頭キャンペーン
- 10 厚生省毎年10月を腎移植推進月間に設定
- 10・31 “生きる仲間”11号発刊

1987年 (S62)

- 3・10 道内患者実態調査報告集(“どうじん”15号)発行
- 4・26 第12回札幌腎友会総会(鈴木啓三会長)

- 5・27 臨床工学士法成立
- 7・20 “生きる仲間” 12号発刊
- 9・2 JR・航空運賃割引で全腎協国会請願

### 1999年 (S3)

- 2・25 人工透析に水処理加算を新設
- 5・8 第13回札幌腎友会総会（鈴木啓三会長）
- 6・29 道腎協事務局長中村信夫氏死去（49歳）
- 8・10 “生きる仲間” 13号発刊（会旗、シンボルマーク完成）

### 1998年 (H元)

- 2・1 “生きる仲間” 14号発刊
- 4・1 （消費税3%導入）
- 4・23 第14回札幌腎友会総会（鈴木啓三会長）
- 10・12 “生きる仲間” 15号発刊
- 11・5 札幌腎友会15周年記念親睦パーティー（200名参加）
- 12・20 JR 6社が身体障害者運賃割引に内部障害者を含める認可申請

### 1997年 (H2)

- 2・1 JR・航空運賃の割引を内部障害者にも適用
- 3・26 “生きる仲間” 16号発刊
- 4・15 第15回札幌腎友会総会（鈴木啓三会長）
- 4・23 エロスロポエチン健保適用
- 6・22 福祉8法改正案成立
- 7・31 “生きる仲間” 17号発刊
- 11・1 有料道路割引で内部障害者への適用拡大に関する国会請願（不採択）
- 11・7 医療ソーシャルワーカー清水清氏死去

- 11・17 （雲仙普賢岳噴火活動開始）
- 11・30 “生きる仲間” 18号発刊

### 1997年 (H3)

- 1・6 要介護者問題対策委員会が中間報告を提出
- 3・31 “生きる仲間” 19号発刊
- 4・21 第16回札幌腎友会総会（鈴木啓三会長）
- 5・26 全腎協結成20周年記念第21回総会（東京）
- 6・29 雲仙普賢岳被災者救援カンパを全国会員へ呼びかけ（全腎協）

### 1996年 (H4)

- 7・31 “生きる仲間” 20号発刊
- 10・3 全腎協公益法人化検討委員会発足
- 11・30 “生きる仲間” 21号発刊
- 3・31 “生きる仲間” 22号発刊
- 4・5 全腎協北海道総会実行委員会（難病連）
- 4・19 第17回札幌腎友会総会（鈴木啓三会長）
- 5・10 全腎協北海道総会実行委員会（札幌市教育文化会館）
- 5・23 全腎協北海道総会記念交流会（定山溪ホテル）
- 5・24 全腎協第22回定期総会北海道大会（札幌市教育文化会館）
- 6・19 1、177名参加）
- 6・19 医療法改正案成立
- 7・31 ○透析患者の血液検査に定額制導入へ
- 8・25 ○「差額ベッド」ベッド数の5割まで認める
- 7・31 ○特定機能病院と療養型病床群に区分
- 8・25 “生きる仲間” 23号発刊
- 8・25 綿貫自民党幹事長が帯広市の講演で暴言
- 「人工透析やらなければ、国のためになる」

〔年表〕 腎臓病をめぐる今日までのあゆみ◎

月・日 主な動き／活動内容

- 11・26 札幌腎友会青年部（サボテンの会）設立会議  
11・30 “生きる仲間” 24号発刊

1993年（H5）

- 3・31 “生きる仲間” 25号発刊  
5・9 第18回札幌腎友会総会（鈴木啓三会長）  
7・13 全腎協公益法人化問題で厚生省と折衝始まる  
7・31 “生きる仲間” 26号発刊  
11・26 「障害者基本法」が成立  
11・30 “生きる仲間” 27号発刊

1994年（H6）

- 2・23 中医師協が外来透析の診療報酬の一部包括化を厚生省に答申（4月1日から施行）  
3・31 “生きる仲間” 28号発刊  
5・8 第19回札幌腎友会総会（鈴木啓三会長）  
6・23 医療費改訂で入院患者の食事代1日600円（2年後から800円）が成立（10月1日から施行）

○透析は更生医療適用

○外来透析の給食は保険給付

○全腎協が社団法人設立総会開催

“生きる仲間” 29号発刊

内部障害者にも有料道路料金の割引（5割引）適用

- 10・1 札幌腎友会結成20周年記念パーティー（ホテルKKR札幌）

（150名参加）

- 11・2 年金法「改正」成立

○「3年失権」廃止、障害基礎年金所得制限緩和

- 12・10 結成20周年記念誌 “生きる仲間” 発刊

月・日 主な動き／活動内容

- 12・27 機関紙 “生きる仲間” 30号発刊

1995年（H7）

- 1・17 阪神・淡路大震災発生  
○被害者多数、透析患者24人死亡  
○多数の透析施設が透析不能に  
○厚生省、震災被災者の医療費を特別扱い  
1・20 機関紙 “生きる仲間” に低料第3種郵便認可される  
阪神大震災義援金活動開始  
3・21 “生きる仲間” 31号発刊  
4・1 (社)腎臓移植普及会が(社)日本腎臓移植ネットワークに名称変更し活動開始

- 4・18 「国立病院・療養所の充実を求める」国会請願署名活動開始

- 4・25 “生きる仲間” 32号（議案書）発刊

- 5・14 第20回札幌腎友会定期総会（鈴木啓三会長・北区民センタ

- 1〜52名）

- 6・5 US腎移植問題報道

臓器移植法案継続審議に

“生きる仲間” 33号発刊

8・26 S T V “24時間チャリティ” テレビに参加

11・20 “生きる仲間” 34号発刊

11・21 札幌市へ入院給食費についての陳情書の主旨説明

1996年（H8）

- 1・30 川野氏早期職場復帰を求める署名活動開始

- 3・18 精神障害理由の透析拒否死亡訴訟、原告敗訴

- 3・21 長野県腎協会員、川野征智氏訴訟復職要求署名15万人分長

野地裁に提出  
診療報酬改定

4・1 ○透析に5時間区分追加

”生きる仲間” 35号 (PR版) 発刊

”生きる仲間” 36号 (議案書) 発刊

4・23 札幌腎友会第21回定期総会開催 (鈴木啓三会長・北区民センター) (56名)

5・12 タクシー利用券、入院給食費に関する署名活動開始

7・20 ”生きる仲間” 37号発刊

7・29 タクシー利用券拡大で紹介議員へお願い

9・7 第9回腎不全対策を語るつどい「地域で安心して生きるために」(北海道札幌市)

9・15 札幌市議会事務局へタクシー利用券の請願署名を提出

9・24 全腎協社団法人設立許可「社団法人全国腎臓病協議会」に

10・4 市議会の常任厚生委員会で主旨説明(タクシー利用券)

10・25 市議会の厚生委員会で福祉タクシー利用券拡大に関する請願が全会一致で採択される

10・28 福祉タクシー拡充請願、第3回定例市議会で正式に採択される

11・1 福祉タクシー利用券市議会採択で号外発行

11・29 ”生きる仲間” 38号発刊

### 1997年(H9)

4・1 福祉タクシー利用券48枚から60枚になる

診療報酬改定

○水処理加算削除

4・10 ”生きる仲間” 39号 (PR版) 発刊

4・22 ”生きる仲間” 40号 (議案書) 発刊

5・11 札幌腎友会第22回定期総会 (鈴木啓三会長・北区民センター)

1 (73名)

6・17 臓器移植法成立 (10月16日施行)

8・1 ”生きる仲間” 41号発刊

8・22 規約改正検討委員会資料発送

8・23 「特定疾患に自己負担導入反対」の葉書運動の依頼書送付

9・13 第1回規約改正検討委員会 (6名)

9・18 第2回規約改正検討委員会 (6名)

10・9 第3回規約改正検討委員会 (6名)

10・16 臓器移植法公布・施行

(社)日本臓器移植ネットワークから(社)日本臓器移植ネットワークに改組

12・1 ”生きる仲間” 42号発刊

12・13 札幌近郊市町村へ福祉サービスマ調査票発送

(札幌市、北広島市、石狩市、恵庭市、当別町)

### 1998年(H10)

3・24 ”生きる仲間” 43号 (PR版) 発刊

4・1 高齢厚生年金と失業給付の併給禁止

4・4 看護婦2名が意思表示カード普及のため自転車日本縦断

4・10 家庭透析に保険適用

4・21 ”生きる仲間” 44号 (議案書) 発刊

5・10 札幌腎友会第23回定期総会 (鈴木啓三会長・北区民センター) (61名)

7・6 川野裁判和解成立声明・記者会見 (7月21日から職場復帰)

7・23 ”生きる仲間” 45号発刊

11・24 ”生きる仲間” 46号発刊

# [年表] 腎臓病をめぐる今日までのあゆみ◎

月・日 主な動き／活動内容

## 1999年(H11)

- 1・31 運転免許証用ドナーシール配布開始
- 3・13 法施行後初の脳死臓器提供  
心、肝、腎、角膜
- 3・23 “生きる仲間” 47号発刊
- 4・23 “生きる仲間” 48号(議案書) 発刊
- 5・9 札幌腎友会第24回定期総会(鈴木啓三会長・北区民センター) 1～62名
- 7・1 介護保険制度について質問のため市役所訪庁
- 7・22 “生きる仲間” 49号発刊
- 10・1 介護保険の要介護認定申請開始
- 10・19 第1回臓器移植推進全国大会(札幌コンサートホールキタラ)
- 10・31 結成25周年記念式典並びに祝賀会(ホテルKKR札幌) 16名
- 12・9 “生きる仲間” 50号発刊

## 2000年(H12)

- 3・10 “生きる仲間” 51号発刊
- 3・31 有珠山噴火(透析施設被災)
- 4・13 有珠山噴火災害被災会員に対する救援募金活動開始
- 4・24 “生きる仲間” 52号(議案書) 発刊
- 5・14 札幌腎友会第25回定期総会(鈴木啓三会長・北区民センター) 1～60名
- 6・29 “生きる仲間” 53号発刊
- 10・26 “生きる仲間” 54号発刊

月・日 主な動き／活動内容

## 2001年(H13)

- 1・1 国保にも海外療養費制度創設
- 3・10 “生きる仲間” 55号発刊
- 4・26 “生きる仲間” 56号(議案書) 発刊
- 5・12 “生きる仲間” 臨時1号発刊
- 5・13 札幌腎友会第26回定期総会(鈴木啓三会長・北区民センター) 1～69名
- 7・17 “生きる仲間” 57号発刊
- 8・10 “生きる仲間” 臨時2号発刊
- 9・30 喫茶クインテス閉店
- 10・9 事務所移転(道腎協事務所に間借り)
- 10・25 “生きる仲間” 58号(PR版) 発刊
- 11・10 “生きる仲間” 臨時3号発刊

## 2002年(H14)

- 2・28 福祉定期郵便貯金が廃止(ニュー福祉定期郵便貯金になる)
- 3・10 “生きる仲間” 臨時4号発刊
- 3・28 “生きる仲間” 59号発刊
- 4・1 診療報酬改定で食事加算の廃止
- 4・13 障害年金認定基準改定透析施行中は2級(旧法は適用外)
- 4・15 事務所移転(単独事務所)
- 4・15 外来医学管理料の見直し
- 臓器移植ネットワークが移植を受けた患者から幹旋料10万円を徴収
- 4・25 “生きる仲間” 60号(議案書) 発刊
- 5・12 札幌腎友会第27回定期総会(鈴木啓三会長・北区民センター) 1～42名

- 5・23 事務局長市役所訪問
- 7・10 “生きる仲間”臨時5号発刊
- 7・18 “生きる仲間”61号発刊
- 8・7 “生きる仲間”臨時5号発刊
- 9・15 第21回腎不全対策を語るつどい「生活習慣病とその予防と治療」(北海道旭川市)
- 10・20 全腎協・万有共催シンポ (北海道札幌市)
- 11・14 “生きる仲間”62号発刊
- 12・31 14年末の透析患者数全国で229、538人となる(前年プラス10、355人)

## 2003年(H15)

- 1・6 札幌腎友会相談役宮本好和氏死去
- 2・6 札幌市役所障害福祉課訪問(自動車燃料助成券について)
- 3・10 “生きる仲間”臨時6号発刊
- 3・27 健康保険本人3割負担  
“生きる仲間”63号発刊
- 4・1 自動車燃料助成券利用開始  
公的年金給付0・1%下げ
- 4・22 “生きる仲間”64号(議案書)発刊
- 5・11 札幌腎友会第28回定期総会(鈴木啓三会長・北区民センター)60名
- 7・10 “生きる仲間”65号発刊
- 7・22 “生きる仲間”臨時7号発刊
- 7・31 会長・事務局長市役所訪問
- 8・5 “要介護透析患者通院介護サービス利用実態調査”発送
- 8・30～31 全腎協第8回青年交流集会(北海道赤井川村キヨロリゾート)
- 10・1 難病の医療費助成制度が一部負担を導入

## 2004年(H16)

- 11・13 “生きる仲間”66号発刊
- 12・4 『平成16年度4月からの診療報酬に対しての要求行動について』発送
- 12・18 道が財政難を理由に重度心身障害者医療助成制度(マル障)を、大幅に見直す方針を決める
- 12・19 道がマル障制度見直しの説明の為、急遽道腎協に来局  
※以後、道腎協と連携し「マル障制度見直し」反対運動を展開し現在も継続中
- 1・27 「マル障見直しに反対する」道議会請願署名活動開始
- 1・30 4月以降の公的年金等の給付額を0・3%引き下げること  
を決定
- 2・4 高橋はるみ知事へ要望書提出
- 2・5 札幌市医療助成課訪問、上田文雄市長へ要望書提出
- 2・6 札幌近郊市町村への要望書提出
- 2・10 「マル障制度の所得制限でマル障がきかなくなった人の償還払いについての説明文書」発送  
“生きる仲間”臨時8号発刊
- 2・12 “生きる仲間”臨時8号発刊
- 3・1 臓器移植の斡旋負担金が医療費控除の適用に(平成15年分から)
- 3・22 “生きる仲間”67号発刊
- 3・24 学生無年金訴訟で東京地裁が原告側勝利の判決
- 4・1 “生きる仲間”臨時9号発刊
- 4・22 “生きる仲間”68号(議案書)発刊
- 5・6 札幌市障害福祉課・医療助成課訪問(マル障について)
- 5・11 マル障見直し反対嘆願書発送(札幌近郊市町村へ)
- 5・16 札幌腎友会第29回定期総会(鈴木啓三会長・北区民センター)61名

月・日 主な動き／活動内容

月・日 主な動き／活動内容

5・18 近郊市町村への要望書と代表者に依頼文発送

3・15 “生きる仲間” 71号発刊

5・24 札幌腎友会副会長村木徳雄氏死去

3・29 “生きる仲間” 臨時13号発刊

5・25 札幌市医療助成課訪問、マル障についての要望書提出

5・28 障害者基本法参議院全会一致で成立

6・5 年金制度改革法、参議院本会議で強行採決される

6・6 2組の患者親族間での交換腎移植を容認へ

7・15 “生きる仲間” 69号発刊

7・22 “生きる仲間” 臨時10号発刊

7・26 マル障見直しについて道腎協会長が知事と面談

8・17 札幌市障害福祉課・医療助成課訪問（マル障・更生医療について）

8・20 北海道更生医療担当者との面会（事務局長）

8・24 札幌市へマル障見直しの実施延期及び見送りの要請

9・14 “生きる仲間” 臨時11号発刊

10・1 道のマル障制度が市町村課税世帯は原則1割負担になる

10・31 札幌腎友会結成30周年記念の集い（KKRホテル札幌）109名

11・11 “生きる仲間” 臨時12号発刊

12・1 “生きる仲間” 70号発刊

12・9 札幌市障害福祉課に更生医療について要望書提出

## 2005年（H17）

3・5 札幌市選出の国会議員へ障害保健福祉施策（更生医療の見直し）に対する要望書提出

札幌市選出の道議会議員へ障害保健福祉施策（更生医療の見直し）に対する要望書提出

3・10 札幌市議会議員へ障害保健福祉施策（更生医療の見直し）に対する要望書提出

# 年度別役員名簿

## 一九七四年度（昭和四九年度）

会 長 辻 正延（いのけ医院）  
副会 長 日野岡 信（中野医院）  
書記 長 阿部 隆（いのけ医院）  
会計監査 長 美田義紀（佐藤医院）、増田一郎（渡井医院）  
幹 事 松井弘（いのけ医院）、江良勲夫（いのけ医院）、林島正一（佐藤医院）、白川廣（佐藤医院）、日野岡信（中野医院）、新山正紘（中野医院）、石原三男（渡井医院）、五十嵐祥雄（渡井医院）、千葉栄紀（市立札幌病院）、今津裕（市立札幌病院）、木村比紗子（北辰病院）、関良一（幌南病院）、成田貞満（幌南病院）、平林時男（自衛隊札幌地区病院）、木田重信（札幌医大病院）、大西政弘（国立西札幌病院）

## 一九七六年度（昭和五一年度）

会 長 細川哲夫（札幌北クリニック）  
副会 長 江良勲夫（いのけ医院）  
事務局 長 留目英生（札幌北クリニック）  
総務部長 鈴木啓三（札幌北クリニック）  
総務次長 福士博明（札幌北クリニック）  
教育広報部長 阿部 隆（いのけ医院）  
教育広報次長 福士博明（札幌北クリニック）  
文化厚生部長 大西政弘（田島クリニック）

文化厚生次長 村本徳雄（札幌北クリニック）  
会計監査 赤松 明（市立札幌病院）、堀 光子（幌南病院）  
幹 事 堀川勝男（いのけ医院）、渡辺千鶴子（幌南病院）、荒田三良（幌南病院）、後藤田智樹（国立西札幌病院）、藤田勉（国立西札幌病院）、西嶋重夫（佐藤医院）、荒木守（札幌北クリニック）、古賀貞二（札幌北クリニック）、内田敏夫（市立札幌病院）、阿部清則（自衛隊札幌地区病院）、阿部栄（田島クリニック）、棟方正一（戸沢医院）、武田誠剛（戸沢医院）、小山保順（中野医院）、横道トミ（北辰病院）、鷲頭重男（北辰病院）、阿部清則（宮岸医院）、木田重信（宮の森脳神経外科病院）

## 一九七七年度（昭和五二年度）

会 長 細川哲夫（札幌北クリニック）  
副会 長 西嶋重夫（佐藤医院）、阿部 隆（いのけ医院）  
事務局 長 留目英生（札幌北クリニック）  
事務局次長 荒田三良（札幌北クリニック）、牧方忠司（札幌北クリニック）  
総務部長 荒木 守（札幌北クリニック）  
文化厚生部長 大西政弘（田島クリニック）  
文化厚生次長 村本徳雄（札幌北クリニック）、武田誠剛（戸沢医院）、宮嶋真理子（中野医院）  
教育広報部長 福士博明（札幌北クリニック）

道腎協設立活動プロジェクト 古賀貞二（札幌北クリニック）、鈴木啓三（札幌北クリニック）、金本恒美（中野医院）、赤松 明（市立札幌病院）、乙竹隆七（佐藤医院）、藤田勉（田島クリニック）、棟方正一（戸沢医院）

会計監査 内田敏夫（市立札幌病院）、渡辺千鶴子（幌南病院）

一九七九年度（昭和五四年度）

会 長 阿部 隆（いのけ医院）

副 会 長 武田誠剛（戸沢医院）、中山尚二（佐藤医院）

事務局 長 福士博明（札幌北クリニック）

総務部 長 岩崎 薫（渡井医院）

文化厚生部長 村本徳雄（札幌北クリニック）

文化厚生次長 権平裕二（幌南病院）、阿部清則（宮岸医院）、宮本好和（勤医協中央病院）

教育広報部長 宮嶋真理子（中野医院）

会計監査 大西政弘（田島クリニック）、葛西京子（市立札幌病院）

院）

一九八三年度（昭和五八年度）

会 長 鈴木啓三（札幌北クリニック）

副 会 長 庄司勝利（札幌中央病院）、阿部 栄（田島クリニック）

ク）

事務局長 村本徳雄（札幌北クリニック）

事務局次長 大西政弘（田島クリニック）

会 計 監 査 堀井和彦（光星泌尿器科医院）

会 計 監 査 福原真理子（中野医院）、中村郁夫（渡井医院）

幹 事 山本光雄（渡井医院）、斎藤英子（渡井医院）、関良一（幌南病院）、松見秀也（幌北医院）、阿部栄（田島クリニック）、大西政弘（田島クリニック）、宮本好和

リニック）、大西政弘（田島クリニック）、宮本好和

（勤医協中央病院）、中村信夫（市立札幌病院）、小野広士（市立札幌病院）、阿部隆（北三条内科クリニック）、藤田隆（北三条内科クリニック）、福原真理子（中野医院）、辻正廣（石川医院）、堀井和彦（光星泌尿器科医院）、津田靖典（光星泌尿器科医院）、高道章（河口内科医院）、鈴木啓三（札幌北クリニック）、村本徳雄（札幌北クリニック）、猪村和子（札幌中央病院）、片山信一（三樹会病院）、西塚勝雄（佐藤医院）、石栗久美子（仁愛会外科クリニック）、武田誠剛（戸沢医院）、米沢輝美（宮の森脳神経外科病院）

一九八四年度（昭和五九年度）

会 長 庄司勝利（札幌中央病院）

副 会 長 鈴木啓三（札幌北クリニック）、宮本好和（北三条内科クリニック）

事務局長 村本徳雄（札幌北クリニック）

事務局次長 岡根徳政（札幌東クリニック）

会 計 監 査 堀井和彦（光星泌尿器科医院）

会 計 監 査 福原真理子（中野医院）、中村信夫（市立札幌病院）

幹 事 芳賀務（渡井医院）、住吉信子（渡井医院）、田口弥一（幌南病院）、松見秀也（幌北医院）、岡根徳政（札幌東クリニック）、大西政弘（田島クリニック）、鈴木幸次郎（勤医協中央病院）、横地啓次（勤医協中央病院）、桜田泰寛（市立札幌病院）、小野広士（市立札幌病院）、村井義一（北三条内科クリニック）、宮本好和（北三条内科クリニック）、福原真理子（中野医院）、新山正紘（中野医院）、辻正廣（石川医院）、堀井和彦（光星泌尿器科医院）、津田靖典（光星泌尿器科医院）、高道章（河口内科医院）、庄司勝利（札幌中央病

院）、高道章（河口内科医院）、庄司勝利（札幌中央病

一九八五年度（昭和六〇年度）

院）、猪村和子（札幌中央病院）、高橋繁（札幌北クリニック）、中山菊子（札幌北クリニック）、米沢輝美（宮の森脳神経外科病院）、片山信一（三樹会病院）、田中まゆみ（三樹会病院）、石栗久美子（仁愛会外科クリニック）、住野健夫（仁愛会外科クリニック）、武田誠剛（戸沢医院）、清水フサ（いのけ医院）、土田安一（北成病院）、斉藤吉司（広田医院）、西塚勝雄（佐藤医院）、阿部清則（宮岸医院）、杉森作一（新札幌サシクリニック）

会長 鈴木啓三（札幌北クリニック）

副会長 鈴木幸次郎（勤医協中央病院）、宮本好和（北三条内科クリニック）、芳賀 務（渡井医院）、平原立身（石川医院）

事務局次長 村本徳雄（札幌北クリニック）

事務局長 岡根徳政（札幌東クリニック）

会計 堀井和彦（光星泌尿器科医院）

会計監査 中村信夫（市立札幌病院）、福原真理子（中野医院）

幹事 辻正廣（石川医院）、清水フサ（いのけ医院）、田口弥一（幌南病院）、山本和行（勤医協中央病院）、松橋喜三（勤医協中央病院）、村井義一（北三条内科クリニック）、下島寿義（光星泌尿器科医院）、高道章（河内

内科医院）、湯沢千恵子（国立西札幌病院）、平松照義（市立札幌病院）、小野広士（市立札幌病院）、小木邦明（札幌中央病院）、猪村和子（札幌中央病院）、高橋繁（札幌北クリニック）、石栗久美子（仁愛会外科クリニック）、住野健夫（仁愛会外科クリニック）、西塚勝雄（佐藤医院）、永田和之（佐藤医院）、大西政弘

一九八六年度（昭和六一年度）

相談役 細川哲夫（札幌北クリニック）、庄司勝利（札幌中央病院）

会長 鈴木啓三（札幌北クリニック）

副会長 鈴木幸次郎（勤医協中央病院）、宮本好和（北三条内科クリニック）、平原立身（石川医院）、村本徳雄（札幌北クリニック）

事務局次長 芳賀 務（渡井医院）

事務局長 岡根徳政（札幌東クリニック）

会計 堀井和彦（光星泌尿器科医院）

会計監査 中村信夫（市立札幌病院）、福原真理子（中野医院）

幹事 菊田昭郎（渡井医院）、芳賀務（渡井医院）、小野寺四郎（幌南病院）、松見秀也（幌北医院）、岡根徳政（札幌東クリニック）、大竹香（田島クリニック）、横井正

（田島クリニック）、松橋喜三（勤医協中央病院）、荒川幸子（市立札幌病院）、小野広士（市立札幌病院）、猪村和子（札幌中央病院）、宮本好和（北三条内科クリニック）、新山正紘（中野医院）、福原真理子（中野医院）、柳本寛（石川医院）、辻正廣（石川医院）、下島寿義（光星泌尿器科医院）、高道章（河内内科クリニック）、飯村歩（河内内科クリニック）、高橋繁（札幌北クリニック）、西野聡子（札幌北クリニック）、柿本

頭敬（宮の森脳神経外科病院）、小西文一（三樹会病院）、荒井和子（三樹会病院）、武田誠剛（戸沢医院）、清水フサ（いのけ医院）、南出薫（北成病院）、斉藤吉司（広田医院）、西塚勝雄（佐藤医院）、永田和之（佐藤医院）、阿部清則（宮岸医院）、湯沢千恵子（国立西札幌病院）、柳沼正一（うえと医院）、住野健夫（仁愛会外科クリニック）、石栗久美子（仁愛会外科クリニック）、須藤富美子（札幌北榆病院）、見越カヨ（札幌北榆病院）

一九八七年度（昭和六二年度）

相談役 庄司勝利（札幌中央病院）  
 会長 鈴木啓三（札幌北クリニック）  
 副会長 宮本好和（北三条内科クリニック）、平原立身（石川医院）、村本徳雄（札幌北クリニック）、堀井和彦（光星泌尿器科医院）  
 事務局長 芳賀 務（渡井医院）  
 事務局次長 岡根徳政（札幌東クリニック）  
 会計 姫路留利子（田島クリニック）  
 会計監査 中村信夫（市立札幌病院）、福原真理子（中野医院）  
 幹事 菊田昭郎（渡井医院）、芳賀務（渡井医院）、小野寺四郎（幌南病院）、岡根徳政（札幌東クリニック）、大竹香（田島クリニック）、横井正（田島クリニック）、小林正之（勤医協丘珠病院）、小野広士（市立札幌病院）、中村信夫（市立札幌病院）、猪村和子（札幌中央病院）、宮本好和（北三条内科クリニック）、新山正紘（中野医院）、福原真理子（中野医院）、柳本寛（石川医院）、本間田鶴子（石川医院）、佐藤功（光星泌尿器科医院）、高道章（河口内科クリニック）、佐藤繁（河

口内科クリニック）、高橋繁（札幌北クリニック）、西野聡子（札幌北クリニック）、川村隆志（宮の森脳神経外科病院）、雨宮英子（三樹会病院）、小池良平（三樹会病院）、武田誠剛（戸沢医院）、石丸静子（いのけ医院）、斉藤吉司（広田医院）、西塚勝雄（佐藤医院）、永田和之（佐藤医院）、村瀬文子（国立西札幌病院）、柳沼正一（うえと医院）、住野健夫（仁愛会外科クリニック）、石栗久美子（仁愛会外科クリニック）、戸松眞紀子（札幌北榆病院）、吉野美津留（札幌北榆病院）、藤次克夫（札幌徳州会病院）、棧勇（清田泌尿器科）

一九八八年度（昭和六三年度）

会長 鈴木啓三（札幌北クリニック）  
 副会長 宮本好和（北三条内科クリニック）、村本徳雄（札幌北クリニック）、堀井和彦（光星泌尿器科医院）  
 事務局長 芳賀 務（渡井医院）  
 事務局次長 岡根徳政（札幌東クリニック）、棧 勇（清田泌尿器科）  
 会計 姫路留利子（田島クリニック）  
 会計監査 川村隆志（宮の森脳神経外科病院）、吉野美津留（札幌北榆病院）  
 幹事 芳賀務（渡井医院）、小野寺四郎（幌南病院）、岡根徳政（札幌東クリニック）、大竹香（田島クリニック）、横井正（田島クリニック）、小林正之（勤医協丘珠病院）、小野広士（市立札幌病院）、中村信夫（市立札幌病院）、猪村和子（札幌中央病院）、宮本好和（北三条内科クリニック）、新山正紘（中野医院）、福原真理子（中野医院）、田畑サツ子（石川医院）、千葉三枝子

(石川医院)、佐々木稚子(石川医院)、佐藤功(光星泌尿器科医院)、高道章(河口内科クリニック)、佐藤繁(河口内科クリニック)、武藤基(札幌北クリニック)、西野聡子(札幌北クリニック)、黒田毅(宮岸医院)、川村隆志(宮の森脳神経外科病院)、雨宮英子(三樹会病院)、小池良平(三樹会病院)、武田誠剛(戸沢医院)、清水フサ(いのけ医院)、西塚勝雄(佐藤医院)、永田和之(佐藤医院)、宮根弘(国立西札幌病院)、柳沼正一(うえと医院)、住野健夫(仁愛会外科クリニック)、石栗久美子(仁愛会外科クリニック)、木村征子(札幌北榆病院)、小西昭子(札幌北榆病院)、藤次克夫(札幌徳州会病院)、棧勇(清田泌尿器科)、佐々木こずえ(坂泌尿器科病院)

一九八九年度(平成元年度)

会 長 鈴木啓三(札幌北クリニック)  
副 会 長 宮本好和(北三条内科クリニック)、村本徳雄(札幌北クリニック)、堀井和彦(光星泌尿器科医院)、永田和之(佐藤医院)  
事務局 局長 芳賀 務(渡井医院)  
事務局 次長 棧 勇(清田泌尿器科)  
会 計 監 査 姫路留利子(田島クリニック)  
会 計 監 査 川村隆志(宮の森脳神経外科病院)、吉野美津留(札幌北榆病院)  
幹 事 芳賀務(渡井医院)、小野寺四郎(幌南病院)、岡根徳政(札幌東クリニック)、北川三雄(田島クリニック)、川初幸子(田島クリニック)、小林正之(勤医協丘珠病院)、小野広士(市立札幌病院)、宮本好和(北三条内科クリニック)、新山正紘(中野医院)、福原真

理子(中野医院)、田畑サツ子(石川医院)、千葉三枝子(石川医院)、佐藤功(光星泌尿器科医院)、高道章(河口内科クリニック)、佐藤繁(河口内科クリニック)、武藤基(札幌北クリニック)、西野聡子(札幌北クリニック)、川村隆志(宮の森脳神経外科病院)、雨宮英子(三樹会病院)、邑田和子(三樹会病院)、武田誠剛(戸沢医院)、佐藤朱美(いのけ医院)、西塚勝雄(佐藤医院)、永田和之(佐藤医院)、宮根弘(国立西札幌病院)、柳沼正一(うえと医院)、住野健夫(仁愛会外科クリニック)、石栗久美子(仁愛会外科クリニック)、本間田鶴子(札幌北榆病院)、近藤律子(札幌北榆病院)、首藤達彦(札幌北榆病院)、藤次克夫(札幌徳州会病院)、及川市雄(清田泌尿器科)、早川武(坂泌尿器科病院)、高田裕子(南一条病院)、佐藤裕子(札幌鉄道病院)、猪村和子(仁愛会病院)

一九九〇年度(平成二年度)

会 長 鈴木啓三(札幌北クリニック)  
副 会 長 宮本好和(北三条内科クリニック)、村本徳雄(札幌北クリニック)、堀井和彦(光星泌尿器科医院)、永田和之(佐藤医院)、高道 章(河口内科クリニック)、佐藤朱美(いのけ医院)  
事務局 局長 芳賀 務(渡井医院)  
事務局 次長 棧 勇(清田泌尿器科)、川村隆志(宮の森脳神経外科病院)  
会 計 監 査 金丸洋子(札幌北クリニック)  
会 計 監 査 新山正紘(中野医院)、吉野美津留(札幌北榆病院)  
幹 事 芳賀務(渡井医院)、井上幸雄(幌南病院)、岡根徳政(札幌東クリニック)、阿部正勝(田島クリニック)、

一九九一年度（平成三年度）

川初幸子（田島クリニック）、小林正之（勤医協丘珠病院）、小野広士（市立札幌病院）、宮本好和（北三条内科クリニック）、新山正紘（中野医院）、福原真理子（中野医院）、正者美恵子（石川医院）、本山真貴子（石川医院）、佐藤功（光星泌尿器科医院）、高道章（河口内科クリニック）、武藤基（札幌北クリニック）、西野聡子（札幌北クリニック）、大関裕美子（宮の森脳神経外科病院）、金丸淳子（宮の森脳神経外科病院）、雨宮英子（三樹会病院）、邑田和子（三樹会病院）、武田誠剛（戸沢医院）、佐藤朱美（いのけ医院）、西塚勝雄（佐藤医院）、三沢祥子（佐藤医院）、村瀬文子（国立西札幌病院）、柳沼正一（うえと医院）、住野健夫（仁愛会外科クリニック）、石栗久美子（仁愛会外科クリニック）、新見サヨ子（札幌北榆病院）、今村まち子（札幌北榆病院）、池内明照（札幌北榆病院）、藤次克夫（札幌徳州会病院）、片桐俊子（清田泌尿器科）、佐々木こずえ（坂泌尿器科病院）、高田裕子（南一条病院）、佐藤裕子（札幌鉄道病院）、猪村和子（仁榆会病院）

会 長 鈴木啓三（札幌北クリニック）  
副 会 長 宮本好和（北三条内科クリニック）、村本徳雄（札幌北クリニック）、堀井和彦（光星泌尿器科医院）、永田和之（佐藤医院）、高道章（河口内科クリニック）、佐藤朱美（いのけ医院）、岡根徳政（札幌東クリニック）

事務局 長 棧 勇（清田泌尿器科）  
事務局次長 川村隆志（宮の森記念病院）

会 計 監 査 金丸洋子（札幌北クリニック）  
幹 事 新山正紘（中野医院）、吉野美津留（札幌北榆病院）  
南出陽雄（渡井医院）、井上幸雄（幌南病院）、笠原澄子（幌南病院）、岡根徳政（札幌東クリニック）、棚田まゆみ（田島クリニック）、川初幸子（田島クリニック）、赤川良介（勤医協丘珠病院）、小野広士（市立札幌病院）、越智伸二（市立札幌病院）、坂梨寿美子（市立札幌病院）、宮本好和（北三条内科クリニック）、新山正紘（中野医院）、福原真理子（中野医院）、遠藤兼市（石川医院）、浦嶋一志（石川医院）、佐藤功（光星泌尿器科医院）、高道章（河口内科クリニック）、久原幸江（札幌北クリニック）、西野聡子（札幌北クリニック）、竹内睦子（宮の森記念病院）、雨宮英子（三樹会病院）、邑田和子（三樹会病院）、武田誠剛（戸沢医院）、佐藤朱美（いのけ医院）、永田和之（佐藤医院）、三沢祥子（佐藤医院）、柳沼正一（うえと医院）、住野健夫（仁愛会外科クリニック）、高見志保子（札幌北榆病院）、香西万里子（札幌北榆病院）、水谷達雄（札幌北榆病院）、藤次克夫（札幌徳州会病院）、片桐俊子（清田泌尿器科）、山村恵（坂泌尿器科病院）、八重樫正（南一条病院）、高田裕子（南一条病院）、佐藤裕子（札幌鉄道病院）、猪村和子（仁榆会病院）、江向光子（広田医院）、宮崎洋子（サン内科外科病院）、佐藤旭（桜台泌尿器科医院）、片岡正雄（NTT札幌病院）

一九九二年度（平成四年度）

会 長 鈴木啓三（札幌北クリニック）  
副 会 長 宮本好和（北三条内科クリニック）、村本徳雄（札幌北クリニック）、堀井和彦（光星泌尿器科医院）、永田

和之(佐藤医院)、高道 章(河口内科クリニック)、  
佐藤朱美(いのけ医院)、柳沼正一(うえと医院)

事務局長 棧 勇(清田泌尿器科)

事務局次長 川村隆志(宮の森記念病院)

会計監査 金丸洋子(札幌北クリニック)

幹事 新山正紘(中野医院)、吉野美津留(札幌北榆病院)

久原幸江(札幌北クリニック)、西野聡子(札幌北ク  
リニック)、本間康博(札幌北榆病院)、七ツ役登代子

(札幌北榆病院)、菅原操子(札幌北榆病院)、遠藤兼

市(石川医院)、村井義雄(石川医院)、本田敏(石川

医院)、棚田まゆみ(田島クリニック)、佐藤靖明(田

島クリニック)、南出陽雄(渡井医院)、雨宮英子(三

樹会病院)、邑田和子(三樹会病院)、新山正紘(中野

医院)、福原真理子(中野医院)、赤川良介(勤医協丘

珠病院)、安田諭(勤医協丘珠病院)、木谷憲男(勤医

協丘珠病院)、猪村和子(仁榆会病院)、佐藤尚司(仁

榆会病院)、竹内睦子(宮の森記念病院)、川口ゆかり

(宮の森記念病院)、武田誠剛(戸沢医院)、小野広士

(市立札幌病院)、湯谷まゆみ(市立札幌病院)、岡根

徳政(札幌東クリニック)、西里優子(南一条病院)、

高田裕子(南一条病院)、永田和之(佐藤医院)、三沢

祥子(佐藤医院)、佐藤功(光星泌尿器科医院)、斉藤

源次(清田泌尿器科)、住野健夫(仁愛会外科クリニ

ック)、高道章(河口内科クリニック)、井上幸雄(幌

南病院)、久末ヨシ子(幌南病院)、金山義一(手稲溪

仁会病院)、山田フサ子(坂泌尿器科病院)、宮本好和

(北三条内科クリニック)、井下和子(橋本内科クリ

ニック)、佐藤裕子(札幌鉄道病院)、江向光子(広田

医院)、柳沼正一(うえと医院)、金子京子(桜台泌尿

器科医院)、伊藤スヅエ(サン内科外科病院)、藤次克  
夫(札幌徳州会病院)

一九九三年度(平成五年度)

会長 鈴木啓三(札幌北クリニック)

副会長 宮本好和(北三条内科クリニック)、村本徳雄(札幌

北クリニック)、堀井和彦(光星泌尿器科医院)、永田

和之(佐藤医院)、高道 章(河口内科クリニック)、

佐藤朱美(いのけ医院)

事務局次長 棧 勇(清田泌尿器科)

事務局次長 川村隆志(宮の森記念病院)、柳沼正一(うえと医

院)

会計監査 金丸洋子(札幌北クリニック)

幹事 新山正紘(中野医院)、吉野美津留(札幌北榆病院)

久原幸江(札幌北クリニック)、神座敦子(札幌北ク

リニック)、本間康博(札幌北榆病院)、戸松眞紀子

(札幌北榆病院)、松浦涼子(札幌北榆病院)、遠藤兼

市(石川医院)、村井義雄(石川医院)、本田敏(石川

医院)、棚田まゆみ(田島クリニック)、佐藤靖明(田

島クリニック)、南出陽雄(渡井医院)、雨宮英子(三

樹会病院)、邑田和子(三樹会病院)、駒野洋子(三樹

会病院)、新山正紘(中野医院)、福原真理子(中野医

院)、柴田鉄夫(勤医協丘珠病院)、木谷憲男(勤医協

丘珠病院)、猪村和子(仁榆会病院)、佐藤尚司(仁榆

会病院)、竹内睦子(宮の森記念病院)、川口ゆかり

(宮の森記念病院)、武田誠剛(戸沢医院)、小野広士

(市立札幌病院)、湯谷まゆみ(市立札幌病院)、岡根

徳政(札幌東クリニック)、西里優子(南一条病院)、

勝世正夫(南一条病院)、永田和之(佐藤医院)、三沢

祥子（佐藤医院）、佐藤功（光星泌尿器科医院）、津田靖典（光星泌尿器科医院）、斉藤源次（清田泌尿器科）、住野健夫（仁愛会外科クリニック）、高道章（河内内科クリニック）、望月悦子（河内内科クリニック）、井上幸雄（幌南病院）、金山義一（手稲溪仁会病院）、股村健一（手稲溪仁会病院）、豊島俊三（坂泌尿器科病院）、中川重幸（北三条内科クリニック）、井下和子（橋本内科クリニック）、佐藤裕子（札幌鉄道病院）、柳沼正一（うえと医院）、伊藤スズエ（サン内科外科病院）、藤次克夫（札幌徳州会病院）

一九九四年度（平成六年度）

会長 鈴木啓三（札幌北クリニック）

副会長 宮本好和（北三条泌尿器科クリニック）、村本徳雄（札幌北クリニック）、堀井和彦（光星泌尿器科医院）、永田和之（佐藤医院）、高道章（河内内科クリニック）、佐藤朱美（いのけ医院）、川村隆志（宮の森記念病院）

事務局 長 榎 勇（清田泌尿器科）

事務局次長 柳沼正一（うえと医院）、三沢祥子（いのけ医院）

会計 金丸洋子（札幌北クリニック）

計 新山正紘（中野医院）、木谷憲男（勤医協丘珠病院）

幹 事 久原幸江（札幌北クリニック）、神座敦子（札幌北クリニック）、小池良平（札幌北病院）、谷津信子（札幌北病院）、今村まち子（札幌北病院）、遠藤兼市（石川医院）、村井義雄（石川医院）、棚田まゆみ（田島クリニック）、佐藤靖明（田島クリニック）、斎藤英子（渡井医院）、鈴木美代（渡井医院）、岡田順子（三樹会病院）、邑田和子（三樹会病院）、駒野洋子（三樹

会病院）、新山正紘（中野医院）、福原真理子（中野医院）、柴田鉄夫（勤医協丘珠病院）、木谷憲男（勤医協丘珠病院）、井上京枝（仁榎会病院）、澤内繁雄（仁榎会病院）、竹内睦子（宮の森記念病院）、阿部忠（宮の森記念病院）、武田誠剛（クリニック198札幌）、小野広士（市立札幌病院）、湯谷まゆみ（市立札幌病院）、岡根徳政（札幌東クリニック）、佐藤朱美（いのけ医院）、三沢祥子（いのけ病院）、池田豊見（南一条病院）、小西一詔（南一条病院）、永田和之（佐藤医院）、佐藤功（光星泌尿器科医院）、津田靖典（光星泌尿器科医院）、斉藤源次（清田泌尿器科）、住野健夫（仁愛会外科クリニック）、高道章（河内内科クリニック）、井上幸雄（幌南病院）、棚田英明（手稲溪仁会病院）、豊島俊三（坂泌尿器科病院）、中川重幸（北三条泌尿器科クリニック）、大野文夫（橋本内科クリニック）、佐藤裕子（札幌鉄道病院）、柳沼正一（うえと医院）、伊藤スズエ（サン内科外科病院）、南出陽雄（新井田医院）、斉藤吉雄（兼古循環器クリニック）、前中由紀江（芸術の森泌尿器科）

一九九五年度（平成七年度）

会長 鈴木啓三（札幌北クリニック）

副会長 宮本好和（北三条泌尿器科クリニック）、村本徳雄（札幌北クリニック）、堀井和彦（光星泌尿器科医院）、佐藤朱美（いのけ医院）、川村隆志（宮の森記念病院）、榎 勇（清田泌尿器科）

事務局 長 柳沼正一（うえと医院）

事務局次長 澤内繁雄（仁榎会病院）、三沢祥子（いのけ医院）

会計 金丸洋子（札幌北クリニック）

会計監査  
幹事

新山正紘（中野医院）、木谷憲男（勤医協中央病院）  
久原幸江（札幌北クリニック）、神座敦子（札幌北ク  
リニック）、木村乃園（札幌北榆病院）、絵内瑛子（札  
幌北榆病院）、藤井聖子（札幌北榆病院）、井上京枝  
（仁榆会病院）、遠藤兼市（石川医院）、村井義雄（石  
川医院）、棚田まゆみ（田島クリニック）、佐藤靖明  
（田島クリニック）、柴田鉄夫（勤医協丘珠病院）、門  
田修子（渡井医院）、竹内知子（渡井医院）、岡田順子  
（三樹会病院）、邑田和子（三樹会病院）、福原真理子  
（中野医院）、佐々木美智子（札幌東クリニック）、柴  
田英子（宮の森記念病院）、種村きよえ（宮の森記念  
病院）、武田誠剛（クリニック198札幌）、鰐淵孝子  
（南一条病院）、伊藤文夫（南一条病院）、永田和之  
（佐藤医院）、及川市雄（清田泌尿器科）、熊谷始（橋  
本内科クリニック）、住野健夫（仁愛会外科クリニッ  
ク）、小野広士（市立札幌病院）、坂梨寿美子（市立札  
幌病院）、湯谷まゆみ（市立札幌病院）、佐藤功（光星  
泌尿器科医院）、久末ヨシ子（幌南病院）、棚田英明  
（手稲溪仁会病院）、高道章（河口内科クリニック）、  
豊島俊三（坂泌尿器科病院）、斉藤吉雄（兼古循環器  
クリニック）、中川重幸（北三条泌尿器科クリニッ  
ク）、我妻昭一（札幌セントラルクリニック）、伊藤ス  
ズエ（サン内科外科病院）、前中由紀江（芸術の森泌  
尿器科）、南出陽雄（新井田医院）、佐藤裕子（札幌鉄  
道病院）、梅田明（N T T札幌病院）、石井辰雄（自衛  
隊札幌病院）、本田敏（桑園中央病院）、東山初枝（新  
札幌サンプラザ病院）、杉田正利（小笠原クリニック  
札幌病院）、大谷哲義（広田医院）

一九九六年度（平成八年度）

会長 鈴木啓三（札幌北クリニック）

副会長 宮本好和（北三条泌尿器科クリニック）、村本徳雄  
（札幌北クリニック）、堀井和彦（光星泌尿器科医  
院）、佐藤朱美（いのけ医院）、川村隆志（宮の森記念  
病院）、棧 勇（清田泌尿器科）

事務局長 柳沼正一（うえと医院）

事務局次長 澤内繁雄（仁榆会病院）、三沢祥子（いのけ医院）

会計監査 金丸洋子（札幌北クリニック）

幹事 新山正紘（中野医院）、木谷憲男（勤医協中央病院）  
久原幸江（札幌北クリニック）、神座敦子（札幌北ク  
リニック）、酒井幸則（札幌北榆病院）、城戸絹枝（札  
幌北榆病院）、戸松真紀子（札幌北榆病院）、井上京枝  
（仁榆会病院）、遠藤兼市（石川医院）、村井義雄（石  
川医院）、棚田まゆみ（田島クリニック）、三上照美  
（田島クリニック）、柴田鉄夫（勤医協中央病院）、中  
出史江（渡井医院）、住友奈美子（渡井医院）、岡田順  
子（三樹会病院）、邑田和子（三樹会病院）、福原真理  
子（中野医院）、佐々木美智子（札幌東クリニック）、  
柴田英子（宮の森記念病院）、菅谷正幸（札幌厚生病  
院）、武田誠剛（クリニック198札幌）、田中美智子  
（南一条病院）、伊藤文夫（南一条病院）、永田和之  
（佐藤医院）、植田次生（佐藤医院）、木村仁一（清田  
泌尿器科）、水林尚子（橋本内科クリニック）、住野健  
夫（仁愛会外科クリニック）、小野広士（市立札幌病  
院）、坂梨寿美子（市立札幌病院）、佐藤功（光星泌尿  
器科医院）、東山初枝（新札幌サンプラザ病院）、棚田  
英明（手稲溪仁会病院）、大谷哲義（広田医院）、豊島

俊三（坂泌尿器科病院）、斉藤吉雄（兼古循環器クリニック）、中川重幸（北三条泌尿器科クリニック）、我妻昭一（札幌セントラルクリニック）、今野久次郎（サン内科外科病院）、熊谷巖（芸術の森泌尿器科）、杉田正利（小笠原クリニック）、南出陽雄（新井田病院）、佐藤裕子（札幌鉄道病院）、梅田明（N T T 札幌病院）、苜木芳三（自衛隊札幌病院）、本田敏（桑園中央病院）、田中孝幸（はまなす外科医院）、久末ヨシ子（幌南病院）

一九九七年度（平成九年）

会 長 鈴木啓三（札幌北クリニック）

副 会 長 宮本好和（北三条泌尿器科クリニック）、村本徳雄（札幌北クリニック）、堀井和彦（光星泌尿器科医院）、澤内繁雄（仁楡会病院）、川村隆志（宮の森記念病院）、棧 勇（清田泌尿器科）

事務局 長 柳沼正一（うえと医院）

事務局 次 長 金丸洋子（札幌北クリニック）、三沢祥子（いのけ医院）、佐藤 功（光星泌尿器科医院）

会 計 監 査 石井典子（光星泌尿器科医院）

幹 事 新山正紘（中野医院）、木谷憲男（勤医協中央病院）

遠藤兼市（石川医院）、村井義雄（石川医院）、三沢祥子（いのけ医院）、柳沼正一（うえと医院）、吉田季代乃（H・N・メディック新札幌）、梅田明（N T T 札幌病院）、樋口義市（小笠原クリニック札幌病院）、雨宮英子（兼古循環器クリニック）、中川重幸（北三条泌尿器科クリニック）、木村仁一（清田泌尿器科）、柴田鉄夫（勤医協中央病院）、宍戸明雄（勤医協中央病院）、杉田正利（クボタ泌尿器科クリニック）、武田誠

剛（クリニック198札幌）、熊谷巖（芸術の森泌尿器科）、佐藤功（光星泌尿器科医院）、中岡昭夫（幌南病院）、千葉君子（幌南病院）、今野久次郎（サン内科外科病院）、永田和之（佐藤医院）、豊島俊三（坂泌尿器科病院）、高橋幹子（札幌北クリニック）、須坂多恵子（札幌北クリニック）、正岡正由（札幌北クリニック）、菅谷正幸（札幌厚生病院）、鈴木友幸（札幌厚生病院）、堀田勇（札幌セントラルクリニック）、佐々木美智子（札幌東クリニック）、酒井幸則（札幌北楡病院）、戸松眞紀子（札幌北楡病院）、大友忠義（札幌北楡病院）、常盤志津子（札幌北楡病院）、丹羽千寿子（札幌北楡病院）、望月悦子（札幌北楡病院）、水滝志奈（札幌北楡病院）、岡田順子（三樹会病院）、苜木芳三（自衛隊札幌病院）、佐藤裕子（J R 札幌鉄道病院）、小野広士（市立札幌病院）、坂梨寿美子（市立札幌病院）、東山初枝（新札幌サンブラザ病院）、齋藤好子（仁愛会外科クリニック）、中崎美津子（仁愛会外科クリニック）、井上京枝（仁楡会病院）、本田敏（桑園中央病院）、大場志郎（桑園中央病院）、棚田まゆみ（田島クリニック）、三上照美（田島クリニック）、三浦勝治郎（ていね泌尿器科）、棚田英明（手稲溪仁会病院）、新山正紘（中野医院）、福原真理子（中野医院）、南出陽雄（新井田医院）、外崎豊（広田医院）、岩館二男（南一条病院）、高田裕子（南一条病院）、小間由香（南一条病院）、小澤由紀恵（宮の森記念病院）、鈴木恭子（渡井医院）、大久保昭子（渡井医院）、鶴川忠三（渡井医院）、千葉洋介（H・N・メディック北広島）、田中孝幸（はまなす外科医院）

一九九八年度（平成一〇年度）

会 長 鈴木啓三（札幌北クリニック）  
副 会 長 宮本好和（北三条泌尿器科クリニック）、村本徳雄  
（札幌北クリニック）、堀井和彦（光星泌尿器科医  
院）、澤内繁雄（仁榆会病院）、棧 勇（清田泌尿器  
科）

事務局 長 柳沼正一（うえと医院）

事務局次 長 金丸洋子（札幌北クリニック）、三沢祥子（いのけ医  
院）、佐藤 功（光星泌尿器科医院）

会 計 監 査 石井典子（光星泌尿器科医院）

幹 事 新山正紘（中野医院）、木谷憲男（勤医協中央病院）  
遠藤兼市（石川医院）、伊藤邦夫（石川医院）、三沢祥  
子（いのけ医院）、柳沼正一（うえと医院）、吉田季代  
乃（H・N・メディック新札幌）、西山道博（H・N  
・メディック新札幌）、豊岡久美（H・N・メディッ  
ク北広島）、梅田明（NTT札幌病院）、樋口義市（小  
笠原クリニック札幌病院）、雨宮英子（兼古循環器ク  
リニック）、中川重幸（北三条泌尿器科クリニック）、  
木村仁一（清田泌尿器科）、遠藤大三郎（勤医協中央  
病院）、横地啓次（勤医協中央病院）、杉田正利（クボ  
タ泌尿器科クリニック）、武田誠剛（クリニック19  
8札幌）、熊谷巖（芸術の森泌尿器科）、佐藤功（光星  
泌尿器科医院）、戸田峯夫（幌南病院）、大山チエ子  
（幌南病院）、永田和之（佐藤医院）、豊島俊三（坂泌尿  
器科病院）、高橋幹子（札幌北クリニック）、須坂多  
恵子（札幌北クリニック）、正岡正由（札幌北クリニ  
ック）、岸野芳明（札幌厚生病院）、鈴木友幸（札幌厚  
生病院）、堀田勇（札幌セントラルクリニック）、佐々

木美智子（札幌東クリニック）、酒井幸則（札幌北楡  
病院）、折田豊（札幌北楡病院）、鈴木英二（札幌北楡  
病院）、三嶋千鶴子（札幌北楡病院）、篠田令子（札幌  
北楡病院）、浅野久美子（札幌北楡病院）、佐藤研三  
（札幌南青洲病院）、岡田順子（三樹会病院）、苜木芳  
三（自衛隊札幌病院）、我妻昭一（JR札幌鉄道病  
院）、小野広士（市立札幌病院）、齋藤好子（仁愛会外  
科クリニック）、中崎美津子（仁愛会外科クリニッ  
ク）、竹越良子（仁榆会病院）、本田敏（桑園中央病  
院）、棚田まゆみ（田島クリニック）、三上照美（田島  
クリニック）、三浦勝治郎（ていね泌尿器科）、棚田英  
明（手稲溪仁会病院）、新山正紘（中野医院）、福原真  
理子（中野医院）、南出陽雄（新井田医院）、田中孝幸  
（はまなす外科医院）、外崎豊（広田医院）、岩館二男  
（南一条病院）、高田裕子（南一条病院）、小間由香  
（南一条病院）、伊藤文夫（南一条病院）、川村隆志  
（宮の森記念病院）、鶴川忠三（渡井医院）、林外司  
（渡井医院）、山田悦子（渡井医院）

一九九九年度（平成一一年度）

会 長 鈴木啓三（札幌北クリニック）  
副 会 長 宮本好和（北三条泌尿器科クリニック）、鈴木友幸  
（札幌厚生病院）、堀井和彦（光星泌尿器科医院）

事務局 長 柳沼正一（うえと医院）

事務局次 長 村本徳雄（札幌北クリニック）、金丸洋子（札幌北ク  
リニック）、梅田 明（NTT札幌病院）、山田悦子  
（渡井医院）

運営委員

棚田まゆみ（田島クリニック）、苜木芳三（自衛隊札  
幌病院）、三沢祥子（いのけ医院）、外崎 豊（広田医

会 計 監 査

院)、伊藤文夫(南一条病院)、酒井幸則(札幌北楡病院)、川村隆志(宮の森記念病院)  
 石井典子(光星泌尿器科医院)  
 岩館二男(南一条病院)、三上照美(田島クリニック)

幹 事

遠藤兼市(石川泌尿器科)、伊藤邦夫(石川泌尿器科)、永井績男(稲積公園駅前クリニック)、沢田英子(稲積公園駅前クリニック)、三沢祥子(いのけ医院)、佐藤朱美(いのけ医院)、柳沼正一(うえと医院)、前田吉雄(H・N・メディック北広島)、西山道博(H・N・メディック)、中村寿美雄(H・N・メディック)、梅田明(NTT札幌病院)、樋口義市(小笠原クリニック札幌病院)、雨宮英子(兼古循環器クリニック)、高橋弘(北三条泌尿器科クリニック)、木村仁一(清田泌尿器科)、遠藤大三郎(勤医協中央病院)、横地啓次(勤医協中央病院)、西田富美子(勤医協中央病院)、熊谷徹(クボタ泌尿器科クリニック)、武田誠剛(クリニック198札幌)、山崎浩一(芸術の森泌尿器科)、佐藤功(光星泌尿器科医院)、戸田峯夫(幌南病院)、米川美香(幌南病院)、豊島俊三(坂泌尿器科病院)、高橋幹子(札幌北クリニック)、須坂多恵子(札幌北クリニック)、正岡正由(札幌北クリニック)、岸野芳明(札幌厚生病院)、北出俊夫(札幌厚生病院)、堀田勇(札幌セントラルクリニック)、佐々木美智子(札幌東クリニック)、河村南行(札幌北楡病院)、新井静子(札幌北楡病院)、鈴木英二(札幌北楡病院)、畠山正子(札幌北楡病院)、加藤久子(札幌北楡病院)、関根睦子(札幌北楡病院)、今武雄(佐藤医院)、岡田順子(三樹会病院)、苅木芳三(自

二〇〇〇年度(平成一二年度)

会 長

鈴木啓三(札幌北クリニック)

副 会 長

宮本好和(北三条泌尿器科クリニック)、鈴木友幸(札幌厚生病院)、堀井和彦(光星泌尿器科医院)

事 務 局 長

柳沼正一(うえと医院)

事 務 局 次 長

村本徳雄(札幌北クリニック)、梅田 明(NTT札幌病院)、山田悦子(渡井医院)

運 営 委 員

棚田まゆみ(田島クリニック)、苅木芳三(自衛隊札幌病院)、三沢祥子(いのけ医院)、外崎 豊(広田医院)、伊藤文夫(南一条病院)、川村隆志(宮の森記念病院)、佐藤 功(光星泌尿器科医院)

会 計 監 査

石井典子(光星泌尿器科医院)  
 岩館二男(南一条病院)、三上照美(田島クリニック)

幹 事

遠藤兼市（石川泌尿器科）、伊藤邦夫（石川泌尿器科）、横堀信雄（稲積公園駅前クリニック）、沢田英子（稲積公園駅前クリニック）、三沢祥子（いのけ医院）、佐藤朱美（いのけ医院）、柳沼正一（うえと医院）、前田吉雄（H・N・メディック北広島）、西山道博（H・N・メディック）、中村寿美雄（H・N・メディック）、梅田明（N T T 東日本札幌病院）、樋口義市（小笠原クリニック札幌病院）、雨宮英子（兼古循環器クリニック）、高橋弘（北三条泌尿器科クリニック）、木村仁一（清田泌尿器科）、遠藤大三郎（勤医協中央病院）、横地啓次（勤医協中央病院）、西田富美子（勤医協中央病院）、熊谷徹（クボタ泌尿器科クリニック）、武田誠剛（クリニック198札幌）、山崎浩一（芸術の森泌尿器科）、佐藤功（光星泌尿器科医院）、佐々木栄（幌南病院）、米川美香（幌南病院）、豊島俊三（坂泌尿器科病院）、高橋幹子（札幌北クリニック）、須坂多恵子（札幌北クリニック）、正岡正由（札幌北クリニック）、鈴木友幸（札幌厚生病院）、堀田勇（札幌セントラルクリニック）、佐々木美智子（札幌東クリニックス）、河村南行（札幌北病院）、新井静子（札幌北病院）、鈴木英二（札幌北病院）、畠山正子（札幌北病院）、加藤久子（札幌北病院）、関根睦子（札幌北病院）、幸村信子（札幌南青洲病院）、今武雄（佐藤医院）、岡田順子（三樹会病院）、苮木芳三（自衛隊札幌病院）、今村まち子（J R 札幌鉄道病院）、齋藤好子（仁愛会外科クリニック）、中崎美津子（仁愛会外科クリニック）、澤内繁雄（仁榎会病院）、竹越良子（仁榎会病院）、本田敏（桑園中央病院）、棚田まゆみ（田島クリニック）、三上照美（田島クリニ

二〇〇一年度（平成一三年度）

相談役 宮本好和（南一条病院）

会長 鈴木啓三（札幌北クリニック）

副会長 村本徳雄（札幌北クリニック）、鈴木友幸（札幌厚生病院）、堀井和彦（光星泌尿器科医院）

会計 石井典子（光星泌尿器科医院）

事務局次長 柳沼正一（うえと医院）

事務局次長 伊藤文夫（南一条病院）、吉田季代乃（H・N・メディック）

運営委員 棚田まゆみ（田島クリニック）、苮木芳三（自衛隊札幌病院）、三沢祥子（いのけ医院）、川村隆志（宮の森記念病院）、佐藤 功（光星泌尿器科医院）、梅田 明（N T T 東日本札幌病院）、山本光雄（渡井医院）、中

村ひとみ（南一条病院）、澤内繁雄（仁榎会病院）、岩館二男（南一条病院）、三上照美（田島クリニック）

会計監査

幹 事 遠藤兼市（石川泌尿器科）、伊藤邦夫（石川泌尿器科）、横堀信雄（稲積公園駅前クリニック）、沢田英子

（稲積公園駅前クリニック）、高柳昌一（稲積公園駅前クリニック）、三沢祥子（いのけ医院）、佐藤朱美

(いのけ医院)、柳沼正一(うえと医院)、前田吉雄(H・N・メディック北広島)、三宝正延(H・N・メディック北広島)、吉田季代乃(H・N・メディック)、西山道博(H・N・メディック)、稲田邦昌(NTT東日本札幌病院)、河野恒雄(NTT東日本札幌病院)、樋口義市(小笠原クリニック札幌病院)、雨宮英子(兼古循環器クリニック)、西海一夫(北三条泌尿器科クリニック)、川島静子(清田泌尿器科)、遠藤大三郎(勤医協中央病院)、中村喜公(勤医協中央病院)、西田富美子(勤医協中央病院)、熊谷徹(クボタ泌尿器科クリニック)、武田誠剛(クリニック198札幌)、山崎浩一(芸術の森泌尿器科)、佐藤功(光星泌尿器科医院)、太田稔朗(幌南病院)、大山チエ子(幌南病院)、豊島俊三(坂泌尿器科病院)、高橋幹子(札幌北クリニック)、須坂多恵子(札幌北クリニック)、正岡正由(札幌北クリニック)、鈴木友幸(札幌厚生病院)、小野優子(札幌厚生病院)、井出孝之(札幌セントラルクリニック)、西山利彦(札幌セントラルクリニック)、佐々木美智子(札幌東クリニック)、裏田勇(札幌北榆病院)、新井静子(札幌北榆病院)、鈴木英二(札幌北榆病院)、畠山正子(札幌北榆病院)、加藤久子(札幌北榆病院)、関根睦子(札幌北榆病院)、今武雄(佐藤医院)、岡田順子(三樹会病院)、荻木芳三(自衛隊札幌病院)、斉藤栄子(JR札幌鉄道病院)、中嶋一夫(JR札幌鉄道病院)、齋藤好子(仁愛会外科クリニック)、中崎美津子(仁愛会外科クリニック)、澤内繁雄(仁榆会病院)、望月悦子(仁榆会病院)、大塚艶子(澄腎クリニック)、本田敏(桑園中央病院)、棚田まゆみ(田島クリニック)、三上照

美(田島クリニック)、高木和彦(手稲ネフロクリニック)、長沼和代(手稲溪仁会病院)、新山正紘(中野医院)、福原真理子(中野医院)、南出陽雄(新井田医院)、岡崎政司(新井田医院)、杉本和昌(はまなす外科医院)、外崎豊(広田医院)、小山隆夫(福住泌尿器科)、下川勉(北光記念病院)、岩館二男(南一条病院)、中村ひとみ(南一条病院)、伊藤文夫(南一条病院)、小澤由紀恵(宮の森記念病院)、大波洋助(渡井医院)、大和恵美子(渡井医院)、塚原七生(渡井医院)

二〇〇二年度(平成一四年度)

相談役 宮本好和(南一条病院)

会長 鈴木啓三(札幌北クリニック)

副会長 村本徳雄(札幌北クリニック)、堀井和彦(光星泌尿器科医院)、鈴木友幸(札幌厚生病院)

会計 石井典子(光星泌尿器科医院)

事務局長 柳沼正一(うえと医院)

事務局次長 伊藤文夫(南一条病院)、吉田季代乃(H・N・メディック)

運営委員 棚田まゆみ(田島クリニック)、荻木芳三(自衛隊札幌病院)、三沢祥子(いのけ医院)、川村隆志(宮の森記念病院)、佐藤 功(光星泌尿器科医院)、梅田明

(NTT東日本札幌病院)、中村ひとみ(南一条病院)、澤内繁雄(仁榆会病院)

会計監査役 岩館二男(南一条病院)、三上照美(田島クリニック)

幹事 遠藤兼市(石川泌尿器科)、伊藤邦夫(石川泌尿器科)、横堀信雄(稲積公園駅前クリニック)、沢田英子

(稲積公園駅前クリニック)、高柳昌一(稲積公園駅

前クリニック)、高柳昌一(稲積公園駅

前クリニック)、高柳昌一(稲積公園駅

前クリニック)、高柳昌一(稲積公園駅

前クリニック)、高柳昌一(稲積公園駅

前クリニック)、高柳昌一(稲積公園駅

前クリニック)、高柳昌一(稲積公園駅

前クリニック)、高柳昌一(稲積公園駅

前クリニック)、高柳昌一(稲積公園駅

前クリニックス)、三沢祥子(いのけ医院)、佐藤朱美(いのけ医院)、柳沼正一(うえと医院)、西山道博(H・N・メディックス)、吉田季代乃(H・N・メディックス)、前田吉雄(H・N・メディックス北広島)、三宝正延(H・N・メディックス北広島)、稲田邦昌(NTT東日本札幌病院)、河野恒雄(NTT東日本札幌病院)、鎌田昭男(小笠原クリニックス札幌病院)、雨宮英子(兼古循環器クリニックス)、長谷川賢二(北三条泌尿器科クリニックス)、川島静子(清田泌尿器科)、中村喜公(勤医協中央病院)、西田富美子(勤医協中央病院)、木谷憲男(勤医協中央病院)、熊谷徹(クボタ泌尿器科クリニックス)、武田誠剛(クリニックス198札幌)、佐藤功(光星泌尿器科医院)、太田稔朗(幌南病院)、大山チエ子(幌南病院)、豊島俊三(坂泌尿器科病院)、高橋幹子(札幌北クリニックス)、須坂多恵子(札幌北クリニックス)、正岡正由(札幌北クリニックス)、小野優子(札幌厚生病院)、井出孝之(札幌セントラルクリニックス)、西山利彦(札幌セントラルクリニックス)、佐々木美智子(札幌東クリニックス)、鈴木英二(札幌北榆病院)、斐田勇(札幌北榆病院)、新井静子(札幌北榆病院)、畠山正子(札幌北榆病院)、加藤久子(札幌北榆病院)、関根睦子(札幌北榆病院)、今武雄(佐藤医院)、岡田順子(三樹会病院)、斉藤栄子(JR札幌鉄道病院)、中嶋一夫(JR札幌鉄道病院)、苜木芳三(自衛隊札幌病院)、中崎美津子(仁愛会外科クリニックス)、齋藤好子(仁愛会外科クリニックス)、澤内繁雄(仁榆会病院)、望月悦子(仁榆会病院)、大塚艶子(澄腎クリニックス)、本田敏(桑園中央病院)、棚田まゆみ(田島クリニックス)、三上照美(田

二〇〇三年度(平成一五年度)

島クリニックス)、高木和彦(手稲ネフロクリニックス)、長沼和代(手稲溪仁会病院)、新山正紘(中野医院)、福原真理子(中野医院)、南出陽雄(新井田医院)、岡崎政司(新井田医院)、杉本和昌(はまなす外科医院)、外崎豊(広田医院)、小山隆夫(福住泌尿器科)、下川勉(北光記念病院)、岩館二男(南一条病院)、中村ひとみ(南一条病院)、伊藤文夫(南一条病院)、小澤由紀恵(宮の森記念病院)、大波洋助(渡井医院)、大和恵美子(渡井医院)、塚原七生(渡井医院)

会 長 鈴木啓三(札幌北クリニックス)

副 会 長 村本徳雄(札幌北クリニックス)、苜木芳三(もなみクリニックス)

会 計 石井典子(光星泌尿器科医院)

事務局 長 柳沼正一(手稲ネフロクリニックス)

事務局 次 長 吉田季代乃(H・N・メディックス)

運 営 委 員 棚田まゆみ(田島クリニックス)、川村隆志(宮の森記念病院)、佐藤 功(光星泌尿器科医院)、中村喜公(勤医協中央病院)、堀井和彦(光星泌尿器科医院)、

澤内繁雄(仁榆会病院)

新山正紘(中野医院)、横堀信雄(稲積公園駅前クリニックス)

遠藤兼市(石川泌尿器科)、伊藤邦夫(石川泌尿器科)、横堀信雄(稲積公園駅前クリニックス)、沢田英子(稲積公園駅前クリニックス)、高柳昌一(稲積公園駅前クリニックス)、三沢祥子(いのけ医院)、西山道博(H・N・メディックス)、吉田季代乃(H・N・メディックス)、稲田邦昌(NTT東日本札幌病院)、河野恒

幹 事 遠藤兼市(石川泌尿器科)、伊藤邦夫(石川泌尿器科)、横堀信雄(稲積公園駅前クリニックス)、沢田英子(稲積公園駅前クリニックス)、高柳昌一(稲積公園駅前クリニックス)、三沢祥子(いのけ医院)、西山道博(H・N・メディックス)、吉田季代乃(H・N・メディックス)、稲田邦昌(NTT東日本札幌病院)、河野恒

会 計 監 査 役 新山正紘(中野医院)、横堀信雄(稲積公園駅前クリニックス)

幹 事 遠藤兼市(石川泌尿器科)、伊藤邦夫(石川泌尿器科)、横堀信雄(稲積公園駅前クリニックス)、沢田英子(稲積公園駅前クリニックス)、高柳昌一(稲積公園駅前クリニックス)、三沢祥子(いのけ医院)、西山道博(H・N・メディックス)、吉田季代乃(H・N・メディックス)、稲田邦昌(NTT東日本札幌病院)、河野恒

雄（N T T東日本札幌病院）、雨宮英子（兼古循環器クリニック）、川島静子（清田泌尿器科）、中村喜公（勤医協中央病院）、木谷憲男（勤医協中央病院）、宮本國江（クボタ泌尿器科クリニック）、武田誠剛（クリニック198札幌）、佐々木栄（芸術の森泌尿器科）、堀井和彦（光星泌尿器科医院）、阿部勝夫（幌南病院）、内海寿彦（幌南病院）、豊島俊三（坂泌尿器科病院）、高橋幹子（札幌北クリニック）、仲山千鶴子（札幌北クリニック）、正岡正由（札幌北クリニック）、小野優子（札幌厚生病院）、倉田康司（札幌セントラルクリニック）、西山利彦（札幌セントラルクリニック）、杉本恵子（札幌セントラルクリニック）、佐々木美智子（札幌東クリニック）、鈴木英二（札幌北病院）、新井静子（札幌北病院）、加藤久子（札幌北病院）、関根睦子（札幌北病院）、原田美智子（札幌北病院）、斐田勇（札幌北病院）、庄野一男（佐藤医院）、今武雄（佐藤医院）、岡田順子（三樹会病院）、工藤るみ（三樹会病院）、斉藤栄子（J R札幌鉄道病院）、中嶋一夫（J R札幌鉄道病院）、中崎美津子（仁愛会外科クリニック）、齋藤好子（仁愛会外科クリニック）、澤内繁雄（仁榎会病院）、望月悦子（仁榎会病院）、横山政夫（仁榎会病院）、大塚艶子（澄腎クリニック）、原田孝子（澄腎クリニック）、本田敏（桑園中央病院）、高橋春好（桑園中央病院）、棚田まゆみ（田島クリニック）、三上照美（田島クリニック）、高木和彦（手稲ネフロクリニック）、柳沼正一（手稲ネフロクリニック）、長沼和代（手稲溪仁会病院）、大野武昭（ていね泌尿器科）、新山正紘（中野医院）、福原真理子（中野医院）、岡崎政司（新井田医

院）、外崎豊（広田医院）、小山隆夫（福住泌尿器科）、淀川芳道（保坂内科クリニック）、下川勉（北光記念病院）、長谷川賢二（マロニエ通りクリニック）、岩館二男（南一条病院）、三上留美子（南一条病院）、小澤由紀恵（宮の森記念病院）、吉澤廣（渡井医院）、塚原七生（渡井医院）、新津由美子（渡井医院）、坂川勝良（石狩病院）、三宝正延（H・N・メディック北広島）、杉本和昌（はまなす外科医院）

二〇〇四年度（平成一六年度）

会 長 鈴木啓三（札幌北クリニック）

副 会 長 村本徳雄（札幌北クリニック）、苮木芳三（もなみクリニック）

会 計 石井典子（光星泌尿器科医院）

事務局 長 柳沼正一（手稲ネフロクリニック）

事務局 次 長 吉田季代乃（星野泌尿器科）

運営委員 棚田まゆみ（田島クリニック）、川村隆志（宮の森記念病院）、佐藤 功（光星泌尿器科医院）、庄野一男（H・N・メディックさっぽろ東）、堀井和彦（光星泌尿器科医院）、澤内繁雄（仁榎会病院）

大野武昭（ていね泌尿器科）、横堀信雄（稲積公園駅前クリニック）

会計監査役

遠藤兼市（石川泌尿器科）、伊藤邦夫（石川泌尿器科）、横堀信雄（稲積公園駅前クリニック）、沢田英子（稲積公園駅前クリニック）、高柳昌一（稲積公園駅前クリニック）、三沢祥子（いのけ医院）、西山道博（H・N・メディック）、庄野一男（H・N・メディックさっぽろ東）、今武雄（H・N・メディックさっぽろ東）、稲田邦昌（N T T東日本札幌病院）、河野恒

幹 事

遠藤兼市（石川泌尿器科）、伊藤邦夫（石川泌尿器科）、横堀信雄（稲積公園駅前クリニック）、沢田英子（稲積公園駅前クリニック）、高柳昌一（稲積公園駅前クリニック）、三沢祥子（いのけ医院）、西山道博（H・N・メディック）、庄野一男（H・N・メディックさっぽろ東）、今武雄（H・N・メディックさっぽろ東）、稲田邦昌（N T T東日本札幌病院）、河野恒

雄（N T T東日本札幌病院）、雨宮英子（兼古循環器クリニック）、川島静子（清田泌尿器科）、木谷憲男（勤医協中央病院）、北田三恵子（勤医協中央病院）、宮本國江（クボタ泌尿器科クリニック）、武田誠剛（クリニック198札幌）、山田誠（芸術の森泌尿器科）、堀井和彦（光星泌尿器科医院）、阿部勝夫（幌南病院）、内海寿彦（幌南病院）、豊島俊三（坂泌尿器科病院）、高橋幹子（札幌北クリニック）、仲山千鶴子（札幌北クリニック）、正岡正由（札幌北クリニック）、小野優子（札幌厚生病院）、加藤一裕（札幌セントラルクリニック）、西山利彦（札幌セントラルクリニック）、杉本恵子（札幌セントラルクリニック）、佐々木美智子（札幌東クリニック）、山村恵（札幌東クリニック）、鈴木英二（札幌北楡病院）、新井静子（札幌北楡病院）、工藤るみ（三樹会病院）、斉藤栄子（J R札幌鉄道病院）、中嶋一夫（J R札幌鉄道病院）、中崎美津子（仁愛会外科クリニック）、齋藤好子（仁愛会外科クリニック）、澤内繁雄（仁楡会病院）、阿部隆（仁楡会病院）、佐藤しづ（仁楡会病院）、千葉斌（仁楡会病院）、美馬勲（仁楡会病院）、原田孝子（澄腎クリニック）、横山厚子（澄腎クリニック）、本田敏（桑園中央病院）、高橋春好（桑園中央病院）、棚田まゆみ（田島クリニック）、三上照美（田島クリニック）、高木和彦（手稲ネフロクリニック）、柳沼正一（手稲ネフロクリニック）、佐藤惟文（ていね泌尿器科）、大野武昭（ていね泌尿器科）、福原真理子（中野医院）、小山保順（中野医院）、岡崎政司（新井田医院）、外崎豊（広田医院）、小山隆夫（福住泌尿器科）、淀川芳道（保坂内科クリニック）、吉田季代乃（星野

泌尿器科）、下川勉（北光記念病院）、山田忠彦（北光記念病院）、岩館二男（札幌南一条病院）、三上留美子（札幌南一条病院）、小澤由紀恵（宮の森記念病院）、山田悦子（渡井医院）、塚原七生（渡井医院）、菊地浩子（渡井医院）、坂川勝良（石狩病院）、佐藤義信（石狩医院）、三宝正延（H・N・メディック北広島）、川村勇（田園通りさわぎ医院）、杉本和昌（はまなす外科医院）

# 透析施設名簿

	施設名	〒	住 所	電話番号
札幌 南区	医療法人 仁徳会 仁徳会病院	005-0002	南区澄川2条1丁目3番8号	011-814-9911
	もなみクリニック	005-0805	南区川沿5条3丁目2番1号	011-578-5775
札幌 (北区)	川嶋泌尿器科	002-0856	北区屯田6条10丁目	011-775-1330
	医療法人社団 北腎会 坂泌尿器科病院	001-0030	北区北30条西14丁目	011-709-1212
	医療法人社団 恵水会 札幌北クリニック	001-0018	北区北18条西2丁目	011-747-7157
	中野医院	001-0010	北区北10条西4丁目	011-747-1088
	医療法人社団 和仁会 平田内科小児科医院	001-0024	北区北24条西14丁目	011-756-2220
	布施川内科医院	001-0907	北区新琴似7条14丁目	011-764-2411
札幌 (豊平区)	兼古循環器クリニック	062-0051	豊平区月寒東1条10丁目	011-857-4141
	国家公務員等共済組合連合会 札幌南病院	062-0931	豊平区平岸1条6丁目3番4号	011-822-1811
	自衛隊札幌病院	062-0931	豊平区平岸1条12丁目	011-831-0161
	医療法人社団 康和会 札幌しらかば台病院	062-0052	豊平区月寒東2条18丁目7番26号	011-852-8866
	しらかば泌尿器科クリニック	062-0052	豊平区月寒東2条18丁目7番23号 松本メディカル2F	011-855-1100
	医療法人 仁徳会 澄腎クリニック	062-0933	豊平区平岸3条18丁目	011-841-9005
	広田医院	062-0007	豊平区美園7条6丁目	011-811-8188
	福住泌尿器科クリニック	062-0043	豊平区福住3条1丁目	011-836-8881
札幌 清田区	ゆうあいクリニック	062-0921	豊平区中の島1条1丁目7-20 コムスクエアビル6F	011-820-2244
	札幌医療生活協同組合 札幌南清洲病院	004-0801	清田区里塚1条2丁目20-1	011-883-0620
札幌 白石区	サン内科外科病院	004-0842	清田区清田2条1丁目	011-881-3322
	保坂内科クリニック	004-0814	清田区美しが丘4条6丁目3番11号	011-884-7868
	医療法人 菊郷会 札幌センチュリー病院	003-0805	白石区菊水5条3丁目5番10号	011-851-1110
札幌 (手稲区)	医療法人 徳洲会 札幌徳洲会病院	003-0021	白石区栄通18丁目4番10号	011-865-0111
	札幌東クリニック	003-0023	白石区南郷通1丁目北2番25号	011-863-2131
	特定医療法人 北腎会 札幌北腎会病院	003-0006	白石区東札幌6条6丁目5番1号	011-871-1121
	医療法人 三樹会 病院	003-0002	白石区東札幌2条3丁目6番8号	011-842-3131
	医療法人 溪仁会 手稲溪仁会病院	006-0811	手稲区前田1条12丁目355	011-681-8111
札幌 (厚別区)	稲積公園駅前クリニック	006-0011	手稲区富丘1条4丁目5-33	011-695-0033
	山本医院	006-0811	手稲区前田1条10丁目7-26	011-681-5125
	医療法人社団 伸孝会 ていね泌尿器科	006-0816	手稲区前田6条7丁目1-12	011-695-1100
	医療法人社団 手稲ネフロクリニック	006-0812	手稲区前田2条11丁目3-5	011-686-2121
	医療法人社団 朝日会 新札幌循環器病院	004-0052	厚別区厚別中央2条4丁目	011-892-1556
	桜台泌尿器科医院	004-0064	厚別区厚別西4条2丁目	011-894-8823
石狩	医療法人社団 H・N・メディック	004-0055	厚別区厚別中央5条6丁目1-5	011-801-6660
	札幌社会保険総合病院	004-0052	厚別区厚別中央2-6	011-893-3000
	医療法人社団 北海道恵愛会 新札幌恵愛会病院	004-0041	厚別区大谷地東5丁目5-35	011-893-7755
北広島	医療法人社団 ビエタ会 石狩狩病院	061-3213	石狩市花川北3条3丁目13番地	0133-74-8611
	はまなす外科医院	061-3218	石狩市花畔361-11	0133-64-6622
恵庭	医療法人社団 H・N・メディック北広島	061-1113	北広島市共栄町5丁目	011-372-6660
	医療法人 北農会 恵み野病院	061-1373	恵庭市恵み野西2丁目3-5	0123-36-7555
当別	医療法人 北農会 恵み野病院付恵庭クリニック	061-1417	恵庭市駒場町6丁目1-1	0123-33-0011
	医療法人社団 穂田園通りさわぎき医院	061-0235	石狩郡当別町北栄町17	01332-5-2055

# [資料] 札幌市及び近郊市町村の

	施設名	〒	住 所	電話番号
札幌(中央区)	いのけ 医 院	064-0809	中央区南9条西6丁目2-25	011-511-5003
	N T T東日本札幌病院	060-0061	中央区南1条西15丁目	011-623-7000
	医療法人社団 北辰 クリニック198札幌	064-0919	中央区南19条西8丁目	011-512-1216
	厚生連総合病院札幌厚生病院	060-0033	中央区北3条東8丁目5	011-261-5331
	医療法人社団 銀河会 札幌セントラルクリニック	060-0004	中央区北4条西5丁目1 アスティ45 7F	011-205-6161
	医療法人 札幌中央病院	064-0809	中央区南9条西10丁目	011-513-0111
	札幌 鉄 道 病 院	060-0033	中央区北3条東1丁目	011-241-4971
	医療法人社団北海道恵愛会 札幌南一条病院	060-0061	中央区南1条西13丁目317-1	011-271-3711
	市立札幌病院 腎センター	060-0011	中央区北11条西13丁目	011-726-2211
	仁愛会外科クリニック	060-0061	中央区南1条西9丁目6-9 横山ビル	011-251-7338
	医療法人 桑園中央病院	060-0008	中央区北8条西16丁目	011-621-1023
	医療法人社団 恵水会 田島クリニック	064-0821	中央区北1条西21丁目 フジタビル5F	011-643-2553
	国家公務員等共済組合連合会 斗南病院	060-0001	中央区北1条西6丁目	011-231-2121
	新井田 医 院	064-0915	中央区南15条西7丁目	011-511-9009
	星野泌尿器科 透析センター	060-0005	中央区北5条西2丁目JRタワーオフィスプラザさっぽろ7F	011-209-5338
	医療法人北海道循環器病院	064-0927	中央区南27条西13丁目	011-563-3911
	医療法人 萬田記念病院	060-0062	中央区南2条西1丁目	011-231-4032
	医療法人社団 清和会 南札幌病院	064-0809	中央区南9条西7丁目	011-511-3368
	医療法人 謙生会 宮の森記念病院	064-0953	中央区宮の森3条7丁目	011-641-6641
	渡井 医 院	064-0914	中央区南14条西11丁目 ビューキャッスル山鼻1F	011-551-5023
札幌(東区)	医療法人社団 愛心館 愛心メモリアル病院	065-0027	東区北27条東1丁目	011-752-3535
	医療法人社団 H・N・メディックさっぽろ東	065-0019	東区北19条東7丁目	011-723-6660
	北海道勤労者医療協会中央病院	007-0870	東区伏古10条2丁目15-1	011-782-9111
	光星泌尿器科 医 院	065-0012	東区北12条東7丁目 メディカルセンター光星 3F	011-711-0158
	医療法人 徳洲会 札幌東徳洲会病院	065-0033	東区北33条東13丁目	011-722-1110
	医療法人社団 元町泌尿器科クリニック	065-0020	東区北20条東20丁目	011-785-7771
	医療法人社団 豊生会 東苗穂 病 院	007-0803	東区東苗穂3条1丁目	011-784-1121
	医療法人エム・ティ・エヌ 北海道泌尿器科記念病院	007-0840	東区北40条東1丁目1番3号	011-711-1717
	医療法人エム・ティ・エヌ 北海道泌尿器科記念病院附属40条クリニック	007-0840	東区北40条東1丁目	011-711-1717
	医療法人社団 カレスサッポロ 北光記念病院	065-0027	東区北27条東8丁目	011-722-1133
	医療法人社団 北栄会 宮岸内科皮膚泌尿器科 医 院	007-0848	東区北48条東8丁目	011-753-2101
	札幌(西区)	あべ内科クリニック	063-0061	西区西町北7丁目2-11 西さっぽろメディカルビル3F
医療法人社団 信和会 石川泌尿器科		063-0034	西区西野4条2丁目1番20号	011-611-8111
独立行政法人国立病院機構 西札幌病院		063-0005	西区山の手5条7丁目	011-661-1100
琴似ロイヤル病院		063-0842	西区八軒2条西1丁目	011-611-1391
宮の沢泌尿器科クリニック		063-0826	西区発寒6条11丁目 新道北口ビル3F	011-666-0123
札幌(南区)	医療法人社団 五月会 小笠原クリニック札幌病院	005-0850	南区石山東7丁目1番28号	011-591-1200
	医療法人社団 五月会 小笠原クリニック札幌病院附属外来プラザ	005-0012	南区真駒内上町1-1	011-582-1200
	医療法人社団 クボタ泌尿器科クリニック	005-0841	南区石山1条6丁目 石山メディカルビル2F	011-594-2212
	医療法人社団 芸術の森泌尿器科	005-0850	南区石山東3丁目	011-591-8686
	医療法人社団 五輪橋内科病院	005-0802	南区川沿2条1丁目2番54号	011-571-8221

会員名簿

〔施設名／氏名50音順・敬称略〕

(平成16年10月31日現在)

石川泌尿器科(八〇名)

氏名	透析開始年月日
赤沼 昭彦	H12年10月17日
安彦 きい子	H15年9月22日
安孫子 信子	S59年5月2日
五十嵐 国輔	H13年1月24日
井嶋 基	H13年1月23日
伊藤 邦夫	H7年10月23日
一戸 りき子	H15年10月7日
稲川 政義	H12年3月 日
宇野 浩和	H14年6月3日
上手 由美	H5年7月31日
遠藤 兼市	S63年5月16日
太田 州一	H15年1月14日
太田 馨	H15年9月12日
大谷 道広	S60年5月1日
岡崎 悦夫	H8年5月28日
小笠原 節子	H13年6月4日
小沢 ウメ	H10年4月24日
加賀谷 幸蔵	H7年2月10日
笠松 明美	S60年7月25日
梶 きみゑ	H14年1月10日
片倉 鮎子	H14年5月18日
加藤 洋子	S57年12月 日
川村 利孝	S54年4月25日
北間 ミツ	S57年7月23日
桐原 春子	H14年7月8日
楠 功	H15年10月 日
工藤 敏子	S52年12月15日
国田 久美子	H6年7月6日
栗木 慶一	H14年8月22日
桑原 美里	H14年8月14日
小坂 美紀子	H5年1月25日
小寺 静夫	S56年4月30日
後藤 敦子	H6年5月31日
小林 一勝	H15年9月20日
小松 静子	H13年11月16日
今野 博	H15年12月17日
坂上 三男	H11年6月4日
佐藤 盈子	S57年8月18日
佐藤 千津子	H14年1月18日
佐藤 恒雄	H15年10月27日
佐藤 信雄	H5年1月2日
佐藤 豊	H10年4月23日
佐藤 カズ子	H4年4月27日
佐野 由美子	H7年6月8日
清水 貞子	H13年5月25日
清水 正	H7年12月22日
下村 京子	H10年5月1日
正者 美恵子	S58年11月2日
鈴木 繁次郎	H12年4月27日
須藤 郁子	H12年9月11日
清野 恵子	S61年1月21日
高嶋 武	H10年10月19日
高橋 祐子	S63年2月29日
高松 栄子	H10年1月22日
武田 知信	H4年1月4日
竹田 秀雄	S63年6月22日
谷口 マツエ	H10年2月5日
田畑 サツ子	S56年5月26日
溜 陽子	H8年6月5日
千葉 三枝子	S59年5月31日
塚田 悦子	S63年11月16日
辻 正廣	S55年5月2日
中臺 茂子	H8年3月18日
新倉 由一	H8年1月18日
西 静子	H10年3月10日
東出 貴美子	H3年8月17日
平本 和可	H11年1月25日
蛭田 吉敬	H12年6月15日
福谷 光憲	H10年11月11日
藤田 光男	H6年2月2日
堀 善孝	S62年5月12日
村上 重雄	H9年9月13日
三井 義雄	H1年2月23日
村井 真貴子	S62年11月30日
本山 真貴子	H13年6月16日
山科 五郎	H15年8月4日
山谷 紀巳夫	H15年8月4日
横山 宗弘	H7年2月9日
吉田 徹	S61年12月12日
吉田 宣博	H6年11月8日
米田 徳雄	S59年1月12日

稲積公園駅前クリニック(四一名)

氏名 透析開始年月日

池田 朋子 H12年7月3日  
 石山 洋子 H8年8月14日  
 伊藤 実 H12年4月8日  
 奥山 好子 H6年7月16日  
 小山内 勲 H6年4月1日  
 折笠 保男 H14年10月8日  
 川初 幸子 S59年1月30日  
 河野 信江 H11年8月9日  
 近藤 夏樹 H8年7月17日  
 坂本 ウメ子 H5年8月3日  
 佐藤 京子 H8年12月4日

いのけ医院(一六名)

氏名 透析開始年月日

石川 武雄 H13年4月18日  
 石黒 富子 S48年10月 日  
 伊藤 幸二 H12年4月11日  
 伊藤 月子 S56年12月1日

H・N・メディック(五三名)

氏名 透析開始年月日

赤川 良介 S62年4月 日  
 阿部 康子 H10年8月20日  
 荒谷 進 H15年10月21日  
 新谷 千代 H13年8月1日  
 石原 英昭 H13年8月20日  
 匿 名 S63年6月18日  
 匿 名 H13年9月11日  
 上田 富美子 H7年7月25日

氏名 透析開始年月日

佐藤 芳明 S59年11月22日  
 佐山 萬美江 H11年8月31日  
 沢田 英子 H4年6月10日  
 重田 一夫 H7年4月6日  
 渋谷 松子 H15年9月30日  
 清水 フミ H8年2月18日  
 高木 登 H11年12月30日  
 高柳 昌一 H11年11月25日  
 武田 秀司 H8年4月20日  
 武田 祉尋 H3年9月17日  
 只野 さゆり H7年5月17日

氏名 透析開始年月日

小竹 美智子 H2年2月25日  
 小松 宣子 S59年7月11日  
 斉藤 礼子 H2年3月1日  
 桜場 厚子 S48年8月22日

氏名 透析開始年月日

及川 市雄 S60年4月15日  
 大築 恵子 H2年2月5日  
 匿 名 H10年11月10日  
 越智 栄子 H9年5月19日  
 掛端 トミ H8年4月30日  
 門田 一義 H3年1月24日  
 神坂 モモ子 H4年11月20日  
 菊池 幸義 H10年4月30日

氏名 透析開始年月日

達見 しま子 H8年9月6日  
 田中正夫 H12年12月13日  
 千葉 聡子 H13年3月22日  
 千葉 光子 H10年3月23日  
 塚本 隆行 H2年6月1日  
 永井 績男 H10年8月19日  
 根子 信男 H10年9月22日  
 福士 京子 H6年4月25日  
 松永 瞳 H14年2月6日  
 丸田 登 H1年4月28日  
 水梨 すみ子 H12年11月29日

氏名 透析開始年月日

白鳥 裕子 H4年7月2日  
 杉浦 恵子 S58年7月21日  
 竹内 良 H1年12月18日  
 橋本 澄 S48年8月24日

氏名 透析開始年月日

久保 陽子 H10年10月20日  
 甲山 隆司 H14年8月19日  
 今 恵美子 H14年7月8日  
 匿 名 H12年1月18日  
 佐藤 弘 H11年8月30日  
 佐藤 貢 H15年10月1日  
 菅原 美津子 H16年6月2日

氏名 透析開始年月日

箕輪 登 H12年4月29日  
 向井 厚子 H10年1月7日  
 森 俊道 H16年4月21日  
 柳 沼明 H2年5月17日  
 柳 瀬貞樹 H10年3月13日  
 横堀 信雄 H11年2月3日  
 吉田 幸子 H4年12月16日  
 若本 聡 H2年4月18日

氏名 透析開始年月日

服部 サキエ H10年5月21日  
 馬場 三栄子 S63年2月29日  
 林 めぐみ H1年10月12日  
 三沢 祥子 S56年8月5日

氏名 透析開始年月日

鈴木 正夫 H16年2月4日  
 外山 敏男 H10年8月6日  
 高橋 節子 H12年1月31日  
 滝沢 ヒロ H6年2月21日  
 田宮 英代 H8年9月1日  
 塚本 容三 H13年4月1日  
 出嶋 栄 H8年5月15日  
 寺坂 光雄 H9年10月6日

NTT東日本札幌病院 (四六名)

氏名	五十嵐 義晴
氏名	稲田 邦昌
氏名	岩本 征三
氏名	梅田 明
氏名	遠藤 満雄
氏名	黄木 和子
氏名	大笹 茂
氏名	岡田 賢治
氏名	岡本 久男
氏名	小川 トシ
氏名	小川 学
氏名	加藤 清子
氏名	透析開始年月日
氏名	H 7年 3月 29日
氏名	H 9年 12月 2日
氏名	S 49年 3月 日
氏名	H 3年 10月 9日
氏名	H 13年 1月 5日
氏名	H 16年 9月 22日
氏名	H 15年 2月 25日
氏名	H 13年 3月 31日
氏名	H 16年 9月 17日
氏名	H 12年 12月 11日
氏名	H 13年 7月 17日
氏名	H 5年 4月 19日

氏名	金子 龍馬
氏名	河野 恒雄
氏名	木村 百合子
氏名	桑原 仁良
氏名	小林 仁美
氏名	小藤 紀和
氏名	斉藤 満
氏名	酒井 恵美子
氏名	坂上 秀樹
氏名	佐々木 進
氏名	佐々木 亮
氏名	佐藤 美法
氏名	透析開始年月日
氏名	S 63年 12月 24日
氏名	H 9年 11月 25日
氏名	S 48年 11月 日
氏名	H 13年 12月 20日
氏名	H 13年 11月 7日
氏名	H 14年 12月 26日
氏名	H 15年 1月 15日
氏名	H 13年 1月 23日
氏名	H 16年 2月 6日
氏名	H 14年 2月 6日
氏名	H 13年 9月 5日
氏名	H 8年 11月 2日

氏名	首藤 静江
氏名	神座 敦子
氏名	杉本 勝子
氏名	高須 喜久男
氏名	田山 登代美
氏名	寺西 敏男
氏名	永田 綾子
氏名	西村 弘子
氏名	西村 有弘
氏名	野澤 静子
氏名	平出 叔子
氏名	平間 新一
氏名	透析開始年月日
氏名	H 12年 4月 日
氏名	S 58年 12月 14日
氏名	H 7年 11月 13日
氏名	H 13年 6月 4日
氏名	H 16年 6月 8日
氏名	H 11年 6月 23日
氏名	S 52年 1月 26日
氏名	H 13年 1月 5日
氏名	H 12年 1月 27日
氏名	H 4年 月 日
氏名	H 14年 11月 6日
氏名	H 8年 10月 14日

氏名	藤垣 京子
氏名	藤田 定
氏名	松永 起代子
氏名	三上 真弓
氏名	南 昇一
氏名	森田 眞琴
氏名	山岡 裕子
氏名	山口 利明
氏名	横山 寛二郎
氏名	和田 計二
氏名	透析開始年月日
氏名	H 10年 11月 24日
氏名	H 16年 8月 4日
氏名	H 16年 5月 22日
氏名	H 15年 11月 11日
氏名	H 13年 8月 24日
氏名	H 11年 12月 9日
氏名	S 60年 4月 27日
氏名	H 14年 9月 26日
氏名	H 11年 5月 3日
氏名	H 12年 9月 日

H・N・メディックさっぽろ東 (二四名)

氏名	阿部 千鶴子
氏名	阿部 陽藏
氏名	岡本 幹雄
氏名	河井 弘敏
氏名	小澤田 良雄
氏名	今武 雄
氏名	透析開始年月日
氏名	S 49年 5月 26日
氏名	H 3年 5月 21日
氏名	H 3年 9月 3日
氏名	S 59年 7月 4日
氏名	H 14年 12月 日
氏名	S 61年 4月 22日

氏名	桜井 宏一
氏名	笹森 郁子
氏名	佐藤 悦夫
氏名	佐野 雄慈
氏名	庄野 一男
氏名	滝見 千幸
氏名	透析開始年月日
氏名	S 59年 2月 15日
氏名	H 6年 5月 16日
氏名	H 9年 1月 14日
氏名	S 51年 5月 6日
氏名	H 12年 1月 18日
氏名	H 5年 4月 25日

氏名	建脇 邦行
氏名	田中 秀人
氏名	玉木 淳
氏名	坪井 博子
氏名	成田 市太郎
氏名	新居 ミヨ
氏名	透析開始年月日
氏名	H 10年 10月 25日
氏名	S 62年 11月 11日
氏名	S 59年 10月 16日
氏名	S 50年 12月 30日
氏名	S 60年 1月 10日
氏名	S 60年 3月 28日

氏名	藤田 ヒサ
氏名	細貝 容子
氏名	松野 真一
氏名	本川 怜子
氏名	横山 ゆり子
氏名	渡辺 恵理
氏名	透析開始年月日
氏名	H 1年 1月 29日
氏名	H 5年 2月 19日
氏名	H 12年 12月 10日
氏名	S 57年 5月 日
氏名	S 63年 2月 日
氏名	H 5年 6月 17日

氏名	永井 英二
氏名	匿名
氏名	西山 道博
氏名	二瓶 要一
氏名	長谷部 愛松
氏名	透析開始年月日
氏名	H 10年 7月 8日
氏名	H 5年 12月 29日
氏名	H 4年 1月 28日
氏名	H 4年 5月 20日
氏名	H 15年 2月 1日
氏名	H 7年 10月 12日

氏名	深尾 孝子
氏名	福井 シゲ子
氏名	福田 加代子
氏名	藤井 貞雄
氏名	松下 諷子
氏名	透析開始年月日
氏名	H 5年 11月 16日
氏名	H 13年 8月 28日
氏名	H 15年 6月 18日
氏名	H 12年 3月 29日
氏名	H 14年 2月 19日
氏名	S 60年 8月 21日

氏名	三浦 のり子
氏名	宮澤 達雄
氏名	村瀬 文子
氏名	森田 紀子
氏名	八木 亀一
氏名	安田 好吉
氏名	透析開始年月日
氏名	H 12年 3月 9日
氏名	H 8年 12月 30日
氏名	S 60年 5月 17日
氏名	H 10年 7月 29日
氏名	H 4年 3月 14日
氏名	H 15年 3月 31日

氏名	葛内 豊
氏名	山下 正子
氏名	吉田 彰悦
氏名	透析開始年月日
氏名	H 9年 6月 9日
氏名	H 14年 2月 日
氏名	H 9年 12月 11日

小笠原クリニック札幌病院付属外来プラザ (七名)

氏名 透析開始年月日

板垣 恵得 H16年1月9日  
鎌田 昭男 H7年12月26日  
近藤 覚 S60年5月3日

氏名 透析開始年月日

桑原文雄 H14年5月7日  
清野 捷 H14年5月5日  
樋口 義市 H9年4月4日

氏名 透析開始年月日

福島 隆治 H13年11月7日

兼古循環器クリニック (七名)

氏名 透析開始年月日

雨宮 英子 S57年4月30日  
長田 貞子 H14年3月20日  
腰丸 弘 H10年4月6日

氏名 透析開始年月日

川上 進一 H9年9月26日  
田村 千恵 H2年3月13日

氏名 透析開始年月日

前田 尚子 H3年3月25日

しらかば泌尿器科クリニック (旧・清田泌尿器科) (九名)

氏名 透析開始年月日

上坂 直子 H9年12月22日  
奥山 信 H4年8月10日  
奥山 勇 S60年4月20日  
菅野 修治 H9年9月11日

氏名 透析開始年月日

片桐 俊子 S59年7月9日  
川島 静子 S61年3月31日  
堀江 利幸 H10年11月4日  
森 利彦 H13年5月21日

氏名 透析開始年月日

佐藤 修二 H8年12月20日

勤医協中央病院 (八三名)

氏名 透析開始年月日

青木 久保 H9年7月9日  
秋吉 恵子 S63年1月10日  
浅井 茂子 H13年6月9日  
穴澤 一男 H8年8月10日  
阿部 勇 H11年10月19日  
有馬 金一郎 H10年2月 日  
安藤 久通 H14年4月 日  
石原 邦子 S51年8月3日  
伊藤 孝司 H15年6月24日  
猪村 孝子 H11年5月18日  
岩間 晴子 H8年8月24日  
植田 次生 H5年2月12日  
宇野 早苗 H11年6月1日  
海野 辰彦 H3年9月17日

氏名 透析開始年月日

江黒 昌和 H9年8月6日  
遠藤 憲一 H9年12月17日  
遠藤 大三郎 H6年3月28日  
大波 正 H5年3月 日  
大西 雅人 H12年12月20日  
小野瀬 雄二 H5年4月30日  
金田 光裕 H13年11月19日  
川合 美佐子 H8年10月 日  
菅野 良子 H12年1月12日  
菊地 俊郎 H10年4月10日  
北田 三恵子 S62年8月4日  
木谷 憲男 S48年3月 日  
工藤 政宣 H11年9月28日  
小磯 かほる H10年3月31日

氏名 透析開始年月日

小島 純爾 H12年2月3日  
小西 忠俊 H9年11月6日  
小林 和雄 H12年4月12日  
小林 正之 S54年12月21日  
坂本 美子 H4年5月11日  
櫻田 政治 H13年1月1日  
佐々木 耕一 H7年3月25日  
佐々木 忠則 H15年11月 日  
佐々木 正武 H7年8月1日  
佐藤 透 H13年2月15日  
佐藤 幸幸 H3年8月26日  
澤野 秀通 H7年7月13日  
宍戸 明雄 H8年12月12日  
島田 スミ子 H7年7月1日

氏名 透析開始年月日

下村 正幸 H8年10月5日  
杉田 恵子 H5年8月4日  
助川 正澄 H5年1月6日  
田頭 八重子 H11年1月25日  
高橋 広市 H3年9月3日  
高山 早苗 H7年1月19日  
竹田 久護 H11年4月1日  
竹村 久恵 H9年4月18日  
武山 志奈子 H3年12月1日  
田中 明 H11年7月1日  
田中 まゆみ S57年12月27日  
津田 耕治 H13年5月28日  
永井 寛明 H9年6月5日  
中村 喜公 H8年12月3日

成澤 初 H11年2月4日  
 新橋 和夫 H6年8月31日  
 野崎 武 S53年3月20日  
 野寺 由利子 H15年10月 日  
 萩原 千鶴 H2年11月20日  
 橋本 忠男 S54年9月24日  
 畑山 葉子 H11年8月1日  
 馬場 勇一郎 H10年1月8日  
 久末 倉平 H14年1月1日  
 藤澤 孝 H5年1月5日  
 本田 富美夫 H4年8月30日  
 丸 子 秀雄 H12年5月16日  
 皆川 正之 H12年8月1日  
 宮下 忠雄 H8年11月19日  
 村田 栄子 H9年7月1日  
 村田 与一 H10年10月8日  
 森野 廣 H2年1月11日  
 柳田 三雄 S61年11月21日  
 柳山 幸子 S63年11月17日  
 山口 文夫 H11年11月4日  
 山口 猛 H7年3月30日  
 山口 幸子 H12年9月29日  
 山崎 正行 H10年12月2日  
 山田 静江 S62年5月29日  
 山田 楨子 H13年10月 日  
 横地 啓次 S47年7月12日  
 六角 啓子 H8年7月1日

クボタ泌尿器科クリニック (六名)

氏名 透析開始年月日  
 竹内 正博 H12年11月13日  
 中島 勝美 H13年2月14日  
 宮本 國江 H8年2月 日  
 匿 名 H5年1月14日  
 氏名 透析開始年月日  
 三浦 徹 S50年8月15日  
 湊 勉 H6年5月21日  
 横関 優子 S62年3月4日  
 渡辺 喜成 S63年5月 日  
 渡辺 作次 S60年10月4日

クリニック198札幌 (二〇名)

氏名 透析開始年月日  
 飯野 健一 S56年8月26日  
 稲津 千穂美 S50年12月 日  
 瓜生 ゆう子 H5年2月1日  
 小川 重男 S50年7月20日  
 香川 正光 H4年1月4日  
 笠島 厚子 H3年7月 日  
 庄野 美智子 H2年12月21日  
 武田 誠剛 S51年3月20日  
 武田 俊明 S52年2月28日  
 谷上 一治 S62年1月23日  
 津口 利勝 S55年4月22日  
 栃久保 肇 H10年9月30日  
 長谷川 春男 S59年3月 日  
 日比 芳正 S54年3月24日  
 古名 悦子 S54年3月24日

芸術の森泌尿器科 (一名)

氏名 透析開始年月日  
 安西 英雄 H12年3月17日  
 板倉 修二 H13年5月8日  
 市原 勝江 H11年2月18日  
 伊藤 てる H13年12月28日  
 北島 方子 H13年11月12日  
 佐々木 裕子 H14年9月19日  
 澤本 てる子 H14年3月22日  
 相馬 栄子 H10年10月31日  
 林崎 ひろ子 H11年4月6日  
 又村 克彦 H14年11月8日  
 山田 誠 H9年12月5日

光星泌尿器科医院 (一二名)

氏名 透析開始年月日  
 石井 典子 S58年11月24日  
 鎌田 隆夫 H16年3月22日  
 国井 美枝子 S53年1月17日  
 佐藤 功 S61年5月2日  
 高橋 理功 S58年2月11日  
 高橋 建一 H13年1月12日  
 竹浪 聡 H15年6月27日  
 津司 マサ H3年3月11日  
 津田 靖典 S50年4月 日  
 堀井 和彦 S53年12月31日  
 本川 論 H7年10月26日  
 吉澤 廣 H12年5月25日

氏名 透析開始年月日  
 高橋 建一 H13年1月12日  
 佐藤 功 S61年5月2日  
 高橋 理功 S58年2月11日  
 高橋 建一 H13年1月12日  
 津田 靖典 S50年4月 日  
 堀井 和彦 S53年12月31日  
 本川 論 H7年10月26日  
 吉澤 廣 H12年5月25日

幌南病院 (一五名)

氏名 透析開始年月日

阿部 勝夫 H11年6月 日  
荒谷 直樹 H6年10月10日  
石井 辰雄 H2年10月21日  
内海 寿彦 H13年3月28日

坂泌尿器科病院 (四名)

氏名 透析開始年月日

豊島 俊三 H4年3月17日

札幌北クリニック (八九名)

氏名 透析開始年月日

逢沢 淳子 S56年11月20日  
會田 哲久 S61年8月30日  
荒田 三良 S49年9月20日  
石川 みち子 S46年7月 日  
石田 久美 S55年9月15日  
石田 豊春 S59年3月27日  
泉 真由美 H5年1月12日  
伊東 京子 H3年3月5日  
伊藤 清美 H1年12月27日  
伊藤 千代 H5年9月7日  
大崎 セツ子 H14年11月27日  
大山 健海 S57年10月19日  
押木 和子 S59年11月12日  
折田 優子 H6年9月20日  
小野田 茂生 H10年3月30日  
海道 トシ H12年11月22日  
加藤 惺子 S56年10月31日  
金丸 洋子 S50年11月17日

氏名 透析開始年月日

大山 チエ子 H9年1月28日  
加藤 敏子 H10年8月28日  
亀井 るみ子 H10年7月1日  
幸田 昌子 H8年1月16日

氏名 透析開始年月日

長井 孝子 H5年3月17日

氏名 透析開始年月日

川内 芳光 S56年11月5日  
川村 百合江 S63年6月18日  
北川 敏 H3年2月17日  
木村 享 S58年2月2日  
木村 弘 H2年10月23日  
木村 みや子 S49年4月13日  
久原 幸江 S60年4月23日  
熊谷 三恵子 H14年12月17日  
黒田 邦明 H15年4月9日  
小林 香 H15年8月11日  
小林 孝栄 S61年8月2日  
小林 由松 S60年11月19日  
小松 幸次郎 S57年12月21日  
権平 裕二 S50年11月7日  
近藤 祥一 S55年11月20日  
齋藤 秋義 H6年6月21日  
斎藤 馨 H10年9月21日  
斎藤 康則 S57年3月15日

氏名 透析開始年月日

小松 君子 H5年2月4日  
大栗 栄子 H7年1月6日  
高橋 千津子 H10年12月3日  
竹内 治 H7年8月16日

氏名 透析開始年月日

畑 康久 H9年10月7日

氏名 透析開始年月日

相良 劬 H4年12月11日  
佐々木 一夫 H12年10月18日  
佐藤 良一 S54年3月6日  
式部 寿生子 H7年8月24日  
清水 敬子 H14年4月23日  
白土 恵子 H9年7月24日  
須坂 多恵子 H5年12月21日  
鈴木 啓三 S45年5月12日  
高城 英一 H11年7月 日  
高野 廣行 S60年12月24日  
高橋 京子 H3年2月19日  
高橋 繁 S47年8月8日  
高橋 正俊 H4年2月20日  
高橋 幹子 H4年7月21日  
高橋 ヨシエ H13年12月30日  
高橋 喜子 S54年11月 日  
竹内 美紀恵 H2年3月3日  
竹田 信 S53年6月2日

氏名 透析開始年月日

千葉 君子 H2年 月 日  
前川 彩子 H1年3月17日  
渡辺 光成 H8年2月14日

氏名 透析開始年月日

皆川 章 H12年10月10日

氏名 透析開始年月日

谷口 謙治 H6年5月14日  
谷口 ミサコ S62年11月26日  
出塚 正子 H13年7月23日  
寺嶋 宏 H14年2月22日  
堂田 三枝子 S55年8月29日  
中原 論志 S59年2月16日  
中村 光子 S55年9月15日  
仲山 千鶴子 H5年5月18日  
匿 名 H12年11月7日  
長谷部 和雄 S63年11月19日  
服部 登起子 H9年9月29日  
原田 美恵子 H10年12月2日  
東中 宏之 H6年7月12日  
日比 幸夫 H12年1月25日  
平山 憲子 S60年10月3日  
平山 孝二 H5年12月20日  
福島 美奈子 S49年4月12日  
藤田 安代 H4年8月18日

札幌厚生病院 (二五名)

藤原 牧子	H 11年 8月 23日	正岡 正由	S 49年 1月 10日	武藤 基	S 47年 2月 1日	若松 千鶴子	S 54年 8月 23日
堀田 利数	H 12年 2月 24日	松村 英昭	S 51年 10月 日	村山 忠昭	H 12年 6月 日	渡邊 しつえ	H 14年 5月 10日
前田 正博	S 52年 11月 15日	真柳 悦子	S 63年 10月 日	湯谷 まゆみ	S 56年 7月 6日		
牧野 達太郎	H 10年 2月 1日	水上 弘司	S 56年 6月 1日	横岸 武春	S 53年 10月 14日		
牧野 弘昭	H 8年 4月 17日	明上 正子	S 62年 12月 8日	横田 トキエ	H 14年 12月 23日		
浅尾 洋子	H 12年 4月 25日	菊地 英子	H 12年 7月 18日	豊田 盛夫	H 8年 2月 28日	三ヶ森 茂夫	H 12年 1月 4日
阿部 敏夫	H 6年 11月 4日	北崎 つや	H 15年 1月 29日	西澤 俊郎	H 9年 11月 4日	森元 哲雄	H 10年 3月 23日
池崎 芳一	H 13年 12月 20日	日下 順子	H 14年 2月 14日	沼澤 和美	H 11年 5月 12日	安田 博幸	H 7年 4月 5日
伊藤 薫	H 9年 6月 10日	小林 ひとみ	H 13年 12月 18日	林 恭子	H 9年 2月 26日	渡辺 愛子	H 9年 10月 20日
蝦名 恒雄	H 11年 10月 1日	齋藤 幸子	H 10年 7月 23日	本田 勉	H 9年 9月 24日		
大館 玲子	H 13年 5月 9日	佐藤 カツエ	H 8年 3月 12日	前川 弘至	H 11年 1月 8日		
小野 優子	H 10年 8月 10日	清水 貢	H 14年 11月 27日	松井 とよ子	H 12年 3月 27日		

札幌センチュリー病院 (六名)

大澤 政子	H 9年 12月 24日	手嶋 京子	H 16年 4月 13日	町田 由雄	H 8年 3月 25日	堀田 勇	S 62年 9月 22日
田口 カズ子	H 15年 8月 8日	西田 富美子	S 56年 4月 9日	山口 幸	H 14年 8月 1日	三木 健二	H 7年 9月 15日
相沢 優	H 2年 12月 14日	佐藤 光枝	H 13年 8月 8日	長井 美香	H 2年 12月 15日	三田 徳次	H 13年 7月 19日
匿名	H 13年 7月 10日	匿名	H 4年 7月 7日	西川 博司	S 53年 2月 28日	森 熊次郎	H 12年 10月 31日
上田 裕子	H 14年 10月 10日	高橋 淳一	H 5年 6月 7日	西山 利彦	H 5年 10月 1日	山田 明彦	H 12年 10月 12日
小田桐 修	S 63年 8月 20日	高崎 盛雄	H 1年 12月 5日	羽田野 泰史	H 14年 12月 31日	吉田 文禧	H 3年 7月 19日
加藤 一裕	H 4年 3月 21日	田中 瀧男	H 1年 12月 5日	匿名	H 7年 7月 25日		

札幌セントラルクリニック (二四名)

匿名	H 13年 7月 10日	匿名	H 4年 7月 7日	匿名	H 7年 12月 20日	堀田 勇	S 62年 9月 22日
匿名	H 9年 5月 20日	高橋 貢	H 5年 4月 19日	匿名	H 7年 12月 15日	三木 健二	H 7年 9月 15日
匿名	H 14年 10月 10日	高橋 淳一	H 5年 6月 7日	匿名	H 2年 12月 15日	三田 徳次	H 13年 7月 19日
匿名	H 13年 7月 10日	佐藤 光枝	H 13年 8月 8日	匿名	H 7年 12月 20日	三田 徳次	H 13年 7月 19日
匿名	H 13年 7月 10日	匿名	H 4年 7月 7日	匿名	H 7年 12月 20日	堀田 勇	S 62年 9月 22日

札幌中央病院 (一名)

匿名	H 13年 7月 10日	匿名	H 4年 7月 7日	匿名	H 7年 12月 20日	堀田 勇	S 62年 9月 22日
匿名	H 9年 5月 20日	高橋 貢	H 5年 4月 19日	匿名	H 7年 12月 15日	三木 健二	H 7年 9月 15日
匿名	H 14年 10月 10日	高橋 淳一	H 5年 6月 7日	匿名	H 2年 12月 15日	三田 徳次	H 13年 7月 19日
匿名	H 13年 7月 10日	佐藤 光枝	H 13年 8月 8日	匿名	H 7年 12月 20日	堀田 勇	S 62年 9月 22日
匿名	H 13年 7月 10日	匿名	H 4年 7月 7日	匿名	H 7年 12月 20日	堀田 勇	S 62年 9月 22日

丸山 廣 H 15年 5月 1日

札幌東クリニック (四二名)

氏名 透析開始年月日

相川	明	H 4年12月24日
伊藤	五平	S 63年11月3日
今井	均	H 2年2月8日
江端	幸典	S 59年5月4日
小田	正秋	H 2年10月22日
鎌倉	益鷹	S 58年7月7日
神戸	輝雄	S 59年4月15日
北川	良子	H 13年5月1日
木田	幸子	H 6年2月11日
小島	峰子	H 6年12月18日
後藤	登	H 12年11月20日

札幌北楡病院 (九二名)

氏名 透析開始年月日

浅石	裕子	H 12年4月3日
浅沼	トシ子	H 10年10月16日
浅野	久美子	H 6年6月8日
新井	静子	S 56年8月11日
池内	明照	S 50年3月12日
上野	イクヨ	H 8年5月25日
臼井	千恵	H 12年8月21日
卯野	照美	H 6年9月23日
大竹	富美子	H 6年11月1日
岡村	弘美	H 11年10月21日
音喜多	精一	H 10年3月16日
柏木	由利子	H 5年2月4日
加藤	久子	H 7年11月1日
金子	三郎	H 9年12月22日

氏名 透析開始年月日

近野	眞一	H 4年10月6日
斉藤	清	S 57年1月1日
坂上	敏弘	S 53年11月3日
佐々木	美智子	S 55年4月12日
笹原	修二	S 58年2月1日
佐藤	五十子	H 13年1月17日
佐藤	健一	H 10年2月16日
佐藤	祐子	H 6年8月11日
白川	廣	S 48年1月3日
杉山	尚子	H 11年10月22日
鈴木	康弋	S 63年8月29日

氏名 透析開始年月日

河村	南行	S 60年8月1日
菊池	孝子	H 1年7月8日
菊池	三智子	S 63年6月28日
木村	乃園	S 53年8月28日
熊谷	善明	H 7年8月15日
黒崎	ハツエ	H 14年8月12日
桑元	幸男	H 6年1月14日
児玉	弘子	H 10年5月1日
後藤	友子	H 9年4月9日
小西	昭子	S 59年1月17日
斉藤	笑子	H 10年5月1日
斉藤	陽子	H 9年9月10日
坂井	高之丞	H 10年2月24日
佐々木	カズエ	H 13年10月24日

氏名 透析開始年月日

角田	正俊	H 12年1月15日
酢谷	淳造	H 12年11月20日
高野	牧子	H 7年8月24日
高橋	久子	H 12年2月13日
千葉	里志	H 14年4月8日
内藤	寿美	H 13年1月5日
中西	美智子	H 12年2月18日
西宮	律子	S 60年6月18日
野田	博史	S 57年3月31日
藤巻	フミ	H 11年7月23日
不破	喜美恵	H 4年4月30日

氏名 透析開始年月日

佐々木	秀子	H 11年7月16日
佐々木	眞弓	H 12年6月1日
佐々木	洋子	H 10年4月20日
佐藤	俊一	H 9年9月14日
佐藤	千代子	H 7年6月12日
佐藤	緑	H 15年11月28日
澤崎	弓子	H 13年5月9日
柴谷	佳子	H 9年5月23日
白川	和子	H 3年3月5日
神	サヨ子	H 11年4月7日
須合	清道	S 52年2月21日
鈴木	暁美	H 4年4月27日
鈴木	英二	H 2年3月26日
鷺見	洋幸	H 12年5月16日

氏名 透析開始年月日

牧野	富士子	S 61年11月20日
三輪	三保子	H 5年5月21日
守実	久美	S 53年12月23日
山根	好明	H 3年6月26日
山村	恵	S 63年3月3日
山本	秀人	S 62年2月10日
横田	しおり	H 10年9月14日
横山	鉄男	H 8年6月28日
渡辺	美晴	H 16年6月16日

氏名 透析開始年月日

関口	孝紀	H 14年10月2日
高見	志保子	S 62年3月20日
高山	志津子	H 4年3月19日
関根	睦子	H 7年4月4日
武田	寿	H 9年6月3日
竹山	和子	S 56年3月31日
多田	敏子	H 12年7月3日
田辺	哲明	H 9年10月25日
玉水	俊子	H 6年9月13日
玉山	瑛二	H 6年9月15日
為近	富雄	H 8年6月7日
千葉	優子	H 9年3月25日
寺井	登代	H 10年2月1日
戸澤	敏子	H 15年2月2日

札幌南一条病院（六九名）

尾田真美	岡部まゆみ	大家正子	大曲真利子	大石好子	及川一江	上田千佳子	岩館二男	猪又正志	井上節	稲見守	石ケ守芳子	池田豊見	五十嵐智子	飯村恭造	在原美江子	阿部のり子	浅利みのる	氏名	透析開始年月日
H 8年7月18日	H 14年8月2日	H 5年12月日	H 8年4月15日	S 63年8月5日	H 7年1月7日	H 11年9月6日	H 5年9月6日	H 7年12月日	H 9年2月21日	H 7年5月26日	H 9年8月19日	S 63年12月22日	H 14年5月20日	H 12年12月日	H 5年7月19日	H 10年6月29日	H 14年11月27日		

氏名

重泉マサ子	佐藤美代治	貞弘文	佐々木悦子	佐々木悦子	櫻井幸次郎	坂牧美喜子	酒井敏至	坂孝光	小間由香	国村一男	木村カエ子	木下俊雄	木田フミ	木田清	北角精敏	鎌田稔	片岡宏	氏名	透析開始年月日
H 12年5月31日	H 7年1月11日	S 54年8月7日	H 11年3月日	H 14年6月13日	H 7年12月30日	H 15年12月19日	H 6年8月20日	H 15年2月12日	S 58年11月22日	H 15年6月日	H 9年1月日	H 12年11月日	H 2年3月28日	H 12年3月31日	H 10年6月10日	H 14年7月日	H 13年9月26日		

氏名

西村さゆり	西本静枝	新野エイ子	新津哲宏	中村ひとみ	中野幸一	手取恒夫	土田範秀	辻喜美子	田中ヨシ	田中美智子	立川三夫	高田裕子	高木正典	高井千枝子	須藤武雄	鈴木昭	鹿内司郎	氏名	透析開始年月日
S 62年11月2日	H 12年9月日	H 11年9月日	H 11年11月日	H 4年6月8日	S 63年12月23日	H 13年10月10日	H 12年4月19日	H 13年9月26日	H 13年7月7日	H 6年1月7日	S 63年1月21日	S 63年1月27日	H 5年9月21日	H 11年10月13日	H 8年1月16日	H 15年1月20日	H 7年12月日		

氏名

横田武夫	山岸和子	柳川弘	八重樫正	森田穂積	森孝太郎	宮地昭雄	茂木久美子	水谷久子	三上留美子	松田義治	松下種記	増子武雄	堀井繁男	野脇邦宏	若林真弓	横山良夫	湯浅チヤ	湯浅里子	山下栄作	矢嶋信事	森田栄	深山民雄	三幣ナツ
H 8年5月日	H 13年9月日	H 15年9月日	S 59年4月7日	H 15年7月7日	H 12年5月31日	H 3年2月3日	H 6年3月19日	H 5年3月27日	S 61年9月22日	H 8年2月日	H 12年3月31日	S 59年3月日	H 16年1月25日	H 10年3月1日	H 13年11月7日	H 4年3月5日	H 14年7月1日	H 14年4月3日	H 11年6月20日	H 9年4月8日	H 8年5月20日	H 3年11月28日	H 11年6月21日

三樹会病院 (二〇名)

井本 和子 H 10年7月16日

大坪 弘喜 H 2年3月8日

大友 幸子 H 1年8月21日

岡田 順子 S 56年3月19日

加治屋 咲子 S 60年12月23日

JR札幌鉄道病院 (一一名)

井上 節子 H 14年9月24日

大隈 和夫 H 15年3月17日

岡田 幹雄 H 11年8月23日

自衛隊札幌病院 (二名)

水野 厚子 H 10年7月13日

市立札幌病院 (一四名)

伊東 健 H 10年11月17日

金丸 瑠美子 H 1年12月12日

川西 光雄 H 5年10月16日

窪田 志津子 H 14年11月10日

仁愛会外科クリニック (七名)

阿部 拓也 H 5年11月16日

池田 末広 H 15年7月9日

石塚 孝造 H 8年4月18日

市川 留之助 H 9年11月22日

岩部 浩子 S 62年7月14日

金子 敏枝 H 11年12月13日

工藤 るみ H 11年4月27日

駒野 洋子 S 63年5月2日

齊藤 幸子 S 55年12月8日

佐々木 賢治 S 61年1月9日

齊藤 栄子 H 8年7月17日

佐藤 幸富 H 14年4月12日

竹田 良一 H 7年11月24日

米澤 保弘 S 57年3月23日

坂梨 寿美子 S 49年10月16日

坂梨 忠勝 H 2年7月3日

鈴木 由恵 H 8年3月11日

碓 則子 S 50年12月30日

大木 源藏 H 3年9月5日

岡田 和子 H 11年6月11日

長田 初枝 H 8年12月9日

齋藤 好子 S 61年10月11日

榊田 都子 S 62年2月2日

佐々木 進一 S 60年5月17日

佐々木 ニワ H 13年3月16日

島田 年美 S 63年7月27日

鈴木 禮子 S 62年2月15日

西村 裕 H 9年1月20日

館 貞子 H 16年7月12日

中嶋 一夫 H 7年7月6日

馬場 久仁夫 H 7年11月13日

藤井 義人 S 62年7月6日

林 美美子 H 15年6月23日

初久保 重信 H 11年10月15日

吉田 眞紀子 S 61年6月24日

佐藤 信子 H 8年6月13日

鈴木 克彦 H 5年7月20日

鈴木 雍 H 9年5月26日

塚田 紀子 H 13年5月14日

中崎 美津子 S 61年4月30日

平畑 石蔵 H 11年1月18日

藤沢 富子 H 8年11月22日

山本 彰 H 1年6月27日

吉野 加津美 H 9年12月11日

吉野 哲夫 H 4年7月20日

原 芳紀 H 11年11月5日

保原 俊男 H 10年1月12日

吉田 優理 H 8年2月26日

渡辺 とし子 S 47年3月7日

中村 順一 S 60年4月9日

矢野 稔 H 9年6月10日

新札幌恵愛会病院 (一名)

氏名 透析開始年月日

菊地 テイ H11年8月4日

新札幌循環器病院 (七名)

氏名 透析開始年月日

石田 一雄 H10年4月28日

佐々木 栄子 H9年12月15日

仁榆会病院 (七一名)

氏名 透析開始年月日

相澤 花子 H3年12月25日

阿部 隆 S48年11月3日

猪狩 直人 H15年5月23日

石井 明彦 H16年3月1日

伊藤 昌司 H5年11月27日

今井 喜好 H8年4月4日

上田 久雄 H9年1月14日

上田 浩朗 H2年1月27日

上中 久子 H7年6月5日

上村 卯三郎 H15年2月11日

太田 宏 H14年11月1日

大森 照子 H2年3月15日

大和田 弘成 H3年5月7日

鬼柳 ハナ子 H3年8月31日

小野 ミエ子 H10年6月10日

小野 良 H56年1月10日

柿崎 みね子 H14年10月10日

掛札 勲 H11年5月3日

氏名 透析開始年月日

岡本 良子 H15年3月28日

寺崎 正弘 H2年5月17日

氏名 透析開始年月日

川村 拓司 H14年6月10日

木田 秀夫 H8年4月15日

香西 俊子 H15年6月14日

小寺 孝一 H13年5月23日

近藤 洋一 H5年3月18日

今野 春江 H2年11月6日

佐藤 しづ H5年1月4日

澤内 繁雄 H4年12月16日

三本菅 喜孝 H5年11月1日

城本 伸子 H3年3月20日

杉山 宗充 H5年6月 日

鈴木 健治 H4年12月13日

鈴木 シマ子 H3年4月17日

鈴木 友幸 H8年5月13日

高野 彰 H7年3月20日

田中 光男 H15年4月20日

千葉 七郎 H6年6月22日

千葉 斌 H13年11月28日

氏名 透析開始年月日

藤井 聖子 S61年6月12日

沼田 岳生 H8年2月5日

氏名 透析開始年月日

堤 キヨ H13年3月26日

寺戸 義弘 H10年6月29日

中川 幹也 H4年4月17日

中島 ヨシ H10年11月3日

中野 光昭 H16年7月7日

中村 日出子 S57年12月28日

西村 正行 H10年1月10日

西本 利夫 H12年11月 日

野村 秀也 S56年3月5日

博多 勝二 H12年4月3日

袴田 省治 H2年3月13日

袴田 征修 H15年2月7日

橋詰 久子 H16年2月19日

嶋 勝広 S61年11月1日

畑中 悟巳 H6年6月2日

福原 茂 S63年6月1日

本庄 節子 H2年12月25日

本田 剛 H15年7月22日

氏名 透析開始年月日

光永 サイ子 H4年12月10日

氏名 透析開始年月日

牧野 善嗣 H13年9月7日

松尾 重一 H6年7月9日

松尾 久志 S59年10月1日

三浦 久進 H3年9月19日

南 慶一 H14年11月27日

美馬 勲 H15年6月12日

村岸 信一 H15年6月25日

望月 悦子 H1年5月18日

森 鐵石 H6年2月10日

柳 陽子 H11年9月6日

山田 ウメ H10年11月26日

山本 洋義 H16年5月11日

吉川 洲平 H6年7月6日

吉田 豊勝 H14年3月12日

両瀬 洋子 H9年4月23日

若林 幸一 H12年1月8日

渡辺 実 H14年7月20日

澄腎クリニック (五二名)

氏名 透析開始年月日

阿部	香代子	H 9年10月1日
荒井	和子	S 60年6月13日
荒井	サヨ子	S 60年11月7日
新江	セツ	H 6年10月18日
板垣	スミ	H 12年12月20日
井出	孝之	H 2年3月5日
井上	京枝	S 61年5月24日
猪村	和子	S 53年3月28日
匿名	名	H 10年5月28日
上野	雄子	H 14年12月26日
匿名	名	H 11年1月31日
大石	達司	H 15年12月3日
大黒	美枝	H 1年4月28日

桑園中央病院 (二一名)

氏名 透析開始年月日

安藤	正明	H 14年11月15日
石井	良子	H 9年11月25日
石川	保則	H 8年9月4日
石田	尾彩子	S 62年3月3日
大滝	新二	H 11年9月13日
片桐	守	H 11年2月22日

田島クリニック (四四名)

氏名 透析開始年月日

青木	美行	S 57年9月21日
阿部	栄	S 51年5月14日
匿名	名	H 11年1月20日
井口	玉恵	S 59年4月11日

氏名 透析開始年月日

太田	信幸	H 16年5月25日
大塚	艶子	H 7年1月12日
岡田	馨子	H 8年12月16日
笠原	澄子	S 58年2月3日
柏	征幸	S 57年7月18日
金内	クニ子	H 10年4月13日
川端	久美子	H 3年6月15日
木村	恵子	H 2年2月26日
黒森	和子	H 7年12月12日
桑野	ヨシ子	H 8年6月4日
五野	和子	H 2年2月28日
後藤	トヨ子	H 10年5月13日
五ノ井	邦子	S 58年9月26日

氏名 透析開始年月日

垣見	つや子	H 13年7月7日
駒谷	重幸	H 13年5月31日
鈴木	スズエ	H 9年9月6日
鷺見	しづか	H 9年9月5日
瀬川	喜久子	H 10年2月28日
曾川	國子	H 12年1月17日

氏名 透析開始年月日

石川	孝次	H 2年1月1日
石崎	悦子	H 1年10月17日
伊藤	孝子	S 53年11月29日

氏名 透析開始年月日

斉藤	勝男	H 14年11月15日
斉藤	由美子	H 15年6月9日
酒井	よし子	H 11年7月8日
桜田	トシ子	S 58年12月8日
匿名	名	H 7年7月23日
須貝	豊行	H 4年10月14日
鈴木	こずえ	H 15年9月22日
田代	フジ	H 14年12月20日
田中	鴻子	H 14年1月19日
田中	紘子	S 53年8月16日
田中	美代子	H 14年8月1日
千葉	いと子	H 5年2月1日
寺沢	豊一	H 5年8月14日

氏名 透析開始年月日

高崎	典子	H 10年5月26日
高橋	春好	H 11年9月29日
高橋	富美子	H 8年7月22日
中川	重幸	S 56年8月25日
奈良	弘久	S 58年11月5日
吹田	雄一郎	H 11年1月26日

氏名 透析開始年月日

上野	洋子	H 6年9月31日
大竹	香	S 52年3月30日
大西	政弘	S 49年3月2日
黒田	正巳	S 51年8月15日

氏名 透析開始年月日

野崎	洋子	S 63年5月21日
野村	豊治	H 12年4月24日
原田	孝子	H 11年6月14日
藤井	勝子	H 11年10月8日
藤岡	勝子	H 6年7月7日
松井	イチ	H 13年3月8日
眞野	勝子	S 59年9月22日
宮澤	良子	S 60年10月24日
匿名	名	H 8年6月29日
山下	洋子	H 11年11月22日
山田	礼子	H 11年10月15日
山保	友子	H 12年1月4日
横山	厚子	S 58年5月7日

氏名 透析開始年月日

福士	重郎	H 12年5月8日
本田	敏	H 1年1月17日
村田	保	H 6年12月8日

氏名 透析開始年月日

後藤	昭子	S 55年12月2日
小谷	美千代	S 57年4月10日
佐々木	野生子	S 59年2月10日
佐藤	文朗	H 13年3月17日

手稲溪仁会病院 (一名)

氏名 透析開始年月日

長沼和代 H 3年11月25日

手稲ネフロクリニック (三九名)

氏名 透析開始年月日

青座正 H 13年12月28日

青海寿美 H 12年10月25日

阿部則子 H 15年1月29日

荒井賢太郎 H 9年11月26日

石田敦子 H 16年8月3日

石田キヨ子 H 15年10月13日

薄木祥治 H 10年7月30日

江黒照美 H 15年6月30日

太田洋男 H 10年11月5日

岡林喜代美 H 4年12月29日

ていね泌尿器科 (四七名)

氏名 透析開始年月日

安達政勝 H 16年5月19日

伊藤カツ子 H 13年1月31日

稲垣宏 H 14年10月24日

猪俣秀教 H 8年12月5日

近江幸男 H 6年1月25日

氏名 透析開始年月日

高橋和子 S 51年6月1日

高松はるゑ H 11年2月23日

多々見綾子 H 5年12月14日

棚田まゆみ S 55年11月17日

寺田正代 H 7年5月26日

中里武雄 H 5年4月20日

中塚憲司 H 14年5月8日

氏名 透析開始年月日

中野渡寛 H 10年6月7日

堀典昭 H 14年4月30日

堀川幸子 H 5年3月1日

本庄正子 S 52年4月2日

三上照美 H 7年7月22日

宮川龍司 S 62年3月25日

宮本健一 S 60年12月1日

氏名 透析開始年月日

宮本祥江 H 15年9月1日

村上貞子 H 9年9月1日

柳由美子 H 4年6月8日

山本洋平 H 13年5月28日

横井正 S 53年3月21日

米坂智子 H 4年8月13日

吉田セイ H 9年12月9日

氏名 透析開始年月日

鍵市秀雄 H 15年9月4日

柿崎博 S 62年9月21日

風間武弘 H 12年10月2日

片山富士子 H 14年7月11日

木村耕治 H 12年2月8日

工藤秀弘 H 12年5月9日

倉部幸子 H 12年1月4日

後藤幸子 S 63年11月3日

近藤マサ子 H 15年10月23日

佐藤美代 S 57年2月23日

氏名 透析開始年月日

数土清 H 6年6月14日

鈴木信行 H 4年9月18日

清野芳子 H 11年9月13日

大間真理子 H 15年5月26日

高井隆雄 H 8年2月22日

高木和彦 H 2年12月26日

高橋美恵子 S 51年3月22日

竹内伸一 H 15年1月2日

竹内睦子 S 61年2月6日

中村那津子 H 5年8月23日

氏名 透析開始年月日

西村利夫 H 14年11月22日

野口政子 H 14年7月23日

能登照子 H 14年5月23日

羽山勝彦 H 3年10月24日

目黒照江 H 15年8月27日

柳沼正一 S 55年7月2日

山川佐智子 H 16年5月18日

山口マキ H 5年7月24日

吉田修子 H 1年2月16日

氏名 透析開始年月日

大岡タエ子 S 63年11月1日

大久保保彦 H 11年7月8日

大熊隆道 H 12年9月26日

大照政昭 S 56年12月10日

大野武昭 H 14年2月14日

氏名 透析開始年月日

奥村晃司 H 5年6月9日

長内マサ子 H 10年6月2日

川端宮 H 11年1月14日

川村豊志 H 7年10月16日

河村禮子 S 58年11月25日

氏名 透析開始年月日

小林孝幸 S 61年7月31日

今野茂 H 11年10月18日

金野広光 H 14年12月19日

斉藤キミ H 14年5月30日

作田八重子 H 6年7月29日



西海 一夫 S50年2月 日  
林 富美子 H15年4月11日

広田医院 (九名)

氏名 透析開始年月日  
木林 美代 H14年12月11日  
坂下 利夫 S62年2月27日  
外崎 豊 H4年12月29日

氏名 透析開始年月日  
蘇武 美千子 S62年12月4日  
中西 隆俊 S58年2月8日  
福村 修身 H8年10月16日

福住泌尿器科クリニック (七名)

保坂内科クリニック (五名)  
氏名 透析開始年月日  
相川 信子 H12年6月26日  
浅香 孝子 H12年10月26日

氏名 透析開始年月日  
加藤 由紀子 H14年7月11日  
木村 陵子 H13年2月12日

星野泌尿器科 (一六名)

氏名 透析開始年月日  
秋本 利雄 H5年12月8日  
竹島 妙子 H11年11月10日

氏名 透析開始年月日  
中里 信春 H7年10月11日  
匿名 H1年3月10日

北光記念病院 (二七名)

氏名 透析開始年月日  
青木 友幸 H4年6月 日  
石栗 久美子 S49年8月 日  
匿名 S52年9月5日  
白浜 尚三 H16年7月30日

氏名 透析開始年月日  
中沢 光康 H15年8月14日  
永田 和之 S55年2月19日  
福原 實 H6年12月28日  
松井 亜由子 H11年1月11日

北光記念病院 (二七名)

氏名 透析開始年月日  
新谷 いく子 H14年11月6日  
五十嵐 瑳知子 H12年6月15日  
岡本 孔 H13年12月29日  
長内 勝雄 H15年9月4日  
押井 宮子 H14年1月3日  
小玉 エミ子 H10年10月6日  
川上 昭治 H13年8月17日

氏名 透析開始年月日  
川崎 時治 H15年7月1日  
下川 勉 H8年9月1日  
下地 剛 H15年2月20日  
炭田 松恵 H4年3月4日  
菅原 久美子 H15年10月31日  
高橋 大隆 H13年3月21日  
田中 恭次 H12年10月28日

氏名 透析開始年月日  
水村 幸子 H2年12月10日  
宮脇 亀吉 H11年4月13日  
渡邊 初美 H8年1月16日

氏名 透析開始年月日  
小山 隆夫 H7年3月 日  
塚本 彰 H12年3月16日

氏名 透析開始年月日  
平川 敦子 H12年1月6日

氏名 透析開始年月日  
淀川 芳道 H15年4月11日

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日  
的場 雪子 H3年5月7日  
水谷 義彦 H16年6月16日  
水林 尚子 H1年5月 日  
匿名 S63年3月4日

氏名 透析開始年月日  
安田 信敏 H14年10月21日  
山下 昭治 S57年9月6日  
吉田 季代乃 H1年10月26日  
渡辺 悟 S62年10月5日

氏名 透析開始年月日  
田元 勝江 H13年8月17日  
津田 喜美子 H13年4月1日  
中島 由美 H14年2月1日  
永田 スミ子 H15年8月11日  
樋口 俊雄 H13年3月5日  
三木 禮子 H12年4月27日  
三浦 達夫 H14年5月8日

氏名 透析開始年月日  
村井 清藏 H12年12月2日  
安田 和子 H14年10月1日  
山田 忠彦 H10年5月11日  
山森 喜美子 H15年4月23日  
横山 明 H8年6月4日  
米谷 光男 H12年4月28日

萬田記念病院 (一五名)

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

青山 義明 H11年 月 日

覚田 裕子 H12年 7月 12日

関口 光子 H15年 8月 12日

新野 寿美子 S61年 4月 日

池田 シズ子 S63年 8月 31日

斉藤 修 H10年 4月 日

関根 俊之 H12年 6月 6日

新田 繁 H10年 9月 日

小野 真規子 H7年 8月 26日

佐野 良明 H13年 9月 17日

滝野 欣二 H11年 4月 13日

森 榮治 H12年 4月 26日

小林 龍藏 H12年 6月 5日

清水 久恵 S60年 7月 20日

新津 俊勝 H10年 2月 23日

宮の沢泌尿器科クリニック (三名)

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

鈴木 寛 H4年 1月 31日

高橋 弘 H9年 10月 20日

藤田 隆 S48年 7月 20日

氏名 透析開始年月日

宮の森記念病院 (二八名)

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

阿部 シモ子 H13年 12月 18日

川村 隆志 S59年 5月 10日

高橋 健二 H4年 5月 12日

中西 敦 H12年 5月 10日

阿部 忠 H3年 8月 5日

岸 睦子 H8年 6月 17日

高見 良子 H1年 5月 17日

中村 美津恵 S50年 8月 7日

天野 義雄 S51年 7月 5日

木全 政昭 H2年 11月 19日

田中 鈴子 H12年 9月 20日

林 栄子 H7年 3月 28日

小澤 由紀恵 S59年 11月 26日

近藤 精一 H14年 1月 10日

田中 進 H15年 10月 23日

平川 享子 H14年 4月 3日

岡部 篤典 H9年 12月 1日

佐久間 良江 H7年 12月 日

辻 耐子 H6年 10月 11日

堀川 芳子 H15年 9月 2日

金泉 ふじえ H12年 11月 21日

佐野 みゆき H6年 1月 6日

内藤 武 H9年 11月 24日

三浦 美知恵 H11年 2月 23日

金田 由美子 H5年 10月 20日

鈴木 雪城 H13年 9月 11日

中島 隆 H12年 5月 20日

輪島 康博 S63年 10月 13日

元町泌尿器科クリニック (二名)

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

梶 三夫 H12年 5月 20日

山中 照夫 H13年 1月 26日

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

もなみクリニック (四名)

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

山本医院 (二名)

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

菅谷 正幸 H3年 10月 28日

菖木 芳三 H5年 11月 30日

中島 雅子 H7年 10月 24日

平林 國男 H11年 2月 12日

黒川 須美子 H7年 12月 21日

澤谷 モヨ H8年 4月 2日

氏名 透析開始年月日

氏名 透析開始年月日

ゆうあいクリニック (八名)

池田 貢 H14年6月6日

匿名 H15年2月14日

40条クリニック (六名)

飯田 由美子 H3年11月23日

匿名 H9年4月18日

渡井医院 (三五名)

阿部 和男 S56年12月12日

井上 幸子 H10年1月3日

今井 良吉 H13年9月14日

岩崎 薫 S52年6月7日

鶴川 忠三 S60年8月3日

大久保 昭子 S54年5月9日

大波 洋助 S63年12月19日

小川 聖美 H11年2月26日

沖本 俊光 H13年9月21日

石狩病院 (二六名)

伊藤 幸一 H15年1月21日

五十嵐 修 H13年8月20日

岩佐 泰二 S63年2月19日

上杉 定夫 H15年6月1日

大内 愛子 S61年9月1日

大塚 フミエ H9年6月10日

柏谷 典昭 S61年5月7日

匿名 H14年7月24日

匿名 H14年8月21日

長尾 妙子 S60年1月9日

長瀬 勇 H14年8月9日

乙川 勝郎 H2年6月28日

菊地 浩子 H14年8月12日

後藤 清志 S56年10月2日

斉藤 公二 S60年11月12日

佐藤 洋子 H13年8月9日

鈴木 恭子 S63年9月14日

鈴木 美代 H3年10月21日

住吉 信子 S57年5月6日

立花 澄彦 S56年11月6日

金澤 輝之 H10年9月22日

工藤 修 H12年8月15日

熊谷 信吾 H14年12月20日

栗山 弥生 H14年10月20日

兼松 忠 H6年4月1日

坂川 勝良 H10年5月1日

佐藤 清 H12年1月28日

高山 光千代 H15年4月25日

藤澤 恵一 H14年2月22日

福島 眞智子 S58年3月16日

匿名 S64年5月29日

田辺 嘉子 H3年8月13日

筑田 滋 H14年3月22日

塚原 七生 S55年7月15日

中出 史江 S50年9月9日

長沼 輝美 H2年11月13日

中村 郁雄 S51年9月9日

新津 由美子 S48年4月4日

根尾 敬三 S56年10月2日

長谷川 久夫 S57年12月9日

佐藤 義信 H14年11月6日

佐藤 美紀子 H11年5月1日

島谷 スミ子 H7年10月2日

高松 陽子 H8年4月4日

多田 守明 H11年7月30日

中西 貞夫 H5年8月8日

蓮田 俊子 H7年10月11日

山田 弘子 S54年11月12日

和田 康平 H7年10月13日

林 外司 H6年11月4日

藤原 勝子 S53年12月21日

松本 昭彦 S54年1月22日

松谷 俊成 H9年7月17日

門田 修子 S61年10月18日

安井 匡子 S60年11月4日

山田 悦子 S55年3月13日

大和 美恵子 S53年11月16日

藤田 利夫 H12年10月9日

松岡 幸子 H12年12月20日

村岡 仁 H5年5月17日

山崎 彦正 H9年4月11日

渡辺 ハマ H14年6月9日

H・N・メディック北広島 (三二名)

氏名	透析開始年月日	氏名	透析開始年月日	氏名	透析開始年月日	氏名	透析開始年月日
----	---------	----	---------	----	---------	----	---------

伊藤 佐代子	H 3年 8月 23日	金澤 定則	H 15年 3月 1日	高橋 光子	S 62年 9月 24日	前田 吉雄	H 10年 10月 22日
--------	-------------	-------	-------------	-------	--------------	-------	---------------

伊藤 正孝	H 12年 5月 15日	菊地 秀彦	H 13年 1月 10日	高山 安道	H 13年 2月 日	政氏 久寿	H 9年 9月 16日
-------	--------------	-------	--------------	-------	------------	-------	-------------

今井 静	H 9年 6月 26日	小池 和男	H 10年 5月 18日	豊岡 久美	H 4年 6月 24日	村上 周子	H 13年 12月 10日
------	-------------	-------	--------------	-------	-------------	-------	---------------

大島 知子	H 11年 5月 日	作田 昇	H 4年 2月 6日	布目 信江	H 7年 3月 21日	村上 大介	H 14年 3月 14日
-------	------------	------	------------	-------	-------------	-------	--------------

岡本 宣威	H 11年 4月 5日	佐藤 雅愛	H 8年 9月 24日	初貝 正	H 4年 11月 22日	村崎 美佐子	H 15年 11月 10日
-------	-------------	-------	-------------	------	--------------	--------	---------------

小川 松蔵	H 13年 9月 22日	佐藤 光子	H 14年 3月 1日	林 久美子	H 4年 8月 10日	山内 平一郎	H 13年 12月 21日
-------	--------------	-------	-------------	-------	-------------	--------	---------------

尾久 輝子	H 12年 1月 11日	三宝 正延	H 9年 5月 23日	平内 トキ	H 10年 12月 日	山口 栄子	H 9年 5月 2日
-------	--------------	-------	-------------	-------	-------------	-------	------------

織田 秋雄	H 9年 9月 15日	高野 行恵	H 13年 6月 21日	平中 美和子	H 14年 5月 日	渡部 幸枝	H 13年 11月 日
-------	-------------	-------	--------------	--------	------------	-------	-------------

飯坂 知子	H 1年 4月 25日	氏家 昭	H 9年 9月 5日	濱田 征二	H 10年 11月 日	大谷 幸子	H 10年 11月 日
-------	-------------	------	------------	-------	-------------	-------	-------------

田園通り さわぎ医院 (八名)

井上 博	H 13年 11月 14日	小林 寅一	S 58年 3月 18日	菅沼 厚	H 14年 8月 12日	丸山 澄子	H 4年 3月 24日
------	---------------	-------	--------------	------	--------------	-------	-------------

川村 勇	H 11年 10月 7日	坂井 満里子	S 60年 5月 28日	相馬 幸子	H 9年 5月 21日	渡部 幸生	S 57年 12月 28日
------	--------------	--------	--------------	-------	-------------	-------	---------------

はまなす外科医院 (一一名)

家 常徳 行	H 7年 8月 1日	柿岡 賢	S 60年 4月 20日	須長 理直	H 8年 4月 5日	灘本 忠昭	H 14年 2月 12日
--------	------------	------	--------------	-------	------------	-------	--------------

岩見 繁之	H 13年 6月 15日	杉本 和昌	H 7年 12月 6日	武田 親章	H 8年 2月 14日	古畑 光昭	H 11年 12月 1日
-------	--------------	-------	-------------	-------	-------------	-------	--------------

岡山 千佳子	H 7年 12月 1日	杉本 美代子	H 4年 2月 14日	田中 三郎	H 7年 7月 14日		
--------	-------------	--------	-------------	-------	-------------	--	--

恵み野病院 (三名)

佐藤 栄一	H 13年 1月 30日	西村 東三	S 63年 9月 5日	横道 輝男	H 13年 3月 7日		
-------	--------------	-------	-------------	-------	-------------	--	--

個人会員 (四六名)

荒川 美香	H 15年 5月 17日	板垣 浩次	H 14年 5月 日	植村 善一	H 7年 7月 日	大越 孝統	移植者
-------	--------------	-------	------------	-------	-----------	-------	-----

石井 裕子	移植者	伊藤 英典	H 9年 6月 28日	内田 市郎	H 9年 10月 日	大塚 寿雄	H 13年 7月 日
-------	-----	-------	-------------	-------	------------	-------	------------

大 仲 彰 子 移植者  
 長 内 義 雄 H 13年 1月 24日  
 川 村 敏 信 H 10年 10月 29日  
 菊 地 恒 子 H 13年 1月 25日  
 小 泉 步 移植者  
 小 西 雅 秋 H 12年 4月 26日  
 斉 藤 泰 子 H 1年 1月 3日  
 佐々木 賀也子 S 60年 12月 5日  
 佐々木 英 博 保存期  
 佐 藤 範 子 S 53年 5月 30日

賛助会員 (八名)

金子 栄 子  
 けんそういん  
 澤 崎 恵 子  
 住 友 信 俊  
 留 目 興 子  
 中 村 正 子  
 星 野 恵 子  
 宮ノ森記念病院栄養科

澤 田 政 男 H 9年 5月 日  
 澤 田 實 H 15年 1月 7日  
 厨 子 子 H 7年 7月 10日  
 須 田 陽 子 H 4年 4月 29日  
 須 藤 富美子 S 48年 5月 18日  
 高 木 貞 子 H 9年 12月 1日  
 高 橋 裕 幸 H 8年 9月 2日  
 田 中 義 隆 H 15年 12月 10日  
 田 端 良 雄 H 14年 2月 19日  
 玉 置 慎 一 移植者

津 澤 宏 H 10年 7月 日  
 中 岡 昭 夫 S 60年 12月 16日  
 西 原 盛 雄 H 7年 11月 29日  
 藤 原 慎 司 H 2年 10月 29日  
 長谷川 賢 二 H 4年 9月 4日  
 原 田 美 恵 子 H 10年 12月 2日  
 松 井 弘 S 46年 9月 25日  
 松 尾 さ だ 子 H 13年 12月 日  
 松 田 雪 子 H 13年 12月 26日  
 松 見 秀 也 S 51年 9月 日

守 田 文 直 H 12年 7月 17日  
 山 崎 嘉 信 S 60年 10月 30日  
 山 田 次 春 H 6年 10月 20日  
 山 科 由 加 里 保存期  
 吉 田 嘉 美 H 14年 6月 10日  
 依 田 美 奈 子 H 15年 1月 30日  
 渡 辺 孝 夫 移植者  
 匿 名 H 5年 1月 14日



編集責任者  
佐藤 功

札幌腎臓病患者友の会三〇周年を迎えて、ここに記念誌「生きる仲間」を発刊することができました。

この記念誌を作成するにあたり、ご多忙の折、心よくご寄稿下さいました札幌市長を始め、市議会議長、諸先生、医療スタッフの皆様、そして会員の皆様方に心より感謝申し上げます。

想えば故村本徳雄氏を編集責任者に、一回目の会議を開いたのは、一昨年、冬も間近の一月八日でした。回を重ねるごとに概要がかたまり、年度内の発行を目指し順調に進んでいくと思われました。しかし、昨年五月村本氏が入院、そして凶らずそのまま帰らぬ人となってしまいました。あらゆる面で彼に頼りきっていた私にとって、それは想像だにしえなかった衝撃であり、何も手につかずただ空しく時間が流れていきました。その中で彼の後を引きついでほしいと言われたとき、何をどうしたらいいのか、どこから手をつけたらよいものか、ただただ戸惑うばかりでした。何とか心の整理をつけ、イメージをつくりあげても、いざ実際に動き出すと、三〇年という時の重さに跳返されるがごとく、作業は

遅々として進まず何度も途中で投げ出しそうになり、その度仲間達になだめられ、励まされ、ようやくこの日を迎えることができました。

忙しい中、原稿依頼にかけ回り、自らも原稿をまとめられた鈴木会長、そして共に苦勞してこれを成しとげた委員の皆様にご謝致します。

ここに、今私達が生あることの礎を築きあげてくれた先輩諸氏、志なかばにして不幸にも倒れていった多くの仲間達、そして現在共に手を取り、支え合い活動を続ける友人・皆様方にこの一冊を捧げます。いつまでもそばに置いていただき、時には聞き見て下されば幸いに思います。



委員  
柳沼 正一

三〇周年の記念の集いが無事終了して、いよいよ記念誌の本番へと入りましたが、多くの量の資料と写真を集めての編集となりました。

札幌腎臓友会三〇年の歴史（活動）がぎっしり詰った資料、一つひとつに込められた「思い」「健康」「元気」「希望」が溢れています。これを仕分けしていくのも大変な作業となりました。各編集委員、会員皆様のご協力でここに発刊となり、嬉しさとほっと

した気持です。これからも歴史は着実に刻み込まれていくでしょう。



委員  
堀井 和彦

札幌腎臓友会が結成された時は、様々な公費医療のお陰で、貧富の差がなく無料で透析療法が受けられる様になっていました。全国の患者会員の粘り強い活動の成果です。しかし、最近はその恩恵を享受しながら、患者会に入会しない方が増えて非常に残念です。

この記念誌は、札幌腎臓友会の歩みと透析療法の歴史が掲載されており、皆様の今後の透析生活を送る上で、何かの参考の一助になれば幸いです。



委員  
庄野 一男

ようやく完成にこぎつけそうです。

記念誌編さんにかかわって、一〇ヶ月余りが過ぎ、その間に記録、テープ起し、校正、割付けと、慌ただしく時間が流れてきました。印刷が「機関紙印刷所さん」と決まりその懐かしい響きに、昔を思い出しています。私が未だ学生であった時「学校新聞」を出していて、機関紙印刷さんへずい分と通



札幌腎臓病患者友の会結成30周年記念誌

# 生きる仲間

---

発行日 2005年3月31日

発行 札幌腎臓病患者友の会

会長 鈴木 啓三

〒011-0017

札幌市北区北17条西2丁目21番—617—301号

TEL・FAX (011) 707-6789

編集 佐藤 功

印刷 株北海道機関紙印刷所

---

